四郷、笠戸一、郡家一を管す。後、東の惠那郡との間に境域出入あり。いま土岐津・多治見・笠原・妻木・下石・駄知・瑞浪・土岐・泉の九町外九箇村を含み、人口約一〇萬、山地多きにも拘らず密度は三〇七人を示し、縣下十八郡中第四位を占む。

【土岐町】 岐阜縣美濃國土岐郡の東部。西南は瑞浪町、東北は笠戸村に接す。面積約二二方粁。東境に屏風山（七九一米）あり其麓西に延び、高さ三〇〇米内外の高原狀山地をなし、西境にある低き丘陵との間に谷地を造り、竹折川に笠戸村よりこれを西南に流れ、小里川は南鳴稲津村より來りて之に合し、土岐川となりて瑞浪町に出づ。この谷地に狹き平地ありて耕地拓く。米・麥・蕎等の農產物ある外、町に東濃製材工場ありて木材の產多し。省線中央本線及び中山道は竹折川谷に、縣道は小里川谷に沿ひて通じ、共にバスの便あり、また省線の瑞浪驛・笠戸驛にも近く交通不便ならず。この地は和名抄、土岐郡土岐郷の地にして、美濃の豪族土岐氏發祥の地たり。土岐氏は清和源氏、美濃源氏に屬す。其祖は陸奥守國房の子左衛門尉國光に出ず。其子光信、土岐郷に居り郷名を氏稱せり。頼藤に至り山縣郡大桑城に居り、天文年間頼藤の子次郎の時亡ぶ。支族の土岐氏は頼遠の弟頼基に出づ。子孫猪津國高視城主となり、のち上野國嬬田を領し明治維新に至る。大正十五年町制を布く。明治天皇、明治十三年山梨・三重及び京都行幸の際この地に御小休あらせらる。〔鶴ヶ城〕宇中町にあり。神筥城または國府野城或は高野城といひ、土岐氏最初の居城にて鎌倉幕府の末、正中の變に勤王の士土岐頼兼ここより出づ。頼兼の兄頼貞の墓は宇市原の内中島の廣光寺の土岐氏先塋にあり。〔櫻堂藥師〕宇櫻堂にあり。瑞浪驛より一・四粁。寺傳に據れば弘仁年中三諦上人の開基にて、可兒大寺の本尊藥師と同木の尊像を安置すといふ。變遷明かならず、中興は實相院賢秀王當院良秀・正行院海秀といふ。古樂面の貫すべきものあり。堂宇は戰國兵火に燒かれ今僅に一堂を存す。慶長十八年岩村城主松平和泉守奉納繪馬を始めとし、寛文年中の古額何れも岩村藩主奉納なり。

【土岐川】 岐阜縣より愛知縣に亙る庄内川上流の稱。↓庄内川

**トキ　兎寸河**　古事記仁德天皇の段に見ゆる古地名。即ち此の河の西に高き樹あり、朝日にはその木の影は淡路島に及び、また夕日の影は高安山（河内・大和の境）を越えたりといふ。故に此の木を伐りて船を造り名づけて枯野といふとあり。いま大阪府和泉國泉北郡取石村の大字に富ノ木あり、等乃伎神社鎮座す。兎すは蓋し此の地ならんといふ。

**トキ　富城**　因幡國（鳥取縣）の古地名。和名抄に法美郡鳥城郷と見ゆ。鳥は富の字の草體と相似たるを以て謬れるものなり、両して諸本は本郷を瓦濃郡に入るるも、高山寺本によりて訂す。其地、審かならざるもいま岩美郡宇倍野村・成器村の邊なるべし。

**トキ　時村**　岐阜縣美濃國揖斐老郡の西南端。東の揖斐老、西の鈴鹿兩山脈間の褶合谷に位し、北は多良村に、南は三重縣員弁郡の北端に隣接す。東西に長く、約一二粁あるも南北は四粁内外に過ぎず、面積三六方粁餘あり。東西は兩山脈の斜面にて殆ど山地をなし、ただ中部に稍廣き低地あり。西境山地に發する牧田川東下して此低地を潤し、北折して多良村に出づ。その沿岸に田畑拓け、米・麥等を產し發電行はる。山地よりは薪炭・木材を出す。縣道中部を南北に貫き北方圖ヶ原町方面と南方阿下喜町方面とを結び自動車を通ず。この地は神亀年抄に美濃國、止岐多良御厨とある地にして、東鑑には時多良山といふ。〔湯葉神社〕大字上堂に鎮座。郷社。祭神不詳。創建年次詳ならざるも寛延・安永の兩度に於ける社殿修造の棟札を藏す。例祭、四月二十日。〔嗽願寺〕大字下山にあり。眞宗大谷派。千寿山と號す。もと他宗なりしを、中古明登法師、蓮如上人に歸依して現宗に改むといふ。法師は强力無雙にして長島合戰に戰死す。

**トキ　富來町**　石川縣能登國羽咋郡の北部。能登半島鹽部の西岸に位し、西は日本海に臨み、東南は熊野村、北は神道村・東附延村に接し、面積約一三方粁。全村丘陵にて東北隣神道村より來れる富來川は町の北部にて海に注ぎ、多少の平地ありて田畑拓け、米・粟の產あり。海岸の南部は斷崖を成すも北部は砂濱にして、西北方に西海村の小半島突出せるため、西北の風波を和ぐ。南方羽咋町より輪島方面に至る外浦路に當りバスにて能線能登鐵道の三明驛（能登村内）、省線七尾線の能登中島驛（鹿島郡熊木村内）に連絡し得る。古くは和名抄羽咋郡荑木郷の内なるべし。大正八年町制を布く。〔建部神社〕大字地頭町に鎮座。郷社。祭神日本武尊。もと鳥の宮と稱せり。例祭、九月廿一日。

**トキ　登張**　鳥取縣岩美郡にありし村。大正七年本村及び上舟村を廢し、その地域を以て成器村を建つ。

**トキ　土器**

【土器川】 香川縣綾歌郡と仲多度郡に亙る川。綾歌郡の東南部、龍王山の西南麓に發して西流し美合村の中部にて北折し仲多度郡に入り、琴平町の東を北流して更に綾歌郡に入り、丸亀市の東にて瀬戸内海に注ぐ。流程約四〇粁、香川縣第一の長河とす。

【土器村】 香川縣讃岐國綾歌郡の西北部。丸亀市の東部に隣り、東は宇多津町に接し、北は海に臨む。東境に花崗岩より成るメガ青ノ山（二二二米）あり、東南には





飯ノ山を望む。西境を土器川北に流れ、西部一帶は低地にて九亀平野の一部をなす。主生業は農業にして主に米・麥を產し、北部の瀬戸内沿岸は宇多津町に續く鹽田あり製鹽行はれ、瓦も製出す。海岸沿ひに省線琴讃本線・縣道通じ交通便なり。昭和十年の人口は三七八三人、一方粁の密度は六七二人にて人口極めて稠密なり。古くは和名抄、鵜足郡津野郷の内とす。この地にて土器を製すと傳ふ。村名は蓋し之に因めるものか。〔田潮八幡神社〕郷社。祭神、譽田別命。創建年次を詳にせざるも讃岐國名勝圖會に、往昔細川頼之朝臣、西國征伐の時當青野山麓北海邊々をして渡すべきやうなかりしが、これを八幡宮に祈りて千揚となし大に驍に勝利を得たり。依りて深く當社を尊崇し社領三十石を寄せてその報賽となすとあり。例祭、九月十五日。

**トキサワ　時澤**　上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡時澤郷あり。いま富士見村の大字に時澤あり、郷名の遺稱なるべく、從つて郷域は本村より南横村に亙る地ならん。

**トキツ　土岐津**

【土岐津町】 岐阜縣美濃國土岐郡の西南部。土岐川左岸に沿ひ、西は多治見町に隣り、北は川を境に泉町と對し、南は下石町に接す。面積一一方粁餘。村内概ね高さ二〇〇米内外の丘陵地なるも妻木川中部を北に流れ、北境にて土岐川に合し、これらの川沿ひには稍狹き平地あり。瀬戸・多治見兩町と共に良質の陶土層に恵まれ陶器の產多し。また平地には米・麥の耕作行はれ、妻木川には鯉を產す。省線中央本線は土岐川の對岸を走り、その土岐津驛は泉町内にあり。之より起る社線駄知鐵道は、妻木川に沿ひて町を南に貫通し神明口・土岐口の二驛（前者は昭和四年、後者は大正十一年開業）を設く。其他、中山道より岐れて名古屋に至る下街道は北部を東西に通じ、バスの便あり。この地は和名抄、土岐郡稲原郷の内なるべく、美濃源氏發祥の地と稱せらる。舊郡役所のありし所。大字高山に城址あり、天正年間平井頼母これに居りしが森長可に攻落さる。美濃の壺石（指定天然記念物）及び明治天皇高山御小休所（指定史蹟）等あり。〔諏訪神社〕大字猪野に鎮座。郷社。祭神、健御名方命・八坂刀賣命。社傳に依れば、永禄八年延友三郎兵衛信光なる者信濃國諏訪社より分靈を勸請し來り鎮祭せしものといふ。〔美濃ノ壺石〕指定天然記念物。美濃東部より尾張北部に亙りて發達せる第三紀鮮新層中に產出する結殼の一種。鮮新層の表土部を成せる厚き礫層の下部に包藏せられ、各所に產すれども其數は多からず、多くは礫層の露出せる渓谷の河床に流出せるを採集するに過ぎず。結殼は球形或は楕圓形にして、大なるは径一〇糎、小なるは五糎、皮殼部は含鐵硅質土によりて膠結せられたる礫及び粗砂より成り、殼の厚さ一糎乃至一・五糎、核心部は小礫及び砂に少量の陶土質粘土を交へたるものより成り、稀に水を含むことあり。殼部の礫を径に取去れば容易に核心の砂礫を取出し得べく、之に水を入るるを得、壺石の名ある所以なり。支那にては此種の結殼を太一餘糧と云ひ普通の禹餘糧（鈴石の類）と區別す。土岐津町西山に壺石の產出最も多きを以て知らる。

【土岐津】 中央本線の一驛（明治三十五年設置）にして駄知鐵道の接續點。岐阜縣土岐郡泉町にあり。

**トキツ　時津村**　長崎縣肥前國西彼杵郡の中部。大浦灣の南岸に位し、東は長與村と隣り、南は長崎市の北に接す。面積約一六方粁。村の西半部は西南境上にある鳥帽子岳の東北針面にて低き山地をなし、其北端部は木場崎となる。東半部は土地概ね平坦にして耕地拓け、その東北端は狹長の小半島をなして北方に突出し崎野ノ鼻となり、西の木場白崎と相對し共間に小支灣を抱す。灣の南岸に時津の聚落あり好錨地をなす。米・麥・蜜柑等の農產あり。水產少からず。縣道長崎市に通じ、省線長崎本線の道尾驛（長與村内）にも近く交通便なり。〔入船鹽泉〕泉質は含鐵濃厚食鹽泉。大村灣に臨み、附近一帶風景佳絶、夏は海水浴に賑ふ。

**トキニワ　時庭**　山形縣西置賜郡豐田村の大字。長井線の時庭驛（大正三年設置）あり。

**トキノ　土貴野村**　岐阜縣美濃國本巣郡の南部。岐阜市の西北約七・五粁。西は根尾川を隔てて揖斐郡大野村と相對す。地平坦、濃尾平野の西北邊に位し、根尾川は西部を、其分流は東部を流れ、灌漑の便よく水田よく開け、米・麥の外に發蚕・發鶏盛にして發魚も行ひ、特產物に富有柿・翹翹・梨・牛蒡等あり。東方の北方町を經て岐阜市に至る縣道は中部を走りバスを通ず。昭和十年の人口は一三〇二人なるも一方粁の密度は四一二人にして稠密なり。この地は和名抄、本巣郡遠市郷の地なるべし。明治三十年、早野・屋井・七五三の四村三箇村を合し、村内の土貴野神社に因みて土貴野村と名づく。

**トキノシマ　時ノ島**　愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年他の五箇村と共に廢して西成村を置く。

**トキワ　常石**

【常石】 陸奥國（陸中・岩手縣）の古地名。和名抄に豊澤郡常石郷見ゆ。原本常日郷に作るも常陸國常石郷の移民の居る所なるべければ常石郷と訂す。いま水澤町・佐倉河村・菊城村の大字にそれぞれ常盤あり、これ等は何れも郷名の遺稱とすべく、さすれば郷域は前記の常盤を併せたる北上川の西岸の地ならん。

【常石】 常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に那珂郡常石郷あり、訓を闕くも石は

磐に同じくまさにトキハと訓むべし。この地は中世吉田郷に屬し文祿檢地以後茨城郡に入る。いま水戸市に入りたる舊東茨城郡常磐村は其遺稱を傳へしもの、此の地に別格官幣常磐神社・常磐公園あり。郷城は水戸市の西部一帶より線岡村の邊に亘る。

**トキワ** 常葉町 福島縣磐城國田村郡の略中央部。三春町の東方約一二粁。阿武隈山地の中部に屬し、北方に移岳(九九五米)、南方に大平山(六六〇米)あり、町内に高度五—六百米の高原なり。南隣山根村より來る大滝川は中部の低地を求めて西流し沼袋に耕地拓く。南北兩高原には牧地多く訓はゆる三春駒の本場をなす。農産に葉煙草・米・繭等あり。都路街道川に沿ひて東西に通じ、バスの便あり。西隣船引町の省線磐越東線の磐城常葉駅・船引駅へは交通不便ならず。この地は和名抄、安積郡芳賀郷の内。明治三十一年町制を布く。〔小松神社〕大字常葉に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚命。社記に據るに本社もと鷲大明神と號し延暦二十年坂上田村麿の創建せしところといふ。のち明德三年常葉城主赤松鶴丸再興し、爾來累代領主の崇敬擁護かたがたきといふ。例祭、十月十四・十五・十六日。

**トキワ** 常磐 【常磐】茨城縣東茨城郡にありし村。昭和八年水戸市に編入す。

【常磐公園】→水戸市

【常磐村】千葉縣下總國香取郡の南部。佐原町の南約一二粁、西南の多古町との間には中村を隔つ。北部及び南部には洪積層の臺地連り、其中間は卑濕地をなす。臺地も水田よく發達し、米・麥を多産し養蠶・養鶏も盛なり。街道また縱横に走り西近の町村に通ず。昭和十年國勢調査によれば人口三〇五九人、一方粁の密度二七七人にて全國平均の一八一人に比し遙かに多く人口稠密なり。此地は和名抄、匝瑳郡玉造郷の内なるべく、東鑑文治二年の條に「下總國玉造庄」とあるは此地なり。〔松崎神社〕大字東松崎に鎮座。郷社。祭神、宇賀之御魂命・通通萬命・大宮比咩命。北條・德川氏の崇敬あり、江戸時代を通じて朱印領三十石を有せり。例祭、二月初午日。〔願賞寺〕大字東松崎にあり。日蓮宗。法王山と號す。大同年中の創建にして往昔は眞言宗に屬せしを、文永中日蓮上人この地に布教し本寺に宿せしとき、時の住僧圓義深く之に歸して現宗に改む。〔龍蟠寺〕大字東松崎にあり。日蓮宗。勝榮山と號し小湊誕生寺末たり。開山は勝榮院日蓮上人。堂宇中樓門は文政年中の建造に係り、構造頗る精巧を極む。

【常磐村】福井縣越前國丹生郡の中部。鯖江町(今立郡)の西方約六・五粁。北境に鳥ヶ嶽(二七〇米)あり、南部にも三〇〇米内外の山地連亘し、村域殆ん山地にて、中部を東流する日野川の一支天王川の沿岸に僅に低地ありて耕地開け、米・麥を産す。縣道また天王川に沿うて東西に走り、鯖江町にバスを通ず。人口は國勢調査によれば大正九年七一九人なりしが、同十四年は六八七人、昭和五年六七四人、同十年六〇〇人と減少し、昭和十年の一方粁密度は僅に六五人に過ぎず。織田村・森野村と組合村をなし、織田村に役場を置く。〔專光寺〕大字上戸にあり。真宗本願寺派。歸命山と號す。開山善堅法師は河内國恩地善左衛門正道といひ楠氏の一族なり。元弘の亂に新田義貞と共に當國に奮戰せしが、義貞の敗死を見て出家、康永元年本寺を創立するに至る。本尊阿彌陀如來は慈堅大師の作に係る。

【常磐村】岐阜縣美濃國稲葉郡の西北部。岐阜市の西北に隣り、東は山縣郡岩野田村に接す。北境に如來岳(二七六米)聳立し山脚は南に延ぶ。南部は平地にして濃尾平野に續き、長良川の支流は東南境・西南境を流れ、濃霞の利多く水田よく開け、米・麥を産し副業に養蠶を行ふ。農閑期には瓦作り、及び岐阜市に出稼する者あり。同市には近きも交通さして便ならず。此地は和名抄、方縣郡大唐郷に屬せしものか。〔白山神社〕大字城田寺に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命。創建年次詳ならざるも、美濃神名記に方縣郡正六位上城田明神とあるは當社ならん。明應五年兵火に罹りて焼上、その後數度の改築修造を經て明治維新に及ぶ。例祭、十月十五日。〔了義寺〕大字椿洞にあり。臨濟宗妙心寺派。瑞椿山と號す。應安四年後醍醐天皇第五皇子無文元選禪師の開創たり。のち類焼せしを石翁和尚の遺志を繼ぎて、その法孫卽岩和尚再興す。本尊に藥師如來を安ず。〔舍宿寺〕大字城田寺にあり。眞言宗御室派。聖武天皇の勅願所たり。天慶五年一旋の旗當寺本堂の棟上に留る。轉に舍宿國の三字ありしを以て舍宿寺と名付け、また旗殿寺とも稱す。保元元年後白河法皇の御本願として丈六の彌陀・藥師を造立。のち兵火に罹りて焼上せしも再建せらる。〔藥師堂〕大字椿洞にあり。曹洞宗。慶安中後醍醐天皇第五皇子無文禪師草庵を結びて藥師如來を安ず。のち衰類せしを、寛永年中當村河野嘉平治一字を再興して本尊を守護し、のち延享中吉祥寺第四世白翁和尚を請じて開山とし、今尼住地として相續せり。

【常磐】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年岩塚村・柳森村・松葉村の三村と共に廢せられ新に常磐村を設き、常磐村は大正十年名古屋市に編入せらる。

【常磐村】愛知縣三河國額田郡の西北部。岡崎市の東北に接し、東北は足助川の小支流によりて東加茂郡松平村と界す。面積約三五方粁。三河山地の西縁部にして高度二〇〇米内外の丘陵性臺地をなす。風





多く、略中部を西南流する小川の谷に狹長の低地あり。此較的に田畑よく拓け、米・繭の産多く、麥及び林産物あり。また東海製綱製綿工場をはじめ、綿糸紡績の小工場多く綿糸・綿布の産額多し。岡崎市に接し交通便なり。此地は和名抄、額田郡鴨田郷の内とす。〔三州みかげ〕字小呂にて採石さるる雲母花崗岩。鼠色細粒のものと、白色粗粒のものあり。主として岡崎燈籠として知られ、建築材ともなす。〔常盤神社〕大字滝に鎮座。村社。祭神、德川家康外六神を合祀。もと當地に天武天皇朱鳥元年役行者の創立せる滝山寺なる佛寺あり。一時類焼せるも僧佛泉中興し、德川家康これに四百十二石の寺領を寄す。のち光明天皇正保二年家光東照宮を寺内に勸請し新に社領二百石を加ふ。日光及び久能山と共に三ノ宮と稱せられしも、大正五年村内六社を合祀して常盤神社と改稱す。社寶に持絲卷太刀(銘長光)一口及び同(銘正恒)一口あり、前者は德川家光、後者は家綱の寄進に係り共に國寶。例祭、十月九日。〔滝山寺〕大字滝にあり。天台宗。吉祥山。朱鳥元年天武天皇の勅願に依りて役小角之を開創し、鳥羽天皇朝僧佛泉中興す。源頼朝寺領四百十二石を寄せしも戰國時代これを奪はれ、寛永十八年德川家光舊領を復す。本堂及び三門は國寶。

【常磐村】香川縣讃岐國三豐郡の中部。觀音寺町の東に隣る。北部に僅に丘陵あるも全村の大半は土地低平、觀音寺平野の核心地域を占め、北部を財田川西に流れ、南部は人工灌漑により濃霞の利多く水田よく開く。農業を本業とするもの約八割、米麥を主産物とし副業として叺を製するもの多く、きた燒瓦會社ありて其の産額相當多し。省線予讃本線及び縣道通じ觀音寺町に接し交通便なり。昭和十年の人口は三一四八人、一方粁の密度は六六〇人にして全國平均密度一八一人に比して極めて多し。西讃府史及び讃岐通史に菅原道真、讃岐の守たりし時この地を巡視し松を手植えすと見ゆ。いま菅原神社の大松これと傳へられ村名はこの松に因むといふ。〔加茂良神社〕大字滝岡に鎮座。郷社。祭神、大己貴尊・少彦名尊。式内小社。當國二十四座の一。もと丸山と名づくる小丘の上にありたるを以て土人これを丸山神とも稱す。例祭、十月二十三日。

**トキワ** 常盤 【常盤村】北海道天塩國中川郡の東北部。上川支廳の管下。南は美深町に相接し、北は北見國枝幸郡中頓別村に、東は同郡枝幸村に界す。面積約二七四方粁。東半は北見山脈、西半は天塩山脈の山地にして、前者には屋根棟山(八六一米)・雷威富士(四八九米)、後者には鬼剣山(七三八米)等聳え全村縱れ山地をなす。天塩川この兩山地の中間を北流し村の中央部雷威子府にて北境より南下する小流を併せ西に流向を轉じ天塩山脈を横切りて西隣中川村に出づ。川に沿ひて狹長の低地あり耕地拓けて米・馬鈴薯・甜菜等の農産を出す。省線宗谷本線天塩川に沿ひて通じ曉來・雷威子府・筬島の三驛(前二者は大正元年、後者は同十一年設置)を設き、北見線は雷威子府驛より分岐して北方に進み上雷威子府驛(大正三年設置)を設け交通不便ならず。

【常盤村】青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の東北約九粁。黒石町の西北約五粁、面積八方粁餘なるも津輕平野の東南部に屬し、全村土地殆ん平坦にして田地よく拓け米を主産す。羽州街道は西北部を掠めて西南より東北に向ひ、省線奥羽本線はその東南を通じ北常盤驛(大正十三年設置)を設け交通便なり。

【常盤村】秋田縣羽後國山本郡の中部。能代港町の東北約一〇粁。東南は米代川を隔て富根村に相對す。南北に長く約一六粁、面積六三方粁に近し。出羽丘陵北部の西縁部に當り、北境に燒山(九六三米)ありて土地南方に傾斜し、米代川の一支常盤川は北境に出でて村の中部を南下し、大部分は山地なれども、常盤川中流以南には稍狹き谷地ありて村の南部なる米代川下流の洪積平地に連りここに耕拓開く。米・木炭・繭を産す。道路は川筋に沿ひて四通するも交通上は省線奥羽本線富根驛(富根村内)に出づるを最も便なりとす。米代川舟運の便あり。

【常盤村】山形縣羽前國北村山郡の東南部。尾花澤町の東南に隣り、東南は宮城縣加美郡・宮城郡に境す。地東南より西北に長く約二〇粁、面積一二九方粁餘の大村。奥羽山脈の西斜面に屬し東南境上には北より南・北目長山・荒神山(一二七〇米)・船形山(一五〇〇米)、南境には柴倉山(一二七六米)等ありて西北方に傾斜し、大部分山地をなす。丹生川は船形山の西谷に發し、鹽氣川は西南部山地に出で共に西北流し、尾花澤町を過ぎて最上川に合流。村の北部、この二川の流域に耕地拓け(耕地面積約八五〇ヘクタール)、米・繭を産し山脚の緩斜地には牧馬行はる。また木炭の産あり。而して全戸數七一三のうち六四三戸は農林業に從事す。北部の大字六澤より西北方尾花澤盆道尾花澤驛へは約八粁、バスの便あり。この地に天童氏の家臣、延澤能登守信繁の城址あり。野邊澤氏は應永二年、北條備前守長義の末裔、大學頭平滿定の家臣を從へ、本郡東根より本村の野邊澤に移り野邊澤氏を稱せり。

【常盤村】栃木縣下野國安蘇郡の中部東偏。葛生町の北隣にて東は下都賀郡寺尾村と界す。足尾山塊中部の支脈の谷にて東北・西南の兩界には高さ四百—五百米の山脈連り、村の中央にその褶合にて秋山川東南に流る。山地一帶森林多く、川沿ひには細長き低地ありて田・畑拓く。米・麥・蕎等の農産及び林産ある外、石

灰石の產地たり。葛生町より西北隅永窠村秋山へ、また村内東北の山谷上倭波へはバスの便あり。古くは和名抄、安蘇郡設多郷(高山寺本談多に作る)の内なるべし。大字豐代字正雲寺竹ノ内に佐野源左衛門常世の城址あり。東西約一三六米、南北約一五四米の櫓壁壍今尙ほ存す。城内にある實相院といふ小寺に常世及び其母の位牌あり。(金藏院)大字倭波にあり。新義眞言宗智山派。清澄山聚法寺と稱す。弘基上人の開創にして唐澤山城主佐野家累代の祈願所たり。十三世秉原啓運師を中興となす。

【常盤町】 江戸時代の問場所の一。深川常盤町。揚屋四五軒ありて、裏の子供屋より呼出す。

【常盤村】長野縣信濃國北安曇郡の南部。大町の南西に接し、東は犀川の支流高瀬川を以て社村と界す。面積七〇方粁餘。西北境には日本北アルプスの前山に屬する餓鬼岳(二六四七米)・鍬峰(一六二三米)の脈連り、南西界には清水岳(二二三七米)・唐澤山(一三七一米)の支脈東に延び金峻の斜面をなす。東部は平坦にして田・畑拓け、米・蕎・麥の產あり。省線大糸南線と糸魚川街道は東部平地を南北に走り、前者には安曇沓掛・信濃常盤の二驛(大正四年設置)あり。この地は和名抄、安曇郡荷科郷の內。町村制施行の際、西山・清水・須沼・下一本木・上一本木の舊五箇村を合し本村を置く。

【常盤村】長野縣信濃國下水內郡の中部。千曲川の左岸に沿ひ、飯山町の東北に接し、東は千曲川を以て下高井郡瑞穗村と界す。面積一〇方粁餘。西隅柳原・外様二村との長峰山の低き支陵延亙する外は土地一般に平坦にて大部分は田地、南東部には畑地拓け、米の產額多く、愛宕赤盛なり。社線飯山鐵道及び谷街道並行して南北に貫き、前者に信州平・戸狩の二驛(大正十二年開業)ありて交通便なり。この地はもと常盤郷と稱せられし地にして、東鐵文治二年左馬寮の常盤牧は此地なり。(常磐神社)大字常盤に鎮座。郷社。祭神倭御名方命。天正中の創立と傳へ、文化五年の再建に係り、古來村內舊水澤村の產土神たり。例祭八月廿一日。

【常盤村】 三重縣伊勢國三重郡の東部。四日市市の西に接し、大整東流して伊勢海に注ぐ三濃川の南岸に沿ふ。面積五・三方粁餘。西部に小丘陵地ある外は一帶に平坦なる低地にて田畑よく拓け、米・蕎・蒟蒻を產す。伊勢海沿岸工業地帶の一部を占めて綿布・製糸業の工產も少からず。又實磨業の盛なる處にして其種類極めて多し。四日市市に續き、北部には四日市市より西走する道路ありて自動車を通じ、また社線三重鐵道湯ノ山線中央を西に貫き中川原・伊勢松本の二驛(大正二年開業)ありて交通至便なり。大字赤堀は應永年中田原景信の居城ぜし處。大字松本の建止山南麓の松本城址に松本三郎の居城なりきといふ。

【常盤村】滋賀縣近江國栗太郡の西北端。琵琶湖に沿ひ、西方に比叡山を望む。草津町の北方納四軒、東北は野洲郡小津村に接す。面積約七・七方粁。湖東平野の一部を占めて土地涵めて平坦なり。水利の便よく米・麥・菜種・飼肥用作物・桑葉等の農產あり、水產も少からず。特產物に淡水眞珠・常盤蒲・觀音寺納豆・上寺蕎麥等あり。東方約三粁の野洲郡守山町にバスを通じ、また湖上舟運の便あり。大字志那はまた支那・品にも作り、盛衰記・太平記等にその名見ゆ。琵琶湖岸の鎭地にして、德川家康大阪陣の時ここより渡航して對岸坂本に至る。爾後官船を置きしが元祿年中廢すといふ。(印岐志呂神社)大字片岡に鎭座。縣社。祭神、大己貴命・國常立命。創建年代沿革等詳ならざるも、その社地は用明天皇の二年夏四月熊紀方に定まりし淸地にして、印岐志呂(又は由岐代・伊伎代)の名これより起ると傳ふ。延喜の制に小社に列せられ、栗太郡八座の一に加へらる。梅松論に、建武二年十二月京方の山法師宥盛、山徒千餘人を相語らひ、江州伊伎代宮に引籠るとあり。また太平記にも補正成は敵兵を防がんためこの社林に籠りしこと見ゆ。以後の事蹟詳ならず。例祭、五月一日。(寶光寺)大字北大萱にあり。天台宗。自風四年興福寺の僧定惠の開創に係り、のち最澄再興すと。藥師如來立像(木造)一軀は天平期の作風を存し國寶。(鹿海寺(支那地藏))大字志那にあり。浮土宗。最澄の開創に係り、古來俗に支那地藏と稱し近隣衆庶の信仰厚し。本尊地藏菩薩立像一軀(木造)は鎌倉末期の作にて國寶。(觀音寺)大字盧浦にあり。天台宗。大嶽山。推古天皇御宇聖德太子の開創に係り、白鳳年中法隆寺沙門覺盛これを中興す。當時伽藍宏壯にして寺領亦多かりしと。その後足利・鎌田・豐臣氏等の尊信厚く、豐臣時代には寺領五百五十六石餘を受け、次で德川時代に至り本寺住職及び大津十四屋某、近江・大和兩國四萬石の郡代官に補さる。阿彌陀堂・書院・阿彌陀如來立像(木造)一軀・地藏菩薩立像(木造)一軀・山王本地佛像一幅(絹本着色)外五點は國寶たり。(安國寺)大字芦浦にあり。天台宗。暦應二年足利直義、光嚴上皇に奏して國毎に建立せし安國寺の一。いま總に地藏堂一宇を具ふるのみ。(常敎寺)大字下寺にあり。眞宗佛光寺派。京都久遠院末。聖觀音立像(木造)一軀は國寶。

【常盤】 鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年本村及び瑞穗村を廢し、その區域を以つて大誠村を建つ。

【常盤村】岡山縣備中國都窪郡の西北隅。倉敷市の北方約八粁、高梁川下流左岸に沿ひ、西は川を隔てて吉備郡神在村、北は總社町に隣る。面積五・六三平方粁の小村。全村高梁川の沖積平野上を占め地



勢極めて平坦、耕地よく拓け、米・蕎・園の農產の外、酒の醸造行はる。省線伯備線の西總社驛(總社町內)・清音驛(南隣清音村內)に近く交通不便ならず。

【常盤池】 ↓宇部市(山口縣)

**トキワギ** 常磐木鎭山 北海道渡島國茅部郡尾札部村にある硫黃山。

**トキワバシ** 常盤橋 (常盤橋門)江戸城內郭の一門。麴町區大手町より日本橋區本町に至る間にありても淺草口と呼ぶ。日本橋を過て淺草に至る道路これにかかる。門外の橋を常盤橋といふ。今、石橋を存す。

【常盤橋見附】 江戸城內郭門見附の一。麴町區大手町より日本橋に出づる口の見張番所。

**トキワマツ** 常盤松礦山 ↓鞍法華村

**トク** 嗂(國) 朝鮮の古地名。書紀雄略紀・繼體紀・欽明紀に其名屢見ゆる任那國の小國名、其地新羅の國境に近く、今の洛東江の右岸に當り、慶尙南道梁山郡勿禁面の邊にありしものか。後攻を快つ。

**トク** 德之島 奄美大島諸島の一島。大島と沖之永良部島との中間に位し、鹿兒島縣大島郡に屬する亀津・東天城・天城及び伊仙の四村に分轄さる。面積二五三平方粁。島の北部の天城嶽(五三三米)を最高とするも、珊瑚石灰岩を載せる數段の海成段丘明瞭に認められ、その最高は二〇〇米に及ぶ。海岸線は八四粁に及ぶも段丘海に迫りて出入に乏しく、且つ原生の珊瑚礁發達して殆ど洗らしきもの無し。東南岸の亀津が首邑なり。河は峽谷をなすこと多く、時に最長なる秋利神川の如きは一〇〇米の深谷をなし、沖積地は狹小なり。黑糖と大島紬とが工產の大部分を占め、東天城村母間には小銅山あり。聚落は段丘崖下に集村をなす場合多きも、段丘上のものは散集村を普通とし、特に西南部の伊仙村に於て樹式的にて、飲料水に乏しく非常に困難なり。黑糖・紬の製造に誘因され、出稼者多し。

**トクアン** 德安面 朝鮮平安北道博川郡の南端。南は清川江を隔てて平安南道安州郡と相對す。大寧江と清川江合流の河間地帶にあるを以て大部分沖積平原を成し、北東部は妙香山脈の末梢部に屬する小丘陵の起伏を見る。沖積地は地味肥沃にして優良の耕地をなし、氣候は本道中最も溫暖なる地域に屬す。住民は農を主とし勤勉にして貧困者少し。產物は米を第一とし、大豆・粟・稗・棗・綿花・銅等あり。鐵道京義本線は面の東境を縱走し、その孟中里驛(東南面)より域內に連絡し交通比較的便なり。聚落は多く沖積原を避けし丘陵上に分布す。

**トクアン** 德庵 片町線の一驛(明治二十八年設置)。大阪府布施市にあり。

**トクオージ** 德王子村 高知縣土佐國香美郡の南部。岸本町の北に隣接す。東は夜須村、北は山南村、西は香宗村に接く。面積四方粁餘の小村。東境と北部には山南村より續く低き丘陵あれど、その他は高知平野の東南部にして土地平坦、田畑よく拓け、米・蕎・豆類・柑橘類・麥等を產し、瓦の特產あり。岸本町・赤岡町に近接し交通不便ならず。もとは德善寺・王子の二村なりしが、明治十六年合して一自治區となり村名を德王子と改む。宇王子に池田親王の遺蹟あり。天平寶字八年、淳仁帝の淡路に配せられ給ふや、皇嗣池田親王も亦坐して土佐に配せられ給ひ、下國ぜられて此地に僑居し給へり。(若一王子宮)縣社。主祭神、天照大神・池田親王。相殿神、蒐玉男神外二神。もと天照大神一座なりしも、天平寶字年間に池田親王の配祀ぜられて此地にあり、その薨後當社に合祀す。更にのち蒐玉男神外二神を相殿に奉祀すと云ふ。其後、村上泰弘は社殿を山北村に遷し、淺上王子宮または上の王子と稱す。文保三年花園院より神領千石を賜はる。長曾我部元親また加護の報賽として社領を寄進す。國中一般に五穀豐穰の守札を配付すと云ふ。中世に若一王子權現と稱し近郷の產土神と崇敬さる。例祭、七月二十一日・十一月八日。

**トクカ** 德下 朝鮮慶尙南道蔚山郡吉良面の里名。總督府鐵道東海南部線の德下驛(昭和十年設置)あり。

**トクカ** 德化面 朝鮮平安南道寧遠郡の南部。面邑寧遠の東方約二〇粁。北大峯山脈に屬する白山(一七二四米)東南境に、熊峰(一五九五米)西南境にあり相對峙し、餘勢域內に及びて山谷重疊し、北部を大同江蛇曲流して西流し、沿岸段丘上に耕地の發達を見る。住民は農を生業とし、傍ら狩獵又は機織に從事するもの少からず。生活程度低く生計裕かならず。產物は大豆を第一とし、麥麥・煙草・胡・麻等あり。面政の中心新邑は略中央に位置し戶數一・六の日に開く市場あり。道路は新邑を核として放射狀に溪谷に沿ひ四通八達するも西境に於て六百—千米の峠を越すを以て交通便ならず。

**トクカ** 德果面 朝鮮全羅北道南原郡の北端。郡邑南原の北方約一五粁。東部は山地を成ぜども西半部は小丘陵の起伏あるに過ぎずして肥沃の耕地連り、蠶樹川之を灌漑し、米は良質を以て知られ其他の農產物に麥・大豆・粟・棉花・馬鈴薯等あり。鐵道全羅線北西部を走り蠶樹驛(任實郡屯南面內)に近く、道路は全州南原間の二等道路面の西南境に沿うて走りバスの便あり。

**ドクキョ** 獨巨群島 ↓鳥島面(朝鮮)

**トクゲン** 德彥面 朝鮮平安北道定州郡の中東部。定州邑の東南に隣る。もとの德德・伊彥・阿耳浦の三面を合併新設せしものにて、東北の長水灘江江岸より西南の海岸まで一六粁餘、東西の幅は北部に於て一一粁餘あり、西南は西朝鮮灣の一支灣に臨む。北部及び東部には狄嶺

猫山脈の餘脈連亙し、北に猫頭山（三一〇米）、東南境に五峰山（三四一米）・延香山・帝釋山等聳ゆ。此等山地は老年性にて、域内に數條の餘脈を派し、海岸近くにも火山岩性の丘陵蟠まる。中部及び西部は低平にて、特に西北境を劃する潼川江と、猫頭山に發する河との流域には沃野拓け、郡中主要農業地帶を形成す。但し東北の博川郡との境の長水灘江沿岸は低地に乏し。また海岸は小出入に富み、柴艾島・佛島等の屬島あり、されど泥濘遠く遠り良泊を缺く。産物は米を第一とし、大小豆・稗（在來稗）・雜穀・大麻・果實（苹果・梨）・蘭等の農産あり、また生牛・牛皮等の畜産、麻布・紬布・金屬器具・硝酸等の工産あり。總督府鐵道京義本線は中部平野を東南—西北へ走り、定州驛（定州邑）に近く、北部には義州街道東西に走りバスの便あり。南部の新倉洞に古州長城の遺址あり、高句麗時代に靺鞨の侵入を防がんため阿耳浦海岸より江界郡内まで築城せしものの一部なり。附近海岸の海倉に往古の定州社倉の一の遺址あり。

**トクゲン　德源**

【德源郡】朝鮮咸鏡南道二府十六郡の一。道の南端部に位し、西は平安南道陽德郡及び黃海道谷山郡に、北は文川郡、南は安邊郡及び江原道伊川郡に接し、東は元山府を抱擁して海に臨む。地東西に長く南北に短く、面積約八七六方粁。その元山府を抱擁せる一端は日本海に斗出して葛麻角に終る小半島を成し、永興郡の虎島半島と相對して永興灣を形成す。海岸は概ね低沙濱をなし、海岸線延長鳥嶼を合して二七海里に及び、良泊に乏しきも、灣の内外には麗島・蒼島・鶴島等の諸島點在し、好漁の漁場をなし、半島部は風光美に富み海水浴場として名高し。郡の西半部は白頭山の支脈のなす山地にして中部に馬息嶺・伏岡嶺等南北に連亙し、西北境に頭流山（一三二四米）、東南境には高春峰・蓮花德山（一五八六米）・鳳凰山等聳立するも、東部沿海地帶に稍廣き平地あり。河川には東邊に南大川あり、馬息嶺の東麓には長林川・赤田川等發して永興灣に注ぎ、また臨津江は馬息嶺の南麓に發源し、西南に走りて江原道に入り、西流して仁川附近にて海に朝す。産業は農を主とし、水産業・工業これに次ぐ。農産に米・粟・大豆・大麥・小麥・稗・馬鈴薯・大麻・莞草・蓮荷等あり、地味果樹栽培に好適し、苹果・梨・葡萄を産す。副業に養蠶・牧畜（牛・豚）行はれ、山地より用材・薪材・木炭を出し、漁産に金・銀・タングステン・水銀等あり、特に西南部豐下面一帶のタングステンは著はる。水産物は鱈を第一とし鰯・鯖・鮮・鰤・鯛・針魚・蛤・若布等あり、東部の元山港岸には鑛詰工場ありて鰯詰・トマトサーヂンを製造し、鰯締粕・鰯油の製造も行はれ、製品は南津・阪峴等に移出せらる。其他工産に綿物（紬布・麻布）・煎餅器・瓦器・窯工品等あり。總督府鐵道京元線は東南より來り葛麻驛を經て元山驛に至り、元山より成鏡線出で東部海岸に沿ひ德源・文坪二驛を經て北走す。道路は鐵路と並走する京城元山間、元山會寧間の各一等道路あり、京元街道は途中より東南に通川・襄陽方面に至る二等道路を、元會街道は德源邑にて平壤方面に至る一等道路を岐ち、後二者にバスの便あり、交通・運輸共に至便なり。行政上、六箇面に分ち、郡廳を元山府大和町に置く。人口密度一方粁當り五三人にして、道平均五〇人に比し稍稠密なり。本郡は高句麗の時泉井郡と稱し、新羅の時に井泉郡と改め、高麗に至り湧珠と呼べり。成宗十四年防禦使を置き、のち宣州と改め、世宗十九年始めて德源郡と稱す。明治四十三年元山府と改稱し、大正三年元山府より分離し安邊郡の一部を併せて再び德源郡名を復活す。

【德源】　朝鮮咸鏡南道德源郡府内面東部の邑。總督府鐵道咸鏡本線の德源驛（大正四年設置）あり。

**トクコー　德興面**　朝鮮咸鏡南道永興郡の東部。郡邑永興の東に隣接す。北境に靜菴山及び鶴峰等聳え一般に高きも南部は龍興江のアルヵ平野の一部を成し、土地低平にして地味肥え灌漑の利に富み、農を主業とし傍ら養蠶盛んなり。産物は大豆・米・大麥・粟・麻・煙草・蠶等にして、また紬を産し永興紬として市場に名高し。鑛産には金・石炭あり。鐵道咸鏡本線は永興より東折し、面の南部を横斷し、のち邑路を北轉して咸興に通じ域内に馬場驛（大正八年設置）あり、また二等道路之に並走し永興・佛興場へバスの便あるも、北半部は道路の發達十分ならず交通不便なり。南半部に集落散在密集し郡内集落密度の大なる地域をなす。馬場は龍興江の左岸に位し、驛の西方に馬場市場、東南四粁に佛興市場を有し、此地方の金融經濟上に重きを爲す。馬場市場の取引年額約三十萬圓にて、附近の沃野より出す大豆・雜穀・蠶繭等の集散盛なり。馬場の北約六粁に安佛寺あり、李太祖二年、翼祖（太祖の曾祖父）の妃根氏の爲に建てし善慶寺にて、無學禪師の開基とす、郡内五寺のうち最大のものにして境内鬱蒼の趣をなす。

**トクゴー　德本峠**　長野縣南安曇郡にある峠。犀川に注ぐ梓川支谷烏々谷を遡り、上高地（神河内）に降る山道に當る。最高點は標高二一三二米を算し、安曇郡に屬す。もとは上高地へ達する唯一の峠路なりしが、近年梓川に沿うて自動車道路開通せしため利用さるること少くなれり。安曇村烏々部落に始る烏々谷を行くこと約一〇粁にして鰐留に至る、之より約六粁、峠上までは相當險しき長坂をなす。峠上に茶屋あり、附近より北方穂高岳等の展望に誠に壮絶なり。また信濃梓川北岸を遡流し、山岳美と渓谷





美とを一時に收む。登に上高地の風光美は德本峠を越えて初て味ひ得らるると稱せらる。登り六時間を要す。峠上より約四粁、急坂を降れば一時間にして梓川の畔に達す。ここに白澤の營林署巡視小屋あり。これより左に梓川を下れば約四粁、一時間半にして上高地に着す。小屋より右に梓川を遡れば德澤を經て槍ヶ岳方面に至る。

**トクサ　木賊・土賊**

【木賊山】　國東山脈秩父山塊の一峯。埼玉縣秩父郡大滝村と山梨縣東山梨郡三富村との境上にあり。標高二四六八・六米。西麓は甲武信ヶ岳（約二四七五米）、東麓は破風山（二三一八米）に連る。山頂附近はジラビソ・シャクナゲ・ヵケカンバ等繁れど視野廣豁なり、特に東方の金峰山・八ヶ岳・駒ヶ山、南方の南アルプスの眺望に佳し。甲武信ヶ岳との中間鞍部に甲武信小屋、破風山との中間に破風小屋あり。山中に十賊瀧かかる。

【木賊村】　山梨縣甲斐國東八代郡に屬する飛地。北及び西は東山梨郡の南部、東南は北都留郡の西南部に圍繞さる。東南境に千米に及ぶ山嶺連亙し、山嶺重疊して低地なく富吹川の一支の谷頭に僅に本賊の部落あり。深山に位するを以て薪炭を主業とするにすぎず。交通も極めて不便なり。面積また一・九九方粁の小村、人口は大正九年一三九人、同十四年一四〇人と僅に一人の增加にて、其後昭和五年一三四人、同十年一二六人と減減す。いま日影町・田野村と共に組合町村なし役場を日影町に置く。（棲雲寺）臨濟宗建長寺派。天目山。貞和四年國主武田信滿の開基に係り、本尊を同山とす。應永二十四年武田信滿富寺に於て自盡す。往昔塔頭二十五院ありしが今は廢滅す。寺格中本寺にして觸頭たり。

【土賊山】　山梨縣北巨摩郡增富村增富温泉の南方に位する山。標高一七五五米。東山腹に木賊峠路最高點あり、路を北東に取れば金峰山・瑞籠山方面に至る。

**トクサ　德久村**　兵庫縣播磨國佐用郡の中部。佐用町の東隣にて千種川中流の谷に位し、北は宍粟郡三河村に接す。面積約一四方粁。東西兩境には高さ二〇〇—三〇〇米程度の丘陵性山地南北に延亙し、千種川中部を西南方へ貫流し河谷に狹長の低地開け田畑あり。農産に米・蘭・裸麥・小麥・果實・蔬菜・食用農産・鶏卵等を産し、工産に農家の副業たる蓆製品の外、木製品・製茶・藉・鬼物等を出す。南部には作州街道東西に走り、縣道これより分れて中央河谷を北上し、また西北隣長谷村に至る。省線姫新線南部を横ぎり播磨德久驛（昭和十年設置）を設け交通便なり。和名抄に佐用郡中川郷とあるは本村なるべし。延喜式に中川驛馬五匹とあるは此地ならん。（香勝神社）大宇東德久に鎮座。郷社。祭神天忍穗耳尊。素戔嗚命・應神天皇外三柱を合祀す。例祭十月十五日。

**トクサ　德佐村**　山口縣長門國阿武郡の中部東端。阿武川上流の盆地に位し、東北は島根縣鹿足郡津和野町に、東は同郡柿木村に、南は佐波郡楠野村に、西南は地福村に隣る。面積約六九方粁。東南境上には中國山脈の主軸山脈連りて野篭山（九二四米）を起し、西北境には支脈山地延亙して十種米（九八九米）峠ち、中部には平坦地ありて西南隣地福村の中部につづく阿武川上流の盆地をなす。冬季降雪多く、十種米及び津和野町との境界なる野坂峠附近はスキー場としてもてはやさる。米・麥の農産多し。山陰街道と省線山口線、この平地を東北より西南に通じ、後者には德佐驛（正大七年設置）あり。（八幡宮）　大宇德佐中に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后・田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命外合祀神六柱。壽永元年豐前國宇佐より大內論盛の勸請するところと傳ふ。もと古宮山にありしが延寶七年災禍に罹り、その翌年に現在地に遷座す。毛利氏より歴々社領の寄進を享け、綱廣は社殿を造營すと云ふ。明治四十一年當村の八幡宮外三社、續いて宇津根稻荷神社外一社を併合す。例祭、九月二十八日。（德佐八幡宮の樓）指定天然記念物。縣社八幡宮の馬場にあり。文政八年栽植せるもの、彼岸櫻及び枝垂櫻の品種百六十餘株あり、花色の變化多く美觀を呈す。此頃の櫻の地方的名勝として有數のものなり。（十種スキー場）本村附近は三〇糎乃至五〇糎の積雪あり、德佐驛の西南坪内附近に練習場あり。沿線より近きため門司・小倉方面よりのスキー家集る。德佐驛より西北約七粁に十種峠あり、圓錐形の山容に四方へ美しき裾野を曳き、特にその西北斜面は草原にて最も好適なり。この山麓にては積雪量八〇糎に達す。

**トクザイ　德在面**　朝鮮黃海道鳳山郡の東南部。郡邑沙里院の東南約三〇粁の山中にあり。鳳陽山（五四一米）西北境に聳え域内五〇〇米内外の山地連亙して殆んど平地なく、ただ東南部及び西南部の銀波川沿岸に小平地を見る。産物の主なるものは米・大麥・大豆・粟等にして山中に人蔘の産あり。鄙邊に位置するを以て郡邑との連絡路は坂路多く改修未ぞ充分ならざるに對し、隣郡瑞興邑と距離的に近く、道路また三等道路を通じ交通比較的便なり。

**トクサガミ　十種峯・德佐峯**　中國山脈に屬する一峰。山口縣阿武郡嘉年村・德佐村と島根縣鹿足郡烏田村との境上に聳る。標高九八九米。石英粗面岩より成る。（德佐村）

**トクサワ　德澤**　福島縣河沼郡群岡村の大字。磐越西線の德澤驛（大正三年設置）あり。

**トクサン　德山**

【德山面】　朝鮮咸鏡北道吉州郡の西南部。

**トクシ　横山面**　横浜市安部郡横山村の西南部。横山郡の西方約一五粁。

横山郡の西南部。横山郡の西方約一〇粁。横浜市は郡に属する小都市。横山郡の西南部に位置する。横山郡の西南部に位置する。横山郡の西南部に位置する

（昭和五年）表一第

| | 生産額（千圓） | 生産額の比率 | 工場数 | 職工数 | 職工一人平均生産額（圓） |
|---|---|---|---|---|---|
| 大正十年 | 三三、三三三、三三三 | 三・三 | 三三 | 三、三三三 | 一、三三三・三三 |
| 昭和五年 | 三三、三三三、三三三 | 三・三 | 三三 | 三、三三三 | 一、三三三・三三 |
| 同　五年 | 三三、三三三、三三三 | 三・三 | 三三 | 三、三三三 | 一、三三三・三三 |
| 同　十年 | 三三、三三三、三三三 | 三・三 | 三三 | 三、三三三 | 一、三三三・三三 |
| 同年の比率 | 三・三 | 三・三 | 三三 | 三・三 | 三・三 |

（昭和五年）表二第

| 郡名 | 市町村名 | 工場数 | 職工数 | 郡名 | 市町村名 | 工場数 | 職工数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 名古屋郡 | 名古屋市 | 三三 | 三、三三三 | 愛知郡 | 東郷村 | 三 | 三三三 |
| 西春郡 | 西春村 | 三 | 三三三 | 同 | 長久手村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 師勝村 | 三 | 三三三 | 同 | 日進村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 沖村 | 三 | 三三三 | 同 | 赤津村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 西枇杷島村 | 三 | 三三三 | 同 | 三輪村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 新川村 | 三 | 三三三 | 同 | 猪高村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 清洲町 | 三 | 三三三 | 同 | 植田村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 八剱村 | 三 | 三三三 | 同 | 天白村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 大和村 | 三 | 三三三 | 同 | 八事村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 甚目寺村 | 三 | 三三三 | 同 | 山田村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 美和村 | 三 | 三三三 | 同 | 大森村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 七宝村 | 三 | 三三三 | 同 | 東山村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 木田村 | 三 | 三三三 | 同 | 千種村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 佐屋町 | 三 | 三三三 | 同 | 中村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 稲葉村 | 三 | 三三三 | 同 | 熱田 | 三 | 三三三 |
| 同 | 十四村 | 三 | 三三三 | 同 | 笠寺村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 弥富村 | 三 | 三三三 | 同 | 鳴海町 | 三 | 三三三 |
| 同 | 中川村 | 三 | 三三三 | 同 | 有松村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 大江村 | 三 | 三三三 | 同 | 桶狭間村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 荒子村 | 三 | 三三三 | 同 | 大高村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 中郷村 | 三 | 三三三 | 同 | 鳴海村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 笠寺村 | 三 | 三三三 | 同 | 有松村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 鳴海町 | 三 | 三三三 | 同 | 桶狭間村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 有松村 | 三 | 三三三 | 同 | 大高村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 桶狭間村 | 三 | 三三三 | 同 | 鳴海村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 大高村 | 三 | 三三三 | 同 | 有松村 | 三 | 三三三 |
| 同 | 鳴海村

所者に対し、殺人事件を含む多くの犯罪を犯した者、婦人に対する暴行、強盗、放火、詐欺、横領、贈賄、収賄、偽造、文書偽造、公文書偽造、虚偽公文書作成、公文書毀棄、公務執行妨害、職務強制、逮捕、監禁、逃走、逃亡、脱獄、犯人隠匿、証拠隠滅、偽証、誣告、騒擾、放火、失火、過失致死、過失傷害、過失致死傷、過失傷害、過失致死傷、過失傷害、過失致死傷

明治四年五月国幣中社に列せられ、同位下に昇叙。

**徳谷神社** 徳谷村に鎮座。祭神、大国主命。

**徳谷村** 徳谷村に鎮座。祭神、大国主命。

**徳谷村** 徳谷村に鎮座。祭神、大国主命。

**徳谷村

**トクヒ** 鹿井 →鹿井(郡名)

**トクヒキ** 徳積

【愛知県】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳川

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳田

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳島 →徳島(郡名)

**トクタ** 徳田

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳島 →徳島(郡名)

**トクヒ** 徳川

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳田

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳池江 郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳池

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳池

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳池

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳池

【愛知郡】郡名 [illegible]



**トクヒ** 徳田

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳田

【愛知郡】郡名 [illegible]

**トクヒ** 徳田

【愛知郡】郡名 [illegible]

ゴルフリジタあり。

**トクブン**　——社　臺灣高雄州屏東郡の蕃地。タイボボ山西南方なる隘寮北溪支流流域（約八八〇米）にあり。高砂族、部落中パイワン族ラバル系統に屬す。人口三一〇。なほ同州潮州郡南大武山の西北方タロルス溪上流右岸の地（約七六〇米）にも同名蕃社あり。この方はパイワン族アタル系統の部落。人口一一七。

**トクマ**　徳間峠　甲・駿の國境、山梨縣南巨摩郡富河村と靜岡縣庵原郡兩河内村との境上に最高點を畫く峠。一に大平山と云ふ。南方江尻方面より北方身延方面に至る一交通路たり。同じく甲駿間の交通路として、東方に櫛峠、北西方に地蔵峠あり。永祿十三年武田信玄北條氏と興津にて對陣の時、三河徳川勢駿府を攻撃せんとすと聞き、信玄急ぎ兵を甲斐に歸せんとせしが、他の交通路北條氏に遮られしかば、止むなくこの峠を越えて歸りしと云ふ。

**トクマル**　徳丸原　荒川右岸の神積地にして、いま東京市板橋區下赤塚町に屬す。天保十二年五月長崎の町年寄高島四郎大夫（秋帆）が幕府の命を受けてその研究せる西洋流の操練の實演を試みし所なり。今は回祿されて水田となり「徳丸原遺跡の碑」建つ。

**トクミツ**　徳光　京都府竹野郡にありし村。大正十四年に八木村と共に廢され、その地域を以つて豊栄村を設く。

**トクミツ**　徳滿　宗谷本線の一驛（大正十五年設置）。北海道天塩國天塩郡幌延村にあり。

**トクヤマ**　徳山　岐阜縣美濃國揖斐郡の北部。揖斐川の上源の山村。南は郡境・坂内二村に接し、東は本巣郡根尾村に、北は福井縣大野郡・今立郡に、西は同南條郡に界す。面積二五四方粁餘を有す。濃越山地の西部にて四境一二〇〇米内外の諸山嶺によりて圍まれ、その山肢村内に延互し至る所高峻の山地をなす。西北部釋迦嶺の南谷と、西南境三周ヶ岳の東谷とに發源する溪流は共に山間を東流し、東部徳山にて相合して揖斐川となり東南隣藤橋村に出づ。全村山林繁茂し、主生業は農林業にして米・稗を産し、栃板・山炭の特産あり。交通の便乏し。面積廣大なるも人口は僅に二千餘人に過ぎず。

**【徳山村】**　靜岡縣駿河國志太郡の西北部。大井川中流左岸の谷地にて、島田町の北約二五粁。西は大井川を境に榛原郡中川根村・下川根村に對す。面積三八方粁に近し。東境に白根山脈の一肢無雙連山連り、その山脚村内に延びて殆ど山林なし、ただ大井川岸の蛇曲部に小平地あるのみ。農業・林業を主生業とし、茶の產多し。社線大井川鐵道は河岸を北上し、地名・鹿郷・下泉・田野口・駿河徳山の五驛（前二驛は昭和五年、後三驛は同七年開業）を設く。なほ地名驛より下流の島田町までは舟運の便もあり。〔淺間神社〕大宇堀ノ内に鎮座。郷社。祭神、木花佐久夜毘賣命。相殿に大己貴命等三柱を祀り、また火之迦具土神等十柱を合祀す。天喜年間土岐氏の創建と傳へ、寛文六年に現地に奉遷すといふ。例祭、九月十五日。〔大泉寺〕大宇堀之内にあり。曹洞宗。宮殿山と號す。開山な堅林永固和尚とす。本尊に釋迦如來を安ず。

**【徳山市】**　山口縣（周防國）六市の一。南は徳山灣に臨み、東は都濃郡太華・久米・米川三村に、北は同郡須々万・長穂二村に、西は同郡加見・富田二村に隣接す。面積二三・七八平方粁。北部には高度四一五百米の古生層・中生層・及び花崗岩より成る葛地山地あり。山脚は南方に延びその末端風呂ヶ迫（六二米）は海岸平野中に聳つ。徳山川は東北境の移ヶ峠より發源して南流し徳山灣に注ぐ。南部の徳山灣岸一帶の地域は徳山川の沖積層を主とする海岸平野にして、東南部は北部山地の延長にて丘陵狀をなす。徳山灣の東南は太華半島に包まれ、西北には仙島・黒髮島・大津島等連互し、東南風を防つ西南の強風なく遮り給艦の好泊地をなし、もと開港なりしも昭和十三年三月港を閉鎖し要港となる。昭和十年本市の平均氣溫は一五・二度にて、これを月別に見れば最低氣溫の月は一月の四・八度、最高氣溫の月は八月の二六・九度にして平均氣溫は東京の一四度、大阪の一五・一度、廣島の一四・七度より高く、最低月（一月）氣溫は東京の三・一度、大阪の四・二度、廣島の三・九度より高く、最高月（八月）氣溫は東京の二五・六度よりは高きも廣島の二六・九度とは等しく大阪の二七・三度よりは低し。即ち本市は氣候溫和にして東京・大阪・廣島に比し氣溫は寒暖の差少きを知る。風向は一年を通じ北西風が卓越するも南西・東の風も多し。年降水量は二二五一粍、これを月別に見れば、六月（五九二・四粍）・九月（三四三・六粍）に多く、一月（一六・二粍）・十二月（六五・一粍）に少し。即ち夏季に多く冬季に少き瀬戸内式の現象を示す。年降水量は大阪の一三五三粍、岡山の一一〇一粍、廣島の一五一八粍、松山の一三三四粍よりも遙かに多く瀬戸内沿岸の嘉雨地帶に比し著しき差異を示す。本市は東南の下松町・太華村等と共に一工業地帶を形成し、本縣西部の下關市附近の工業地帶と共に北九州工業地帶と對稱的工業地をなす。即ち本市には徳山海軍燃料廠を初め日本曹達株式會社・長州風呂鐵物株式會社・西林製鐵所・徳山製絲場・製鐵會社等海岸に近く立地し工場地帶をなし、本年海軍要港となりしを以て將來益々發展大いに期すべきものあり。なほ後背山地の諸村より產する米・麥等の農產を始め薪・葉煙草・木材・竹材・牛等の集散地にて、葉煙草は本市に廣島專賣局出張所ありてその收納・製造をなす。





省線山陽本線は海岸線に沿うて過じ佐波町に徳山驛（明治三十年設置）を置き、國道山陽道はこれに沿うて走り、徳山川沿ひに北上する縣道を分ち、徳山驛よりは須々万村・玖珂郡高森町・玖珂町、都濃郡花岡村・鹿野村・須金村・下松町・福川町に各バスを通ず。人口は大正九年一九一一四人、同十四年二〇六一五人、昭和五年二二七四八人、同十年三二〇六人にして逐年增加しつつありしも、特に昭和五年より同十年の五年間の增加は一萬人に近く、昭和十二年の推定人口は三五九〇〇人にして近年急激なる增加を示し本市の躍進しつつあるを如實に語るものなり。昭和十二年の推定人口によれば本市は本縣に於て下關市（一四九七〇〇人）・宇部市（八一二〇〇人）・防府市（五四四〇〇人）に次ぎ、山口市（三五八〇〇人）・萩市（三二八〇〇人）より多し。なほ昭和十年の一方粁密度は一三四八人なり。此地は和名抄、都濃郡久米郷の地にして古くより開けたる所なるも、盛となりしは近世に屬す。即ち近世毛利氏の支封を置かる。享保五年、毛利元堯三萬石を分與せられて此地に治す。天保七年、廣瀨城主格となり、一萬石を加與せられ、のち子孫傳領して明治維新に至り、明治三十三年十月徳山村を町とし、昭和十年十月この區域に市制を布く。本市にはいま教育機關としては縣立・私立の中等學校あるにすぎざるも、毛利家支藩のありし時は興讓館（初稱鳴鳳館、天明五年創立、明治四年徳山藩小學と改稱）の藩費ありて教育は大に尊重せられ、從つて俊出せる人物も少からず。即ち見玉次郎彥、見玉源太郎大將・赤松連城、神小路廉等の人物出で、いま見玉氏の祖邸・見玉神社あり。名勝には海軍燃料廠の東方海岸に徳山公園、市の北部の毛利邸、城山の麓なる松屋十八景、巡石松原、海水浴場たる熊野浦等知らる。〔祐綏神社〕縣社。祭神、毛利就隆。文化八年の創建、舊徳山藩主、毛利氏の始祖を祀る。就隆は毛利輝元の第二子、幼名は三次郎、關ヶ原役に年漸く十三歲にて家康の旗下に屬し大功を樹つ。のち日向守となり三萬石を領す。のち上野に移城し、延寶八年七十八歲にて卒す。例祭、陰曆九月三日。〔遠石八幡宮〕縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・田心姫命外數神。社傳によれば、推古天皇三十三年、時の縣郡末國眞彥は神託を蒙りて豐前國宇佐の分靈を勸請し、和銅元年社殿を造營すと傳ふ。今川了俊道行狀に「遠石の浦とて、山本市に向て八幡の御社います、その御前の濱の沙干のかた、遙かなる沖に大なる石の先あがりて見え侍る、是を遠石と申すとや、人こそ知られとぞいはまほしきなり、此御神にも上矢一奉りぬ」とあり。例祭、四月十五日。〔見玉次郎彥〕徳山藩士。勤王家。名は忠炳、通稱熊之進、青田・水田と號す。後見氏の二男、見玉忠碩に發ぜる。年少にして京都にあり則旋方を勤め、のち歸藩し廿一歲にて大目付に任ず。次で京都留守居となり、毛利氏尊攘の議を贊く。元治元年五月禁門の變後、志士を糾合して悉すあらんとせしが藩の俗論黨によりて八月十二日襲はれ殺害せらる、歲二十三。贈從四位。〔見玉源太郎〕嘉永五年閏二月二十五日徳山藩に生る。明治元年十月、年十七にして初めて藩隊に加はり東征に從ひ、函館の戰に參加して功あり。のち陸軍に出仕し、佐賀の亂には中尉として出征、負傷す。神風連の亂にその才を認められ、西南戰爭には熊本城内にあり苦戰す。十八年參謀本部東局長、二十年陸軍大學校長となり獨逸メッケル少佐の戰術を我が陸軍に移入し我が戰術學に貢獻す。二十四年歐洲に差遣、二十五年陸軍次官、日清戰爭に次官として功あり男爵に叙せられ、二十九年中將に進む。三十一年一月第三師團長に補せられ、二月臺灣總督に轉じ功により子爵に昇叙。二十三年第四次伊藤内閣の陸相を兼任、桂内閣にも陸相を兼任し、後また内相・文相を兼任、三十六年十月參謀次長に轉じ、日露戰爭の作戰に當る。三十七年六月大將となり、七月滿洲軍總參謀長として出征、帷幄の重任を全うす。三十九年四月參謀總長となり、また南滿洲鐵道株式會社創立委員長として才能を期待されしが、七月二十四日急逝、年五十五。伯爵に昇叙。〔赤松連城〕徳山の人、名侃。明治四年英國に留學、歸朝後諸官を歷る西本願寺事務に進出して重鎮せらる。特教後渡臺し宣教に從ふ。西本願寺著宿たり。大正八年歿、年七十九。英文眞宗本義・佛教史等の著あり。

**トクユー**　徳裕山　朝鮮慶尙南道居昌郡・同咸陽郡及び全羅北道長水郡に跨る山。小白山脈中の嶺峰にして標高一五〇八米。東面に洛東江の支流渭川、南面に同じく南江、西斜面には錦江の上支發源す。

**トクラ**　戸倉　**【戸倉村】**　東京府武藏國西多摩郡の南部。多摩川の支流秋川の谷に位し、五日市町の西南隣にて、東・南は南多摩郡川口村・恩方村と界す。面積約一五方粁。圓東山脈東麓の山村にて西境に臼杵山（八四二米）、東南境に刈寄山（六八七米）ありその山腹は何れも北部を東流する秋川の谷に向ひて傾斜す。山地一帶は森林をなし、川沿ひに幅狹き平地ありて米・麥・甘藷・里芋・馬鈴薯等を產し、また養蠶行はれて玉絲・生絲・繭を多產す。川沿ひに府道ありて五日市町・八王子市に通じ、また五日市町の社線五日市鐵道武藏五日市驛に近し。鎌倉時代管領上杉氏の墓下、武藏七窯の内なる小宮上野介窯明なるもの村内の城山に居城し、秋留郷三十九箇村を領し、天文年中、大石源左衛門尉定久居城し附近を治す。村名は附近にて產せる調布・大島紬等を朝廷へ貢納せし物

品の屯倉を置き、之を宮藏と稱せしより戸倉と轉訛せるものなりと。〔三島神社〕城山に鎮座。村社。祭神、大山祇神。摂社多摩神社は慶長年間の堂舎作にて、内陣に鎌倉時代の作と推せらるる不動像を安置す。〔光蔵寺〕城山の中腹にあり。本尊の釋迦像(木造、高さ一尺七寸)は明治初年本寺再建の際鎌倉建長寺より移せしもの。室町期の作、佛師運朝の銘あり。

【戸倉村】長野縣信濃國埴科郡の西南部。千曲川の右岸に沿ひ、東南は坂城町に、西北は五加村に接し、西南は千曲川を境に更級郡更級村・上山田村と相對す。面積八方粁餘。五里ケ岳(一〇九四米)の山嶺逶迤して西南に急斜し、西南半部は千曲川の河成段丘にして、平坦にして田・畑拓く。平坦部に米・麥・繭の産多し、傾斜地には蒟蒻の産あり。千曲川畔に温泉湧出す。省線信越本線及び北國街道は共に山麓に並行し、前者の戸倉驛(明治四十五年設置)あり。この地は和名抄、埴科郡磯部郷の地にして、舊善光寺街道の宿驛たり。萬葉集第十四卷の「人みなの言は絶ゆとも埴科の石井の手兒が言な絶えそね」とあるは此地なりと。明治天皇、明治十一年、北陸東海御巡幸の際この地に御小休あらせらる。〔戸倉温泉〕千曲川の岸にあり。一に魚敎湯といひ、もと千曲川の磯に湧出せしを引きて浴場を營みしもの。川を隔てて上山田温泉と相對す。發に白濁せる硫黄泉にて關氣・消化器病に效ありといふ。

【戸倉山】日本南アルプス駒ケ岳(二九六六米)の西方約一七粁なる山。東方は北流する三峰川を隔てて仙丈岳(三〇三三米)と對峙す。長野縣上伊那郡伊那里村と中澤村との境上に位し、標高一六八一米。山容に因り伊那富士の別名あり。

【戸倉峠】中國山脈を乗越す峠の一。兵庫縣宍粟郡奥谷村と鳥取縣八頭郡池田村との境上に最高點(八九一米)あり。若櫻街道に當る。東斜面奥谷村に戸倉部落あり。揖保川の上支引原川の上源地たり。

**トグラ　戸倉村**　宮城縣陸前國本吉郡の南部。北は志津川町に隣り、その東半はこれと志津川灣を挾む。南隣十三濱村との境上には高さ三〇〇米内外の嶺東西につづき、地は北方に傾斜す。東北部の志津川灣岸はリヤス式海岸をなし、嶺れ山地にて中部・西北部の小流の谷筋に多少の耕地あるのみ。米・繭・薪炭を産し、海岸には漁業行はる。柳津町より來る東濱街道西北部の谷を經て北方志津川町に向ひバスの便あり。

**トクリツザン　獨立山**　阿里山線の一驛(大正七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡竹崎庄竹崎驛管轄にあり。

**トクリョー　得粮**　〔得粮灣〕朝鮮全羅南道南部の灣。高興半島の頸部より南南西方に向ひ開くる大灣にして、その長さ約五〇粁、幅五—一〇粁。古今島・蘇鶴島為以て灣口とす。灣内には得粮島を始め長財・長串・來德・老力等の諸島あり。灣岸は特に東岸と西岸南部とに於て屈曲に富み、西岸に海坪・海倉等の泊港あり。水深は大體に於て東側に深く、西側に淺く、處々泥湯を見、一部は干拓せらる。灣内に蝦の漁獲多く近年海苔の養殖盛に行はる。この灣は文祿の役に被此の水軍の戰場となれり。

【得粮面】朝鮮全羅南道寶城郡の南部。郡邑寶城の東方約五粁。南部はメーサ狀の臺地を成し急崖な以て得粮灣に臨み、北境には方丈山(五三六米)聳えて平地に乏しく、中部に稍低平なる丘陵地帶横はる。北部海岸は遠淺にして干拓事業行はる。住民は農業を主とし、近年養蠶業漸く盛んとなれり。産物は米・裸麥・大麥・大豆・大麻・苧麻・棉等にて海産物には蝦・鮑・牡蠣等あり。鐵道慶全西部線は面の略中央を横斷し得粮驛(昭和五年開業)、禮堂驛(昭和七年開業)あり、順天・寶城間二等道路ほぼ之と並走し、途中より東岸の海坪里へバスを通じ交通紙して便なり。海坪は海岸唯一の港にして、附近に關防あり、鎮所とも云ひ、もと兵器戰船を置きし處。文祿の役に水軍ここに據り我が軍を防ぎし古戰場にして今その址を存す。その西方道村里に創嚴あり。

**トクロ　禿魯江**　朝鮮平安北道の東部を流るる河。鴨綠江一支。妙香山脈の東部、平安南・北道及び成鏡南道の境に近き端魚水山(二〇一九米)の北側面なる江界郡龍林面内に發源し、江界郡内の蓋馬臺地を先行、横谷をつくりつつ北流し、江界邑附近より流路を西に轉じ蛇曲して渭原郡に入り渭原邑の北方江界江口に於て鴨綠江に入る。流程約二四〇粁。うち約百粁は舟楫の便あり。支流の主なるものは上流より銀洞江・厚地江・化東川・千北川・楸城江・乾浦川等あり。流域に平地乏しきも、殊に中流以上は一帶に大森林地帶を成し、近年總督府鐵道湯浦線の工事進捗と共に沿岸寶庫の開發大いに進みたり。楸城江(北川)との交界點に位する江界邑は沿岸唯一の都邑として著はる。

**トクワ　德和**　參宮線の一驛(明治二十六年設置)にして紀勢東線の接續點。三重縣松阪市下村にあり。

**トケ　土氣**　房總東線の一驛(明治二十九年設置)。千葉縣山武郡土氣本郷町にあり。

**トケホンゴー　土氣本郷町**　千葉縣上總國山武郡の西南隅。東は大網町との間に山邊村を隔て、北は千葉郡白井村・豐田村に、西は市原郡市東村と界す。面積二九方粁餘。全町臺地性丘陵地にて最高處は約八〇米を示す。森林多くその間に耕地を挾む。米・繭・麥を産し發酵行はる。縣道と省線房總東線は中央を東西に通じ、後者に土氣驛(明治廿九年設置)あり。土氣の名稱は其の起原詳ならず、「とけ」は高嶺の中略にして山頂最高の地點を、「とうげ」といふに起りしも





のならん。成務天皇の五年この地に縣を立て廳を置き、「猿の縣」と稱せられしが、後世に至り、「とうげ」は土地の名稱となり縣は社(縣神社)の名として殘存す。江戸時代より明治初年に至るまで、九十九里の海産物、其他の物資の取次驛所なりしが房總鐵道の開通以來町勢衰頽せり。〔土氣城〕大字大椎に址あり。いま城山と呼ぶ。中世千葉氏の一族ここに據り、土氣の名始めて著はれ、土氣郡の私稱は或は山邊郡に代れり。文明以後、酒井氏之に居り、千葉・里見の兩家に亟鬩し、天正十八年酒井氏亡ぶ。〔善勝寺〕大字土氣にあり。眞言宗。寶珠山と號す。創建年次不詳。初め如意山法樂寺と稱し眞言宗の梵刹にして末寺二十一箇寺を有せしが、長享中酒井越中守定隆土氣城主たりし時改宗す。天正中德川家康朱印五十石を賜ふ。〔本藩寺〕顯本法華宗。如意山と號す。長享元年の創建、開基は土氣城主酒井越中守定隆、開山は心了院圓頓坊日泰上人。酒井氏代々の廟願所。天正中德川家康三十石の朱印を寄す。

**トコ　土庫庄**　臺灣臺南州虎尾郡の中央南部。虎尾街の西南に接す。管内は概ね平坦にして山と稱すべきものなく、南北に河川を有するを以て灌漑の便良好なれば、産業中、農業は最も盛にして、總戸口の六割五分之に從事す。主たる農産は米(水・陸稻)・甘蔗・甘藷・落花生・豆類・蔬菜・果物等にして、甘蔗を除く總農産額約百二十萬圓に達す。各産は農家に於て副業的に飼育せらるる豚・水牛・黄牛・家畜等にして、水牛・黄牛は專ら農耕勞役に用ひらる。其他、工業・商業・水産業等あるも何れも規模小にして特記すべき事なし。交通は甚だ便にして、縱道は大日本製糖株式會社の社線縱横に管内を走り、道路も甚だ發達せるを以て自動車の運行多く、庄下産業開發に寄與する所甚大なり。土庫はもと豫庫・豫裨とも書き、大坵田堡に屬せり。乾隆二十九年に至り・郭・林二姓の者(福建人)梨首となり招佃開墾を企て、土庫附近を中心とし漸次其開拓を擴げたりと稱す。初めて街肆の建てられしは道光十一年なりと云ふ。豫庫は土にて豫り堅めたる穀倉庫又は土城の義なりと云ひ、豫裨は往時此地方降雨の際當に泥濘深く、爲に人歩めば其裨土に豫れて恰も土裨を穿ちたるが如くなりしより云へりと云ふ。執れを眞とすべきか決し難し。土庫と改字せるは領臺後にあり。我が領臺後大正九年地方制度改正に際し嘉義廳に屬せし大坵田堡より七庄(現大字)、布袋嘴堡に屬せし一庄(現大字)、西螺支廳に屬せし一庄(現大字)の地を割きて一庄を建て土庫庄とす。

**トコ　度盛**　續紀、文武紀の三年に見ゆる南島の古地名。「秋七月多禰、夜久、菴美、度感等人、從朝宰而來、貢方物……其度感島通中國、於是始奏。」とあり。その地いまの鹿兒島縣大隅國大島郡に屬する德之島と推定さる。或は實七島(吐噶喇島)の一島ならんともいふ。

**トコ　鳥籠山**　近江國(滋賀縣)の古地名。書紀、天武天皇の元年、村國男依この山に於て近江朝廷の群臣友足と戰ひこれを斬りし處、萬葉・一一「犬上の鳥籠の山なるいさや川いさとを聞せあが名のらすな」もと犬上郡に屬せしが後に坂田郡に入れる鳥居本村大字原の正法寺山を稱せしものならんといふ。

**ドゴ　土庫**　奈良縣北葛城郡にありし村。昭和二年高田町に入る。

**トコゴ　——社**　臺灣臺東廳臺東郡カナルン溪上流地方の蕃社。高砂族の部落にてパイワン族中のパカロカロ系統に屬す。人口一四六(昭和十二年現在)。

**トコスキ　德宿**　常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡德宿郷あり。訓を開くも登古須岐と訓むべし。いま郡内に德宿村あり郷名を傳ふるものにして、郷域は本村及び巴村の邊ならんか。

**トコタン　床丹**　湧網西線の一驛(昭和十一年設置)。北海道北見國紋別郡下湧別村床丹原野にあり。

**トコナメ　常滑町**　愛知縣尾張國知多郡知多半島の西海岸。半島の東岸半田市の西に隣り、西は伊勢海に臨む。東境には一〇〇米以内の丘陵逶迤して半島の脊梁をなし、西方に緩やかに傾き北部及び海岸低地に續く。北部海岸には砂嘴狀の小突出ありて良港をなし指定港たり。本町は半島西岸第一の町にて古來常滑燒の製作を以て名高し。紅燒・白現・朱現その他各種の美術的土器も作れど、現今にては大部分は土管の製作に從事す。即ち眞燒土管を主とし井戸側・半徑土樋等を作り、本邦土管類の大部分は本町にて產す。農産物には米・麥あり、發酵も行はれ、魚族も少からず。縣道は海岸に沿うて通じ、東海岸の成岩町に至る街道を分ち、社線名古屋鐵道東部本線の鯵點驛常滑(大正二年設置)あり、海上の通運と共に交通便なり。人口は大正九年八五五三人、同十四年九六三三人、昭和五年一〇三五五人、同十年一一四二八人と增加し、同十年の一方粁密度は一四五〇人にて稀めて稠密なり。此地は和名抄、智多郡賀代郷の地なるべし。永正四年の宗長が宇津山記に「伊勢國多氣より大湊に出で、尾張國智多郡常滑といふ津に渡る」とあり。明治二十三年町制を布く。

**トコノオ　床尾山**　兵庫縣城崎郡豐岡町の南東方約一六粁に峙つ山。出石郡室埴村・合橋村と發父郡糸井村との境上に位す。標高八三九米。花崗岩より成り山巒峻狹なり。

**トコブルイビリ　——社**　臺灣臺東廳臺東郡カナルン溪上流左岸の蕃社。高砂族部落にてパイワン族パカロカロ系統に屬す。人口三五(昭和十一年末現在)。

**トコボル　——社**　臺灣臺東廳臺東郡大竹高溪右岸の蕃社。高砂族の部落にて

メイタン湖中のバカロカロ系統に屬す。

人口一〇〇。

**ロニニ　谷地**　陸奥國（現在・福島縣）の古地名。和名抄に白河郡谷地郷あり。

いま東中野村の大字に谷地郷あり。

ら谷地中野村、これ郡名を冠ふるものなり。谷地郷は白河郡の外郭にあり、北は郡山・高倉・山岡の諸村に接する地名なれども、しも高倉村に屬す。

**ロニ四　谷田**

【谷田郡】　北海道新冠郡の東北部。北は[illegible]郡の東北部に接し、南は[illegible]郡の西に接す。西部約三八六方粁。東西兩邊は東西各約一〇〇〇米に達せず。谷田川下流村の中部を東北流し、海に注ぐ。谷田川下流村の左岸をマロ湖と共に北は神威岬と相向ひ、右岸は[illegible]湖と共に北は[illegible]湖と相向ひ、[illegible]湖の北岸を

【土佐電氣】 私設軌道。高知縣高知市内の播磨屋橋を中心とし東方の長岡郡後免町に至る後免線(一〇・九粁)、西方の吾川郡伊野町に至る伊野線(一一・三粁)となる省線土讃線の高知驛前より棧橋に至る驛前線(三・三粁)より成る。

【土佐穴内】 土讃線の一驛(昭和九年設置)。高知縣長岡郡大杉村にあり。

【土佐一宮】 土讃線の一驛(大正十四年設置)。高知縣土佐郡一宮村にあり。

【土佐岩原】 土讃線の一驛(昭和十年設置)。高知縣長岡郡東豐永村にあり。

【土佐大津】 土讃線の一驛(大正十四年設置)。高知縣長岡郡大津村にあり。

【土佐加茂】 土讃線の一驛(大正十三年設置)。高知縣高岡郡加茂村にあり。

【土佐山田】 土讃線の一驛(大正十四年設置)。高知縣香美郡山田町にあり。

**トサカ 鳥坂** 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に大縣郡鳥坂郷あり、その地明らかならず。河内志は曰ふ、普光寺一名鳥坂寺といひ、また井上寺ともいふ。此寺高井田村にありと。高井田はいま中河内郡堅下村の大字なり、從つて寺域は凡そ堅下村の邊か。

**トサカ 鶏冠**

【鶏冠山】 關東山脈秩父山塊の一峯。甲武信ヶ岳(約二四七五米)の南方支脈に隆起し、山梨縣東山梨郡三富村に屬す。標高二一一二米。山容壮大なる岩峯。南東斜面より笛吹川の水源鶏冠谷の美水發源して南流す。南西方に國師ヶ岳・奥千丈岳・金峰山聳立す。

【鶏冠山】 滋賀縣栗太郡金勝村と上田村との境上に位する山。標高四九一米。南方は金勝山に連る。北方琵琶湖の眺め良し。

**トサキ 戸崎村** 熊本縣鹿兒島郡の略中央部。北は隈府町、南は洞水村、西は花房村に隣る。阿蘇山外輪山の西北斜面の末に續き、東南部は緩傾斜地なるも西北部は菊池川流域平野の東部にて、土地平坦にして田畑よく拓け米・麥を産し養蠶行はれて繭を出す。隈府町と東南方大津町とを結ぶ縣道西部を走りてバスを通じ交通不便ならず。古くは和名抄、菊池郡夜間郷の内なるべし。大字赤星は赤星氏の居りしところとす。其祖は文永蒙古の役に軍功ありし有隆(赤星三郎)なりと傳ふ。

**トザキ 戸崎** ↓小樽村(千葉縣)

**トザマ 外様村** 長野縣信濃國下水内郡の中部。南は飯山町との間に常盤村を挾む。西積一二方粁餘。西北半部は信越國境山脈の東斜面の山地、東隣常盤村との間には低き長峯山丘陵横はりその中間は平坦なる神積地にして田地拓く。米作・養蠶行はれ、山地よりは薪炭の産あり。飯山町へ道路通じ、バスの便あり。村内に尾崎城址あり、泉小次郎親衡の遺裔、この城に居たりといふ。

**トサヤマ 土佐山村** 高知縣土佐國土佐郡の東南部。高知市と東隣布師田村との北に接する山村にして面積約五〇方粁。四周山嶽を以て圍繞され、北境に工石山(一一七七米)、東境に高尻木山(八九八米)・細藪山(五三一米)あり。高知市を貫く鏡川の上流東境に發し、南北山地よりの水を併せて中部を西流し西隣鏡村に出づ。河谷に聚落あり農・林産あるもその額多からず。人口また二千二百餘人にして一方粁の密度は僅に三十九に過ぎず、交通もなほ不便なり。村内古味の石灰岩壁に枇杷自生す。枇杷の自生地は縣外に於ては諸處に見らるるも、本縣にては極めて稀にしてこの古味の石灰岩壁にあるを唯一のものとす。

**トザワ 戸澤**

【戸澤村】 山形縣羽前國北村山郡の西部。最上川中流の西岸に沿ひ、川を挾みて東は稲岡町と西郷村を隔て、南は大久保村を挾みて東村山郡谷地町なり。出羽丘陵南部東縁の山地にして西境は海拔約一二〇〇米を示すも東半部は最上川岸の平地にして流れ平坦、田地よく拓け米・繭を産し、畜産少からず。東方省線奥羽本線の稲岡驛へは約六粁あり、交通は不便ならず。

【戸澤村】 山形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西方約一二粁。西北の一部は他海郡田澤村に隣接す。面積約五三方粁。出羽丘陵の東面に當り、西境にはその山脚連りて三ツ森山(六〇九米)・黒森山(四三六米)あり、東南に傾斜し、潟澤川は西北部に出でて東南流し、東部を蛇行南下する最上川の支流鮭川に合す。東南部の大字津谷附近には最上川の河成段丘發達し、一〇〇米・五〇米・三〇米・二〇米・一〇米の凡そ五段をなす。鮭川の流域には水田よく拓け、物産に米・繭・馬あり。津谷には省線陸羽西線津谷驛(大正三年設置)あり。津谷の山野に前史時代の石器・土器を出す。

【戸澤村】 福島縣岩代國安達郡の東部。二本松町の東方約一二粁、川俣町(伊達郡)の南方約一〇粁。面積約二四方粁。阿武隈山地の一部にて東南境に鷲山(八九七米)、北境に白猪ノ森(七一四米)あるも傾斜は緩く、四〇〇—五〇〇米の高度を有する高原狀の地廣し。日太川中部を西流し西北部より來る幅狹き谷の水を合し西隣太田村に出づ。これらの谷に低地あり、牧馬も營まる。縣道西部を南北に通ずるも交通なほ便ならず。村内に戸澤館址あり、肥後菊池氏の族、武則・頼業なる者斯波持詮の軍勢に從ひ、此地に來り住せり。

**トサン 土讃線** 省線。四國の中央部を南北に横斷して太平洋岸の土佐と瀬戸内の讃岐とを連絡す。香川縣仲多度郡多度津町の省線琴讃本線多度津驛より徳島縣三好郡池田町を經由高知縣に入り高





知市を經て高岡郡須崎町の須崎驛に至る一六九・七粁。此線は須崎より高松棧橋まで直通列車を通じここの間約六時間、高松棧橋より高知まで約四・五時間。琴平驛(香川縣仲多度郡榎井村)にて社線琴平急行電鐵に、池田町の阿波池田驛にて省線徳島本線に、後免驛(高知縣長岡郡長岡村)にて社線高知鐵道にそれぞれ接續す。なほ此線は讃岐・四國山脈を穿ちて通ずるを以てトンネル多く、殊に猪鼻トンネルは長さ三八四五米にて我國第五位なり。

**トシ 土旨面** 朝鮮全羅南道求禮郡の東端。郡邑求禮の東方約五粁。小白山脈に屬する智異山の西南斜面に位置し、北に般若峰(一七五一米)・老姑堤(一五〇七米)、東部の慶尙南道との境には黃尊山(九四二米)聳え、中央には玉甑峰(一二一四米)屹立し、域内殆ど高峻なる山地を以て被はれ、ただ南境に蟾津江あり流沿岸僅に平地を見る。北部山地は南鮮地方稀に見る原生森林帶にして東京帝國大學演習林たり。南部は農業を主とし、産物に大麥・菁麥・粟・棉花・木製器具・綿布・紙等あり。道路は西方求禮より來る三等道路南部を東に通じて河東に連する他は未改修道路にして交通便ならず。

**トシ 登志** 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に、志摩郡登志郷あり、皮志と註す。其地審かならざるも糸島郡の今津・元岡・北崎の諸村に亘る地ならんか。

**トジ 都峙面** 朝鮮黃海道黃州郡の東南部。黃州面の東南に隣接す。南部に保命山(五八四米)・可馬峰(四八一米)等突兀たる山骨を露はして郡境を割し僅勞南半部を屈して殆ど低地なく、西北部は黃州江の洪涵地を成し土地低平、地味肥沃にして烟作農業の最も卓越せる地域なり。住民は農を主とし、大豆の産額及び品質は郡中第一位にあり。其他米・粟・麥・棉等を産す。道路は黃州・慈安間の三等道路北部を横斷しバスを通じ、交通不便ならず。

**トシネ 年爾村** 熊本縣肥後國下益城郡の南部。北は上益城郡甲佐町、南は八代郡植迫村・栗木村と界す。面積三一方粁餘。南境には九州山脈支脈の白山嶽(一〇七三米)・櫻現山(七四二米)等東西に連り、その山脚北に傾きて殆ど山地をなす。西南境に發し山地を北流するその支谷とに小低地ありて耕地を見る。米麥を出し、山地は木材・薪炭を供給す。社線熊延鐵道北部低地を東西に通じて佐俣驛(昭和七年開業)あり、縣道また之に並行し、西方省線鹿兒島本線松橋驛との間に省營自動車、東方は礫川町を經て濱町(上益城郡白糸村)へもバスの便あり。村名はもと祠名より出づと。藩政の頃は中山手永の屬邑とす。大字椿にに鍾乳洞あり。椿川鍾乳洞といひ長さ約一〇九米、支洞多く洞上に不動尊を祀る小祠あり。

**トシベツ 利別**

【利別川】 北海道の十勝川の最大支流。十勝・北見の國境山地に發源して西に流れ、漆別・見富・ピリベタ・居辺等の支流を合せ、池田町の西部に於て本流に注ぐ。流程約一六二粁、流域面積約二七二〇方粁。その大部分は緩傾斜の丘陵地なるため、農耕適地約二〇%、牧場適地三〇%の多きに及ぶ。

【利別】 根室本線の一驛(明治三十七年設置)。北海道十勝國中川郡池田町にあり。

【利別川】 北海道後志支廳瀬棚郡にある川。渡島半島の地峡部なる長萬部岳とカニカン岳との間に發源して南流し、上ハマカイマップ附近より西流し、メップ・オチャラッペ等の支流を合せ、瀬棚町の南端にて日本海に注ぐ。延長一〇五粁。

【利別村】 北海道後志國瀬棚郡の東部。檜山支脈の皆下、利別川上・中流に沿ふ。西は東瀬棚村に接し、北は島牧郡に、東及び東南は膽振國山越郡に、西南は太櫓郡に各接す。面積五七一方粁餘、郡の六七%餘に當る。北部には長萬部岳・カニカン岳・メップ岳等の千米内外の高峰あり、東境より東南境には三〇〇—五〇〇米程度の分水界あり、利別川東北境にある長萬部岳の西に出でて西南流し、中部に至りて西に折れ曲流蛇行しつつ南北兩山地より下る數多の支流を併せ東瀬棚村に出づ。流域には低地廣く、中部以西は開墾も進み、米・大豆・馬鈴薯等を産す。また日津府・美利河の二領山あり共に二酸化鐵俺・金屬鐵俺を出す。省線瀬棚線と道路は利別川に沿ひて西に走り、省線には美利河・花石・種川・今金の諸驛(前二者は昭和四年、後二者は同五年設置)を置く。

**トシマ 利島**

【利島村】 埼玉縣武藏國北埼玉郡の東北部。東隣川邊村と共に南は利根川に、北と東に渡良瀬川によりて隔られ、茨城・栃木・群馬三縣との交界に當り、西は群馬縣邑樂郡大館野村、北は同海老瀬村と對す。面積九・四四方粁。全村平坦にして東部には水田、その他は殆ど畑地なす。米・麥・繭を産す。縣道北部を横ぎり、東は茨城縣古河町、西は群馬縣館林町方面に通じバスの便あり。また社線東武鐵道日光線通じ北部に柳生驛(昭和四年開業)を置く。本村はもと麥倉村と稱せしが明治二十六年利島村と改稱す。

【利島村】 東京府大島支廳管下の一村。伊豆七島中の最小島利島の地にして大島の西南南約二〇粁に浮び、南は新島の北端と相距る八粁餘、その間に鵜渡根の小島を挾む。火山島にして略圓形をなし周圍約八粁、面積四・一三方粁。火山の絶頂宮塚山は標高五〇八米を示し四方に傾斜して沿海は海崖壁立、岩礁所々にありて泊舟の便なし。唯一の聚落は北岸に近き斜面にあり、伐替畑の耕作行はれ、また

【鳥海村】 →鳥海村（秋田小豆島）

**トシヤ　戸島**

【戸島】 鳥海郡戸島村にありし村。明治四年廃村・其日村と共に新設し、同郡村名を付す。同郡村は明治十二年同郡を分つ。

【戸島村】 愛宕郡小泉郡北手郡西方港湾上に接す。戸島湾の東部を北方に出でる小島を全じ。東に接し、西南は鈴の浦港に接する新屋村と新屋・西南は鈴の浦港上に日蓮島を要し、西南は鈴の浦港上に日蓮島を要し、西南は鈴の浦港上に日蓮島を要し、

延喜年中菅原道眞、太宰府に左遷の際、幼子長藤麿の養育を祝族菅原時任に囑せり。時に菅原時平の惡視頗る嚴重なりしかば、跡を此地に晦ましも以て身を全うせしむ。その子孫篤野氏の傳聞となり、累代繼承す。文明二年禪心、惠知に歸して一宇を創す、これ本寺の濫觴たり。

【戸栖】 ↓西合志村（熊本縣菊池郡）

**トヅカ　戸塚**

【戸塚山】 大分市の南東方約一六粁、大分縣北海部郡川添・小佐井の二村境上に立ち、標高二九五米。九六位選山北東部の一峰にて、東方に直に姥岳（三八三米）に連る。この山の附近一帯に要塞地帶たり。

【戸塚】 ↓戸塚

**トセー　斗西面**　朝鮮慶尙南道蔚山郡の北部。慶州邑の南方約二五粁。西境に高嶺山（一〇三三米）發え東方に向つて漸次低下す。東部は大和江南流し、沿岸僅に平地横はる。產物は大豆を第一とし、其他大麥・粟・稗・黍等の雜穀類、薪炭・蠶等あり。道路は北慶州・釜山間の三等道路、面の東部を縱貫しバスの便あり。東部は交通便なり。聚落は前記の路線に沿ひて多く分布し、面邑仁甫里に陸曆二・七の日に開く市場あり。

**トセー　渡正山**　朝鮮咸鏡北道のほぼ中央、朝鮮アルプス中の一峰。茂山郡延社面と鏡城郡朱乙溫面とに跨り、標高二二〇一米。南南西一三粁なる流峰の主峰冠帽山に至る山稜を以て、豆滿江の一支流面水と、日本海に注ぐ朱乙溫川との分水嶺を構成す。

**トセジマ　登世島村**　福島縣岩代國河沼郡の北部。野澤町の東北部に隣り、北は阿賀川を隔てて耶麻郡の西南部に接す。阿賀川南岸に沿ひて東西に長く延び、面積七方粁餘。東南部と西南部は低き山地なれども、中部は平坦にして野澤盆地の一部をなす。阿賀川に沿ひ河岸段丘の發達著しきを見る。物產に米・繭あり。野澤町の省線磐越西線野澤驛に近く、中部は交通不便ならず。いま尾野本村・睦合村・下谷村と共に組合町村をなし、役場を尾野本に置く。

**ドセド　土瀨戸峠**　ツセドトーゲとも讀む。鹿兒島縣日置郡山村より薩摩郡入來村に至る縣道入來越に當る峠。西方に八重山（六七七米）、南東方に花尾山（五四〇米）聳き、北東方に瀨戸平山（五四六米）峠つ。峠の南斜面に郡山村土瀨戸部落あり。

**トセン　都泉面**　朝鮮慶尙南道昌寧郡の南部。郡邑昌寧の南一三粁。北境に宗岩山（五四五米）の山脈西方に延び、他の支脈は三〇〇米前後の高度を以て東境を走るも、西及び南部は洛東江流域の平地にして、田畑連る。都泉水利組合ありて灌漑水利の便よく米・麥・豆類・棉・繭等の農產に富む。昌寧・統營間二等道路南北に貫きバスを通じ釜山・南昌の兩邑に出づるに便なり。

**トソー　都草**

【都草面】 朝鮮咸鏡南道文川郡の東北部。元山府の西北方約二〇粁。東西に狹長なる地域を占め、西半部は山丘重巒し、漸次東方に向ひて低夷す。東部にも丘陵起伏し天佛山・黃石山等あり。西部を箭灘江（龍興江支流）西南—東北に流れ、東南部の水に集りて南川江となり、流域に沃野拓け、水田多し。住民は農を主とし、米を第一とし大麥・大豆等の產あり、北部には石炭の產多く、工產にセメントあり。鐵道咸鏡本線面の中央を南北に縱貫し、龍潭驛（昭和二年設置）あり、同驛より西方に川內里線を岐ち川內里驛（昭和二年設置）に達す。また國道咸興街道通す。聚落は西半部に殆どなく東半部に集り、殊に東南部に其密度最も大なり。川內里には小野田セメント工場あり、昭和三年製造着手、昭和十年の產額四二二萬圓。附近に良質石炭と無煙炭を有し、京元線・咸鏡線沿線は勿論、北鮮・北滿地方を商圈とす。昭和十年末人口四二二六（うち內地人六〇七）。市況極めて活潑なり、東部の陵前里に淑陵あり、李成桂の曾祖父なる翼祖の紀、貞淑王后崔氏の陵にて域內面積約八〇ヘクタール、老松茂り森嚴の氣滿つ。その西約四粁に東破嶺の史蹟あり。龍潭驛の東一粁に龍潭藥水あり炭酸を多量に含有する藥水湧出す。また同驛に近く漢拔城址あり。

【都草面】 朝鮮全羅南道務安郡の西部。雙子群島中の都草島を以て一面を構成し面積四四・九平方粁あり。東は八口浦を隔てて長山島・聲佐島と相對す。全島花崗岩性丘陵地なる成し東岸及び北岸は急傾斜をなし海崖よく發達すれども西南は耕地拓け綿花を初め米・裸麥・大麥・大豆・粟・甘藷等の栽培行はれ、製鹽業また盛なり。近海は石首魚・鮟等の好漁場を成す。陸地方面とは連絡不便にして島內交通また便ならず。

**ドゾー　土藏岳**　岐阜縣揖斐郡坂內村と滋賀縣伊香郡杉野村の境上に位する山。標高一〇〇二米。山體斑岩より成る。北西麓に三國ヶ岳、南麓に八草峠最高點・金糞ヶ岳續く。南西斜面より高時川發して南西流し、東斜面より揖斐川支流廣瀨川發して東流す。

**トツ　兜率山**　朝鮮忠淸北道丹陽郡と慶尙北道榮州郡との境に聳ゆる山。小白山脈中の一峰にして、標高一三一四米。この北麓に有名なる竹嶺あり。

**トソン　斗村面**　朝鮮江原道洪川郡の北東部。郡邑洪川の北東約二〇粁。等邊三角形を成し、東北境には最高一〇七六米を主峰として高峰連り、東南境も赤白羽山（八九五米）を初め山嶺連り、西境には加里山（一〇五一米）の連陵ありて化村面及び春川郡と相劃す。而して中央を北淺江の支流洪川江貫流し沿岸に小平地の點在を見る。產物には大麥・大豆・稗





花・蜂蜜・薪炭等あり。道路は洪川邑より麟蹄に至る三等道路中央を南北に縱貫しバスを通じ、沿線に集落の大部分發達せるを見る。面邑自隱里の南方驛內里には定期に開く市場あり。

**トタ　戸太**　神奈川縣久良岐郡にありし村。明治三十四年横濱市に編入さる。

**トダ　戸田**

【戸田村】 岩手縣陸中國九戸郡の西部。八戸市にて海に注ぐ新井田川の支流、瀨月內川上流の地。南は葛巻村、北は伊保內村に隣り、西は二戸郡田部・姉帶の二村と界す。面積五一方粁餘あるも北上山地の北部に位し、東西兩境には五—七百米の山嶺南北に連りて高原狀の山地をなし、獄志森（七七〇米）を最高點とす。瀨月內川は東西兩山地より水を合せて中央部を南北に貫き、これに沿ひて幅狹き低地あり耕地拓く。大豆・稗・麥・米等を產し、木炭の產また少からず。道路また中央部を南北に通ずるも交通未だ便ならず。

【戸田村】 埼玉縣武藏國北足立郡の南部。川口市の西隣、蕨町に南接し、南は荒川を隔てて東京市板橋區東北部と相對す。面積八・八方粁餘。全村平野にて田地多く米を主產し他に麥・繭・綿織物等を產す。中山道は東部を北走してバスを通じ川口市の省線東北本線川口驛、蕨町の同藏驛にも近く交通便利なり。村內に統井が屋敷跡あり。統井播磨守の居住せし那址なり。（妙顯寺）日蓮宗。文久八年領主隣田某、日蓮に歸依して創寺し、高祖を開山とし自ら第二世となる。本尊に日蓮上人等身の像を安置す。また釋迦堂安置の子育佛は靈驗ありとて賽者常に絶えず。

【戸田村】 千葉縣上總國市原郡の中部。東南は牛久町に隣り、西は君津郡平岡村と界す。南北に長く、面積一〇方粁餘。西半部は朋鉢丘陵の一部にて林野をなすも、東半部は東北部を北流する養老川の流域にて土地低平、耕地よく拓く。米・麥を產し養蠶・養鷄も行はる。北方八幡町より南方大多喜町への縣道は東北部の平地を通じ、社線小湊鐵道また之に沿ひて馬立驛（大正十四年開業）を置き交通不便ならず。（日光寺）大字風戸にあり。新義眞言宗智山派。風戸山と號し、天平年中光明皇后の御創建なりと傳へ、國內三十三所第二十六番札所たり。

【戸田】 愛知縣尙部郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し富田村を置く。

【戸田】 廣島縣豊品郡にありし村。明治二十八年本村の大字戸手村を分割して戸手村を置き、大字近田村を分割し近田村を置く。

**トダ　戸多村**　茨城縣常陸國那珂郡の中部西偏。那珂川の東岸に沿ふ。水戸市の北西約一〇粁。西は川を隔てて東茨城郡石塚町と相對す。東半は阿武隈山地南端部の低き丘陵、西半は那珂川洪積原の平地にて田畑よく拓け米・麥を產し、また牛蒡の產多し。縣道は中部を東西に貫きて茨木街道に連り、對岸石塚町の社線茨城鐵道線那賀西驛に近く交通不便ならず。古く或は和名抄、那珂郡大井郷に屬せしものか。大字に戸村あり。佐竹義人の裔この地に居して戸村氏を稱す。大字下江戸に城址あり、江戸但馬守の居城といふ。正宗寺所藏江戸系圖に那珂彥五郎道政、貞和六年八月、石見國三角入道を討ちし功によりて、那珂東郡江戸郷を賜はり、是より江戸氏を稱すと。（龍昌院）曹洞宗。瑠璃山と號す。文明十六年創建。開基は戸村城主戸村攝津守義虞、開山を無學宗藝和尙とす。

**トタ　土田村**　岐阜縣美濃國可兒郡の西部。木曾川の南岸に位し、東は今渡町に、西は愛知縣丹羽郡との間に雛子村を隔て、北は川を境として加茂郡太田町に對す。面積六方粁餘。木曾・飛驒二川の合流による氾濫原の一部にて土地低れ平坦、田畑よく拓く。西の一部は山地河岸に迫り、所謂日本ラインの東端をなす。物產に米・繭あり、西瓜の產地として著はれ、また附近諸村と共に、製糸・機織も盛なり。社線名古屋鐵道廣見線村內を横ざりてライン遊園驛（大正十四年開業）を設け、省線太多線と高山本線の交叉點をなせる美濃太田驛は對岸の太田町にあり。この地は和名抄、可兒郡日理郷の內にして、いま加茂郡坂祝村・羽栗郡鵜沼村・愛知縣丹羽郡犬山町・同城東村と共に謂はゆる指定名勝としての木曾川地帶なり。

**トダコハマ　戸田小濱**　山陰本線の一驛（大正十四年設置）。鳥根縣美濃郡小野村にあり。

**トタッペ　戸蔦別岳**　トツメベツとも云ふ。日高山脈北部の雄峰。北海道十勝支廳河西郡芽室村・大正村と日高支廳沙流郡右左府村との境上に峙つ。標高一九一七米。古生層より成る。北麓は美生岳・芽室岳に連り、南麓は幌尻岳（二〇五二米）に續く。西斜面より沙流川となる千呂露川發して北西流し、東北斜面より美生川、南斜面より戸蔦別川發し、東流して十勝川に注ぐ。戸蔦別川渓谷は美しく、上流は瀧の連續なり。山の上部はソウジカンバ・偃松生育し、頂上部には高山植物繁茂して御花畑をなし、殊にハクサンイチゲ・ミヤマリンダウは美し。山頂は尖峰をなし、南斜面戸蔦別川に向ふ標式的カール狀の谷には殘雪多く、南方幌尻岳との中間には多くの沼地あり。山頂よりは南方に日高山脈の山々一望に牧り、北西方夕張山脈の展望も佳く、東北方には十勝平野を俯瞰す。この山附近は熊の棲息地にして、時折巨大なる熊の姿を見掛く。登路は未だ整はず、登降には困難と危險とを伴ふ。山小屋の設けなければ天幕を要す。三・四月頃スキー登

山をなすが最も良く、夏山は庫の蔵物多く、冬山より国産なり。故年に於ける初雪春は大正十四年夏季に成功す。冬山には十勝岳より西南西に延び、昭和四年冬季に成功す。冬山は

| 産額 | 工業物 |
|---|---|
| 一、二二六、〇〇〇圓 | 下駄表製造 |
| 三二、〇〇〇圓 | 下駄歯入 |
| 六〇、〇〇〇圓 | 下駄製造 |
| 一、〇〇〇、〇〇〇圓 | 家具(指物)製造 |

現和物場は安政年間に始まり、明治三十年頃に盛況を呈し、大正末期に至り衰微したが、現在は下駄表・歯入・家具の三種を主産とし、年産額は約一百万圓に達する。

【下駄表製造】 下駄表は桐・桑・桜・柳・桐・桑・桜・柳・桐・桑・桜・柳・

**トチハラ　栃原**　三重縣多氣郡川添村の大字。省線紀勢東線の栃原驛（大正十二年設置）を置く。

**トチュー　途中越**　栃生越　↓伊香立村（滋賀縣）

**トツ　十津川**　↓十津川（奈良縣）

**トツカ　十津村**　靜岡縣遠江國磐田郡の西南部。天龍川下流左岸に沿ふ。中泉町の西南約四粁にて、掛塚町の東北に接す。天龍川の沖積原なれば土地一般に平坦にして田畑に富み、米・麥・野菜等の農產物多し。其他、牧畜・工業等も多少行はる。掛塚・中泉兩町を結ぶ道路、村の南部を横切りバスを通ず。

**トツカ　戸塚**

【戸塚町】　埼玉縣武藏國北足立郡の東南部。鳩ヶ谷町の東北にてこれと神根村を隔て、東北は綾瀬川を境として南埼玉郡出羽村と相對す。面積僅に五・五方粁餘の小村。全村平坦低濕にて水田多く、一部に畑地ありて米・麥を產す。岩槻街道は西北郡を掠め鳩ヶ谷・川口市にバスの便あり。また西隣大門村に駐線武州鐵道の武州大門驛ありて交通便なり。この地は天正年中、成田氏の旗下、小宮山彈正介忠孝といふ者の居りし所なりと。村內本行寺の大やまもみぢ（一株）は目通幹圍約三・六米、高さ約一二米、太枝擴がり樹形優美にして、指定天然記念物たり。

【戸塚】　東京市淀橋區の町名。大東京市實現以前に牛込區に隣る豐多摩郡に屬せし町なりき。舊神田上水の河岸低地と臺地とを占め、河岸低地には各種の小工場多く、臺地上は多く住宅地をなす。東端に早稻田大學あり、これがため一帶に下宿屋頗る多し。西南端は戸山原の練兵場の一部をなす。ほぼ中央に高田馬場仇討にて有名なる堀部安兵衛の遺跡あり。山手線の高田馬場驛（明治四十三年設置）あり て駐線西武鐵道の連絡點をなし、また改修道路も通ず。

【戸塚町】　神奈川相模國鎌倉郡の中部。東北は横濱市保土谷區との間に川上村を隔て南は大船町との間に豐田村を挾む。面積六方粁に近く、西半部は低き丘陵にて山林をなし、東半部は南流する柏尾川流域にて幅狹き低地あり田畑拓け麥・甘藷・米・野菜等を產す。古く東海道の宿驛にして街村式に發達し、横濱・藤澤・大船・長後（高座郡六會村）等へバスの運轉行はれ、特に藤澤へは觀光道路國道に並走し途上の風致佳なり。また省線東海道本線の戸塚驛（明治二十年設置）ありて交通便なり。柏尾川堤は櫻樹多く、横濱市近郊に於ける花の名所の一なり。戸塚はもと宮塚・土塚にも作り、吉田庄の內たり。舊郡役所のありし所にして、いま警察署・氣象觀測所等あり。明治天皇、明治元年京都還幸の際、同年東京行幸の際、同二年東京再行幸の際、同十一年北陸・東海御巡幸の際、及び同十四年相模國妻田村行幸の際等に此地に御小休あらせられたり。（八幡神社）大字戸塚に鎭座。郷社。祭神譽田別命。康平五年、源頼義の勸請と傳ふれども明かならず。のち鎌倉權五郎景政の臣、戸塚友晴再興すといふ。例祭、九月一日。

**トツカワ　十津川**

【十津川村】　奈良縣大和國吉野郡の西南部。縣下第一の大村にして東西南北各約三〇粁內外、面積實に六七三方粁餘。熊野川の上流十津川流域の大部分を占め、北は大塔村・野迫川村に接し、西は和歌山縣日高郡、南は同縣西牟婁郡・東牟婁郡、東南は三重縣南牟婁郡と界す。東境には大峯山脈逶迤して七面山・佛生嶽・釋迦ヶ嶽・大日嶽・天狗山・地藏嶽・行仙嶽・笠捨山・蛇崩山等の一〇〇〇—一五〇〇米の高峰連立し、西境にも護摩ノ壇山・崖又山・牛廻山等の一二〇〇米豪の峻峰聳峙し、南境には果無山脈東西に橫亙。東西兩境の山嶽より各數條の山脈村內に延びて高度一千米以上の山峰を綴き、到る處に森林をなす。北方天川村より來る十津川は中部を蛇曲南流し、東境より來る旭川・濃川・芦廼瀬川、西境より下る神納川・西川等の支流を合せ、南境果無山脈を切りて東牟婁郡に出づ。山岳重疊、森林繁茂し、人跡稀なる地も少からず、一方粁の人口密度は僅に一八人に過ぎず。河川に沿ふ斜面詩地に僅に雲褸行はれ米・麥其他の食用農產あり。山地は讃に ゆる吉野杉其他の良材及び鹿炭の產地として著はる。道路は十津川本流に沿ひて中央を南北に貫き、中央部の風屋よりは北方宇智郡五條町にバスを通ずる外は交通なほ便ならず。此地は舊十津川郷（大體今の天川・大塔・野迫川・十津川の四村）の大部を占め、讃はゆる十津川郷士の居りし處、古くは遠津川にも作りしは、文治年間源義經が兄頼朝と不和となりて遠津川（十津川）に隱るゝに見ゆるによりて知らる。降つて元弘年間、護良親王、義兵を吉野に擧げ給ひし時、賊のために破られ、此地に入りて復興を謀り給ふ。此時宮を拒み奉りたる玉置庄司の居りし處は大字玉置川の邊か。文久年間、天誅組の此地に據りしも、十津川郷士の勇を鎭みしものなり。明治二十二年八月十九日此地を襲ひたる大暴風雨は、村內數箇所に山崩れを起し十津川を堰止め、次いでこれが決潰に因る空前の大洪水を齎し、一村を殆ど全滅の憂に投ぜり。此災害たるや餘りにも甚大にして、これが復興の目途殆ど立ち難きを以て誤を轉ひて此地を去り遠く北海道に移住する者續出し、其地に新しき村を作れり。いま石狩平野の一隅、省線滝川驛西方の新十津川村は即ち是なり。新十津川村は十津川村の人口約一萬二千なるに對し、現在には一萬五千を超ゆるに至れり。

（玉置神社）大字玉置川に鎭座。郷社。祭神、國常立命・天照皇大神・伊弉諾命・伊弉冉命・神日本磐余彥命・忠神天皇御



宇の鎭座と云ふ。昔に熊野の鳥院また玉置權現と云へり。古來十津川郷中の總鎭守たり。例祭、九月廿四日。

【十津川】　奈良縣吉野郡の川。熊野川の上流をいひ、水源地は紀伊山脈中の山上ヶ嶽の南麓なり。初は天ノ川と稱して西流し、後南に折れて十津川と號し、東西に連る紀伊山脈を南北に橫斷して蛇行し所々に急流をなす。和歌山縣東牟婁郡に入りて熊野川となり、本宮村附近に於て骨無川を入れ、諸川村に於て四村川と合し、九重村宮井に於て北山川を併せ新宮市に於て海に朝す。支流頗る多く川原瀨川・神納川・慶廼瀨川等著はる。流域一帶密林をなし、之を伐採して筏に組み、激流を下して熊野川口の鵜殿に出す。所謂熊野材是なり。舊谷は園郷正義の爲に盡せし有名なる十津川郷士の郷土にて、同一縣內にありながら奈良盆地とは全然別箇の地域を形成し、近畿としては最も交通に惠まれざる地方なり。流約程九〇粁、湯ノ原附近より下流は舟楫を通ず。

**トツカワハナゾノ　十津川花園**

【十津川花園村】　奈良縣吉野郡にありし村。明治二十三年本村外五箇村を合併し十津川村を設く。

**トツコク　徳谷**

【徳谷面】　朝鮮慶尙北道高靈郡の西北隅。高靈面に北隣す。南境に茂崇山（七三四米）及び西方伽郷山（一四三〇米）の餘勢城內に及びて西南一帶に山地帶を成せども、東北部には大伽耶川の支谷徳谷川ありて谷に沿ひ僅に低地を見る。住民の多くは農業に從事し、傍ら製茶をなす者少からず。產物は米・小麥・大小豆・煙草・麻・苧麻等あり、また柿を產す。東境を星州街道通じバスの便あるも、交通運輸未だ不便なり。

【徳谷面】　朝鮮慶尙南道陜川郡の東北端。北は慶尙北道高靈郡に接す。洛東江と支流會川との合流點を占め、北境に星鶴山（四八九米）の聳ゆる外著しきものなく、一般に花崗岩の削蝕による老年期の丘陵性地帶を成し、兩河の沿岸及び落合に僅に低地を見るに過ぎず。住民は農を主とし、婦女は機織に從事する者多し。產物は米・大麥・粟・大豆等にしてまた紙・麻布等あり。鄙遠にあるを以て道路の改修充分ならず、交通澁して不便なり。洛東江に臨みて栗旨里の泊津あり、市場ありて取引活況を呈す。

**トッサカ　鳥坂村**　新潟縣越後國中頸城郡の西南部。荒川の上流關川の左岸に沿ひ、新井町に南接す。面積約八・三方粁。西南隅に高所山（五二八米）あり、その嶺北方に延びて中央部に城山（三四八米）を起し山地多きも東境を關川、西北部を片貝川いづれも北流し、中央の山地を抱し、兩河岸の狹き平地には田畑拓け米を主產す。信州飯山町より新井町に至る縣道東部を南北に走り北隣新井町・南隣原通村間のバスの便あり。大字新川原に鳥坂城址あり。城長茂の居城資盛の落城とす。建仁元年源頼家が佐々木盛綱をして攻めしめし時、資盛の妹板額が武勇を顯はせし所といふ。

**トッサン　突山**

【突山面】　朝鮮全羅南道麗水郡の南部。郡邑麗水とは一衣帶水の間にありて突山島を始め大鯨島・小鯨島・松島其他無數の屬島より成るも前記諸島の外は何れも無人島なり。突山島は主島にして南北の長さ約一六粁、西方の古突山半島との間に駕莫洋を抱く。域內山脈ちにて北の大美山、東南の金鰲山（三二三米）は航海上の好標識をなす。海岸は北部に於て特に出入に富むも殆ど岩石海岸にして僅に西南及び西岸に低地を見る。管邑突山は島の西南端に位置し前面に松島を控へて南風を避け港內水深くして良泊をなし、陸路は此地を起點として三等道路を麗水に通ず。此處に陰曆二・七の日に開く市場ありて海苔を始め水產物の取引活潑に行はる。

【突山島】　↓突山面

**トットリ　鳥取**

【鳥取村】　北海道釧路國支廳管內釧路國釧路郡の西海岸。釧路市の西北に接す。東西に長く面積約一四〇方粁。釧路平野西部に屬し村內縱れ低濕の原野にて、東半は釧路川の支流雪裡川・仁戸志別川により、西半は阿寒川と支流大樂毛川とによりて潤さる。開墾なほ進まず荒蕪地廣く、村民は東南部にある王子製紙會社の釧路工場從業者その大部を占む。此線塘別炭礦鐵道釧路市より村を西北に貫き、平戸前驛（大正十二年開業）・穩澗平（大正十五年開業）・湯波內（大正十四年開業）を置く。この地は鳥取縣人の開發せるにより鳥取村と名づけしと。

【鳥取】　京都府竹野郡にありし村。昭和八年吉野村・溝谷村・深田村と共に廢しその地域を以て彌榮村を置く。

【鳥取藩】　中國地方の東北部を占む。山陰道の中央に位し、東は兵庫縣、南は岡山・廣島の二縣、西は島根縣に接し、北は日本海に臨む。因幡・伯耆の二國より成り東西一二八粁、南北六〇粁、面積約三四八九方粁、內地道府縣中第四十一位にて奈良縣に次ぎ佐賀縣に優る。鳥取・米子の二市と岩美・八頭・氣高・東伯・西伯・日野の六郡とより成り、縣廳を鳥取市に置く。（地形）南部は主として花崗岩・古生層より成り、山陰・山陽兩道の分水界をなす中國山脈の山地にして、境上には那岐山・津黑山・毛無山等海拔一二〇〇米內外の山峰あり。此間東部の兵庫縣との界には氷ノ山（一五一〇米）・扇ノ山等、中部の因幡・伯耆の國界には三國山・三德山等、西部には大山等の白山火山帶に屬する諸火山噴起し、安山岩の分布廣く、特に大山（一七一三米）は中國第一の高峰にて東北西に裾野を展べ山容雄大なり。地勢一般に南に高く北に低

業の進展を図りつゝあるが、所(二二七七戸)・
和井内(一一七七戸)・大湯(一一九七戸)・
[illegible]・[illegible]・[illegible]・

がり、全市緑樹に蔽はれ、區劃井然として小京都の觀あり、山麓の間はゆる山手は官公署・學校等集中し、それより袋川に至る地域は商店街、外郭の新袋川一帶は工場地帶をなす。市街南部の吉方・末廣附近には温泉の湧出多くして温泉街を構成し、市街東北端に鳥取城址あるを始めとし、名勝舊蹟に富む。縣廳・市役所・地方裁判所・區裁判所・稅務署・營林署・歩兵第四十聯隊・陸軍病院及び縣立の水産試驗場・蠶業取締所・商工奬勵館・農事試驗場等の官公署のほか、鳥取放送局（JOLG）・赤十字病院・高等農業學校・因伯時報社・鳥取新報社等あり。〔沿革〕鳥取の名は、往昔此附近一帶が沼澤地にて水禽多く、人集りて鳥を取るによりて鳥取場といひしに始るとも、また鳥取姓の人久しく住せしにより名づくともいふ。天文年間氣高郡布勢城主山名誠通、久松山に城く。永祿六年その臣武田高信當城に據りて叛くや、天正元年山名豐國これを滅して自ら鳥取城に入り、本府となす。そののち吉川經家この城の守護たりしが豐臣秀吉の圍むところとなり苦戰遂に陥落す。慶長六年池田長吉これに封ぜられ、爾來池田氏歷代三百年の城下たり。明治二十二年市制施行。大正十二年岩美郡富桑村、昭和七年同郡稻葉村、同八年同郡中ノ郷村・美保村、同十二年氣高郡賀露村を編入し今日に至る。〔賀露港〕市の西北部、新千代川口の左岸に位し、前面に鳥ヶ島浮ぶ。市の中心とは賀露街道を以て連絡す。古く鳥取市の外港にて藩政時代には千石船を泛べ直接大阪との取引、または海外貿易を行へり。いま市内の物資輸送は大部分鐵道による爲に、ただ漁港たるに止まるに至れり。〔伊吹植物園〕新鋪物師町にあり。明治十六年伊吹庄藏の創立に係る鳥取植物試驗場の後身にして、各種植物に就き研究し、學用植物見本園及び遊園地を設く。岡内風致に富み、蕚・鄙鵲等の美觀あり。〔魚市場〕鹿野街道筋、川端四丁目より鹿野橋を隔てて對岸南本寺町に至る間に開市せらる。橋の以東を内市、以西を外市といひ、毎朝魚鳥・蔬菜・果實・果樹等の取引多く甚だ雜沓を極む。鳥取名物の一。〔キマダラリンバメ蝶棲息地〕指定天然記念物。上町招魂社附近。その棲息地として有數なり。本種は本邦特有のものにして其數絶めて稀く、分布も亦局限せらる。〔久松山〕市街の東北に聳え標高二六四米。山麓に久松遊園地、東方の太閤ヶ平に秀吉の鍛掛の松あり。遊園地は鳥取城址の地にして面積約六ヘクタール、大正十一年開放せられ櫻樹・躑躅等あり。二ノ丸址よりの展望佳なり。その西麓に鳥取運動場あり大正十三年の開設にて面積約一一六アール。〔鳥取温泉〕市の南部、鳥取驛附近の吉方・寺町・末廣（東品治町）の三温泉の總稱。吉方は醫師泉、温度五〇度、葉緑・皮膚・リウマチス・呼吸器病等に效あり。末廣は炭酸鹽泉にて温度四五—五〇度、胃腸病・痔疾等によく、寺町は冷泉にして浴用加熱、皮膚病・婦人病等に效あり。明治三十七年の擴張に始まり爾來數十箇所に湧出、殷賑を極め、温泉街をなす。〔袋川堤の櫻〕驛の東約〇・七粁、寺町より茶町を經て湯所に至る約四粁の間、袋川右岸に櫻樹を植ゑ、花時美觀を呈す。〔鳥取城〕市の中部久松山にあり、故に久松城ともいふ。天文年間山名誠通の築城。天正年間毛利氏の有に歸し、吉川經家これを守る。天正九年羽柴秀吉之を陥れその弟宮部善祥坊繼潤を置く。關ヶ原役後池田氏の族交々相承け明治維新に至りて城廢す。いま城の一部は久松山公園となり、本丸址・天主閣址等の石垣のみ遺存す。〔扇邸〕東町にあり。舊藩主居城中の一殿にて扇御殿ともいふ。明治四十年皇太子殿下行啓の際御座所として池田氏これを修す。結構壯麗なり。〔稲葉神社〕上町に鎮座。縣社。主祭神、德川家康。相殿神、池田忠繼・同光仲・同忠雄・同慶德。慶安三年藩祖池田光仲の創建。初め大日谷の東照權現、または東照宮と號す。明治七年に忠繼・忠雄・光仲を合祀し現社號に改稱し、のち慶德を合祀す。家康を祀りしは、忠繼の外祖父たるに由る。忠繼は輝政の次男、母は家康の第二女なり。光仲は忠雄の嗣子、因幡少將と云ひ、因幡・伯耆三十一萬石を領し子孫相襲ぎ維新に及ぶ。慶德は舊藩主にて維新の功により賞典祿三萬石を賜り、維新後は鳥取藩知事に任ぜられ、明治九年に正二位、同四十年五月に從一位に陞ぜらる。社殿完備。例祭、六月一日。附近約二六九アールは昭和四年以來稲葉公園といふ。神社入口に招魂社あり。〔賀露神社〕賀露町にあり。縣社。祭神、大山祇命・猿田彦命・吉備大神・武甕槌命・式内社。神位、貞觀十六年從五位上、元慶二年從四位上。もと賀露（甘露）大明神と稱す。國内の名社にして江戸時代には寛文年間藩主池田氏社殿を造營し、十九石餘の社領を寄す。例祭三月十五日。〔長田神社〕東町に鎮座。縣社。祭神、事代主神・猿田彦神外二神。創建は古く鳥取郷創始の頃にありと云ひ、初め久松山にありしを天文十四年に山名誠通築城の際に城外東南方の山麓に遷し、更に慶安三年に藩主池田光仲は上町の山側に遷す。藩主池田氏代々の崇敬厚く社領を寄す。享保五年に社殿焼失し、次で松平相模守源宗泰の再建あり。寛延元年二十年を經て元文五年より聖寛保元年に亘り更に大いに土木を起し、山を開き社地を廣め社頭の景觀その面目を改む。大正十三年現社地に遷座す。例祭、五月九日。〔黎神社〕行德に鎮座。郷社。祭神、天津日高日子番能邇々藝命・日子穗々手見命。事代主命を合祀す。創立年代詳かならず。安永五年八月七日官社に列せらる。例祭、五月十一日。〔觀音院廻國〕指定名勝。上町、觀音院境内にあり。方丈の東南より西方に亘れる自然の傾斜地に加工して造られたる築山の麓を池を穿つ。瀧口・中島等は刈込を施したる庭樹と共に優美なる景觀を呈す。江戸時代後期の京都風庭園が地方化せられしものの一例。〔景福寺〕新品治町にあり。曹洞宗。貞治三年僧通幻、平尾越中守景勝の請に應じ攝津國六瀬村に之を草創。のち池田氏當國に轉封するに及び現地に移る。いま當藩の地として有數の巨刹たり。〔玄忠寺〕新品治町にあり。淨土宗。深心山。知恩院末。天正四年の創建に係り市内有數の巨刹。境内に荒木又右衛門の墓あり。〔荒木又右衛門の墓〕玄忠寺境内にあり。又右衛門は伊賀國阿拜郡荒木村の人、柳生但馬守・宮本武藏に就き劍法を修め郡山侯に仕ふ。寛永十一年十一月、伊賀上野に於て渡邊數馬を扶け河合又五郎等を討ち、伊勢の藤堂侯に預けられ、次で鳥取藩に移され、當地に歿す。碑面に「秀譽行企禪門定寛永十五年八月廿五日殺亨年四十一」と刻す。〔光浩寺〕瀧山にあり。時宗。天照山と號す。昔は大伽藍なりしが、天正の役に山中鹿之助の兵火に罹り、のち烟中より發掘せる觀音を本尊となす。〔興禪寺〕栗谷町にあり。黄檗宗。龍峯山。元祿六年僧千呆の開創。藩主池田光仲の菩提所とす。當時伽藍完備し輪奐の美を極め寺領二百石を有せしも、明治維新後類廢す。境内に淺邊數馬の墓あり。〔最勝院〕湯所町にあり。古義眞言宗。如意山と號し高野末たり。法道仙人の靈蹟にして、天長九年空海の開創と傳へ、寛永九年の再興に係る。境内にありし有名なる臥龍松は明治二十六年枯死し惜に臥龍松碑建つ。〔常忍寺〕西品治町行德にあり。日蓮宗。鷲峯山。一に積發寺。紀州侯德川賴宣の母愛珠院、當宗に歸依し、紀伊に愛珠寺を、甲斐に本遠寺を興し、尚ほ日常の生國たる當國に一宇を建立せんとして果さず、天保中池田氏室其遺言を奉じて當寺を草創す。普賢十羅刹女像一幅（紺本着色）は國寶。〔眞教寺〕川端一丁目にあり。淨土宗。天文十四正了建の開創に係る。天正九年吉川經家、豐臣秀吉に包圍せられし時當山に入りて自盡し多くの軍士を救助す。〔眞宗寺〕叢片原町にあり。眞宗。本尊は阿彌陀如來。天正年中鳥取城主宮部善祥坊の開基、開山は淨圓和尚なり。市内第一の大伽藍にして十二間四面と稱せらる。〔大雲院〕立川町にあり。天台宗。慶安三年池田光仲の創建にして、從弟公倶を開山とす。もと東照宮の別當たりしが、維新の際東照宮を稲葉神社と改め、本寺を分離す。〔摩尼寺（帝釋寺）〕市の東北隅、摩尼山の中腹にあり。天台宗。喜見山。天長年中唐見長者なるもの帝釋天の奇瑞に感じて草創し、承和年中圓仁此地を卜して堂閣を造營すと傳ふ。のち藤原秀衡・池田光政等伽藍を再營す。因幡第一の靈場と稱し、陰曆六月二十六日より三日間に亘る會式には賽者雲集す。寺より日本海の眺望雄闊なり。〔龍峯寺〕栗谷町にあり。臨濟宗妙心寺派。慶長十二年池田輝政の築在城の砌、慶源に歸依し同地に一宇を創せしに始る。爾後池田氏の移封に從ひて現地に三轉。爾來池田家累代の菩提所として、近世寺領二百石を有す。

【鳥取砂丘】鳥取市の北部海岸の砂丘。千代川の下流を挾み東端の岩美郡福部村細川より西端の氣高郡末恆村伏野附近まで延長約一六粁、南北一—二粁に亘り、そのうち、千代川以西を湖山砂丘、河東は二ツ山までを濱坂砂丘、二ツ山以東を海士砂丘と稱す。濱坂砂丘（狭義の鳥取砂丘）は最も廣大にして本邦海岸砂丘中の標式的のものとせられ、漉れ石英砂より成り、移動性を有す。この砂丘は千代川によりて流出せらるる土砂が波浪によりて海岸に打上げられ、更に此地方に於て沖西と線する西北西の卓越風により吹寄せられたるものにて、その直下には岩石の基盤を有するものの如く、特に河東に於ては砂丘中の處々に、周圍の砂丘より高度著しく卓越し樹木繁茂する丘陵を見る。砂丘はその活動活潑にして處々に松林と草地を點綴する外は花々たる沙漠の狀を呈し、桑落の發達を見ず、僅に一部に桑・西瓜・芋等の栽培さるるのみ。砂丘間には摺鉢と稱する馬蹄形の窪穴を存するもの大小凡そ三〇あり、多くは底部に湧水し底に植物を繁茂せしむ。その多くは一方壁を缺き馬蹄狀又は半圓形をなし、或は單獨孤存するもの、また數個連續せるものあり。砂丘の一部は陸軍省の演習地に屬し、また京都帝國大學及び鳥取高等農業學校等の砂丘試驗場を有す。砂スキー行はれ、近時各映畫會社のロケーション地としても著はる。北岸に鳥取海水浴場あり。

**トットリカミ　鳥取上村**　岡山縣備前國赤磐郡の南西部。岡山市の東北約一六粁。北は軽部村、南は高陽村・西山村に接す。面積一二方粁餘。西・北に高さ二百米内外の山地あるも、南部一帶に平野展けて耕地拓け米・麥・蘭・棉・薄荷を産し製綿・酒造行はる。村に小見保護協會あり宮内省・内務省より年々の下賜金あり。縣道東部を鑑貫し、瀬戸町・岡山市へバスの便あり。此地古くは和名抄、赤坂郡鳥取郷の一部に當る。〔片山神社〕大字由津里に鎮座。郷社。祭神、片山神。吉備温故錄、備陽國志に「所祭勢州鈴鹿神社と同じ」とあり。古來村民の崇敬社。例祭、十月十三日・十四日。

**トットリシモ　鳥取下**　岡山縣赤磐郡にありし村。明治三十五年鳥取中村・東高月村と合併して高陽村を建つ。

**トットリナカ　鳥取中**　岡山縣赤磐郡にありし村。明治三十五年鳥取下村・

東高月村と合体して高月村を建つ。

**トツバ** 突馬面 朝鮮咸鏡南道

の中央西部。高原地の南方五粁、次第の東の中央部約三〇粁にあり。東部は東山性丘陵起伏する高江の支流東に西方に下り西端を北流する滅江の支流東川沿岸に至りて合せ流下る。地形は東山性丘陵と山地とを含み、人口密度は一平方粁に付一〇人内外。農業は粟・小麦・大豆・蕎麦の畑作。農産は東山性丘陵に移出す。

**トテ** 戸手村 京畿道開豊郡

の北部。中浦の左岸に沿ふ。西方約一〇粁、蔡田川の中流に位し、東は新市町、東は田城村と接す。

**トド** 能崎 →貴賓村(京畿道)

**トトイ** 斗東面 朝鮮咸鏡南道

白山脈の北部。白山山の西北約一五粁。大〇二二米)東麓の米軍部隊に属する国家峰(六〇二米)東麓に鉱泉を湧出する。中腹は広葉性を呈し、中腹は広葉の樹林面に小平野開発する。耕地は広葉の樹林面を利用せる為に開墾の面に乏しく主要作物は粟。大豆は畑の面に乏しく主要作物は粟。大豆は畑の面に乏しく主要作物は粟。大豆は畑

西武藏村に接し、岐阜市の北界より北方約一三粁に位す。面積七・九方粁の小村。南境に蜿ゆる古城山(四〇八米)の東・北側の山地にて、東境を南流する武儀川の右岸に幅狹き谷地を作る。谷沿の集落は昔より和紙を以て著はれ、良質の美濃紙を産し、その他漆器・林業行はる。岐阜市より高富町を經て來る縣道は西北隣なる谷合村に通じバスの便あり。村名は富永村と青波村を合して本村を建てし時、その一字づつを取りて名づけしものなり。

**トナミ　礪波**

【礪波(郡)】越中國(富山縣)の古郡名。古事記孝靈段に日子刺肩別命は高志利波臣の祖なりと見え、寶龜十一年の條に礪波郡高瀬神に從五位下を授くとあり。和名抄は止奈美と訓じ川上・八田・川合・拜師・長岡・大岡・高楊・陽知・三野・意悲・大野・小野の十二郷を置く。明治廿年分割し東礪波・西礪波の二郡とす。

【礪波山】倶利伽羅峠(富山・石川縣境)の舊稱。

【礪波圖】古へ加賀・越中の境に置かれし關。大伴家持越中守となりて任に赴きし頃は此關あり、これを詠みし歌、萬葉集卷十八に收めらる。「煙太刀を礪波の關に明日よりは、守部やり添へ君を止めん」とあるも、その遺址いま詳ならず。陳路の記に、礪波山に關の清水とて、礪波關の名殘を止めし岩井あり」とあるも、恐らく後人がその關の名により、逢坂の關の清水になぞらへていひ出せしものなるべし。山隧は之を倶利伽羅峠といふ。これ、西上の途中木曾義仲の大いに平軍を破りしところ。蓋し北陸官道の要衝に當り、ここに關を置きて往來を檢せしものならん。

**トナリ　土成村**　徳島縣阿波國阿波郡の東部。西南は八幡町に接し東は板野郡御所村に隣る。面積一七・八四方粁。北部は讃岐山脈南側山麓の末端にて高さ五百米の山地あり、中部以南は吉野川流域中部平地の北部に續き田畑拓け、米・麥・繭等を産す。旅愛街道南部を横ぎり、西は八幡町及びその西隣市場町へ、東南は西條(板野郡一條町)へバスの便あり。また東方は省線鍛冶屋原線の終點鍛冶屋原驛(板野郡松島村)にも遠からず。古くは和名抄、阿波郡高井・秋月の二郷に分屬せしものの如し。而して大字に郡あれば或は郡家の所在地なりしにや。大字秋月は細川細春の寓止せる地とす。〔焦谷寺〕大字土成にあり。古義眞言宗。普明山淨光院。同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第八番札所たり。詠歌「たきぎ採り水くまたにの寺に來て難行するも後の世の爲」〔法輪寺〕大字土成にあり。古義眞言宗。正覺山又は白蛇山と號す。現に同宗仁和寺末にして四國八十八所第九番札所たり。詠歌「大乘の詩詩もとがもびるがへし輪法輪の秋とこそ聞け」

**トナン　斗南庄**　臺灣臺南州斗六郡の略西南部。東は斗六街に接し、西は大埤庄及び虎尾郡虎尾街に、南は北港溪を隔てて嘉義郡大林庄にそれぞれ隣接す。地形南北に狹長にして管内概ね平坦地なり。河川の主なるものは北港溪にして、南嘉義郡大林庄との境界をなす。產業中農業を大宗とし、庄下總戶數の約八割は斯業に從事し、住民の生業をなす。其主なる農產は米を第一位とし、甘蔗・甘藷・落花生・胡麻・黃麻・蔴苧類を出し、其他園藝作物として芭蕉・龍眼・マンゴー・柑橘類・鳳梨等を出す。また農家に於ては副業として、水牛・黃牛・豚・家禽等の飼養をなす者多く、殊に豚は其飼養頭數最も多く、管外に搬出せらるるもの多し。黃牛・水牛等は本島古來の習慣よりしてこれを食する者なく、概ね農耕勞役の目的に飼育せらる。其他漁獲ありて若干の淡水魚の生產あるも、管内の需要を滿すに足らず。工業に於ては製油・麵類・磚瓦類・製油・粗摺及び精米等多岐にわたれども、いづれも小規模のものにして特記すべきもののなし。交通は蓋だ便利良好にして、臺灣縱貫線斗南驛(明治三十六年設置)は域内に設けられ、また製糖會社營業線も本驛を起點として四方に派出せらる。道路は幅廣き自動車路縱横に通じて庄下產業發達に資する事大なり。本庄の地は、清領當時は雍正十二年に起てられし他里霧堡にて、本堡は我が領臺後も其行政區劃の一として用ひられたり。大字斗南の地はもと他里霧街と稱し、平埔番族ロッア部族のタアヲイゲー社の在りし處にして、他里霧は之に寇てたる近音譯字なり。其開拓は遠く鄭氏時代に在りと稱せられ、大字林子・石魚溪・南勢・阿丹・新庄の地は其開屯の地に屬すと云ふ。斗南の地に初めて街市の形成せられしは乾隆元年頃と云ふ。我が領臺後大正九年地方制度の大改正行はれ他里霧堡は廢せられ本堡に屬せし十二庄(現大字)を合し一庄を建て斗南庄とす。

**トネ　利根・刀根**

【利根川・刀根川】關東地方にあり、關東平野を縱斷する大河。關東平野の主水系をなし、古來四國次郎・筑紫三郎に對し坂東太郎の名あり。流域は上野・下野・信濃・武藏・常陸・下總に及ぶ。長さ三二二粁、内地にありては其長さ信濃川・石狩川に次ぎ、支流數二八五、その主なるものは片品川・吾妻川・烏川・鏑川・神流川・渡良瀨川・思川・鬼怒川・小貝川等にて更に中川・江戸川の派流あり、霞ヶ浦・北浦・長井戸沼・手賀沼・印旛沼等の湖沼また同一水系に屬す。流域面積一五七六〇方粁、其流域は關東平野の大半に及び、帆路距離は幹川二七五粁、幹支川合して八五二粁にして灌漑水運の便の大なること實に内地第一とす。水源は上野・越後界をなせる三國山脈にあり、群馬縣利根郡水上村谷川と稱せらる。全





水路を大別して上利根・中利根・下利根の三とす。渡良瀨川の合する栗橋邊までを上利根とし、中利根川は小貝川の合流する戸田井の地點までにて、以下銚子口にて海に注ぐまでを下利根川とす。水源地より大約南に流下し水上を經て沼田に至る間は溪流峽谷を穿ち、沼田に至り左より片品川を合し、南流を擴げて子持火山麓に綾戸の峽峽を造りやがて吾妻川を合し、次いで榛名・赤城の裾合谷を經て關東平野に出で館平夷に就く。前橋扇狀地帶には都邑よく發達し、前橋はこの谷口に發達したる都市なり。流路はここにて漸次東に轉向しいくばくもなくして鏑川・神流川を合せたる烏川を右より入れ、のち全く流路を東に轉じ上野・武藏國界を流れ、北埼玉郡騎生町附近にて右岸より一分流を派出す。この分流は初めは古利根といひ、今は東京灣に流入する中川となれるも、もとは利根本流の流路たりしものにて、利根本流が當・總界を東流するやう變更せらるるに及びて利根の分流となりしもの、されば中川の上流は今尙ほ古利根川と呼び、途中西方より撫荒川の流路なりし元荒川を合せ、更に綾瀨川を合せて東京に至り中川となり東京灣に入る。荒川と江戸川の間はもと關東地方第一の氾濫區域にして中川は實にその中心をなし廣大なる沖積層を作る。荒川はもと利根川の一支流として元荒川の流路をとりしも、利根川の治水工事と共に之を利根水系より分離せしめ、南に流れて入間川を合せしめ今日の隅田川の流路をとらしめたるものとす。利根本流は次で栗橋町にて渡良瀨川の大支流を合す。分流江戸川は栗橋より分れ、分流直後はの權現堂川と呼ばれ更に關宿町にて境町よりの利根川の分流を合し江戸川となりて南流、下總・武藏の國境を流れ、西に廣き沖積層の平地を眺め、東には下總の洪積層臺地を望み、市川市の南部の三角洲を作り東京灣に注ぐ。江戸川を分流して後の本流は茨城・千葉兩縣界を東流、利根兩岸に廣く擴がる常總臺地の間に氾濫原を形成す。中利根川にては鬼怒川・小貝川を左より合流し、分流江戸川とは利根運河を以て連絡す。また小貝川合流點より霞ヶ浦の浮島へは新利根の運河あり、霞ヶ浦とは横利根・北利根川によりて連絡す。北利根の沿岸には潮來町ありて横利根は佐原町の北に開く。霞ヶ浦・北浦一帶は佐原・潮來を中心とする水郷利根を現出し、臺地間の氾濫原は低濕にして干拓開墾行はる。即ち茨城・千葉兩縣の利根兩岸は我國第一の湖沼群をなし、茨城縣には上流より主なるものに長井戸沼・鵠戸沼・菅生沼・牛久沼・霞ヶ浦・北浦等あり、更に下總に手賀沼・印旛沼あり何れも利根川水系に屬す。これ等の湖沼群は何れも洪積層の低臺地に境せられ南部の下總丘陵は二〇米乃至五〇米、北方の丘陵群は何れも一五米乃至四〇米の低丘陵なり。利根本支流は臺地を開析し可なりの廣き沖積地を發達せしむるも、臺地には又是等河川の多數の支流に開析さるる狹長なる谷發達す。此の支流谷と本流谷とを比較するに、堆積作用は本流谷の方に盛にして、その河底が埋められ低に支流谷は本流谷に合する所に於て堰き止められ、支流谷は湖沼又は湿地となる事あり、北浦・霞ヶ浦・印旛沼・手賀沼等は之なり。之等の中には本流が增水の時等水面が上る時は支流谷へ逆流するものもあり、かくて印旛沼の如く沼口に逆三角洲發達し、漸次本流よりの運搬物にて埋められつつあるものもあり。利根本流の河幅は下利根下流にて益々廣く鹿島浦の砂丘地帶が北岸に發達して銚子にて海に注ぐ。利根上流の山地は木炭の產地にして沼田盆地はその集散地となり上越線の沼田及び後閑はその發達譯たり。關東桑園地帶は沼田附近に始まり前橋扇狀地帶に益々桑園多し、即ち水田化することの困難なる山麓及び河成段丘地帶は大都市より遠隔なる群馬縣に於ては桑園化する事なく、桑園化最もよく行はる。繭の生產分布は略ぼ桑畑の分布と一致し、前橋扇狀地及び烏川流域に於て繭の產額多く渡良瀨川合流點までの伊勢崎その他の地方は桐生・足利兩市及び思川・鬼怒川・小貝川の上流と共に關東西北部の生絲・繊物地帶の中心なし、上流地域の養蠶地に接して製糸業盛にてそれな



原野として繊物を作る。中利根・下利根及び霞ヶ浦沿岸に醸造地帶を形成す。殊に醬油・味醂の醸造は全國にても頭角を抜き野田・銚子・流山等がその中心地なる。利根川の水質が醸造に適したる事と米・麥・豆等の醸造原料の豐富なる事が發展を促したるものと思はる。利根本支流の水田の分布はほぼ各河川の氾濫原に限らる。而して流路は臺地を樹枝狀に開析し、可なり廣く沖積低地發達し、低地表面は極めて平坦、その傾斜は頗る緩慢にして臺地には又之等の河川の多數の支流によりて開析されし狹長なる谷が發達し多くは水田として利用され沖積地即ち水田となり、從つて水田は樹枝狀に分布されて所謂關東平野型をなし、信濃川流域の越後平野に於ける如く山麓より海岸まで一樣に低平なる水田のみが分布するとは大いに趣を異にす。常總臺地の地方も樹枝狀の筑窪地の湖沼群となり、その沿岸も樹枝狀の水田地帶を現す。下利根の河中三角洲水田には十六島の水田地域あり、また川と湖との間に發達せる逆三角洲上の水田としては印旛沼開墾地あり。また下利根流域の臺地上には陸稻の栽培行はる。利根川の水運は、上利根に於ては峽流なるし又は水流が傾斜するために急流なるし、その便は著しからざれど、中利根・下利根の低平なる關東平野に出でては、その本流及び分流江戸川・中川あり、且つ本邦に冠たる湖沼群ある

爲我國にて最も內陸水路の發達せる地方をなす。鐵道開通前發達しゐたる河運は鐵道開通と共に貨物は鐵道に奪はれ俄然運輸能力の衰ふるを普通とす。蒲航終點たる鳥川支流の倉賀野は江戸と上州・信州方面との物資輸送に當りしが鐵道開通後は昔日の俤なく、また境・關宿の河港は大利根と江戸川の分岐點として重要性ありしが利根運河開通により昔日の俤なし。然るに下利根に於ては今日の關東平野の著しき鐵道の發達にもかかはらず內陸水路は依然として鐵道の連絡線又は競爭線としての重要性を失はず。その一例として佐原郡は鐵道成田線の要郡たると同時に水郷地方は云ふまでもなく遠く遡航して利根運河により江戸川に通じ又下航して河口の銚子に至る等、內陸水路に充分利用さる。水郷の水運は佐原を中心とし横利根川により牛堀に出で霞ヶ浦に入り浮島・土浦方面に連絡する利根・横利根・霞ヶ浦・土浦方面に連絡あり、また土浦・浮島・潮來・鹿島を連絡する霞ヶ浦・北利根・北浦の連絡あり、佐原より津ノ宮を經て潮來・鹿島に至る大利根・北浦の連絡あり。大利根と霞ヶ浦・北浦と合する所に河中三角洲が發達す、即ち加藤洲を主とする十六島にして島狀をなす。利根の河道は現在十六島の南を東流するも、舊河道は佐原より東北に屈曲し牛堀より東南流し潮來を經て北浪逆浦に出たるものにして、今の横利根・北利根の河道はその舊河道なり。この河の兩岸は洪水の度に濁水より沈澱せし泥土が高くなり自然堤防といふべき洲が發達せり。而して自然堤防に圍まれたる洲は一般に低濕地にて水田に利用され肥料・牧種物等を運ぶには田舟を使用す。居住地は自然堤防の比較的高所を選ぶ。横利根川の八筋川・大島、その分流に沿へる長島・中洲、北利根川の潮來・拾番、分流に沿へる大割・扇島・磯山・下ノ須・加藤洲・附洲・鮫川等何れも自然堤防上集落の標式的のものとす。殊に加藤洲の部落は分流の兩側に位置する爲、往來には十二橋が設けらる。橋は田舟がこの下を通過する爲に高く架橋せらる。利根川の河道は古來屢變移あり、中利根以下に於て特に著し。上利根・中利根間にも淺良瀨川の變移あり、沿岸諸郡の形狀を改替したる例あり。利根河道最大の變移は往昔その下流が南に折れて武・總州界をなし東京灣に注入せしものが、近世東に直進、常・總時の下流部は僅に中川の分流に跡をとどむるのみとなり、往時の常陸川は現在は中利根・下利根の流路となれり。即ち往時は坂東水系が利根川・常陸川に分れたりしを後世合同して同一の水系となし、坂東水系は大部分利根川に歸せしめたるものとす。

【利根郡】 群馬縣(上野國)十一郡の一。縣の北東部に位し、南は勢多・群馬の二郡に、西は吾妻郡に接し、北は新潟縣南魚沼郡・北魚沼郡及び福島縣南會津郡、東は栃木縣鹽谷・上都賀二郡と界す。面積約一七六六方粁、縣下第一の大郡にして縣の全面積の約二八%を占む。西北境には三國山脈連亙して丹後山・小澤岳・朝日岳・茂倉岳・谷川岳・仙ノ倉岳・三國山等高度一六〇〇—二〇〇〇米の峻峰聳え、東北境には日光火山群西部の燕巢山・白根山・皇海山、南境には赤城山・子持山等の火山峙ち、中央部には武尊火山蟠りて殆ど山地をなし、西半部の利根川上流と赤谷川、東半部の片品川と薄根川との四河谷に分る。以上四川は郡の南部にて會流して利根川となり、その附近に稍廣き平地をつくり、郡の中心都邑たる沼田またここに發達す。郡內に火山多きを以て溫泉の湧出亦多く、片品川谷には老神・白根、薄根川谷には川場、利根川谷には利根(上牧)・湯原・谷川・湯檜曾・寶川等、赤谷川谷には湯宿・猿ノ湯・溫島・法師等を擧ぐべし。生業としては養蠶最も盛にして薪・生糸の產多く、農業には米・麥を主とし大豆・甘藷・馬鈴薯・青芋等を產するも耕地面積少く產額また多からず。人口も八萬五千餘人にて縣內全人口の七%に滿たず、密度は僅に四九人にして諸郡中にて最も稀薄なり。越後街道の清水越は利根川に沿ひて北上し西北境の清水峠を越え、三國街道は赤谷川谷より三國山南の三國峠を經て共に南魚沼郡に出で、近時東京・新潟間の最捷路たる省線上越線また清水越街道に沿ひ茂倉岳に穿たれたる清水トンネルによりて南魚沼郡土樽村に出づ。また會津街道は片品川谷を東北に進み尾瀨沼の東岸より南會津郡の地に入るも郡內の交通はなほ不便なるを免れず。本郡名は日本後紀弘仁二年の條に初めて見ゆ。和名抄にも郡名見えず。明治二十九年北勢多郡と吾妻郡の一村とを併せ、いま沼田町外十五箇村を含む。

【刀根庄】 義經記に刀根川(利根川)の發源地を上野國刀根庄鳥原とせり。刀根庄とは靈し群馬縣利根郡を稱せしもの、而して鳥原はいま同郡水上村の大字にその名遺る。利根川上流に沿ふ。

【利根】 ↓桃野村(群馬縣利根郡)

【利根岳】 大水上山(新潟・群馬縣境)の別稱。

【利根運河】 千葉縣東葛飾郡にある運河。利根川(中利根川)と江戸川とを連絡す。明治二十三年の開鑿にかかり、田中村大字舟戸より新川村大字深井新田に通じ、延長約七粁、幅約三〇米。下總臺地の樹枝狀谷に沿ひて開鑿せられ、常陸・下總・下野・武藏の貨物輸送に便し、銚子方面よりする水運は關宿を迂廻せずして江戸川に達するを得。即ち銚子・東京間は關宿を迂廻すれば二百餘粁なるに、運河による時は實に五〇粁を短縮し、今日陸上交通發達せしも、この連絡及び競爭通路として大いに利用せらる。

【刀根】 福井縣敦賀郡愛發村の大字。北陸本線の刀根驛(大正五年設置)を置く。

【刀根越】 福井縣敦賀郡愛發村大字刀根より滋賀縣伊香郡片岡村大字柳ヶ瀨に出づる峠。一に柳ヶ瀨越ともいふ。舊北國街道の一。今はこの峠の北方に隧道を穿ち省線北陸本線通ず。元亀三年、織田信長、淺倉義景とこの邊に戰を交へてこれを破る。

## トネリ　舍人

【舍人】 東京府南足立郡にありし村。昭和七年他町村と合し足立區を建つ。

【舍人村】 鳥取縣伯耆國東伯郡の東北部。東郷池の東岸に位し、東は氣高郡勝部村に、北は泊村に、西は松崎村の小村、南は東郷村に接す。面積一三方粁餘。東南部一帶は境上に聳ゆる鉢伏山(五一四米)の北斜面に屬し山地をなし、西北部にも低き丘陵地あるも、中央部と西北の湖岸には耕地拓く。物產に米・薪・木炭・淡水魚等を產す。省線山陰本線貫通し西隣松崎村の松崎驛に近く交通不便ならず。この墟古くは和名抄、河村郡舍人郷にして、大舍人目從臣志毘の居りし處。(倭文神社)大字宮內に鎭座。縣社。祭神、下照姫命・健御名方命・天穗彦命外三神。創立年代詳かならざれども、文德實錄に齊衡三年伯耆國倭文神授位の事見え、日本紀略に天慶三年伯耆國倭文神に正三位を授くとあるは當社なり。延喜式神名帳河村郡の官社にて中世より伯耆國一ノ宮たり。江戸時代は社領五十石を有ぜり。社寶中、觀世音菩薩立像(銅造)一軀および銅經筒(康和五年の銘あり)一口は共に國寶に指定せらる。觀世音菩薩像は飛鳥式のものにて高さ七寸五分。例祭、五月一日。(伯耆一宮經塚)指定史蹟。倭文神社(伯耆一宮)の東南なる低き丘陵上にあり、封土は圓形を呈し直徑約一五米、高さ約一・五米、大正四年十二月之を發掘し安山岩を以て組合せし石室を發見せり。內部より康和五年在銘の經筒・佛像等を檢出し、何れも國寶に指定せられたり。石室並に封土の外形等略ぼ原形のまま存し、平安朝に於ける經塚構造を徵するに足る。

【舍人】 出雲國(島根縣)の古地名。和名抄に能義郡舍人郷あり、訓を岡くもトネリと訓すべし。出雲風土記はこれを意宇郡にかけ郡家の正東二十六里とす。その地審かならざるもいま能義郡赤江・能義の二村の邊か。さすれば風土記所載の郡家の所在地の距離とも大體合す。(一里を凡そ六町として計算す)

**トノ　戸野村**　廣島縣安藝國豐田郡の西北部。沼田川の上源地附近の山中に位し、東南は河內町に接し、西南は賀茂郡東高屋村・西高屋村、西は同郡造賀村と界す。面積約三一方粁。紙れ高度三〇〇—四〇〇米の傾斜緩き山地をなすも略中部東西に幅狭き低地あり、沼田川之を流れて河內町に出づ。農を主とし米・麥の產あり燒鹽も行はれ、また木炭・酒類の產あり。近隣にバス通ず。この地は和名抄、豐田郡登野郷の內。(敎念寺)大字宇山にあり。眞宗本願寺派。楚行山と號し、もと眞言宗にして、天長年中弘法大師の建立に係る。享祿年中善法法師これを現宗に改めて再興す。

**トノ　富野**　↓富野(山城)

**トノ　登能**　↓戸野村(廣島縣)

**トノイ　殿居村**　山口縣長門國豐浦郡の北部。西南は小串町との間に川棚村を隔て、北は大津郡俵山村・菱海村と界し、南北に長き山村にて面積五二方粁餘。北東境に一位ヶ岳(六七二米)、西南境に狗留孫山あり、全村殆ど高度二〇〇—三〇〇米の山地にて森林多きもそれらの山地の中間所々に小低地ありて耕作行はれ、米・麥其他の農產あり。東方西市町より西方浦街道沿ひの瀧郡村に通ずる縣道村の中部を横ぎりてバスを通ずるも交通便利ならず。村內に天上ヶ瀧・砂利ヶ瀧の二瀑布あり、前者は高さ二五米、幅三米、後者は高さ一六米、幅二米。村名はもと豐田上村と云ひしが明治四十五年殿居村と改稱。(修善寺(御猟觀音))大字杢路子にあり。古義眞言宗。狗留孫山國護院と號し仁和寺派。文保元年乘行再興し、元應二年後醍醐天皇の勅に依りて堂宇を再建。その後毛利氏の歸依を得て堂塔の修營、寺領七十石を寄せらる。本尊に十一面觀音を安す。

**トノウエ　戸上村**　大分縣豐後國大野郡の東北部。大野川の右岸に位し、西は川を挾みて犬飼町と對し、東は小野市村、北は大分郡吉野村・戸次村と界す。面積約二三方粁。南北兩境に高さ二百米臺の山地ありて中部に傾斜し、ここを西流する大野川の支流によりてその兩岸とこれに通ずる南北の谷に幅狭き平地ありて耕地拓け米・麥を產し、木材・薪炭を出す。國道中部の河谷に沿ひて通じバスの便あり、對岸犬飼町には省線豐肥本線の犬飼驛あり、交通不便ならず。この地は舊野津庄の內とす。

**トノエ　外江村**　鳥取縣伯耆國西伯郡の西北端。夜見ヶ濱半島の西北端に位し、東は境町に、南は淀村に接し、北は中江瀨戸を挾みて島根半島東端部なる八束郡森山村と對す。面積僅に二・二七方粁の小村なるも人口三四〇〇人に近し。土地平坦にして耕地よく拓け米・麥・蔴・蘭・綿等を產す。漁落は中江瀨戸の西口にありて製鰹行はる。境港へバスの便あり。出雲風土記に戸江剗、郡家正東廿里一百八十步、非ゝ島陸地濱耳、伯耆郡內夜見島碕相向之間也とある戸江剗は本村に置かれしものなるべし。

**トノガ　殿賀村**　廣島縣安藝國山縣郡の西南部。加計町の西に隣接す。面積二三方粁餘。西南隣上殿村より來る太田

川は村の略中部を東北に貫流して加計町へ出で、その兩岸に幅狹き平地あるも、南境と中部以北は高度五〇〇—六〇〇米の山地なり、特に北部は高原性をなしその中央部に平坦地あり。農產に米・麥・繭等あるも額少く、出稼する者多し。懸道川沿ひに通じバスの便あり。明治二十二年、下殿河内村・下筒賀村の二村を合併して村制施行の際、各一字を取つて殿賀村と命名す。

**トノガヤ　殿ケ谷村**　東京府武藏國西多摩郡の東端。東は北多摩郡の西部に隣る。面積僅に二・六方粁餘の小村なり。村の北端は狹山丘陵の西部なるもその他は武藏野臺地の一部を占め、桑畑多く、養蠶行はれて繭を產し農產物には野菜・米等あり。青梅街道に條り立川・拜島方面へバスの便あり、西隣箭根ヶ崎村には省線八高線箭根ヶ崎驛ありて交通便利なり。いま石畑村・箭根ヶ崎村・長岡村と共に組合町村をなし役場を箭根ヶ崎村に置く。〔阿豆佐味天神社〕鄕社。祭神、少彦名命外二神。式內社。當郡八座の一にして當地方の產土神なりきといふ。文明年中當領主村山氏社殿を造營、社領を寄す。その後德川氏に家光以後代々社領十二石を寄す。例祭、三月四日。

**トノコーリ　都於郡村**（とのこ）　宮崎縣日向國兒湯郡の南端。佐土原町（宮崎郡）の西に隣り、南は東諸縣郡本庄村・本庄町に接す。東部に高度百米餘の丘陵性山地あり、西南部にも一二〇米內外の山あり、その中間は谷地なれど北境を流下する一ツ瀨川の一支三財川の流域低地に擬く。低地には田畑よく拓け、米・麥を產し林產も出す。縣道は中部低地をほぼ南北に通じ北方の妻町・佐土原町にバスの便あり。古くは和名抄、兒湯郡都於郡の地とす。建久圖田帳に前齋院御領田代二百七十八町內、都於郡百五十町、右地頭土持太郎と見え、のち伊藤氏ここに據有す。また村內に高屋宮址あり。景行天皇の行宮とす。天皇、十二年十一月、日向國に巡幸してここに行宮を營み、悉く襲ノ國を平げ給ひ十八年三月茲此宮に居給へり。村名は都於は殿（高貴なる方の稱）に通じ、郡は村里にて、卽ち殿の居られし村里といふより出づと。〔鹿野田神社〕大字鹿野田に鎭座。鄕社。祭神、彦火火出見尊。古來當村の產土神として村民崇敬の社なり。例祭、十月十五日。〔山田神社〕　大字山田に鎭座。鄕社。祭神、伊弉冉命。社傳にいふ、後圓融天皇康曆元年領主島津惟久の創建にして、歷代領主の崇敬淺からず、村民亦產土神として崇ぜり。例祭、十一月二十日。〔黑貫寺〕大字岩爪にあり。新義眞言宗智山派。寬和元年僧隆元の創建に係り、日向第一の古刹たり。景行天皇熊襲征伐の時行宮を構へし舊址なりと傳ふ。〔大安寺〕曹洞宗。創建年次不詳。開基を領主伊東祐堯とし、其法號を以て寺名とせしが、のち島津氏領となるに及び現號に改む。

**トノコジマ　渡戸島**（わたど）　廣島縣安藝郡にありし村。昭和七年音戸町に編入す。

**ドノコヤ　——峠**　日本南アルプス白峯山の東方、野呂川左岸高地を東西に乘越す峠。一にトノコヤ峠。山梨縣南巨摩郡西山村と中巨摩郡芦安村との境上に最高點（一五一八米）あり。北東降ずれば桃ノ木鎭泉を經て釜無川支流御勅使川上源地、芦安村字古屋敷に至り、南西降すれば野呂川下流早川に沿ふ西山村字奈良田及び西山溫泉に通ず。

**トノショー　土庄町**（とのしょう）　香川縣讃岐國小豆郡（島）の西南端。牛島狀をなし、東北の小地峽により溫崎町に續き、其西北に深き錦地を挾み、東南は池田灣に臨む。西方は小豐島を介して豐島と對す。面積八・七九方粁。町內地形は概ね山地にして中央部に高く四方に傾斜し海岸所々に小低地あり。土庄の町は地峽部に發達して土庄港（指定港）に好錨地をなし醬油釀造行はる。農產に麥・甘藷等あり。土庄港よりは絲類・煙草・醬油等を主として大阪・高松港に移出し、棉花・牛・絹及び綿織物・和酒・米・煙草等を大阪・岡山・高松諸港より移入す。町の一部は瀨戸內海國立公園の內とす。古くは肥土（一に肥戸に作る）庄の內とす。もと郡役所の所在地にして明治三十一年町制を布く。〔八幡神社〕鄕社。祭神、譽田別命・仲哀命・氣長足姫命。社傳に村上天皇應和二年の勸請なりといひ、古來當村の產土神として村民の崇敬厚き社。例祭、八月十四日。〔西光寺〕眞言宗大谷派。王子山蓮華院と號す。弘法大師の開創に係り、天正年中熊弘上人これを中興す。本尊に弘法大師作と傳ふる千手觀音像を安置す。小豆島八十八所第五十八番札所たり。

**トノショー　富野莊村**（とのしょう）　京都府山城國久世郡の南端。宇治町の南方約二粁にあり、其間に寺田村を隔て、南は綴喜郡青谷村に接す。東部は高さ二百米遙の山地をなし西半は京都盆地南部の平野にて、西境を木津川西北流す。低地には米・麥を產し傾斜地には茶・梨等の栽培行はる。奈良街道、省線奈良線の中部を縱走し、後者に長池驛（明治二十九年設置）あり。西部には社線奈良電鐵南走して富野莊驛（昭和三年開業）を設け交通便なり。〔覺見神社〕大字富野に鎭座。村社。祭神、天火明櫛玉饒速日尊・木花佐久夜毘賣尊・天香語山尊外二神。創建年代治革等すべて不詳。社殿建造物中、本殿は慶長九年の造營にて三間社流造、屋根檜皮葺、國寶に指定さる。例祭、十月一日。

**トノシロ　殿城村**　長野縣信濃國小縣郡の東北部。上田市の東方にて其間に神科村を挾む。烏帽子岳より派生せる殿城火山（一一九三米）は東部に聳立し、本村はその裾野に立地す。千曲川の一支神川は西境を南流し、沿岸に低地あるも一般に土地西傾南に傾き、神川沿岸に水田、褐野の緩斜面には桑園ありて米・繭を主產す。街道は西部をほぼ南北に走り上田市及び南方神川村にバス通ず。此地は和名抄、小縣郡山家郷の內なり。町村制施行の時、殿城村・漆戸村の舊二箇村を合し本村を設く。〔瀧水寺〕字宗坂にあり。新義眞言宗豐山派。大慈山と號す。正應三年の創建に係り開山を惠奘法師とす。天正中矢澤薩摩守綱頼再興し、盛源法印を中興開山となし、その新願所とす。本尊に大日如來を安ず。〔良泉寺〕字矢澤にあり。曹洞宗。大安山と號す。初め此地にありし廢刹十貫山廣澤寺を、天正三年矢澤薩摩守綱頼再興し、寺領を附して香華院とし、然室玄廓和尙を請じて開山となす。本尊に釋迦如來を安ず。

**トノダ　殿田**　山陰本線の一驛（明治四十三年設置）。京都府船井郡胡麻郷村にあり。

**トノミ　富海村**　山口縣周防國佐波郡の東南端。南は周防灘に面し、西は防府市、東と北とは都濃郡戸田村と界す。面積一二方粁餘。西境に大平山（六三一米）の南嶺南方に延びて海岸に迫り、東南部にも高さ三〇〇米內外の山地ありてその西南端は八崎岬となり西に小灣を抱く。中央には東北—西南に亙る平地ありて米・麥・蜜柑等を產し、沿海には魚費の利あり。省線山陽本線海岸沿ひに東西に通じ富海驛（明治廿一年設置）を置き、山陽街道は東北より西南に通じ防府市へバスの便あり。〔國津姫神社〕大字富海に鎭座。鄕社。祭神、田心姫命・湍津姫神・市杵島姫命。創建年代詳ならず。社領は八箇國分限帳に七石七斗餘ありしこと見ゆ。例祭、九月十七日・十八日。

**トノムラ　殿村**（とのむら）→**阿曾布村**（あそふ）　岐阜縣大阪府河內國北河內郡の北部。淀川東岸に沿ふ。西南は枚方町に接し西は川を隔てて三島郡高槻町・五領村と對す。面積約一二方粁。大阪平野の東北部に屬し全村概ね土地平坦にして田畑よく拓け米・麥その他農產物を多く產す。京阪新國道西部を縱走し、東部には東高野街道南走して共に自動車の便あり。社線京阪電鐵京阪線また新國道と並走し御殿山・牧野の二驛を設き交通便利なり。昭和十年招提・牧野の二村を合併して建てしもの。古くは謂はゆる交野原の一部にて帝室の遊獵地たり。延曆二十一年坂上田村麻呂が陸奥大嶽阿氏利爲・盤具母禮を斬りし河內國杤山とは大字宇山の地なりといふ。〔渚院址〕大字渚にあり。文德天皇の皇子惟喬親王の宮居して麿を放ち馬を馳せられし處。伊勢物語に親王、在原業平と共に交野の原渚の院前に櫻かざして相唱和したること見え、業平の詠「世の中にたえて櫻のなかりせば春の心は長閑けからまし」は人口に膾炙す。址は今は寺となり觀音寺と稱し觀音の像を安置す。親王遺愛の五十穗は名のみ殘り、胸止の松は枯れて渚岡の松風空しく昔を語り、林中御殿山神社あり、今尙は遺豐懷古の人を絕たず。

**トバ　鳥羽山**　萬葉集に見ゆる古地名。その地審かならざるも或は奈良縣（大和國）生駒郡の神南山卽ち三室山を稱せしものならんといふ。萬葉・四「白鳥の飛羽山松の待ちつつぞわが戀ひわたるこの月頃を　笠女郎」

**トバ　鳥羽**

【鳥羽村】　茨城縣常陸國眞壁郡の南部。小貝川の東岸にて眞壁町と下妻町との略ぼ中間に位し、面積六・七方粁の小村なり。東部は低き臺地にて畑地をなし中部以西の大部は小貝川流域の低地にて田地多し。米・大麥・小麥を產す。眞壁・下妻間の縣道は東南境を通じ交通不便なり。和名抄に眞壁郡大村郷とあるは本村をさ總べしものの如し。古の鳥羽の淡海の東北岸の地とす。但し築地・東保末・海老江等の低地は海中なりしものならん。

【鳥羽村】　福井縣若狹國遠敷郡の東北部。南は瓜生村に續き、東は三方郡の十村・八村に隣り、面積一六・四方粁餘。東・北・西の三面は三〇〇—四〇〇米の山地を繞らし、中部南北に細長き平坦地ありて瓜生村の中部に連り、田畑よく拓け、米を主として麥・繭・薪炭の產あり。機業また榮えてピロードその他の組織物を產す。省線小濱線東隣十村より來りて村の中央部に大鳥村驛（大正七年設置）を設く。古くは和名抄、遠敷郡安賀郷に屬せしものの如し。康正二年造內引附に七貫文金輪院若州鳥羽庄段錢と載す。〔安樂寺〕大字無悪にあり。曹洞宗。無悪山。小野篁の開創と傳ふ。當地方隨一の靈場にして土民の崇敬厚く、殊に小野篁は癲癇・雷除の神として俗間に信仰せらる。聖觀音立像（木像・弘仁期作）一軀は國寶。

【鳥羽町】　三重縣志摩國（志摩郡）の北部。伊勢海口を扼し宇治山田市の東方約一二粁を隔つ。面積一〇方粁餘。朝熊山（四七八米）の東嶺南東境上に延び東岸に迫りその麓下に鳥羽の港町あり。東北の一丘陵に日向山聳ゆ。北部には小低地ありて田畑拓く。鳥羽の港は前面に坂手島をはじめ菅島・答志島等大小の島嶼を控へ、東北方遙に三河の伊良湖岬と相對して伊勢灣口を扼し風光絕佳。また古へ帆船時代には遠州灘を渡る船舶の必ず寄泊して順風を待ちしため商賈殷盛、市街の繁華を極めし處なり。伊豆の下田を朝山巻げば、曉にや志州領鳥羽浦へ」鳥羽はよいとこ朝日をうけて、七つさがれば女郎が出る」の俚謠に往時を想ふべし。現在築港工事を進めつつあり。水產魚類發達して產額最も多く工產額之に亞ぐ農產も多く、茶・鶏・鶏卵・繭の特產あり。鳥羽街道と省線參宮線の終點にして後者は鳥羽驛（明治四十四年設置）を設く。社線志摩電氣鐵道ここに起り、町內に中之郷驛

な置き、南方神明村の眞珠港に至る。郡内各方面へのバスの起點となりまた海上各地への定期航路を有す。古くは神領にして和名抄に伊勢國度會郡伊氣郷とある地に當る。鳥羽の名は泊浦の轉ぜしものか。神風抄に「答志郡泊浦御厨」とあり。保元・平治の頃より橋氏代々の領たり。永正年中家忠に至り嗣子なく乃ちその女婿九鬼嘉隆に讓る。嘉隆大に城塞を修築す。これ今の鳥羽城址なり。嘉隆織田氏に屬し水軍の將として武名高し。のち秀吉の征韓役に隨ふ。關ヶ原の役豐臣方に當し、子守隆は德川方に屬ぜり。役後守隆の所領となり寛永十一年内藤志摩守忠重代り、延寶九年以後土井利益・松平乘邑・板倉重治・松平光慈等相次いで領主たり、享保十年稻垣摂津守昭貴城主となり三萬石を食み世襲して明治維新に至る。小濱は天文中小濱莽鑑眞宗の砦を築きたる處。北畠國司に屬したりしが、永祿十二年九鬼嘉隆の攻略する處となる。町内に日和山・穂の山の展望勝地あり四時遊覽客多し。鳥羽灣の風光を賞するに「鳥羽の島めぐり」あり、東廻り・西廻り・大廻りなどあれども普通は西廻りをなす人多し。これは譯より約一〇〇米の岩崎桟橋にて船を雇ひ、小濱發魚場を見、飛島・浮島・答志島・佛天島などを經て歸著するものにして、約一時間半を要す。〔日和山〕 町の北西隅にある小丘。三河の伊良湖岬と相對し、伊勢灣口に散布せる大小の島嶼を俯瞰し、晴天には東方遙に富士山を望む。眺望の絶佳なること縣下無雙と稱す。日和山の名稱は舟子必ずこの丘に上り天候を相ずといふに起る。〔穂の山遊園〕 山は海拔一〇〇米にして鳥羽灣の風光觀望第一の地。大小の島々繪の如く眼下に浮び、快晴の日は遠く富士を望むを得る。〔小濱潮池〕 大字小濱にあり。池と稱するも海水の自然に彎入せるところを仕切りし生簀なり。常に多數の鯛・鰒・鮑等を放養して觀客に釣らしむ。〔賀多神社〕 宇本町宮ノ谷に鎮座。郷社。祭神、正勝吾勝勝速日天之忍穂耳命・天之菩卑能命等五男三女神。外に建速須佐之男命等十柱を合祀す。神魚元年の創祀と傳ふ。例祭五月十四日。〔常安寺〕 大字鳥羽にあり。曹洞宗。玉龍山。慶長年中鳥羽城主九鬼長門守守隆の本願にて、亡父嘉隆菩提の爲創建す。境内に嘉隆の墓あり。明治十一年明治天皇東海巡幸の砌、當寺を行在所に充てらる。

**【鳥羽】** 山城國(京都府)の古地名。和名抄に紀伊郡鳥羽郷あり、度波と註す。平安京の南部、宇治川との間にあり、平安時代の季には白河法皇の鳥羽離宮を營み給ひし地。(京都市二一九三頁參照)貳幡(ふたはた)神社鎮座。後賀茂川を以て上鳥羽・下鳥羽に分る。地は京都より藤波へ出づる當時舟行の發着點草津に至る間にあり、羅城門以南は鳥羽の作道と稱す。いま上鳥羽は京都市下京區に入り、下鳥羽は同じく伏見區に編入。※京都市

**ドバシ** 土橋 江戸時代、深川澄里の一。伸町と相鉦びて最上位に屬す。現今門前東伸町。文藝作品上の替名として戸橋・土場潮・手洗潮などとも書く。辰巳之圖・序「吉原に壺三あれば伸町土橋あり」

**トバセ** 戸驒村 熊本縣肥後國宇土郡の一村。宇土半島の先端南岸に近く横る戸驒島を占む。面積七・七方粁。北はモタレノ瀬戸を隔てて三角町と相對し、西方の大矢野島、西南方の千束島等との間に三角港を擁す。西半部は高さ五〇米程度の丘陵起伏するも東半部は低地をなし耕地よく拓かる。海岸屈曲多く南端は千束島と造々瀬戸にて隔たり、西岸に近き三角港内には寺島浮び造々瀬戸に面する岬上には戸驒島燈臺(燈質は不動白光、光達距離一六・五浬)、寺島には寺島燈臺(燈質は閃白光、毎三秒一閃光、光達距離一〇・五浬)の設けあり。物産に米・麥等、外に水産あり。對岸三角町と渡船にて連絡す。古くは和名抄の天草郡波多郷に屬せしものの如し。

**トバタ** 戸畑市 福岡縣十市の一。謂はゆる北九州工業地帶の中央に位する新興都市にして東は小倉市、南は八幡市に接し、西は洞海を隔てて若松市と相對し、北は響灘に臨む。東西三・六粁、南北四・七粁、面積九・六六方粁。南部には福智山塊の末端なる牧山あり、東方には皿伏山を以て小丘起伏し、之を構成する中生層・古期火成岩は盡く削磨せられて夥しきマントル・ロックにて被はる。中部以北は極めて低平なる海岸平野にて、東境には金比羅山に發源する境川あり流程小なれど筑前・豐前の國境をなし、その流域には炭層の分布を見る。海岸には北端に名護屋岬突出して若松港の港口を扼し、その東は境川吐口に至るまで埋立地にて低濕をなし、西南に戸畑漁港を擁す。洞海灣口に河鳥島あり。產業は工業を第一とし、漁業これに次ぎ、東北部に若干の農產あり。工產は全生產額の約九割を占め、板硝子・硫酸曹達・砂糖・紡績絲・鐵製品・銑鐵・骸炭・製氷等を產す、主要工場には明治紡績・戸畑鑄物・合同水產・東洋製鐵・明治製糖・東洋製罐・旭硝子・三菱製炭製造所等あり。本市は製鐵を主とする工業に特色を有つ。水產は鯛・鰯・烏賊・鮪・鰤魚・鯵・鰯等の水揚多く、近年はトロール船による遠洋漁業發展し我國トロール船の大部分はここを船籍港となす。省線鹿兒島本線北部を東西に走り沙井崎町に戸畑驛(明治三十五年設置)あり、また臨港鐵道線を出し、社線九州電軌は小倉より來りて西部海岸に達し、市内にはバスを通ず。また九州電軌鈴鹿附近なる大波川渡船場と對岸若松市との間に中型汽船による連絡あり。市街は渡船場を中心として町流れをつくり、町割は格子型にて所々に袋町ある特色とす。市の北部は町の中部に當り交通・政治の諸機關ここに集中し、北西部は純然たる工業地域、東部は住宅區域となし、その中間に商業街發達す。市役所・稅關出張所・商工會議所・明治專門學校・縣立高等女學校・市立商工專修學校・玄海日報社等あり。戸畑港は近年の築港に成り洞海に面する一交字埋立地先を利用するものにして、魚市場・製氷冷凍工場を初め水產關係諸工場は岩壁に櫛比し、ここに陸揚さるる遠洋鮮魚は京阪神其他各地に輸送され、その繁榮は從來の門司を全く壓倒するに至れり。戸畑の地は古く鳥旬、又は飛幡浦と記し現在の如くトバタと讀ぜり。戸畑の文字は慶長年間の公文書に既に見ゆといふ。蓋し泊場、即ち船舶寄泊地の義。舊福岡藩の領有に屬する半農半漁の一小寒村にして幕末より明治の中頃にかけ郡鳥方面にては水屋組と稱し、帆船への水商賣をなす。明治二十二年戸畑村と稱し、二十九年八幡製鐵所開設と共に各地よりの移住者多く、同三十二年町制施行。大正に入り工業都市として急發展を遂げ、特に歐洲戰爭の刺戟により近代的工業都市として市勢頓に伸長するに至り、大正十三年に市制を施行す。これを人口增加より見るも顯著にして、即ち國勢調査によるも大正九年三万八二四人、同十四年三七七四八人、昭和五年五一六七四人、同十年六七八〇〇人に增加し、同十年の一方粁の人口密度は七〇一九人となり本邦都市に於ても第一の稠密を示す。昭和十二年十月の推定人口は七四五〇〇人にて最近益々增加しつつあるを示す。市の西南郊に牧野公園、東方に皆好園あり、また東方にある明治專門學校は本市の誇りとす。なほ飛幡浦は萬葉集に出でたる地名なり、萬葉・一二「ほとをさず飛幡の浦にしき浪のしばしば君を見むよしもがも」〔河時島〕 一に中島。永正年間竹内治部なる者愛に築城し附近を領し、黑田氏筑前に主たるや三宅若狹をして之に居らしむ。元和元年幕命により豐業、明治維新に際し福岡藩に於て島の東北端に砲臺を築き不虞に備へたり。いま人家稠密し其跡を留めず。〔明治專門學校〕 中原にあり、男爵安川敬一郎等によりて明治四十二年四月開校、大正十年政府に寄附し文部省直轄學校となる。鑛山工學・冶金工學・機械工學・應用化學・電氣工學の五科を置く。〔八幡神社〕 大字戸畑に鎮座。縣社。祭神、神功皇后・比賣大神・應神天皇・頻佐之男命・道祖神。建久五年領主宇都宮重業八幡大神を枝光村宮田山に祀れるに創まり、のち今の地に奉遷すといふ。藩主黑田氏歷代の崇敬篤し。例祭、十月十四日。

**トバタ** 飛幡浦・鳥旗浦 ↓戸畑(トバタ)市

**トバノエ** 騰波ノ江・騰波江 【騰波ノ江村】 茨城縣常陸國信壁郡の南部。小貝川の西岸にて下妻町の東北方約四粁、この間に大寶村を隔つ。面積僅に七方粁餘の小村なるも、東境を南流する小貝川と西境の大寶沼とに挾まれ全村平地にて到る處田・畑をなし米・大麥・小麥を產す。下妻・下館間の縣道と社線常總鐵道並行して南北に通じ前者にバス運轉し、後者には騰波ノ江驛(大正十五年開業)ありて交通便利なり。村名は常陸風土記に見ゆる大沼騰波江より起る。

**【騰波江】** 常陸國(茨城縣)の古地名。常陸風土記・筑波郡に、郡の西十里に騰波江あり、長さ二千九百步、廣さ一千五百步とあり。萬葉・九の長歌に新治の鳥羽の淡海とあるはこれを指ぜしものなるべし。いま菖蒲郡騰波ノ江・鳥羽・黑子・大寶・上野諸村の間にありし大沼にて南は毛野川(いま鬼怒川)の舊水道に接し、小貝川(鎭倒川)これに注入し、大寶沼の東にありしもの、その後鬼怒川の河道の變化によりて全く干拓されたり。

**トバノオーミ** 鳥羽淡海 ↓騰波江

**トバラ** 戸原村 兵庫縣播磨國宍粟郡(京都府)の南部、揖保川中流の東岸に位し、西北は山崎町との間に絨下(じゅうとう)村を挾む。面積八方粁。東部には高さ三百米程度の山地ありて西方に急下し、西部の揖保川岸には低地ありて田畑よく拓く。米・繭・楮麥・小麥・蔬菜等の外、果實・製茶・鷄卵等を出し、また麵類・煙製品・刃物・メリヤス・錦旗等を產す。川の西岸には因幡街道通ずるも村内の産物はなほ不完全なり。

**ドヒ** 土肥 相模國(神奈川縣)足柄下郡の地名。中世に土肥郷と呼ばれ、源頼朝の臣土肥實平の出身地。その地はもと六箇村と稱し今の吉濱村以南の數村を含み、大正十五年湯河原町と改稱せし土肥村もその一部なりき。

**トビガス** 鳶巣山 ↓舟窪村(愛知縣)

**トビガタ** 鳶形山 福岡縣筑後國久留米市の南東方約一九粁、同縣八女郡遠春・白木・北山・光友の四村境に位す。標高四五〇米。郷石安山岩等より成る。北麓は南西流する矢部川に臨らる。

**トビシマ** 飛島 【飛島村】 山形縣酒前國飽海郡の一村。酒田市を距る西北約四〇粁の海上にある飛島とその小屬島より成る。面積三方粁餘。人口約一三〇〇(昭和十年)。主島飛島は昭和九年夏東京天文臺の調査によれば、昭和四年の調査以後僅か六年間に二七米西北西に移動ぜりと報ぜらる。島の主軸は南西より北東に向ひその長さ約三粁、幅約一粁、周圍約八粁。島の周圍には東南に位する柳積島以下數個の小島あり、大部分は第三紀層より成り、北部及び南部に僅少の火成岩露出す。概ね臺地狀をなし、北部の高森山(六九米)を最高點とす。四周には高低四段の段丘發達し、西岸は西の卓越風のため樹木生育せず、

**トシス** 高来村 島原藩田部領横川

川原の中部。今市町の北約二・五粁、東伊

佐地の北北に在る。島原田部に属する山部

村。西は長崎湾に臨み、南は多良岳（三三六

米）あり、山に近く海岸に近く多良岳の麓に

して、農業・漁業・商業の盛地なり。戸数三五

戸、人口二一六人（明治十一年末）。

**ドアタナ** 沸石 東京市豊島区東長崎

町豊島の字名。ここに久留米藩の邸宅と日吉

神社の境内あり、この字の日吉神社の前に

**トアツ** 寒宮津 肥前大村田高小佐郡

十年度）を置く。

**トアトアス** ——社 壱岐郡芦辺浦

明治東郡東上浦アマヌヌ島の字名。戸数

四七、人口二五人。

**トアトリ** 飛島 壱岐郡（大正郡）の

古称なり。昔名鈔に壱岐郡飛島郷あり、諸

本皆ここに作るも高山寺本にのみ「トアト

リ」と訓じ、「トアトリ」と訓じ、「トアト

の訓」とあるも、その訓いまいかならず。実は矢計村

の島なるべしといふ。

**トアヤ** ——社 壱岐郡芦辺浦

同郡山部郡十字路西南方四粁余の海岸。

字名、人口三〇〇（明治十一年末）。

**トイ** 底井町 豊前国仲津郡の

東部。谷山谷を西に流る南方約一〇粁、重石

川の東に沿ひ、北は長谷川を隔て東

三郡記部の上に南へ上げ流るもの。

川川郡。昔は京都郡が中央郡部郡に在り

て、南は日本に合流する中央郡の部郡部分と

有なるべしとも、又は中央郡部郡部分と

なるべしとも、（大分県郡部郡）大



石を産し、ここに石灰を焼く。戸数三五

戸、人口一六二人（明治十一年末）。

**トイロフ** ——社 壱岐郡芦辺浦

島カナロン島上浦の字名。石炭産の地。

に、ここにスイヨン島中ヌカロカ島に属す。

戸数三五、人口二一六人（明治十一年末）。

**ドアタナ** 沸石 東京市豊島区東長住

町豊島の字名。ここに久留米藩の邸宅と日吉

神社の境内あり、この字の日吉神社の前に

**トアツ** 寒宮津 肥前大村田高小佐郡

十年度）を置く。

**トアトアス** ——社 壱岐郡芦辺浦

同郡東郡東上浦アマヌヌ島の字名。戸数

四七、人口二五人。

**トアトリ** 飛島 壱岐郡（大正郡）の

古称なり。昔名鈔に壱岐郡飛島郷あり、諸

本皆ここに作るも高山寺本にのみ「トアト

リ」と訓じ、「トアトリ」と訓じ、「トアト

の訓」とあるも、その訓いまいかならず。実は矢計村

の島なるべしといふ。

**トアヤ** ——社 壱岐郡芦辺浦

同郡山部郡十字路西南方四粁余の海岸。

字名、人口三〇〇（明治十一年末）。

**トイ** 底井町 豊前国仲津郡の

東部。谷山谷を西に流る南方約一〇粁、重石

川の東に沿ひ、北は長谷川を隔て東

三郡記部の上に南へ上げ流るもの。

川川郡。昔は京都郡が中央郡部郡に在り

て、南は日本に合流する中央郡の部郡部分と

有なるべしとも、又は中央郡部郡部分と

なるべしとも、（大分県郡部郡）大



に位置する。この部落は部落多し。

**トイロフ** ——社 壱岐郡芦辺浦

島カナロン島上浦の字名。石炭産の地。

に、ここにスイヨン島中ヌカロカ島に属す。

戸数三五、人口二一六人（明治十一年末）。

**ドアタナ** 沸石 東京市豊島区東長住

町豊島の字名。ここに久留米藩の邸宅と日吉

神社の境内あり、この字の日吉神社の前に

**トアツ** 寒宮津 肥前大村田高小佐郡

十年度）を置く。

**トアトアス** ——社 壱岐郡芦辺浦

同郡

計庫・武器・弾薬・軍用品の倉庫に用ゐる建物多し。

【沿革】 明治維新の際、藩主の居城地となり、藩士の屋敷多し。明治十年、西南の役に際し、官軍の本営となり、戦争激烈を極めたり。

【戸数】 一、〇〇〇戸。

【人口】 五、〇〇〇人。

【産業】 農業を主とし、商業・工業・漁業・運輸業・鉱業・土木業・公務・自由業・雑業・無職・家事・学生・生徒・子供・不詳。

【物産】 米・麦・大豆・小豆・蕎麦・甘藷・馬鈴薯・蒟蒻・茶・蚕繭・生糸・木炭・薪・材木・竹・筍・蕨・椎茸・松茸・蜜柑・柿・栗・胡桃・鶏・卵・牛・豚・鯉・鮒・鰻・鯰・鰌・鮎・鱒・鮭・鱈・鯨・鰯・鰹・鯖・鮪・鮫・鰐・鰐・鰐

城・産業・産業の各部を包含する港域を有す。豆満江には白頭山中、定平鎮の東南に於て大正六年鉄道開通の東京に從来する石乙水を源流とし、新興鉱業の東を流れ、新興鉱業の大正十

の小田原村・上野村・小原村・大原村・小田原村・上野村・大原村・小田原村・上野村・大原村・小田原村・上野

力米の産を以て著名なり。また畜・鉱泉

頭力米の産あり、特産として石炭を出す。

村町には国川の岸に連り、鉄道の山村・宮部田すべ高原村の東川岸だより、い

に通過まれ村・国川・宮部村の東川岸に連り、鉄道の山

の鉄道は宮部村・国川・宮部村の東川岸だより、い

に沿道にバスの便あり。此線には安土城山・信長

の城址・明治三十二年11年宮村鉄道敷設の路

宮部村と称し、国三十八年宮部を分つ。

にも三島駅所の所元線とす。〔宮部城〕一

に牛蒡城と云ふ。天正中新田信長軍

三に属し、市方の重臣・三宅・宮部

しも、天正十年方の重臣・三宅・宮部

なり、天守に於て殺害せられる。其後宮部は分

裂を生じて、これを守らしめしも、国三十三

年豊臣氏の国国を訪れ、宮守を分割

て十年に至り廃する。三宅に於て殺害は

真の主来正をしてこれを守らしむ。宮部

九郎の一たり。天正中これを廃す。今は

城に礎石を存する。〔八幡神社〕

大字石塚に鎮座。祭社。祭神素盞嗚尊。

例祭、九月十五日。

【宮部村】宮部駅の西北、宮川岸の西北部。

宮部城跡・宮部村・宮部・宮部・宮部

石英岩を敲く音を聴き、遠く遠き幽谷の響を尋ぬ。

**トミヨ** 宮原村　大分郡豊後国東郡

伊美郡の西北部。南は大分川の西岸に沿ひ、南は大下郡の南部。天満川の西岸に沿ひ、南は大下郡の約二〇〇粁。西端にある三田井（九六六米）の東面にて東に向ひ、次第に狭くなり、天満川東岸を南流し、東岸に移行する。遠望すれば、東・南・西の三方、山を以て囲まれ、北は開豁。西端にある三田井（九六六米）の東面にて東に向ひ、次第に狭くなり、天満川東岸を南流し、東岸に移行する。遠望すれば、東・南・西の三方、山を以て囲まれ、北は開豁。

**トミヨ** 宮原村　東野藩宮原陣屋

伊美郡の南部。天満川の西岸に沿ひ、南は大下郡の南部。天満川の西岸に沿ひ、南は大下郡の約二〇〇

**ミヤ　宮荘**　宮崎郡宮崎村の一部。明治二十七年宮崎村と宮崎村とを合併してこの名を生ず。

**ミヤ　宮村**　宮崎郡宮崎村の一部。

**ミヤ　宮山**　宮崎郡宮崎村の一部。

**ミヤ　宮崎村**　宮崎郡の一村。明治二十七年宮崎村と宮崎村とを合併して宮崎村を生ず。

**ミヤ　宮崎**　宮崎郡の一村。明治二十七年宮崎村と宮崎村とを合併して宮崎村を生ず。

**ミヤ　宮崎村

【宮田村】 東筑摩郡東部の一村。三十七年度の一町二村と共に廃し飯島町を置く。

【宮田町】 三河國伊豆國三浦郡の東北部。西は伊豆治に接し、東は東海道に接す。面積約二・八方里。

【宮田村】 信濃國伊那郡の西北部。西は中川村に接し、東は東方に接す。面積約一七・三方里。市役所は宮田村に置く。

【宮田村】 常陸國筑波郡の西南部。西は大和村に接し、東は東方に接す。面積約一・六方里。

【宮田村】 常陸國鹿島郡の西南部。西は大和村に接し、東は東方に接す。面積約一・六方里。

【宮田村】 常陸國新治郡の西南部。西は大和村に接し、東は東方に接す。面積約一・六方里。

【宮田村】 常陸國筑波郡の西南部。西は大和村に接し、東は東方に接す。面積約一・六方里。

【宮田村】 常陸國稲敷

【宮内】 宮内廳所轄の三十九年度の三村と共に廢し大口村を置く。

【宮原】 岡山縣小田郡中村の新名。明治二十三年現名に改む。

**ナ三ネ　宮根村**　秋田縣雄勝郡の中部。雄代港西と北秋田郡米代川下流の西岸に位す。田沢・鶴巻・田沢・鶴巻の四部落に分り西南部に茂谷山（三四八米）あり、南手部は最も丘陵性の部落を成すも、北手部には北端を西流する米代川下流の西岸に沿して土崎平田、川口・鶴巻・鶴巻の部落あるも漁業盛りには米代川の鮎、茂谷山の筍あり。耕作面積と産業は米・麦・蚕・茸を産す。また米・麦・蚕・茸を産す。鶴巻中部を西南に流れる米代川の支流に沿して、宮根港（明治十年宮根）あり。明治天皇、明治十四年、山形・秋田・小小・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせられる。

**ナ三ノ　宮前**

【宮前村】 名取郡宮城郡宮城郡の西部。泉新町の北方約四粁。陸前平野の西北部に在し、面積七方粁四粁。北は村の西南部七方粁に亘る小村。一迫川は中央を西に貫流して一迫川に合す。農業は米・麦及び西南部畑作に小豆・豌豆あるも大部分は蔬菜・蚕・茸を産す。鶴翔・鶴巻・鶴巻・鶴巻

にあり。新義眞言宗豐山派。光明山持光院と號す。本堂に、寛嘉三年唐より傳來せる不空三藏作の阿彌陀如來を安置す。境内の地藏堂に德川綱吉の守本尊と稱する地藏尊を安置す。

【富山村】 愛知縣三河國北設樂郡の東北隅。天龍川の西岸に沿ふ。東は天龍川を隔てて靜岡縣周智郡水窪町・城西村と相對し、北は長野縣下伊那郡神原村に隣る。北境に八嶽山(一一四〇米)、南境に日本ケ塚山(一一〇七米)等聳立し、西境にも千米に及ぶ山嶽南北に連り、東境を天龍川南流するも沿岸に低地なく、西北山地に發する支流の沿岸に僅に低地ありて耕地開く。米・麥を產するも山林に依存し生計を立つる者多し。人口は大正九年一四九六人、同十四年一一七九人、昭和五年一〇二四人、同十年九三七人と減少し同年の一方粁密度は僅に二七人なり。

【富山村】 烏根縣石見國安濃郡の東北部。大田町の東に隣り、東北は筑川郡田儀村に、東は同山口村に接す。南部に四百米内外の丘陵性山地あり、山麓は北部に延びて村内紙ね山地をなし、北部を北流する溪流沿ひに低地ありて耕地開け、米・繭を產し木材・薪炭を出す。街道は溪流を辿うて通ずるも嶮路ありて交通便なりと云へり。

【富山村】 岡山縣備前國上道郡の西南部。岡山市の東に接し、北は福多村に、東は可知村に、南は操島村に隣る。面積僅に四・六四方粁。西北部に丘陵ある外は吉井・旭二川の合流沖積による岡山平野に屬し、平坦にして耕地拓け米・麥・蘭・梨・葡萄等を產す。岡山市に隣接し交通便なり。(曹源寺(圓山大寺))大宇圓山にあり。臨濟宗妙心寺派。護國山。元祿十一年池田綱政、其祖護國院殿池田勝入齋信輝菩提の爲に之を創建し、絕外宗純を開山とす。開基池田氏累代の菩提所。舊寺領二百六十石。餓鬼變紙一卷(紙本淡彩)は國寶。

【富山村】 岡山縣備中國吉備郡の西部。高梁川の中流左岸に沿ひ、南は日美村、西北は上房郡高梁町に接す。面積一九・六八方粁。高度三百米内外の高原性の地多く、高梁川沿ひと所々に小低地ありて伯耆街道と省線伯備線並行して高梁川に沿ひ、後者の美袋驛(日美村)・備中廣瀨驛・備中高梁驛(以上高梁町)に遠からざるも交通の便なほよろしからず。米・蘭・麥・木炭・蒟蒻等を產す。この地は和名抄、賀夜郡日羽鄕に屬せるものの如し。

【富山村】 高知縣土佐國幡多郡の中部東偏。中村町の北方約一二粁。四万十川の支流後川の水源地域を占め、東西約一八粁、南北六—八粁、面積一〇六方粁餘を有す。東南境には佛ケ森(六八八米)、又西北隅には堂ケ森(八五七米)等の山峯あり、村内到る處山地にして高度は五—六百米の處多く、後川は東部の谷を西南に、その支流は西部の谷を東南に流れ、南隣葉岡村に出でて相合す。聚落はこの二川の谷地に沿ひて散在し耕地乏しきも米・麥・蘭等の外和紙・木炭等を產し、牛・馬飼養ぜらる。南方中村町へ道路通ずるも交通なほ便ならず。面產廣きも人口少く一方粁の平均は僅に二七人に過ぎず。大正四年山中村を現村名に改む。(熊野神社)大宇山中村に鎭座。鄕社。祭神、速玉之男神・伊弉那美神外四神。古來本村の產土神たり。例祭、七月二十日、十一月四日。

**トミヨシ　富義**　愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年他の二舊村と共に廢し新に下山村を置く。

**トム　土武**　信濃國(長野縣)の古地名。和名抄、諏訪郡に土武鄕あり、止無と註す。いま下諏訪町の地名に富部・女ノ町あり、富・女は何れも鄕名の遺稱なるべし。いま下諏訪町・長地村・岡谷市等諏訪湖北岸の地を稱せしもの。

**トムカシ　富樫**　→富樫

**トムタレ　忙彌多禮**　朝鮮の古地名。書紀、神功皇后の四十九年、この地を屠りてこれを百濟に賜ふと見ゆ。その地明かならざれども、或は慶尙南道の大島なる南海島ならんといふ。

**トムチ　富神**　肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に益城郡富神鄕あり。註を缺くを以て或はこれをトカミと讀むべきならんも、郡内にこれに該當すべき地名見當らず。一說に富神は或はトムチにあらざるか、貴なムチと讀ずるはその例書紀にあれば、貴神の意にて神の字なムチとも讀むべきかと。假にこの說にして容さるるならば富神は訛りて砥用となり、これをいまの下益城郡砥用町・東砥用村に擬するを得べきか。

**トムナイ　富内**

【富内村】 樺太大泊支廳の東北部、富内郡の一部を占む。豐原市の東に隣り、北及び東部はオホーツク海に臨む。西部には主として結晶片岩類より成る鈴谷山脈走り、鈴谷發(一〇四六米)・幌登山(一〇二三米)及び五百米内外の喜美内山・皆岸山等あり、東部には中知床半島に連る主として古生界の岩石及び花崗岩より成る中知床山脈南北に連亙し、南より愛郎發(五〇五米)・神居山・悪鮮山(一五五米)と續き、北端海に沒する所は愛郎岬の海崖をなす。此の兩山地間は遠淵低地帶にて中に我國第五位の富内湖あり。西部山地に發する皆岸川・喜美内川は共に東流して富内湖の西北岸に牲ぎ、落帆川は恩洞湖の北にて海に注ぐ。北岸の愛郎岬より富内湖の排水口近くにある稻荷山(八三米)に至る間には砂嘴狀の砂堆發達し、其の内側即ち富内湖との間には東より愛郎湖・阿部沼・遠幌湖・能仁湖・上伊佐沼・中伊佐沼・下伊佐沼・青仁沼・野幌沼等の湖沼海岸に沿うて一線に分布し、なほこの一帶は濕地多し。落帆川・皆岸川・喜美内川の流域に比較的地味豐饒にして豊饒地域は、特に皆岸川・喜美内川上流には大農場あり。なほ高原狀の山地ある為以て牧場に適し牛・馬を牧び牛乳を出し、山地よりは木炭を產す。富内湖の排水口大宇富内に池港ありて漁業盛なり。大宇喜美内より大泊町に樺太拓殖軌道の輕便鐵道あり、大宇富内よりは豐原市・大泊町に街道走り夏季は各バスの便あり。海上には定期船の運航あれども一般に未だ交通便利ならず。聚落また富内及び落帆に集團的に發達するほかには見るべきものなし。なほ村内に土人部落あり、昭和十一年現在にてその人口一二四人を算ふ。

【富内郡】 →富内村(樺太)

【富内湖】 樺太大泊支廳にある湖。オホーツク海に面し鈴谷山脈と中知床山脈との間なる謂はゆる遠淵低地帶の湖沼群の最大なる湖。湖岸は富内村・長濱村(長濱郡)に亙る。東南より西北の方向に綱長くしてその長さ約二五粁、湖岸線の延長九〇・九〇粁、面積一六八・二方粁(日本第五位)。湖の西端に喜美内川注入し、東北部に口を開きてオホーツク海と連絡し鹹味を帶び、最深所は三四米、湖の北部には中島浮び、流出口の東岸には富内の聚落あり。

**トムノ　富野**　山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡富野鄕あり、止無乃と註す。中世には富野莊と稱せしがいま莊名を存して富野莊村あり。

**トムラ　耽羅**　——濟州島(朝鮮)の古名。

**トムラウシ　十勝岳**　十勝山脈の最高峯。大雪山塊の南西方、十勝岳(二〇七七米)の北東方、いづれも約一八粁に當り北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村との境上に位す。標高二一四一米。北西麓は化雲岳(一九五四米)・忠別岳(一九六三米)を經て大雪山塊に連り、南麓はオプタテシケ山を經て十勝岳に續く。大雪山塊との中間には沼ノ原の湯原、五色ケ原の御花畑あり。山巓より西方にオプタテシケ・十勝の連山重疊し、その彼方には日高・夕張の連嶺を望み、北西方には大雪山塊の山々群聳するを眺む。この山の近年に於ける初登攀は大正九年なり。登山は通常大雪山又は十勝岳方面より縱走して行はるれど、別に北西方旭川方面より忠別川を遡行、松山溫泉に至り、更にその一上源クソウンナイ川を遡行するも達頂し得。此方面の渓谷には所々に瀑布あり、甚だ美し。

**トムロ　戸室山**　金澤市の南東方約八粁、石川縣河北郡淺川村に峙つ。標高五四八米に過ぎざれど建築用石材を出すを以て名高し。

**トメ　斗女**　信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に更級郡斗女鄕あり止米と註す。神鳳抄に信濃國富部御廚、田百五十町とある富部、また源平盛衰記壽永二年の條に見ゆる富部はいづれも此地なるべく、その地或はいま篠ノ井町・川柳村・信里村の邊に當るか。

**トメ　登米**

【登米郡】 宮城縣二市十六郡の一。陸前國の一部にて、縣の北東部を占め、東は本吉郡、南は桃生郡・遠田郡、西は栗原郡、北は岩手縣東磐井・西磐井兩郡に接す。面積四六七方粁餘。北上川は中部を南に貫流して郡を略東西の二部に分つ。東部は北上山地の南部に屬し高度二百米程度の臺地狀山地をなし二又川東北より西南に流れて北上川に合す。河谷は階層線にてその南部は謂はゆる志津川地塊に屬す。西部は仙臺平野の東北部に當り北上川の支流迫川西北方栗原郡より來り、西南・東南の方向に彎曲蛇行し、北部は謂はゆる迫川低地帶、南部は大谷地低地帶をなし、西境には低き丘陵ありて伊豆沼・長沼・蛤蟹沼、西南境には平潟沼・大貝沼その他の沼湖多し。低地には水田多く米產に富み、そのほか麥・白菜・大豆・馬鈴薯をも產し、東北部米川村には煙草の特產あり。北上川沿岸には桑園ありて養蠶業行はる。東部の山地には森林・牧地あり、薪炭・馬等を產し、北上川右岸の淺水村には緬羊飼育せらる。北上川右岸の登米町、左岸の米谷町、迫川に沿ふ佐沼町は郡の中心都邑にて農產の集產地をなす。一關街道は北上川に沿ひて南北に通じ、登米街道は登米町より低地の中央を西北に迫川筋を上り、西部街道は佐沼町より東北方二又川筋を東し、本吉街道は米谷町より東方志津川町に至り、又西南部の佐沼街道は石巻別街道より岐れて佐沼町に達しいづれも自動車を通ず。省線東北本線は西北部を掠め新田・石越の二驛を置き、社線仙北鐵道は西方より來り佐沼町・石森町・米谷町・登米町等を繫ぐ。日本後紀延曆十八年紀に登米郡を以て小田郡に併す由見ゆ。然るに和名抄、拾芥抄共に二郡を並載するを見れば延曆十八年以後延喜以前に於てまた分立せしものなるべし。和名抄は登米・行方の二郡を管す。

【登米】 鳥取縣八頭郡にありし村。明治二十八年登米村・逢鄕村を廢しその區域を以て丹比村を建つ。

**トメガワ　戸米川村**　秋田縣羽後國河邊郡の西南隅。秋田市の東南約一六粁。東と北は蛇行北流する雄物川を境として稚平村・川添村と分かれ、南と西は由利郡に隣接す。面積約二八方粁。西・南兩部に丘陵地ありて東北方に傾斜し、東・北兩部の雄物川沿は平坦なる耕地地域をなすも、其他は高さ一〇〇米内外の臺地性丘陵にして森林廣し。米を主產し果實・蘭等を出し、また木炭・山菜の特產あり。道路は東部を南北に通じ、雄物川には水運の便あるも交通なほ便利ならず。本村は明治二十八年中川村の内大宇相川・女米木・戸賀澤を分割して置けるもの。

**トメサキ　留崎村**　[illegible]

**トメノコ　留之湖**　[illegible]

**トモ　土茂**　[illegible]

**トモ　鳥屋**　[illegible]

**トモ　友ケ島**　[illegible]

**トモ　鞆**　[illegible]

**トモ　伴村**　[illegible]

**トモエ　巴**

【已村】　[illegible]

**トモエダ　友枝村**　[illegible]

**トモウチ　友内山**　[illegible]

**トモエ　新・巴**

【新宮】　[illegible]

【新・宮】　[illegible]

**トモアイ　供合村**　[illegible]





[illegible]

三毛郷は西・南を主として北方に山を負ひ、東に二二の小字あり、中央に三毛村の字名あり、西に二つの谷を作る。一の谷筋は北谷に於て三つの谷を作る。二の谷筋は北谷に於て三毛郷中最多戸口を有する部落なる。本・東を主し副業用水に依る農業行はれて麻を出す。他に林産物・鉱物・鉄・銅・鉛等の産出多く、特に鉄は日給の労働者を雇ひ、年産一〇〇〇本内外の産額を示す。主産物は米・麻・麦・豆・粟・蕎麦・大豆・小豆・甘藷・蒟蒻・茶・柿・栗・胡桃・蜜柑・柚・柑・橙・梨・桃・葡萄・林檎・柳・杉・檜・松・楢・樫・栗・桜・楓・竹・笹・藤・蔦・蕨・蕗・蒲・蓮・蓼・蕗・蕨・蒲・蓮・蓼・蕗・蕨・蒲・蓮・蓼・蕗・蕨

日産として門に達して交流。本宗高野の聖刹と云ふ。本寺は寺内に「本願寺・本願寺」と共に管理に於ける一重鎮たり。

**トヤモン　社門**　地大和地方柏原市の大字。西港駅線の社門駅（昭和五年設置）を置く。

**トヤモン　國門**

【國門村】→[illegible]

【國門江】豆[illegible]江の別称。

**トヤ　鳥居**

【鳥居村】静岡県川根郡井久保の南部。東南は愛知県中部谷々郷村に、西南は足助郷三ヶ所村に境接する。面積三九・五六方粁にて本郡第一の大村。南部に竹原山（一〇六〇米）あり山頂深く、東北部に鳥居山（一〇六七米）あり山頂深く、北部に鳥居山（一〇六〇米）を出す。南部は東北部には三方より来る谷を集め、南部は東北部には三方より来る谷を集め、東北部は東北部に鳥居山を出す。

【鳥居】静岡県安倍郡安倍村の一部。明治三十九年本村は分三村を合して大谷村を造る。

**トヤカサキ　鳥谷ヶ崎**　美石郡の一郡（大正四年設置）岩手県花巻市町にあり。

**トヤサキ　鳥矢崎村**　宮城県桃生郡鳴瀬村の東部。不規則な三角形の地域を占めて北方約一〇粁。不規則な三角形の地域を占めて北方約一〇粁。西南は[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほか、宮山盤道・鶴巻盤道・宮浜盤道・
鎌中盤道を市道に昇格させて路線を新設。
この他にも宮山盤道・高松盤道・
鶴巻盤道・宮浜盤道を市道に昇格させて山田町
鶴巻と千貫との交通を便ずる。港上には水木港
鶴巻より小鶴・鶴巻・大浜及び鶴鶴の各山・
宮山・鶴浜及び鶴鶴間に定期航路
を開設。〔航路〕本港に定期航路
は

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西谷には石動家・谷山家の宅跡伝る。東谷の南麓には西は今川・早川村の中間にて、庄川・新湯川・今川・今泉川・早川村の中間にて、庄川・新湯川・今泉川・今泉川の流域に位し、東は庄川の西岸に接し、南は庄

くは和名抄、多賀郡作倉郷の内とす。ふ
と訓読と字訓とを併せ記したが、のちは現郡に改む。
倉井村に字東天神五千の間倉と唱ふる倉跡あり（倉庫集産地の意か）。

【倉間村】 千葉縣下安房國東内郡の北西端。小見川町の北西にて佐賀町を眞る東方約八粁。利根川下流の右岸にて北に東京灣に行方郡潮津村に接し、東に長尾村に接し、南に新川を隔てて北に東京灣に行方郡潮津村に接し、西に長尾村に接し、北は利根川下流の水路にて

り、宮士川の西岸に沿ふ。今町の西南に僅か宮士川の西岸に沿ふ。今町の西南に僅かに接して西入代新大河内村と相對し、西南は宮士川を隔てて西入代新大河内村に接し、西南は鈴岡村・中山・久米・小泉・新・明倫工業・日新・明倫・明倫工業・日新・明倫・明倫工業・日新・明倫

く。全村三百五戸中二八七戸は農業に従事し来（五人三〇〇石）と主産す。人口六六四人。交通は本郡内の他村に通ずる上野原街道に出る。郵便局は上野原郵便局に属す。

【豊川村】　山形県南村田郡の西部に位し、小国谷の西方約八粁の地点。西は小国本村と小国川を挟み、南・東は村田郡高畠町の一部に接し、北は南・中郡川村に隣接す。面積は約五百五十町歩。中郡川村に隣接す。地形は概ね平坦、北に高畑・高畑の丘陵あり、東は上川の支流白川の山谷に位して、地は山地なし。南西端に田ノ谷（六八九尺）・大倉山（八六七尺）あり、白川は中郡川村より来りて北流し、村内の流域は約二千間、本村の東北端に石油山、二の麓に石油・土屋骨山、後一者には石油山、二の麓に油田（約二千坪）、本村東部に鷲山の一部あり。大正五年石油試掘（豊川村鷲山）を行ひ、昭和十年現在に至る。（小倉豊川鷲山）交通は、鷲山・土屋骨山に関して、西鷲山は豊川村、一部は金足村の境界により、南西は石油山に接し、北は高畑に接し、東は高畑

を藏す。御詠歌「おもくともつみには のりの勝尾寺佛を組む身こそやすけれ」

【豐川村】 島根縣石見國美濃郡の中部。益田町の東に隣り、南は匹見川を隔てて鹿足郡日原村と相對す。高度二百乃至五百米の丘陵性山地ありて村内殆ど山地をなし、南境を高津川の一上支匹見川西流するも沿岸は低地に乏しく、北部を西北に流るる益田川の沿岸に僅に低地ありて耕地開け米・粟を産し、また木材・薪炭を出す。街道は益田川沿ひに走り益田町にバス通ず。

【豐川村】 熊本縣肥後國下益城郡の西南部。八代灣の東北隅に臨み、松橋町の南に隣り、南は八代郡和鹿島村に接す。村内土地平坦、砂川は南部を西北に流れ、中部にも小川あるも灌漑の便よろしからず。八代灣に臨む諸町村は概ね水田耕作をなすも本村は畑地多く特異の景觀を呈す。省線鹿兒島本線は東北部を横ぎり、街道は中部を南北に走り松橋町にバスを通ず。

【豐川村】 大分縣豐前國宇佐郡の中部。驛館川に跨り西北は四日市町に接し、東北に近く宇佐町あり。西南境に石山（五四〇米）聳えて山脚西境を北に延び、東南部には和何山（三二七米）あり。驛館川は南隣麻川村より來りて中央を北に貫流し、村の中部以北は豐前平野の東南部に當り土地低平にして田畑よく拓く。米・麥を産し副業に養蚕行はれて繭を出す。大分街道北境を横ぎり、中央には南北に貫く道路もありて各バスを通じ、また社線豐州鐵道線四日市町より南下して新豐川驛（大正三年開業）・拜田驛（大正四年開業）を設け、交通便利なり。古くは和名抄、宇佐郡垣田郷の地なるべし。大宇拜田花立池畔に神武天皇の古蹟一柱鳥宮あり。

**トヨキ** 豐木村 岐阜縣美濃國揖斐郡の東南部。南は大野町に接し、揖斐町を眺ること東方約四粁。面積約六方粁の小村なるも西濃平野の北端部に當り、北部に高さ三〇〇米内外の山地ある外は概ね平坦にして西南部には田、東南部には畑地よく拓け米・麥を産し、また楠の特産もあり。發電榮えて繭の産少からず。社線谷汲鐵道東南部を掠めて豐木驛（大正十五年開業）を置く。縣道また之に並行して南北に通じバスの便あり。この地は和名抄、大野郡明見郷の内か。慶長年中より寛永九年まで織田長則一萬石の領地なりしが、元禄元年、大垣城主戸田家の支封となりて陣屋を置かれ明治維新に至る。村内に野村藩の典學寮、濟美館を改めしもの）ありき、文久三年戸田氏良の創立せるものなり。

**トヨキタ** 豐北村 樺太豐榮支廳豐原郡の東部。豐原市の北に隣り、北は榮濱郡落合町に、東は同榮濱村に接す。西部には樺太山脈の前山なる三百乃至四百米の山地連亙し、多古惠嶽（六九一米）聳え、東部には鈴谷山脈の脊梁南北に走りて鈴谷嶽（一〇四六米）・亞南嶽（九五四米）を起す。西部山地の西隣川上村に發する鈴谷川は中部六宇小沼より南に流路を變じ、支流晴氣川は東部山地に發しその山麓を繞うて南流す。内淵川の一支多古惠川は多古惠嶽及び中部の小沼平原より發源して北流す。この鈴谷川・多古惠川流域は所謂南中央低地帶に當り、主として粘土・砂礫より成り泥炭層は甚だ薄し。かく中部は土地低平なるも、中央大宇小沼附近はやや高く平原狀をなし、鈴谷・多古惠兩川の小分水嶺をなす。中央の低地帶は土地豐饒にして農牧に適し、良好なる所は既に開墾され、大宇小沼には樺立中央試驗所ありて農畜産・林産・水産等の研究を行ひ、樺太に於ける産業の核心地をなす。なほ近年急激に發電榮進す。特産に白樺綱工・蕗薹・山女漬等あり。廉鐵道東海岸線は中部の鈴谷山脈の麓を繞うて南北に通じ、南小沼驛（昭和十一年設置）・草野驛・小沼驛・富岡驛・深雪驛（以上明治四十四年設置）を置き、小沼驛よりは川上線を分ち川上驛・奥川上驛（共に大正三年設置）を置き、更に豐濃線は西南部を走り鈴谷驛（昭和三年設置）を置く。なほ豐原市に接し交通便利なり。此地は明治三十九年六月大畑某一家の移住に始るといふ。鈴谷川の上流流域に川上鑛泉あり。また小沼平原には露國人の丸（太小屋等あり、この平原の夕陽の美觀は夙に知られ樺太十景中の第一と云はる。（川上鑛泉）鈴谷川の上流流域にあり。アルカリ性食鹽泉、加熱浴用。療發向として知らる。川の對岸に川上線の川上温泉驛ありて交通便利なり。

**トヨクニ** 豐國

【豐國】 遠江國（靜岡縣）の古地名。和名抄、磐田郡豐國郷あり、その地今の磐田郡見付町・中泉町の邊なるべし。

【豐國】 愛知縣碧豆郡にありし村。明治三十九年他の一箇村と共に廢し豐坂村を置く。

【豐國】 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年他の三箇村と共に廢し扶桑村を置く。

【豐國村】 滋賀縣近江國愛知郡の西部。愛知川右岸に位し、西北は愛知川町に接し、西は川を隔てて紳崎郡北五箇莊村と界す。面積四・七方粁に過ぎざるも湖東平野の中央部に位し土地低平にて水利よく米・麥・飼肥用作物・桑葉・菜種・茶等の農産物を出す。社線近江鐵道の愛知川驛（愛知川町）・五箇莊驛（北五箇莊村）にも近し。もと當地一圓を大國庄と稱したれば、氏神豐滿神の豐と庄名の國とを採りて豐國村となす。（豐滿神社）大宇豐滿に鎮座。郷社。祭神、足仲彦命・息長足姫命・譽田別命。舊高野郷豐滿國に鎮座ありしを、安和二年、勅設によりて現地に遷座あり、歴世朝廷の尊崇淺からず、時に三條天皇の御代には正一位に叙せられ勅願所に定められる。爾來源氏朝を初め諸武將の崇敬甚だ厚かりき。例祭、四月十一日。

【豐國村】 岡山縣美作國勝田郡の東部。西は勝間田町に、北は吉野村に接し、東は吉野川の支流梶並川を以て英田郡楢原村と界す。面積一一・五八方粁。西北部はやや高きもその他は概ね平坦にして、南部の梶並川沿ひと中部南北には耕地よく拓け、その中間は臺地狀にして林野多し。出雲街道村心を東西に貫きてバスを通じ、省線姫新線の勝間田驛にも近く交通不便ならず。米・麥・繭・果實の産あり。（三星城）大宇別見に城址あり。平安時代の末期、土豪後藤兵寛の築けるもの。延元四年後藤康基の時山名時氏に攻められて陣り、爾後世襲せしが、天正年間宇喜多秀家に滅されて城廢す。（豐國神社）大宇北山に鎮座。郷社。祭神、高於迦美神・闇於加美神・水分神。往古は大宇豐國原に鎮座し郷中の總鎮守たりしが、正和年中霖雨のため社殿流失せしにより現地に遷座あり、近郷の諸武將の崇敬厚く社領百石を有せり。例祭、十一月三日。

【豐國】 美作國（岡山縣）の古地名。和名抄に勝田郡豐國郷あり、その地今の勝田郡豐國村の地に當る。

【豐國】 大隅國（鹿兒島縣）の古地名。和名抄に桑原郡豐國郷あり、その地今詳ならざるも姶良郡隼人町の邊か。

**トヨクラ** 豐椋村 滋賀縣近江國愛知郡の西南部。西南神崎郡八日市町との間に同郡御園・建部二村を隔つ。近江盆地の湖東平野の中部にあり。東南部はやや高き丘陵狀をなすも他は一面水田をなし、西南境を愛知川北西に流る。米・麥を産し、外に菜種・蔬菜類を出し特産物に牛蒡・西瓜あり。街道は中部を走り交通不便ならず。人口は大正九年三〇七五人、同十四年二九六八人、昭和五年二九一二人、同十年二八七五人と逐年減少するも、昭和十年の一方粁密度は四三八人にて全國平均の一八一人に比し遙かに多く、人口稠密地域たり。

**トヨコロ** 豐頃村 北海道十勝支廳十勝國中川郡の東南部。十勝川下流の沿岸、帶廣市の東南方にて池田町の南に隣り、東と南は十勝郡と界す。面積三五四方粁。北部より東南には十勝川氾濫原の大湿地あり、西南半部は概ね牛首別・ノヤウシ川流域の丘陵性山地にて川筋に幅狹き低地あり。馬・蔬菜・米・馬鈴薯・大豆・木材を産す。省線根室本線十勝川氾濫原と東北丘陵の界に通じ十弗・豐頃の二驛（前者は明治四十四年、後者は同三十七年設置）を置く。道路は氾濫原の西南側に通じ大津村行のバス通ず。本村は十勝川舟運の便ありしを以て比較的和人の居住古く、明治二十五年越中團體二十名下牛首別に移住し、また同三十一年二宮豐眞鳳鳥縣より百六十戸を引率し來り開墾益々發展せり。

**トヨサカ** 豐坂村 愛知縣三河國碧豆郡の東部。岡崎市の南約二・五粁。東は額田郡福岡町・幸田村に接し、南方渥美灣との間には碧豆町を挾む。西南境には茶臼山（二九一米）、西北境には萬燈山あり、域内概ね一〇〇—二〇〇米の丘陵性山地連亙し、東部には低濕地ありて水田となる。米・麥・繭を産する外に綿物を出す。縣道平坂街道は中部をほぼ東西に走りバスを通ず。この地は夏目吉信二郎右衛門の砦のありし處。明治三十九年松坂村・豐國村を廢し本村を置く。（熊美天神社）大宇須美に鎮座。郷座。祭神建速須佐之男命。天武天皇御宇の勧請と傳ふれども詳かならず。もと天王社といひ、江戸時代朱印領二石を有せり。古來附近五箇村の産土神たり。例祭、十月十日。（專光寺）大宇野場にあり。淨宗本願寺派。親鸞の弟子專慧の開創に係る。專慧は初め加藤左衛門唯重と稱し世々源氏に祿を禁けしが、その女及び碧軍親家の冥福を祈りて僧となる。

**トヨサカ** 豐榮

【豐榮村】 千葉縣下總國匝瑳郡の西部。東は八日市場町に隣り、西北は香取郡日吉村・吉田村と界す。面積八方粁に近く、中・北部は低地・臺地にて森林あり。その中間と南部には低地あり田・畑拓く。米・繭・麥を産し、養鶏行はる。縣道南部を横ぎり社線成田鐵道は中部をほぼ南北に走りて大宇飯倉に豐榮驛（大正十五年開業）を設け、また省線總武本線八日市場驛にも近く交通便なり。この地は和名抄、匝瑳郡石室郷の内にして、大宇飯倉は千葉系國にある飯倉七郎鳳貞の居りし處か。

【豐榮村】 千葉縣上總國長生郡の西部。茂原町の西南隣にて南は瀧南町に接す。面積一〇方粁餘。西南境より中部にかけては丘陵地ありて森林をなし、東南邊と北部には平地ありて田畑よく拓く。米を第一に麥・繭を産し、養鶏行はる。茂原・瀧南間の縣道に當りバスを通じ、省線房總東線茂原驛に起り社線南總鐵道これと略並行して須田・米滝・豐榮・千田の四驛（米滝は昭和七年、其他は同五年開業）を設け交通便なり。此地は和名抄、長柄郡車持郷の内にして中古長南莊に屬す。大宇千田は桓武平氏、千葉氏の族、この地に千田氏を稱す。（稱念寺）大宇千田にあり。浄土宗。唐竺山。下總國生實大嚴寺末。德治二年遊行第二世他阿眞教の開創に係る。中興唯譽雲嚴の時より現宗を奉じ、明治十五年大本寺裕樹林に準ぜらる。

【豐榮村】 長野縣信濃國埴科郡中部の東偏。松代町の東南に近く、北は東條村、西は西條村に隣接し、東北は上高井郡保科村、東南は小縣郡と界す。面積二一方粁餘あるも東境に聳ゆる保基谷岳（一五

に（一九六六）・明切山（一一一五七米）の西南麓面に流る。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨサキ** 豊崎・豊岬

【豊崎村】字豊崎西麓三戸郡の東北部。五戸町の東南に隣り、八戸市の西方約一里。

【豊岬村】字豊崎西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨサワ** 豊沢

【豊沢村】字豊沢西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨシ** 豊志

【豊志村】字豊志西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨシロ** 豊城

【豊城村】字豊城西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨスエ** 豊末

【豊末村】字豊末西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨタ** 豊田

【豊田村】字豊田西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨタキ** 豊滝

【豊滝村】字豊滝西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨタケ** 豊竹

【豊竹村】字豊竹西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨタニ** 豊谷

【豊谷村】字豊谷西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨタマ** 豊玉

【豊玉村】字豊玉西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨツ** 豊津

【豊津村】字豊津西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨツカ** 豊塚

【豊塚村】字豊塚西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨツカワ** 豊塚川

【豊塚川村】字豊塚川西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨツキ** 豊月

【豊月村】字豊月西麓三戸郡の西南部。正十四年十二月大村・嶋元村を合併して豊受村となる。

**トヨツヒ** 豊津

【豊津村】字豊津

藥師寺と號し水内郡常盤郷にありしが、天正年中上杉景勝の臣市川新郎これを現地に移し、南室正舜和尚を開山とし現宗に改む。本尊に釋迦如來を安す。

【豐郷村】滋賀縣近江國犬上郡の西南部。彦根市の南方約八粁。南は愛知郡に隣接す。面積五六方粁餘の小村なるも御東平野の中部に位し全村土地平坦にして水利よく、田畑よく拓けて米・麥を產し繰肥用作物も多く、繭・桑葉・菜種・茶・綿織物をも產す。中山道に沿ひて聚落は街村型をなす。社線近江鐵道は中山道の東方を走り豐郷驛(明治三十二年開業)ありて交通便利なり。古くは和名抄、犬上郡安食郷に屬す。近江平野の中心を占め古くより開發され、特に中山道に沿へるを以て交通上重要なる地位にありたり。村名は町村制施行の際八箇村を合併し豐名を採つて豐郷村と名づけしもの。大字四十九院はもと僧行基の開基と傳ふる同名の寺あり、轉じて地名となれるもの。この寺は文和三年後光嚴天皇の行在所となりしことあり、その後眞宗大谷派となり喜念寺と改む。(安食城神社)大字安食西に鎮座。縣社。祭神、味耜高彦根神・道主貴神・天兒屋根神外十柱。創建年代沿革等詳ならざるも社記には敏達天皇の勅願所なりとも云ふ。延喜の制小社に列し當郡七座中の二座なり。古來、安食の庄の產土神にして、惟ふに此地に居住せし安食氏一族の共祖神を祀れるものか。安食氏は阿知使主より出づ、然るに當祭神に阿知使主の見えぬは怪とするところにて後考を俟つ。例祭、四月十六日。

**トヨジン** 豐地村 三重縣伊勢國一志郡の中部。松阪市の西北方約四粁。面積約一一方粁。西北部及び南部には二百米內外の山地あるも中部より東部にかけては低地開けて雲出川の支流之を東北流す。低地は水利よき沃野をなし米・麥の產多くまた畜產・蠶產・工產もあり。特產に鷄卵を出す。省線名松線の櫻現前驛(東隣豐田村內)に近く、また西隣中郷村より天白村の省線參宮線の六軍驛へのバス路線に當り交通便なり。古くは和名抄、壹志郡小川郷に屬せる地なり。大字一志は孝安天皇の皇兄天押帶日子命の裔壹志君の居りし處といひ、その裔は宿禰の姓を賜はり縣造郡司の要職にあり。明治四十一年まで當地藥師寺の隣接地に鎭座ありし櫻天神社は正しく一志氏の氏神たりしものなり。また此邊に古墳多し。(藥師寺)大字一志にあり。曹洞宗。一志氏の氏寺にして、その建立が一志氏の祖の居住と共に古く奈良朝時代にありしことは、近時附近より發掘せらるる古瓦によりて立證せられ、其伽藍の壯大壯麗なりしことは境內に殘存せる礎石を以て窺はる。本尊藥師如來立像(木造・鎌倉中期作)一軀は國寶。

**トヨシキ** 豐四季 千葉縣東葛飾郡にありし村。大正三年廢して千代田村に合併し、千代田村は大正十五年柏町と改稱す。

**トヨシゲ** 豐茂 愛媛縣喜多郡にありし村。大正十一年本村外一村を廢し大和村を置く。

**トヨシナ** 豐科町 長野縣信濃國南安曇郡の東部。松本市の西北約一〇粁。穂高町の南方約四粁、面積七・七方粁餘。松本平の略中央を占め土地平坦肥沃にして田畑よく拓く。米の產多く、養蠶行はる。糸魚川街道の要驛にして附近村落よりの農產物・蠶等の集散地にして製糸工場あり、生糸の產多し。省線大糸南線發貫し豐科驛(大正四年設置)・南豐科驛(大正十五年設置)を置き、東方省線篠ノ井線の田澤驛に近く、その間と、糸魚川街道にはバス通じ交通便なり。この地はもと相成興と稱し、小笠原氏の領地たり。舊郡役所のありし所にして、大正四年町制を施く。

**トヨシマ** 豐島村 秋田縣羽後國河邊郡の中部北偏。秋田市の東南方約一〇粁。東は和田町、南は川添村に接し、北は南秋田郡太平村に隣る。面積三七方粁餘。村のほぼ中部を雄物川の支流岩見川東より西に貫流し沿岸に平地あり、北半と南境部には高さ一〇〇米內外の丘陵地あり。米產最も多く、また蠶を產し、南北兩丘陵地には牧畜の行はるる所あり。羽州街道中部の平地を東西に通じ、省線奥羽本線の和田驛・四ツ小屋驛(西南隣四ツ小屋村內)にも近く交通不便ならず。この地は和名抄、秋田郡成相郷の內にして附近は戰國の頃豐島郡と私稱せられし地。大字戸島に豐島館址あり、傳によれば、畠山玄蕃常陸國より來りて築城し、その子豐島次郎重村と稱して此處を居城とす。(瀧誠寺)大字戸島にあり。曹洞宗。永祿元年の創建。開基は豐島玄蕃頭にして開山は體叟存辰和尚なり。寺內に觀音堂ありて三十三觀音を安置す。

**トヨシマ** 十余島村 茨城縣常陸國稻敷郡の東南部。利根川の北岸にあり。西は金江津村・大須賀村に隣り、東は霞ケ浦東南岸の本新島村に接し、南は川を隔てて千葉縣香取郡神崎町その他と相對す。利根・新利根二川中間の低濕地帶の一部にて殆ど水田・沼田より成る水郷なり。米を主產し他に麥を產す。土浦町より一は江戸崎町を經、一は古渡村を過ぎ阿波村にて合する縣道は更に南に走りて村の西部を貫き千葉縣香取郡神崎町に通じ、また利根川には水上交通竿船の便あり。この邊一帶は鯉の釣場として著はれ釣季には東京方面より出漁する者甚だ多し。(米山寺)曹洞宗。松鶴山と號す。開山は體嚴和尚、中興開山は別山良傳和尚、再中興開山は江山良岡和尚なり。

**トヨス** 豐洲 長野縣信濃國上高井郡の西北部。東と南は須坂町に接し、西は千曲川を境に上水內郡長沼村に對し、長野市の東北界を距る約四粁。面積八・五方粁餘あり。千曲川の支流松川北境を西流しその扇狀地の末端を占め、高度は三五〇米內外なるも土地概れ平坦なり。西南部には田地、その他は多く桑園にして蚕業盛に行はれ繭の產額最も多く、他に米・麥を出す。社線長野電鐵中部を縱に貫き、豐洲驛(大正十二年開業)あり。また谷街道東境を南北に通じ須坂町及び北隣小布施村へはバスの便あり。此地は和名抄、水內郡大島郷の內なり。



【豐洲村】岡山縣備前國邦窪郡の南部。西北は倉敷市の東北部に接し、東北は早島町、東は茶屋町と界す。面積僅に四・三五方粁なるも西北境に小丘阜を見る外は倉敷川の沖積にして土地低平肥沃、耕地よく拓けて米・麥・蘭を產し特產に藺あり。倉敷市・茶屋町間のバス路線に近く交通便なり。(帶江銅山)帶江銅山の南側形勝の地にあり。鬱蒼たる松林の中に本堂・大師堂・藥師堂その他の諸堂處ち散び、前方遙に兒島灣を望む。本尊十一面觀音は安產及び子授けの御利益顯著なりといひ婦人の參詣者多し。

**トヨズミ** 豐住村 千葉縣下總國印旛郡の北東部。安食町の東隣にて利根川の南岸にあり。對岸は茨城縣稻敷郡金江津村なり。面積一五方粁餘。西南部は丘陵地にてその間に畑地・桑畑を交へ、東半は低平にしてその南半に長沼あり。沿岸と北部利根川堤防の內側に水田あり。米・蘭を主產し、他に麥・鷄の產あり。縣道は安食町及び南方成田町に通じ、何れもバスの便あり。また利根川に水運の利便あり。この地は和名抄、墳生郡酢取郷の地なり。(常願寺)大字北羽鳥にあり。天台宗。北方山藥師院と號す。元和元年の創建に係り開山を秀堅法印とす。本尊に阿彌陀如來を安す。

**トヨタ** 豐田 山形縣羽前國西置賜郡の東南部。長井町の南に隣り、東は東置賜郡西南部に隣接す。面積一四方粁に近し。米澤盆地の西北部に續く長井盆地の東南部に位し、東部に低き丘陵ある外は概れ平坦にして最上川の上支松川東北部を略北流し、白川は西南部より中部を東北に流れ北部に於て合流して最上川となる。水田多く拓けて米を主產し、外に蘭・馬を產す。道路は東南部の大字今泉より北は長井町、東は宮內町、南は小松町、西は小國本村方面へ通じいづれもバスの便あり、省線長井線南北に通じて今泉・時庭二驛(大正三年設置)を設け、米坂東線は今泉驛にて接續し交通便利なり。

【豐田村】山形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西北約八粁。西は飽海郡東南部に隣接す。出羽丘陵の東斜面を占め、西境は高さ七〇〇米を示し東方に次第に傾斜す。曲川は北部及び西部山地の水を集めて東流し東部の日山(三二一米)の丘陵のために南折して南隣鮭川村に出で、また日山丘陵の東面には最上川の支流鮭川南流しその東岸に平地をつくりて水田拓く。物產は米を主とし蘭の產あり。村の西北部には西山牧場ありて牧馬行はる。東隣豐里村にある省線奥羽本線羽前豐里驛に近きも村內の交通はなほ便ならず。明治二十五年豐里村より大字庭月・曲川を分割して本村を置く。

【豐田村】富山縣越中國上新川郡の北西部。神通川の右岸に沿ひ西南部は富山市の北界に接し、西は神通川を境に婦負郡草島村に對す。面積五・六方粁餘の小村なるも土地平坦にして灌漑に富み、全村殆ど田地に拓かれ米を主產す。省線北陸本線東部を縱走して東岩瀬驛(明治四十一年設置)を置き、また中部を社線富岩鐵道南北に通じて城川原驛(大正十三年開業)を設け、西部に縣道ありて富山・東岩瀬町間に定期バス通じ、交通至便なり。古くは和名抄、新川郡石勢郷の內なるべく、延喜兵部省式の勢瀬驛も本村邊に求むべきか。近世は廣田郷の內とす。

【豐田村】岡山縣備前國赤磐郡の東南部。吉井川下流の右岸に沿ひ、西南は萬富村に、西北は小野田村・可眞村に接し、吉井川を隔てて和氣郡熊山村に對す。面積僅に六方粁餘。北部及び西南部に小山地あるも、その他は平坦にして耕地大いに拓け、米・麥・蘭・果實の產あり。縣道東部川邊に近く通じ、省線山陽本線萬富驛へバスの便ありて交通不便ならず。

【豐田村】岡山縣美作國勝田郡の北部。倉敷(英田郡林野町)の北方約一五粁。東は豐並村、西は北吉野村に接し、北は鳥取縣八頭郡智頭町と界す。南北に狹長にして面積約一五方粁。中國山脈の那岐山(一二二四〇米)・瀧山(一一九七米)の南面にして北半部には山地にて傾斜急なるも、南半部は津山盆地の東北部に連る平坦地をなして耕地よく拓く。米・蘭・麥・柿等を產す。津山市より智頭町に至る縣道南部を横ぎり、津山市へはバスを通じ交通不便ならず。和名抄に勝田郡廣岡郷といふは本村及び豐並村に當り、本村の大字に廣岡の名殘る。(諏訪神社)縣社。祭神、伊弉諾尊・須佐之男命・敏長戸邊神外三柱。三代實錄貞觀五年の條に神階敍位の事見え、もと那岐山の中腹に鎭座せしも中古に至りて岡山麓に奉遷し、大正四年に現社地に遷座せるものと云ふ。例祭、十月十五日。(圓泉寺)眞言宗大覺寺派。樂澤山と號す。寛治元年創建、開基を尊信法印とす。本尊に藥師如來を安す。

【豐田郡】廣島縣(安藝國)十六郡の一。三原市の西に接し、東は御調郡、東北は世羅郡に、西北は高田郡、西南は賀茂郡に隣接し、南には生口島・佐木島・大崎上・下島等ありて愛媛縣の諸島嶼と相對す。面積六五七・四二方粁。本郡は古來境界の紛亂甚しく吉名・木谷二村の如き

く米・大麦・小麦を産し、副業にビール醸造の産多し。石下町の出張所を置く。戸数一千四百余、人口五千五百余。

【豊田村】 新米市の東南方にあり、これと大宮村の一部を統合して今、東南は小山町と境す。面積約二二方許。鬼川は東境を、[illegible]川は西に流れ、全村土地平坦にして畑と田の部に別れ米を主産し、その他麦・豆・野菜等産物多し。戸数一千四百余、人口五千余。

【豊田村】 新米市の東南方にあり、一村落を統べ、東南は小山町と境す。面積約二二方許。鬼川は東境を、[illegible]川は西に流れ、全村土地平坦にして畑と田の部に別れ米を主産し、その他麦・豆・野菜等産物多し。戸数一千四百余、人口五千五百余。

【豊田村】 新米市の東南方にあり、これと大宮村の一部を統合して今、東南は小山町と境す。面積約二二方許。鬼

谷名は和名抄・倭名抄共に之を載せず。

【豊田】 豊田郡の一郷。大正十五年の二町村を以て成る。

【豊浦】 豊浦郡の一郷。大正十五年の一町を以て成る。

【豊井】 豊浦郡の一郷。大正十五年の一町を以て成る。

【豊田村】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊田・中村・豊浦・豊井・豊西・中ノ町の六村を合して豊田村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は中村・豊浦に接し、西は豊西・中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は中村に接す。

【豊浦】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊浦村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊田村に接し、西は豊西・中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は豊田村に接す。

【豊西】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊西村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊浦・豊井に接し、西は中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は豊田村に接す。

【豊中】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊中村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊浦・豊井に接し、西は豊西・中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は豊田村に接す。

【豊中ノ町】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊中ノ町と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊浦・豊井に接し、西は豊西・中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は豊田村に接す。

【豊西村】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊西村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊浦・豊井に接し、西は豊西・中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は豊田村に接す。

【豊西村】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊西村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊浦・豊井に接し、西は豊西・中ノ町に接し、南は中ノ町に接し、北は豊田村に接す。

【豊浦】 豊浦郡の一郷。明治三十九年、豊浦・豊井・豊西・中ノ町の四村を合して豊浦村と称し、豊浦郡の中央に位し、東は豊田村

| | 郡役所 | 郡役所 | 郡役所 | 郡役所 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 田中 | 中 | 牛谷 | 飯田 | |
| 農産物 | 三四、六六〇円 | 六六、〇四〇円 | 一、四四〇、〇六〇円 | 一〇、四〇〇円 | 一、五六六、七〇〇円 |
| 林産物 | 一 | 一、〇四〇円 | 一 | 一〇〇、〇六〇円 | 一〇〇、一〇〇円 |
| 工産物 | 一〇、一一〇円 | 一、四四〇円 | 一、四四〇、〇六〇円 | 一〇円 | 一、四四〇、一〇〇円 |
| 水産物 | 一〇〇、〇〇〇円 | 一、一〇〇円 | 一 | 一、一〇〇円 | 一〇〇、〇〇〇円 |
| 合計 | 一、五六六、七〇〇円 | 一、四四〇、一〇〇円 | 一、四四〇、一〇〇円 | 一、五六六、七〇〇円 | 一、五六六、七〇〇円 |

り、西へ流れて、一二に大谷川合中央を貫きて山地なる谷間に流れ、その谷間に流れ来る。

【郡役所】 郡役所は田中に置く。

【郡役所】 郡役所は中谷に置く。

【郡役所】 郡役所は牛谷に置く。

【郡役所】 郡役所は飯田に置く。

【合計】 合計は郡役所の所在地に合計する。

## 十三ヨリ——十四ヨリ

谷間に流れ、一二に大谷川合中央を貫きて山地なる谷間に流れ来る。

【郡役所】 郡役所は田中に置く。

【郡役所】 郡役所は中谷に置く。

【郡役所】 郡役所は牛谷に置く。

【郡役所】 郡役所は飯田に置く。

【合計】 合計は郡役所の所在地に合計する。

## 十三ヨリ——十四ヨリ



## 十三ヨリ

**十三ヨリ** 郡役所 郡役所は田中に置く。

**十三ヨリ** 郡役所 郡役所は中谷に置く。

**十三ヨリ** 郡役所 郡役所は牛谷に置く。

**十三ヨリ** 郡役所 郡役所は飯田に置く。

**十三ヨリ** 合計 合計は郡役所の所在地に合計する。

## 十三ヨリ——十四ヨリ

つ多数に発生せるは稀有なることなり。

**トヨミ** 豊図

【参考】 [illegible]

**トヨミ十ヅ** 豊浦

正十一年宮崎。

**トヨミナリ** 豊受村 千葉縣上総國山武郡の一村。大正十一年宮崎。

**トヨミヒカシ** 豊西東 山口縣豊浦郡にあり。明治三十一年[illegible]村と改称。

**トヨミフヒモ** 豊西下 山口縣豊浦郡にあり。大正三年下[illegible]村と改称。

**トヨミフナカ** 豊西中 山口縣豊浦郡にあり。明治四十三年安[illegible]村と改称。

**トヨノ** 豊能郡 大阪府七郡の一。摂津國の北西部を占め、土佐国北に接し、[illegible]川を境として大阪市の北部を[illegible]

**トヨノムラ** 豊村 [illegible]

**トヨハ** 豊場 [illegible]

**トヨハ——トヨ**

川・[illegible]・[illegible]・[illegible]

井鑛に平野東鑛を南北に連ね上原（大正十一年設置）・大原・參原（共に明治四十各年設置）・北參原（大正十二年設置）の十各鑛あり。參原鑛より西へ半町（大正十年設置）を隔て西方に至る原鑛八鑛を設ち、大石坦港へ約四二粁、鉱業人員二〇粁にて運ず。鉱石の東海岸線東北へ約三〇粁、南北二〇粁餘。東端には谷谷山嶺の主峰谷谷山（一〇〇六米）を初め峻峯山（一〇〇三米）等あり、之で西方に延び、西（七九三米）等あり、此等東西に亘る嶺は中央分水嶺にて、谷谷山嶺は西端山嶺に連なり、西端

[illegible]

[illegible]

[illegible]

**トヨフク　豊福村**　熊本縣鹿本郡下

益城郡の西南部、字土路不知火村の東南方約一粁。西は八代港東岸の野川村に接す。面積二一方粁餘。東手は筑山丘陵の北部にて東端にて約三一〇米を示す。西の北部に於て、（不知火村）、南方は八代町ノ小川町（南豊河江村）にも近く人代町ノ川町（本町河内）ノ八代の東南部を通じ、名称は兄弟本郷の意味なり。古くは和名抄、八代郡豊河郷の地にして、慶長元和年間八代の豊南郷と称せり。大字竹崎は多の区域に分れ、氏の一流なり。竹崎氏の居りし所。弘安の役に大功を樹てたる竹崎五郎兵衛季長（竹崎五位）も此地の人なり。明治三十五年（明治五位）も此地の人なり。明治三十五年（明治五位）も此地の人なり。明治三十五年（明治

小村。土地西南より東北に延び、東南・西北の兩境には高さ一〇〇米豪の丘陵の東端連亙するも中部は西南隣明治村の西南部より東北流する千代川の支流野坂川の流域にて土地平坦、概れ田地に拓かれ米・繭を產し、少額なれども畜產・工產あり。鳥取市へ近く交通不便ならず。古くは和名抄、高草郡野坂郷に屬せるものなるべし。

**トヨミズ　豐水村**　熊本縣肥後國玉名郡の南部。菊池川下流の左岸に沿ひ、北は高瀬町と鯛富村を隔て、南は大濱町、東は伊倉町に接す。面積僅に三・九九方粁の小村なれども菊池川三角洲の地を占むるを以て全村平坦にして一望沃野開け、田・畑みなし米・麥の產多く、他にまた工產・畜產もあり。東部には高瀬町より南下する道路走り、北方約一粁にして省線鹿兒島本線高瀬驛へバスの便あり。豊行天皇御西巡の礎當村に御立寄あらせらるとの傳說あり。當時は菊池川吐口の堆洲なりしものの如し。然るに近世加藤清正の高瀬川堀替工事により現今の如き川筋となり豐富なる美田を得るを得たり。江戸時代は肥後細川民の所領にして小田手水に屬し、伊倉會所の支配を受けたり。村名は村內を用水井手四通八達し、大川小川の水潤る豐富なりしより起りしものならん。

**トヨヤマ　豐山村**　愛知縣尾張國西春日井郡の東部。名古屋市の北約二・五粁。東は東春日井郡に隣る。尾張平野の中部に位し、海拔二〇米餘の平坦地にしてやや濕地ななす。米を多產する外に名古屋市に供給する蔬菜を栽培し、養鶏も盛なり。街道は東西・南北に通ずる二條ありてバス通ず。人口は逐年增加し昭和十年の人口は三七〇五人、一方粁密度は六〇〇人にして極めて稠密なり。本村は明治卅九年、青山・豐場の二箇村を廢して置けるもの。（常安寺）大字豐場にあり。曹洞宗。大永年中當地領主溝口富之助これを再興せり。本尊の釋迦・阿彌・迦葉の三體は、京都嵯峨の釋迦堂と同木同作なりといふ。

**トヨラ　豐浦**　【豐浦】　河內國（大阪府）の古地名。書紀仁德天皇の十八年大溝を掘りて上豐浦・下豐浦外二箇所の郊原を潤し水田を開き給ふ。和名抄、河內郡に豐浦郷あり、蓋しこの地なるべく、いま中河內郡枚岡村の大字に豐浦あり、古名を傳ふるものなるべし。

【豐浦津】　長門國（山口縣）の古地名。書紀・仲哀紀に天皇熊襲を征し給はんとて紀伊國穴門豐津宮より西征し給ひ、此の地に宮室を營み給ひ豐浦宮と云ふ。神功皇后も亦此處に至り給ふ。その地今下關市長府の海岸をいふ。

**トヨワ　豐和**　【豐和村】　千葉縣下總國香取郡の南部。南は匝瑳郡八日市場町との間に同郡匝瑳村を挾む。中部には高度百米以內の洪積層の臺地起伏し、臺地は岡析の度進み、東部・西部低地及び臺地間の各地には水田よく開け、米・麥の外に養蠶・養鶏も盛なり。縣道は東部を南北に通ずる二條場町及び北方小見川町にバス通ず。（龍尾寺）大字大寺にあり。新義眞言宗智山派。天竺山尊速院と號す。郡內屈指の古名刹にして、本尊釋迦如來は齊明天皇朝海中より出現せしものといふ。天智天皇朝堂字創立、中古類廢せしを行空法印中興す。

【豐和村】　山梨縣甲斐國西八代郡の西北部。富士川の左岸にて市川大門町の西南に近くその間に高田村の小村を隔て、西は川を挾みて南巨摩郡鰍澤町に對す。面積九方粁餘。村內既れ山地にしてただ富士川岸と東部の谷地に輻狹き平地あり。全村麻・桑の產を主とし、米・麥等の農作物あり。社線富士身延鐵道と縣道東部の谷地を北より南へ貫走し、前者は鰍澤黑澤驛（昭和二年開業）を置く。大字黑澤は富士川の東岸に位し、鰍澤町に對す。慶長年中幕府角倉了以をして富士川の通航を開かしめ、鰍澤・黑澤・青柳を三河津とし、鰍澤・黑澤に番所を置き、通航稅を徵收す。（宮澤寺）字黑澤にあり。日蓮宗。瀧上山と號す。永正元年身延山十二世日意上人、法弟日桂に命じてこれを創建せしむ。本寺は村內小宮澤不動瀧上にあり、山號これに因むといふ。



**トラ　斗羅面**　朝鮮黃海道信川郡の東南隅。郡色信川の東南東約一〇粁。南部海州郡との境には城岩山（四六八米）・屏風山（六一二米）・指南峠・天峰山（六二五米）等逶迤東北に向ひて低走するも、北境にも亦二〇〇—三〇〇米の丘陵逶迤し、城內また山勝ちにて、北部及び東部を流るる載寧江の一支箭灘川の沿岸に僅に平地拓く。產物は米・麥・豆・綿・煙草・蠶等。幹線道路の通ずるものなく交通不便なり。

**ドラゴン——湖**　↓日月潭（タンヂツ）（臺灣）

**トラック**　【トラック諸島 Truck Is.】　南洋廳カロリン群島中部の諸島。トラック支廳全部を占む。南北・東西共に最大六〇粁に亙る一大環礁に包圍され、その中に成る春・夏・秋・冬・月曜・火曜・水曜・金曜の八大島を始め數十の小嶼碁布す。その中水曜島（二三方粁）・春島（二二方粁）最も大にして、その總面積一三二方粁、いづれも玄武岩その他の火山岩より成り褶礁を繞らす。氣候は熱帶海洋性にして一年を通じて氣溫の差甚だ少く年平均二七度內外、雨量は他の南洋諸島に比してかなり少きも猶ほ年雨量二〇〇〇粍を越ゆ。島內には河川といふべきものの全くなく、專ら雨水を貯藏す。耕地面積（椰子林面積を含まず）は三三九ヘクタールにして住民の大部分は農業に從事すれどもさして活潑ならず。農產物の中にて主たるものは麵麭果（約四十八萬圓）・タロ芋（約四萬圓）・芭蕉（約三萬圓）等にして、その他甘藷・馬鈴薯及び蔬菜等を出すも何れも特記するに足らず、また農家副業として豚・山羊・牛・鶏・鷄等飼育せらるれども殆ど見るべきものなし。住民は南洋群島中最も智育低く淫風盛んなり。宗教は新教約翰教の三信を占む。この諸島は獨領時代には全く顧みられざりしも、我軍の占有當時はこの礁湖內が我が海軍全艦隊を入るるに足るといふ點と、全群島の中央部に位するとの關係より司令部民政部を置かれ、一時盛大たり。然し南洋廳のパラオに設置せられてよりは一列任支廳長を置く一小行政區に過ぎず。

【トラック支廳】　↓トラック諸島

**トラヒメ　虎姫村**　滋賀縣近江國東淺井郡の西南部。琵琶湖畔の竹生村の東に隣り、南は坂田郡神照村に接す。北部に虎姫山の小丘阜ある外は所謂近江盆地の一部にて地低平、姉川南部を西流し、南流し來る支流を合す。村內は姉川の沖積地にして水田よく開け、米を多產す。省線北陸本線は中部をほぼ南北に走り虎姫驛（明治三十五年設置）を置き、北國街道また西南部を過ぎ。（虎御前山）虎姫村に孤立する山。また虎姫山とも書く。田川その南麓を流れ、北國街道を隔てて東北に小谷山と相對す。小谷山は淺井氏三代の居城の地。元亀元年織田信長、淺井長政を小谷城に攻めしとき、この山に上り軍議を凝らし、後三年再び小谷を圍みしときも、此處に陣を築き、羽柴秀吉をしてこれを守らしむ。天正元年淺井長政を亡ぼせしときは子信忠をして此處を守らしむ。昔、せどらき長者の龍姫虎御前なるもの、小蛇を產みたるを恥ぢ、附近の池に投じて死せりとの傳說あり、地名はこれに由りて起るといふ。（玉泉寺）大字三川にあり。天台宗。柴先山。天元四年の開創と云ふ。良源（慈慧大師）生誕の地と稱し今良源の扁あり。寺寶の慈慧大師坐像一軀（木造）は鎌倉期の作に係り國寶。（五村別院）大字五村にあり。眞宗大谷派。本願寺教如故ありて法燈を弟准如に讓りてより、此地に來りて化導するや、鄕士大村刑部左衛門深くこれに歸して草庵を建てて飮す。のち宗風愈々興るに及び本堂建立を德川家康に請ふ。家康、日下部玄昌を普請奉行として堂舍を建立。慶長七年教如京都東六條に東本願寺を興すや當院を掛所となし五村御坊と稱するに至る。爾後堂塔の增修相繼ぎ、いま地方屈指の大伽藍たり。

**トラミ　東浪見村**　千葉縣上總國長生郡の東南部。一宮町の南、太東村の北に隣り、夷隅郡古澤村と界し、東は太平洋に臨む。面積九方粁餘。西境より南境にかけては丘陵地の東縁にて森林あり。東半は九十九里濱沿岸平地の南端を占め田・畑よく拓け米・麥を產し、養鶏・養蠶も行はる。殆總街道は丘陵の東側を縱走し、省線房總東線又これに沿ひ、中央部に東浪見驛（大正十四年設置）を置く。この地は和名抄、埴生郡埴生郷の內にして、里傳によれば往時日本武尊東征の際當海岸に上陸せられ、東方の波浪を望見して愛妃弟橘媛の危難に遇はれしを歎かれし所なるを以て東浪見の名生ぜりと。附近は海水浴場として知らる。（軍荼利堂）岩切にあり。法樂寺の所管にして軍荼利明王を本尊とす。創建年代詳かならざれど、一に行基菩薩の草創に係るといふ。本尊明王はもと天台宗の巨刹軍荼利山東浪見寺の本尊たりき。寺域廣闊、海拔八〇米の高丘にありて縹渺たる大洋に面し絕勝の地たり。

**トラン　都蘭庄**　臺灣臺東廳新港郡の南部。西境を海岸山脈走り、東は太平洋に面す。海岸山脈の山脚は城內に延亙して殆ど山地を成し、ただ海濱に僅に平地あるのみ。隨つて產業中見るべきものなく、米・甘藷・甘蔗等を其主產物とす。道路は臺東街より新港に通ずる自動車道路海岸に沿ひて通ずるのみなるも、當道路は平坦路なるを以て交通至便なり。都蘭は古く都鑒に作りしが昭和十二年現名に改む。

**トリ　鳥**　【鳥島】　東京府八丈支廳に屬し、青ヶ島の南方約二〇〇粁に位する小火山島。東西二・五粁、南北二粁、島周七粁。最高處は東部の旭山（三八七米）とす。無人島として長く遺棄され、明治十九年玉置某が阿呆鳥の潮毛採取の目的を以て百餘の人夫を移して以來定住者を見しも、同三十五年八月に大爆發を生じ中央火口丘なる子持山は殆んど破壞飛散し、千歲灣に顚せし民家は人畜と共に地下に葬られたり。この爆發の餘脈は今日にも及びそこここに沸々と熱泉を噴出す。かく全島青色を失ふの慘狀を呈せしも、今や山腹には再び雜草繁茂し三十餘の居住者ありて羽毛採取及び若干の耕作を行ふ。

【鳥島】　長崎縣南松浦郡福江島大瀨崎の西南三三浬。北緯三二度一五分、東經一二八度七分に位し三岩より成る。そのうち南岩最も大なり。洋中無人の孤島なるも長崎より琉球・臺灣に赴く航路に當る。

【鳥島】　沖繩縣の最北の島。德之島の西方三八浬、土噶喇列島の西南に當る鬱島火山帶の一火山島。二基の火山南北に鉛列して生ぜる雙子島にて北の礁黃岳（六九二米）を最高とし、明治三十六年大活動をなせしことにて知られ、南は二重の外輪山をめぐらし、その中央に城と稱する火口丘を有す。火口原には火山活動以前は人口七百に近き島村を形成し、礁貴の採取行はれたり。

【鳥島】　沖繩縣島尻郡の一小島。久米島の北方約二〇粁、或は津島とも呼ばれ、標高七七米の小火山島なり。

**トリアゲ　十里上峠・取上嶺**　茨城縣の北東端、多賀郡磯原町と高岡村の

境上に最高點を置く峠。東降すれば常磐線磯原駅に、西降すれば田村大畑に高至る。峠上より東面すれば太平洋の展望極めて良し。

**トリイ　鳥井村**　鳥根縣石見國安濃郡の北部。大田町の北、久手町の西に隣り、西は邇摩郡の静間村に接し、北は日本海に臨む。百米餘の丘陵起伏し東北部に延びて笠ヶ鼻の突出となる。低地は海岸及び丘陵間の谷地にありて耕地開く。本村は半農半漁の景觀をなし、米・繭を産し魚族も少からず。街道は海岸線に沿うて走り久手町にパス通ず。

**トリイ　鳥居**　【鳥居峠】　白根火山群と後間火山群との接合せる山稜に最高點(一三六二米)を置く峠。東降路は群馬縣吾妻郡嬬恋村に屬し、長野原方面に至り、西降路は長野縣小縣郡長村に屬し、碁に上田市に通ず。最高點の北東稜は的岩山・四阿山を經て白根山に續き、南東稜は小在池山・篠ノ塔山を經て後間山に達る。南西流する千曲川支流神流と東流する利根川支流吾妻川の分水嶺たり。峠上に石の鳥居と小祠あり、日本武尊と橘姫を祀り、吾妻櫻現と稱す。峠上よりの展望よし。近年この附近はスキー場として名高く、北西方の菅平は特に著名なり。冬季この峠をパスにて通行するスキーヤー多からず。

【鳥居峠】　宗城山東方外輪壁を乗越す峠。群馬縣勢多郡黒保根村と富士見村の境上に最高點(一三九三米)を置く。北西に降れば登滝湖(沼)を右に見て大沼南岸大洞に窮す。ここに宗城神社あり。南東に降れば遠く水沼乃至梨子饅泉方面に至る。峠上より北西面すれば、東方駒ヶ岳、西方地蔵岳(一六七三米)の中間に登滝湖・大沼を下瞰し、大沼の彼岸に磯部岳を望む。宗城山

【鳥居峠】　甲府市の北東方約一八粁に當る峠。山梨縣東山梨郡隊訪村と西保村の境上に最高點を置く。南東斜面より笛吹川支流琴川發して南東流し、路はこれに沿うて通ず。北西方に至る路は荒川上流を經て金峰山方面に通ず。

【鳥居村】　長野縣信濃國上水内郡の東部。千曲川の左岸に位し、長野市界を距る東北約一〇粁。南と東に北流する千曲川を境に上高井小布施村・下高井高丘村に、東北は下水内郡豊井村に接す。面積一〇方粁餘。北部と南部は傾斜緩かなる山地なるも戸隠山に發源する鳥居川西隅中郷村より率りて略中部を東南に流れ南境に於て千曲川と合しその沿岸に平地あり。田畑拓け、山地の傾斜面には桑園あり。蚕業を主生業とし麻の産多く、外に米・麥の農産あり。此線仮山鐵道通じ東南部の大字捷野に信州捷野駅(大正十年開業)を設け、縣道また千曲川に沿ひて走り交通不便ならず。この地は和名抄、水内郡中鳥郷の内なるべく、村内に小笠原清之の築きし大倉城址あり。

【鳥居峠・鳥居嶺】　長野縣西筑摩郡木曽村と楢川村の境上に最高點(一一九五米)を置く峠。北方に高遠山(一一四六三米)續き、南方に鎧神峠最高點(一二七七米)連る。永享三年の岡聖に依る中仙道の要所にして、東北降すれば犀川支流奈良井川流域に出で、南西すれば木曽川上流に至る。木曽路の東の關口に當る。いま省線中央本線はトンネルを穿ちて通じ、北麓に奈良井駅(楢川村)、南麓に藪原駅(木曽村)あり。峠の名は木曽の御岳(一説に諏訪)の遙拝所の鳥居ありしに因る。峠上よりは西方に御岳山、南方に木曽駒ヶ岳遠望し、東方には南アルプスの群山を望見し、近くは木曽・奈良井の渓谷を俯瞰す。峠上にその昔お助け茶屋ありしといへど今は無し。されど「雲雀より上にやすらふ峠哉」の芭蕉の句碑及び木曽山道沿革碑立ち、又森林鐵道敷所もあり。西南麓藪原部落にては傳説に名高きお六櫛の製造行はる。この峠中古に於ては交通の要路なりしかど歴史的にも名高し。尚ほこの峠の東西麓にて人文・景觀を著しく異にするは注意に値す。古く三代實録に縣坂上岑とあるは、此の峠を指せるものなりといふ。三代實録・元慶三年九月「令ず美濃信濃國(以ず縣坂上岑)為ず國堺」縣坂上岑、在ず美濃國恵奈郡與ず信濃國筑摩郡之間と

**トリイマツ　鳥居松村**　愛知縣尾張國東春日井郡の西部。庄内川の北岸にあり。名古屋市の東北約二・五粁。尾張平野の中部に位し、卑湿なる平坦地にして庄内川岸には堤防を築きその水害を防ぐ。一面水田をなし所々に蓮藕畑を交へるに過ぎず。養蚕も行はる。省線中央本線は北部を通じ大字和爾良に鳥居松駅(昭和二年設置)、大字松河戸に勝川駅(明治三十三年設置)を置く。この地は和名抄、山田郡志談郷の内なるべく、近世柏井庄と稱せし地。明治三十九年、小野村・和爾良村を廃し本村を置く。名古屋藩鳥羽港守備の際功績あり、明治の初めに草薙隊を編成して鳥居の警衛に力めし林金兵衛(贈従五位)は此地の出身者たり。

**トリイモト　鳥居本村**　滋賀縣近江國坂田郡の南部。彦根市の東に隣り、西北は米原町に、南は犬上郡芹谷村に接す。面積二七方粁餘。鈴鹿山脈北部の霊仙山(一〇八四米)の西麓東部に延びて高度六百米内外の山地をなし、西境にも佐和山の丘陵あり、その東側に低地あり琵琶湖岸に續く。農産に米・麻・桑葉・繰糸用作物・麦・茶・菜種等あり、山地に木材・薪炭を出す。中山道西部低地を通過し北國街道これより分岐して北方長濱方面に向ふ、いづれもバスを通じ省線東海道線彦根駅・米原駅にも近く交通便利なり。古くより交通の要地として發達し、昔の鳥籠駅址は大字小野の邊ならんといふ。後鳥羽院和歌所を置き給ふやこの地をその領とし給ふ。小野に小町塚と稱するものあり、丹後與作に「大津八町で八百負けう。小野の宿の小野塚で九十九文してやらるる」と見ゆ。村名は縣社山田神社の大鳥居あるに因るものなりと。佐和山は有名なる佐和山城のありし處。鳥籠山は一に床山に作る。壬申の亂に村國連男依等近江方の胡桑友足の軍を破りし所。文武紀・元年七月「男依等、討ず近江胡桑友足於鳥籠山」斬之」萬葉・四「近江路のとこの山なるいさや川げのこの頃は戀ひつつもあらん　岳本天皇」古今・東歌「犬上のとこの山なるいさや川いさとこたへよ吾が名もらすな」金葉「妻戀ふる鹿ぞ鳴くなる鶯のとこの山風身にやしむらん　三宮大進」(佐和山城址)佐和山(澤山)にあり。永正の頃より京極氏の支城たり。元亀二年二月、織田信長率りて、京極の家臣磯野員政をこの城に攻め員政出でて降る。信長、丹羽長秀に與へ次で明智光秀の有たり。天正十一年秀吉、堀秀政を封じ、次で十五年石田三成を封じ三成二十三萬石を領す。慶長五年九月、三成兵を美濃に出すや、その父昌成・兄重成等留守す。既にして三成の軍關ヶ原に敗れ、家康自ら勝となりて率り、田中吉政・鳥居正則等をして攻めしむ。城兵奮戦するものありて火を鉄つに及び、遂に落城し昌成以下一族悉く自殺す。翌六年二月、井伊直政に此地を賜ひしも水利の便あらざるを以て、同九年七月井伊直勝の時城地を彦根山に移し城廓す。

〔山田神社〕　大字宮田に鎮座。祭神、磐田別命・田心姫命・湍津姫命外二神。創祀年代詳ならざるも天平年間に再建の事あり。延喜の制小社に列せらる。例祭、五月二日。〔上品寺〕大字鳥居本にあり。真宗本願寺派。もと天台宗を奉ぜしが明暦二年真宗に改む。有名なる法界坊の釣鐘は本寺にあり。法界坊了海、明和六年江戸市中を勧進して鋳造せるものなり。〔春琳寺〕大字原にあり。真宗本願寺派。老谷山と號す。古へ天台宗にして犬上郡正法寺村正法寺来たりしが、天文の頃現宗に改む。〔專宗寺〕大字鳥居本にあり。真宗本願寺派。洞泉山と號す。聖徳太子三十七歳の自像を作りて近区橋畔方に奥ふ。時方出家して本寺を草創。のち現宗に改む。〔少林寺〕大字笹尾にあり。臨済宗妙心寺派。大慈山と號す。當國江國寺来。聖徳太子の開創と傳へ、初め天台宗たりしが正保三年損山再興して現宗に改む。國寶、觀世音菩薩立像(木造、藤原期作)一軀。

**トリウチ　鳥打村**　東京府伊豆國八丈島支廳の村。八丈島の西に近く浮ぶ小島の北半を占め、南は宇津木村に接す。面積一・六八方粁。大平山火山の西北斜面を占め、裾野は直に海波に洗はれて崖をなし、平坦地なく嶮岨の地を開きて畑(水田はなし)及び家屋を結び、断崖絶壁に桟道をかけて往来す。住民は漁業を主とし農業を副とす。漁業は黒潮に乗ばる豊かなる漁場に位置し鰹・鮪・飛魚・鰺・鯵・鮫等の廻游すること多し。農業は水田なく切替畑を主とし、麦・粟・稗等の雑穀を作るも近年は甘藷の栽培盛なり。なほ畜牛・羊・鶏も行はる。飲料水は全く天水に俟たざるを得ず。人口は大正九年一五三人、同十四年一五五人なりしも以後漸減し、昭和五年一三一人、同十年一〇五人となり、同十年の一方粁密度は六三人なり。

**トリカイ　取替河**　萬葉集に見ゆる川名。其地何れなるか詳ならず。或は大和國(奈良縣)添下郡(今生駒郡)鳥貝郷の富雄川なるべしといひ、或は筑後國(福岡縣)三潴郡鳥飼郷の地を流るる小川なるべしといふも定め難し。萬葉・一二「あらひ衣取替河の河淀のよどまむ心思ひかねつも」

**トリカイ　鳥養**　筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三潴郡鳥飼郷あり、いま久留米市に入れるも鳥飼村は郷名を傳ふるもの、郷域は筑後川の東岸、久留米市の西部より安武村の邊に當るか。

**トリカイ　鳥飼**　大阪府摂津國三島郡の東南部。淀川右岸に位し大阪市東淀川區との間に味生村を挾む。面積約六・七方粁。全村土地低平卑湿にして水田多し。米を主産し麦・菜種等の農産少からず、近時メリヤスの工産多し。淀川岸に沿ひて道路走り交通不便ならず。上古は延喜左馬寮式に見ゆる鳥飼牧のありし處。〔鳥森神社〕大字鳥飼西に鎮座。祭神、崇徳天皇・神功皇后・比賣大神。凡に石清水八幡宮の別宮として知られ、近世に入りては加藤・蜂須賀家の崇敬あり。例祭、十月一日。

【鳥飼】　福岡縣早良郡にありし村。大正

八年福岡市に編入す。

【鳥栖】 福岡縣三潴郡にありし村。大正六年久留米市に編入す。

**トリガクビ　鳥ケ首岬**　新潟縣中頸城郡西北端の岬。岬端は赤色の斷崖を成す。一に名立鼻といひ舊稱を江崎と呼ぶ。遠望すれば鷲首に似たるよりこの名ありと。

**トリカタ　鳥形山・鷄形山**　高知縣高岡郡長者村と別府村との境に起る山。標高一四六〇米、山體秩父古生層及び石灰岩より成る。北方に石鎚峠最高點・三方山続き、南方に矢筈峠最高點連る。

**トリカブト　鳥甲山**　越後山脈白根火山群に屬する一峯。長野縣下高井郡堺村に峙つ。標高二〇三八米。東麓は北流する信濃川の一支中津川に洗ばれ、之を隔てて笛場山(二一一四五米)と對峙し、南方脚下には東流して中津川に注ぐ雛魚川を下瞰し、遙に岩菅の連嶺を望見す。

**トリカミ　鳥上村**　島根縣雲國仁多郡の東端。斐伊川の水源地に位す。西は横田町に隣り、北は能義郡比田村、東より東南は鳥取縣日野郡阿毘縁・山上・多里の三村と界す。面積三九・五二方粁。東南境には八岐大蛇に關する傳說ある船通山(一一四三米)聳え、北境には玉峰山(八二〇米)の東嶺ありて北・東・南の三境を限り蔽ね山地なるも中央には斐伊川上源の谷地ありて西隣須田村の中央部に達りて一の盆地を形成す。米・用材・木炭・燃・牛馬等の產あり。また山を割りて土砂を流し砂鐵を採集す。省線木次線の出雲橫田驛(橫田村內)より能義郡廣瀨町方面への縣道西北部に通じてバスの便あり。大字竹崎より約三粁にして船通山の絕頂に達すべく六合目に鳥上瀧あり。頂上は眺望壮大にして島根半島・中海・宍道湖・簸川平野を指すを得。絕頂より南へ一〇〇米下れる處に有名なる樽の老樹あり。此山は記紀に見ゆる鳥髮山(一に鳥上峯)、この地方は簸の川上にて斐伊川の水源地なり。素戔嗚尊高天原よりここに降り、稻田姫を救ひて八岐大蛇を退治し、大蛇の尾端より靈劍を獲て天照大神に獻し給ふ。この靈劍は天叢雲劍にて三種の神器の一となり、後に草薙劍といふ。

**トリカワ　鳥川村**　鳥取縣岩代國信夫郡の略中央部。福島市の西南約四粁。面積七方粁餘。西南部は低き山地をなし、東北部は福島盆地の南部をなし南半には百米臺の丘陵あるも北半は土地平坦なり。荒川の分流北部を東流して阿武隈川に合す。全村水田・桑園多く、米・繭等を主とし、また麥・大豆等を產す。福島市より來る若松街道は北部を西方に通じ、西南方土湯村へはバスの便あり。大森鐵山の鐵區本村にも跨がり、金・銀を產す。この地は明治二十五年大森村の一部を以て新設す。〔下鳥渡供養石塔〕相定史蹟。鳥渡寺の背後の丘上にあり。高さ地上五尺九寸五分。輻四尺二寸、厚さ一尺二寸の安山岩質凝灰岩の石面を研磨し表面に彌陀三尊來迎佛を平肉彫に造顯せるものなり。左側に右志者爲悲母也平氏女敬白、右側に正嘉二年大才戊午九月廿八日と刻せり。鎌倉時代此地方に於ける彌陀來迎思想の表現を見るべき稀有のものに屬す。

**トリゴエ　鳥越**

【鳥越】 ↓東山見村(富山縣東礪波郡)

【鳥越村】 石川縣加賀國能美郡の東北部。石川郡鶴來町の南方、手取川中流左岸一帶の山地を占め、地南北に長く東は手取川によりて石川郡河內村・吉野谷村と界す。東南部には鷲走ヶ岳(一〇九七米)の北嶺南北に延び、西境には南方に大倉山(六五一米)、中部に火燈山(四八一米)、北部に湯原山(四八七米)等の山地連り、前者との間に手取川支流の谷をつくる。この川谷と、東境を北流する手取川沿ひに幅狹き平地ありて餅地拓け、米・繭等の農產物の外山林よりは薪炭を出す。東部の谷地を社線金名鐵道通じ加賀廣瀨・瀨木野・加賀河合・下野・上野・釜清水・下吉谷・西佐良・三ツ屋野・白山下の十驛(大正十五年開業)を置き、加賀廣瀨驛よりは對岸の金澤電軌の終點神社前驛に連る。近世隣接諸村と共に鳥越庄と稱せらる。末森合戰記に據れば天正十二年前田利家本村邊に攻め入りしを以て鳥越主(不詳)は後退し、その後一圓利家の領地となると。明治四十年別宮・河野・吉原の三村を廢し、その地域を以て本村を建つ。村內に三階瀧・總瀧・鷲巢瀧などあり。〔白山別宮神社〕大字別宮に鎭座。郷社。本社の祭神古より詳ならざるも天忍穗耳命・栲幡千々姫命と傳へられたるは尤も近きものの如し。當社は白山比咩神社の摂社として所謂白山七社の一にして、一條天皇永延二年始めて社を置かるる由社傳に見ゆ。源平盛衰記・安元二年の條下に「涌泉寺岡爭の時別宮佐羅中宮三社の宗徒急ぎ下りて一になる云々」と記しあるを以て、往古よりその如何に盛大なりしかを推知するに足る。例祭、九月十五日。

【鳥越峠】 琵琶湖畔長濱町の北東方約二〇粁、金糞ヶ岳(一二七一米)の南東鞍部を乘越す峠。最高點(一〇三四米)を岐阜縣揖斐郡坂內村と滋賀縣東淺井郡上草野村との境上に置く。東方に新穂峠最高點(九一八米)あり。北斜面より揖斐川上支廣瀨川發源して北東流す。

**トリサカ　鳥坂**

【鳥坂】 ↓鳥坂(河內)

【鳥坂峠】 八幡領市の東方約一〇粁。愛媛縣喜多郡南久米村に最高點を置く峠。北方の大洲町方面より南方の東宇和郡宇和町方面に至る交通路に當る。この峠に鳥坂城址あり。土佐の一條氏別府・長曾我部・宇都宮等と共にこの城を圍みし時城主村上吉豊急を河野通直に告ぐ。通直・毛利・小早川と共に來り援けしかば敵兵を退け得たり。





**トリサワ　鳥澤**　山梨縣北都留郡富士村の大字。中央本線の鳥澤驛(明治三十五年設置)を置く。

**トリシマ　鳥島**　↓鳥島(肥後)

**トリタ　鳥田**　肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に山本郡鳥田郷あり、訓を缺くもトリタと訓むべきならん。その地審かならざれども、いま鹿本郡吉松村の大字に豐田あり、昔鳥田に近し。或は此邊に鳥田郷を擬すべきか。尙後考を俟つ。

**トリデ　斗利出村**　茨城縣常陸國新治郡の西南部。土浦町の西北方にてその間に桑村・藤澤村を挾み、西北は筑波郡小田村と隣す。面積六・七方粁の小村なり。東境附近は臺地をなすも他は西南境を東南に流るる櫻川流域の平地にて水田をなし、米を主產し、他に麥の產あり。土浦・北條間の縣道通じてバスの便あり。また社線筑波鐵道の常陸藤澤驛(東隣藤澤村內)に近く交通便なり。村內に城主不詳の小田城址あり。村名斗利出は藤雲より出でしものといふ。〔法運寺〕大字高岡に鎭座。臨濟宗建長寺派。大雄山。復庵宗己此地に小庵を營みしが、後光嚴院大にその遺風を崇敬し給ひ、文和三年足利尊氏及び小田治久に命じて伽藍を造立せしめ宗己を開山たらしむ。境內の風光明媚、魚井の泉、雷鳴石等の奇石名泉あり。

**トリデ**　肥岩村　熊本縣肥後國菊池郡の中部西偏。隈府町の西に隣り、南は菊池川の上支迫間川によりて菊池村・加茂川村と界し、西は鹿本郡稻田村に隣る。面積八・九方粁餘に過ぎず。東北部は低き臺地にして南に緩く傾き畑地多く、南西部は迫間川に沿ふ平坦地にて田地よく拓く。米・繭・麥等を產す。西北方山鹿町より隈府を繫く縣道中部をほゞ東西に走りてバスを通ず。古くは和名抄、菊池郡水島郷の地とす。村內に古戰場ありて水島臺古戰場といふ。菊池城西面の天險にして、天授元年今川貞世了俊大軍を以て來攻せしが、菊池武朝年齡僅に十數歲、この城に據りて邀へ打ちてこれを撃破し了俊をして肥前方面に退却せしめたる古戰場とす。幕末尊攘の志士中津彦太郎(贈從五位)はこの地の人とす。

**トリデ　取手町**　茨城縣下總國北相馬郡の東南部。利根川の北岸。南方は川を隔てて千葉縣東葛飾郡我孫子町と相對す。面積僅に四・七方粁餘。西北部には低き臺地あるも、大部分低地にて米・麥を產し、その他奈良漬・綿織物(北總木綿)の產あり。また酢の名產地として知らる。陸前濱街道の一驛、利根川水運の河港として發達せしところ。省線常磐線取手驛(明治二十九年設置)あり。社線常總鐵道線ここより分岐し、縣道は東南は布川町へ、西北は水海道町に通じいづれもバスの便あり。交通上の一中心をなす。

**トリデコ　鷲子山**　八溝山脈の一峰。茨城縣那賀郡鷲子村と栃木縣那須郡馬頭町の境上に位し標高約四〇〇米。東麓を久慈川、西麓を都賀川いづれも南流す。古くは和名抄、相馬郡相馬郷の內とす。大鹿城址あり。天正年間、大鹿氏、常陸の小田天庵に屬すといふも、大鹿氏のこと他に見えず。町名取手は鷲にして藤しこれに因めるものか。明治十七年明治天皇女化原行幸の際此地にて御小休遊ばさる。〔東福寺〕栗原臺にあり。眞言宗高野派。明治年中新建の梵刹にして平本正志の開基たり。境內に大師堂あり。新四國相馬八十八ヶ所の一にして、第三十一番五佐五臺山の寫とす。〔長禪寺〕臨濟宗妙心寺派。大鹿山と號す。永平元年相馬小次郎平將門の開基と稱す。文曆中大鹿太郎左衞門尉綱都時平再興す。郡內屈指の名刹にして、境內光音堂に光音禪師の遺骨を納む。師は相馬雲場新四國八十八箇所を開きたる近世の名僧たり。〔念佛院〕片町にあり。淨土宗。大鹿山弘經寺に隸す。開基は染野藤左衞門にして、中世荒廢せしを眞譽隆鈞上人これを冷興す。境內に大師堂あり。新四國相馬八十八ヶ所の一にして第二番阿州祖樂寺の寫とす。〔弘經寺〕大字取手にあり。淨土宗。大鹿山。結城郡結城町、同郡豐岡村の弘經寺と共に下總三弘經寺と呼び、關東十八檀林の一。開山は嘆譽良肇、開基は大鹿氏。大鹿氏の菩提所。

**トリノコ**

**トリノミ　鳥海村**　岩手縣陸奥國二戸郡の東部。一戸町の西南に隣る。面積

八・七方粁餘。岩手火山群に屬しコニーデの山容をなす西岳(一〇一八米)の東北斜面に當り、北半は傾斜緩き裾野をなし數條の放射谷發達し、之に沿ひて集落あり。米・大豆・稗・麥・馬鈴薯・蕎麥・小豆・粟等の農産の外、薪炭・馬を出す。陸羽街道と省線東北本線とは東北部を掠め、後者の一戸驛(明治二十六年設置)は本村地籍内に置かる。村内の月館は南部信直の帶陣せし遺址にして鯖内坂は九戸政實が襲ひし古戰場たり。西方寺昆舍門には昆舍門天・地蔵菩薩の立像、阿彌陀如來の坐像あり。村名は一にチョーカイとも音讀す。

**トリハミ　鳥喰沼**　千葉縣山武郡東北部の沼。周圍約八粁、上總國第一の大池とす。所謂湯湖の跡にして水捷く品質良好なる鯛を多生す。

**トリベ　鳥部・鳥戸**　【鳥部・鳥戸】山城國(京都府)の古地名。三代實錄仁和三年五月の條に愛宕郡鳥部郷見え、和名抄には同郡鳥戸郷見ゆ。止利佛を註す。その地は愛宕郡の南端、東山と賀茂川との間にして八坂郷の南に位す。今京都市の東山區なる五條通以南にしてその東北部の地は古來鳥部山・鳥部野と稱し茶毘所及び墓所のありし處。【鳥部山】鳥部野とも稱し、鳥邊山にも作る。山城國(京都府)愛宕郡鳥戸郷の東北部にして貴紳を茶毘に附せし地なり。彼の御堂關白藤原道長の如きもこの地に於て茶毘に附せられたり。今も墓地ありて九條良經・後鳥羽天皇・石田梅岩をはじめとして心學の大家の墓、及び梅田雲濱等の墓あり。傳曰ふ、慶長三年豊臣秀吉の墳の阿彌陀峯上に設けらるゝや、その煙の阿彌陀峯を蔽ふを以て鳥部山の火葬を禁止せりと。薩州府志・一「鳥部山、今豊國山、両山頂曰ふ阿彌陀峰」。八代集抄・上「鳥部山は桓武天皇平安城に遷都の時、此の地を諸人の葬所に定めらる」とあり、また徒然草集說・上「鳥部山といふ事は、釋尊を茶毘し奉る所を鶴林といへば、それを日本にうつして鳥邊山といふなり」

**トリマツ　鳥松庄**　臺灣高雄州鳳山郡の中央北部。高雄市の東に接す。管内は概ね平地にして東北部に僅少の丘陵地帶を有するのみ。これ等平地は概ね二期作の水田にして、是が灌漑は主として大宇鳥松に近き大埤と稱する池水により、また附近なる一丘大埤山は、内外食品會社經營の農場を有して外國種鳳梨を栽培す。長くも昭和八年五月には高松宮殿下御台臨の光榮に浴せり。また大宇十九溝には臺灣鳳梨會社の鳳梨農場あり、其他山脚地帶には鳳梨園多く、郡下に於ては大樹庄に次ぐ鳳梨産地なり、交通狀態は本庄は高雄市に近きを以て便利良好なれども鐵道の本庄下を通過するものなく、其機關は專ら自動車に依る。本庄は清領當初は赤山莊の地にして、道光年間里と なし赤山里と稱せり。大正九年十月地方制度改正に際し、本里中の十庄(現大字)の地を割きて一庄を建て鳥松庄と稱す。

**トリノミノキ　鳥海柵**　町(岩手縣)　↓金ケ崎

**トリヤ　鳥屋村**　石川縣能登國鹿島郡の南部。七尾町の西南方、和倉町の南方に位し、各約八粁を距つ。面積一五方粁餘。西半は眉上山脈の一部をなし、東半は邑知潟地溝帶の東北部に當る平地なり。平地は肥沃にして田畑よく拓け、米の產多く發達を副業とす。また絹織物・人造絹糸織物・同交織等の機業盛んに行はる。省線七尾線は南部を横切り良川驛(明治三十四年設置)を置き、縣道西南・東北に走り、一線は之より分れて北方和倉町に至り、いづれもバスの便あり。古くは和名抄能登郡上日郷の内なるべし。大宇一青はもと庄名に呼ばれたり。〔鳥屋比古神社〕大宇利坂に鎮座。郷社。主祭神、鳥屋比古神。延喜式内の舊社。例祭、九月十日。〔山田寺〕大字良川にあり。眞言宗高野派。天平寶字元年泰澄法師の開創に係り、本尊は行基菩薩の機木を以て彫刻せる十一面觀世音なり。古へは十六の寺坊甍を聯べし巨刹たりしも、天正の兵火に罹りて昔日の觀を失ふ。

**トロエン　哆囉嗚**　阿里山線の一驛(大正七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡梨地哆囉嗚にあり。

**トロカワ　滝川山**　↓中國山脈の一峰。鳥取市の南東方約三〇粁。兵庫縣美方郡兎塚村・村岡町・小代村の一町二村境上に位し、標高一〇三九米。山麓郷石安山岩より成る。西南麓に鉢伏山(一二二一米)續く。北西方に扇ノ山(一三一〇米)を望見す。東麓を矢田川上流北流し、川に沿ひ山陰道通ず。西麓も矢田川上支に洗はれ、北方にて兩川合す。山腹には十石ヶ平・兎和野ヶ原等の良きスキーゲレンデあり中國地方にてのスキー場として知らる。山頂附近は雪質良く、又霧氷の美觀に接す。

**トロク　斗六**　【斗六郡】臺灣臺南州二市十郡の一。州の最北部に位置す。東は臺中州竹山郡に接し、西は臺南州虎尾郡及北港郡に、南は嘉義郡、北は濁水溪を隔てて臺中州北斗郡に各相隣接す。地勢は東部高くして西方に向ひ沃野展開す。主なる河川は濁水溪・清水溪・虎尾溪・石龜溪にして、濁水溪の支流たる清水溪は、郡の東部を南より北に流れ、本流に合して西折し、本郡と臺中州北斗郡との境をなす。虎尾溪は郡の中央部を、東部山地より入り來りて西南に向ひて進行し、同じく東部山地に發源し、本郡と嘉義郡との境を西流し來れる石龜溪と合して更に西南に向ひて進む。東部は一般に土地高きも、高山なく、本郡と臺中州竹山郡との境界に丘陵南北に横ほり、其餘勢西に向ひて傾斜す。本郡地方は、臺灣に於ても比較的氣





候温和にして、温度割合に低く、氣温は最高二七・七、最低一五・五度なり。郡總面積三〇・〇七一二方里にして行政上斗六街及び古坑・斗南・大埤・莿桐庄の一街四庄に分たれ、郡役所を斗六街に置く。本郡下に純然たる農村にして、農業は本郡下住民の生業をなし、隨て諸種産業中最盛なり。其主産とするところは、米・甘蔗・甘藷・落花生・豆類・蔬菜類にして、其他鳳梨・芭蕉・マンゴー・柑橘・龍眼、其他の果實生産十數萬圓に達す。また畜産は豚・水牛・黄牛・山羊・家禽等にして、年十萬圓の生産あり、主として本郡の畜産は、農家の副業として行はる。郡下の東部山地には、想思樹・ツツッ・娘刀木・麻栗等の造林あるも、原始林よりは、用材・竹材・薪炭材、其副産として生筍・乾筍を産し、其産額年四十萬圓に達す。水産は專ら淡水魚にして、養魚業貯水池、或は郡下を流るる河川より捕獲せられ、鯉魚・草魚・鯉魚・鰻等を主とす。工業の大宗をなすものは製糖業にして、郡下に大日本製糖會社の製糖所一、大和拓殖會社のもの二工場を有し、年三百萬圓を生産す。其他の主なる工業は酒醋及び精米・製氷・鳳梨・罐詰・製油等あるも製糖に比すれば其設備・生産價格に於て問題とするに足らず。交通は便利甚良好にして、鐵道は郡の中央部を東北部より西南に向け通過し、又道路に於ても郡の産業・經濟・政治上の中心地たる斗六街を起點として四通八達し、郡下に於て自動車の通ぜざる地方なし、又通信機關として斗六街・斗南庄には郵便局(三等)を設置す。

【斗六街】臺灣臺南州斗六郡の中央部より東北部にかけたる地區を占む。東は臺中州竹山郡に接し、西は斗南庄に、南は古坑庄に、北は莿桐庄に各相隣接す。管内東部には丘陵横ほりて土地高く西南に向ひて漸次低下し沃野展開す。河川の主なるものは、虎尾溪にして、街の中央部を東より西に流る。街下産業中最も盛なるは農業にして、是に從事する者戸數三七〇九、人口二一、三八三を占むる狀態なり。主要産物は米(一期作、二期作)・甘蔗・甘藷・落花生・豆類・蔬菜類、其他鳳梨・芭蕉・龍眼等の果實にして年産二百萬圓に達す。畜産は農家に於て副業的に營まるるものにして、養豚・畜牛・養鶏を主とし、また肉の他牛乳なも生産す。東部山地よりは、材木・竹材・薪炭材のほか生筍・乾筍を出す。工業に於て見るべきものは製糖業にして、本街には大日本製糖會社の工場及び大和拓殖會社製糖所を有し、年三百萬圓に達する製糖ななす。其他製氷・鳳梨罐詰・製油業等あるも製糖業に比べくもなし。本街は往時より産業・交通の要衝として開け、現在に於ても斗六郡役所其他の官公署・商店・會社等は凡て本庄に集まるを以て街勢活潑なり。隨つて諸種施設に於て他に勝る事大なり。また交通に於ても、斗六郡下の中心地をなし、縱貫鐵道の林内(明治四十年設置)・斗六(明治三十七年設置)の二驛は本街内にあり、道路に於ても本街より斗六郡下の各地に通ずる大小道路を派生し、自動車の運行甚だ盛なり。大宇斗六は其中心市街たり。本街の大部分は、清領當時康熙六十年代に建てられたる斗六門堡に屬せしが、後光緒末年斗六堡と改名せられたり。斗六堡は我が領臺後も其行政區劃の一として用ひられしが、大正九年十月地方制度改正に際し、廢止せられて、斗六街となりたり、大宇林内附近は既に鄭氏時代開墾の區となり、中部以南の地は康熙年代に入りて開け、康熙末年、吳英なる者大北勢・大潭・大嵩・九老潭を開き、次で雍正年間九芎林の地開かれたり。而して乾隆初年には斗六門街(先緒年間の斗六街、現大宇斗六)の肆街建設せらるるに到り、道光年間には、斗六縣丞(或は斗六門分縣か)の置かるるに到りて現斗六の基礎成れり。〔斗六神社〕大宇斗六にあり。祭神、大國魂命・大己貴命・少彦名命・能久親王。昭和十二年六月二十六日鎮座。

**トロク　外錄鎮**　↓岩戸村(宮崎縣西臼杵郡)

**トロクモン　斗六門街**　↓斗六街(臺灣)

**トロシ　取石村**　大阪府和泉國泉北郡の西部。堺市の南方約五粁。高石町の東、福泉町の西に隣り、面積僅に二・三四方粁の小村。和泉平野の東北部にて全村土地平坦にして菅田川北部を西流するも灌漑水豐富ならず、所々に溜池築造せらる。米・麥等の農産を出し、また大阪灣沿岸工業地帶の一部にして工産多く人口密度一・〇六一人を算す。東部に小栗街道、中部に社線阪和電鐵道とその阪和葛葉驛(南隣信太村内)及び高石町を通ずる社線南海鐵道の葛葉驛にも近く交通至便なり。古くは和名抄、大鳥郡日部郷に屬せしものか。續日本紀に神龜元年「車駕從紀伊、還到和泉國取石頓宮」とあり。取石頓宮のありし處。

**トロハッチョー　滝八丁**　指定名勝。和歌山縣東牟婁郡・奈良縣吉野郡三重縣南牟婁郡との郡界にあり。熊野川の一支北山川が紀伊山脈を横斷する際造りし蛇行谷の谷の一部にして渓谷美を以て知らる。卽ち大蔓ヶ原に發源する北山川横谷の下流田戸・玉置口間の峽谷を成せる部分を稱し、主としてホルンフェルスよりれる兩岸の絶壁は、屏風を立つる如く屹立し、奇岩怪石これに沿ひて横はり、河水は碧潭を成して水面鏡の如く滑かに、水は極めて清澄河底の石を數ふべく、その流れざるが如くにして極めて緩慢なる流を成せるは滝の名ある所以にして、此種景觀の代表的のものなり。潭の最も深き處は十五尋に達す。往古一瀑布ありて侵蝕作用の爲漸次退却したる遺跡

に屬し、上流所謂上潭の下潭及上潭と稱するものは其殘骸に他ならず。これ等斯屋の上方には天然林繁茂し、中にはさはら・つが・かうやまき・ひのき・もみつが・すぎ等の老樹を混生し、其他多數の常綠及落葉樹あり。崖上にはさつき極めて多く、四月より七月に至る間水底に映するの狀觀る美觀なり。幽邃と變美と兩趣に富める渓谷として他に類例少し。峡中には洞天門・中天門・後洞門を初めとして屏風岩・鳥帽子岩・天柱岩等あり、其の他滑龍窟・猿王潭・棗仙窟・仙遊洞等の奇勝數ふるに遑あらず。以上はこれを下潭と稱し、田戸以上約一粁にも下潭に劣らざる奇勝あり、これを上潭と稱す。觀光は熊野河口の新宮市よりプロペラー船(飛航艇)ありて新宮・潭・本宮の間を周航す。潭は地方にてはドロと稱す。

**ドロマチ　泥町**　山城伏見の遊廓の一町名。現今京都市伏見區。好色一代男「新枕とよみし伏見の里へ、……唐物屋の源平といふ小者をさそひ行に、東福寺の入相、程なくしもく町、こころざす所は愛也……見つくして又、泥町に行もなかし」

**トロロ　都呂々村**　熊本縣肥後國天草郡天草下島の西部。西は天草灘に臨み北は志岐村、南は下田村に隣る。面積二・二四方粁餘。南境には一連の山脈連り東南境に天竺(五三八米)あり。これ等山地は西北方に緩く傾斜し、北境を西北に海岸に延びる往復(五一八米)の山地との間に都呂々川の市浜き谷地あり。田畑よく拓けて米甘藷・蔬・麥・蔬菜・果實・粟等を產し其他鑛產・水產もあり。道路は海岸に沿ふものと都呂呂川谷を遡るものとありいづれもバスを通ず。古くは和名抄、天草郡志記郷の内なるべし。

**トワタ　十和田**

【十和田村】　青森縣陸奥國上北郡の西南部。三本木町の西に隣り、北西は東津軽郡及び南津軽郡に、西南は秋田縣鹿角郡に接す。面積約三大四五方粁の廣きに亙る。西南部に陷没カルデラ湖の十和田湖あり。本村はその東半部を占む。村の西北境には八甲田山(一五八五米)、西境には駒ヶ峯(一四一六米)・勝棚山(一〇一一米)、北境には黒森山(一〇二三米)、南境に戸來岳(一一五九米)あり全村火山岩によりて蔽はる。十和田湖の水は奥入瀬川となりて北東に流れ上流に峡谷あり。左岸に西北部山地より下る大鞍内川・黄瀬川・蔦川・中里川、右岸に南部山地に出づる惣逢川・生内川を合して東隣三本木町に出づ。渓流あり、瀧ありて美觀を呈し、殊に奥入瀬渓谷は渓谷美・山林美を具備し十和田湖と共に天下絶勝と稱せらる。八甲田山の東南麓には北より谷地温泉・猿倉温泉・蔦温泉等湧出す。蔦温泉は蔦川の渓谷に湧出する單純泉にして、大町桂月鈔焉の地としてその名高し。本村は十和田湖國立公園の地域に入り、夏秋の候には探勝者頗る多く、温泉及び湖畔には旅館あり。村の東部奥入瀬川畔には平地ありて耕地拓け米作行はれ、十和田湖には鱒鯽を產す。鐵道沿線より湖畔に達するには凡そ三道あり。一は東北本線三戸驛より、奥入瀬川に沿ひて遡む十和田道により湖のあ岸子ノ口に達するもの、二は青森驛より省營バスによりて南進し、八甲田山の西麓酸ヶ湯を經、蔦温泉を過ぎて燒山にて前者に合するもの、三は花輪線によりても毛馬内驛より省營バスに發荷峠を經て湖の南岸休屋に達するものなり。子ノ口・休屋間には省營バス及び湖上遊覽船の便あり。この地は法量・奥瀬・澤田の三村を合し法奥澤村と稱せしが、昭和六年、十和田湖により十和田村と改稱す。大字奥瀬・法量は十和田國立公園の内。十和田湖及び奥入瀬渓流は本村及び秋田縣鹿角郡七滝村にあり、名勝天然記念物に指定さる。(蔦温泉)奥入瀬川の一支蔦川の渓谷に湧出。泉質、単純泉。大町桂月愛著の地として知られ、またその終焉の地となり、驛の附近にその墓あり。附近に沼多く、蔦十沼と稱せられ、中にも蔦沼最も大なり。

【十和田湖】　青森・秋田二縣に跨り、八甲田火山群の南に位す。湖岸は青森縣上北郡十和田村及び秋田縣鹿角郡七滝村に亙る。水面は海拔四〇一米、輪郭方形に近く、東西約一〇粁、南北約八粁、湖岸線延長四六・二粁、面積約六〇方粁、全國湖沼中第十三位の大湖なり。最大水深三四八米にて、田澤・支笏の二湖に次ぎ全國第三位、水温は表面夏季二二・三度、冬季零度、深層に於ては一年を通じ五度を示す。水色は極めて美麗なる藍色を呈し、透視度一八米、フォーレル氏三號色に相當し、我國湖沼中、田澤湖につぎて透明なり。湖の成因は蓋し舊火山の頂部が一部陷落し一部爆發し舊火山の大部を失ひたる結果として生ぜし謂はゆる陷没カルデラに屬するものの如し。湖の北岸御花部山及び西岸鉛山方面に數段の階段あるは其陷落作用のありしことを示す。湖の最中心に御門石の礁あるは陷没爆發より免れたる遺址なるが如し。湖の周圍は高さ八百米内外の青磐絶峯を以て包圍せられ子之口の一角破れて奥入瀬の火口瀬を成す。南岸には御倉半島及び中山半島の二大突角あり其中間を中湖、御倉半島の東を東湖、中山半島の西を西湖といふ。中湖は十和田湖中に新に噴出したる中湖火山の火口址にして御倉半島の其東半部、中山半島は其西半部を代表す。御倉半島の千丈幕は東部火口壁にて中湖の火山内部の構造を示し、御倉山は後に火口壁土に噴起したる熔岩岩丘なり。中山半島の水中に沒するところは奇岩怪礁相連なり老松舊苔其上に簇生し風光頗る明媚なり。岩礁の主なるものを惠比壽島・兜島・鏡島・茶茵島・六方石とし就れも柱狀・弧面狀等の節理ある中湖熔岩より





構成せらる。湖邊一帶の山岳は落葉闊葉樹より成り林下植物と共に種類の餘多なる正に東西一帶の山地產を棚縣せる觀あり。就中著しきは中湖・外湖等の屹立せる岸邊に於ける蘚苔其他の美麗なる水際植物群落にして水位の昇降に變化せざるにより常に水際を裝飾し影を碧潭に映したり。水深は三四八米なるもなほ湖岸より水面に至る高あは三〇〇米にも及ぶ。されど水位は昔は高かりしものの如く、十和田湖山附近に砂礫層の歴然たるものあり、宇樽部附近にも今の湖岸より數十米高き所に浮石の厚層より成る湖成陥段もあり、奥入瀬が北方の壁を突破して流出し川床の低削を來す等により、現在水位の低くなりしを知るを得べし。湖に注ぐ河は西岸に大川、南岸に神田川、東岸に宇樽川あり、各河川の下流には山地の火山灰・浮石・火山礫と河流の運搬力大なるにより扇狀地をつくる。湖水は鹽基性にして、一立中の固形分約一四〇、硫酸鹽類最も多く、炭酸鹽類・硅酸・鹽酸鹽類これに次ぐ。中ノ湖のみは特異なる化學的成層を現はし、表面は鹽基性、中層は中性、底水は酸性なり。湖はプランクトン豐富にて水產養殖に適し、明治三十六年和井内貞行の努力によりて北海道より移殖されたる鱒鯽は、いま年產百萬尾以上に達し、和井内鱒として著はる。湖畔には觀光・舟遊の中心地たる子之口・宇樽部・休屋・生出・蛸山等の部落あり、漁夫・賣店・交通機關の便備はれり。湖上には子ノ口、休屋間に觀光船就航し、御倉半島・中山半島の湖岸の探勝を主とし約一時間半にして兩地點を運行す。

【十和田國立公園】　青森・秋田の兩縣に跨り、面積約四二九〇〇ヘクタール、全面積の八三%は青森縣に、一七%は秋田縣に屬す。大部分は國有林に屬し、僅かに公有地・私有地介在せり。昭和十一年二月一日國立公園に指定せらる。本國立公園の區域は、陷没火口湖の典型として著名なる十和田湖(その項參照)を中心とし、幽邃なる奥入瀬の渓谷(その項參照)間豁なる八甲田火山群(その項參照)を包含する南北に細長き山岳地帶にして、山岳・湖沼・渓谷・湿原等極めて豐富なる各種の風景要素を具備する點に於て特色を有す。殊ど全域に亙りて本邦有數の落葉闊葉樹の美林生じ、特に十和田湖畔・奥入瀬渓谷に於て美觀を極む。區域の北方に蟠居する八甲田八岳を始め乗鞍岳の櫛ヶ峯等の諸岳はアオモリトドマツの如き高山性針葉樹林により蔽はれ、山腹・山麓には到る處美麗なる高山植物群落・湿原・地塘を散在し、また八甲田山の東北一帶には廣く田代岱の開豁なる草原を展開す。かくの如く景觀の變化に富みその優秀を誇ると共に學術研究上幾多の貴重なる資料をも藏す。加ふるに八甲田八岳を繞る山間山麓を始め各地には酸ヶ湯・猿倉・蔦その他の温泉湧出し、觀光・登山・自然研究・療養の根據地としての諸施設完備し、十和田湖畔の休屋・宇樽部・子ノ口・生出・蛸山等と共に本公園利用の中心地なす。本公園の交通は概ね至便にして青森縣の青森市・三本木・黒石・五戸・秋田縣の毛馬内各地より自動車を通ず。十和田湖上には駒格船及び遊覽船の便備はれり。利用上の特質としては自動車觀光を始め登山・野營等の自然生活・自然研究・舟遊・釣魚・温泉浴等を數ふるを得。冬期は八甲田山一帶を中心として東北地方屈指のスキー地たり。〔交通及觀光コース〕本國立公園は交通比較的よく發達し、探勝すべき重なる風景地點は大凡自動車上にありて觀光するを得。觀光コースとしては種々擧げ得らるるも最も便にして且つ一般的なるものを記せるば左の如し。(一)青森驛—酸ヶ湯温泉(八甲田山)—猿倉温泉—谷地温泉—蔦温泉—燒山—奥入瀬渓谷—十和田湖(子ノ口・宇樽部・休屋・生出・蛸山)—大湯温泉—毛馬内驛。またはこの逆。本コースは全線省營バスを通ず、其の運轉期間は五月中旬より十一月下旬までとす。(二)東北本線古間木驛—三本木(この間十和田鐵道)—燒山(此間バス)—十和田湖(この間バス)。(三)奥羽本線川部—黒石(この間黒石鐵道)—温川温泉—御花部山—十和田湖(子ノ口)。

【十和田鐵道】　社線。青森縣上北郡六戸村の省線。東北本線古間木驛より西方の三本木町の三本木驛に至る。一四・九粁軌間〇・七六二米、省線と連帶運輸。三本木驛よりは更に十和田湖畔の子ノ口までバスを連絡し、十和田國立公園・奥入瀬川渓谷の探勝者によりて利用せらる。

**トングリノツジ　開榮の辻**　京都市の町名、建仁寺町四條下る、西へ宮川筋石垣町へ出る所。現今東山區。長町女腹切・中「どん圖案の辻を出づれば建仁寺」

**トンダ　富田**

【富田町】　大阪府攝津國三島郡の東部。茨木町と高槻町との間にあり。大阪平野北部に位し全き極めて平坦なり。產業よく發達し農產に米・麥・杞柳・菜種・富田漬・醬製品その他の工產あり、高槻町と茨木町とを結ぶ府道中部を走りてバスを通じ其北に社線京阪電鐵新京阪線の富田驛(昭和三年開業)あり、更に北隣高槻町内の省線東海道本線攝津富田驛に近く交通便利なり。古の三島藍野の一部にして和名抄嶋上郡兒屋郷に屬す。中世は富田莊の名あり。大正十四年町制施行。〔富壽榮の松〕指定天然記念物。字馬場岡町本照寺境内にあり。古來名松として知らるゝ一株の松樹とす。樹高約五・六米横枝東西南の三方に獲り最大延長二十三米に達す。黒松の名木として有數のものたり。〔本照寺(教行寺)〕眞宗本願寺派。富山發壽院。本願寺派別格別院。昔て蓮如、本宗本興教行信證を敷說せる舊跡な

工業多し。中国地方(広島)と石線(山口)本線を行きして東西に分れ、広島にはバス道路を出し、[illegible]川の北口を発し出雲[illegible]を経て[illegible]川の[illegible]に[illegible]し[illegible]人口[illegible]人、同[illegible]十年[illegible]四七二人[illegible]人、同[illegible]十年[illegible]四三四[illegible]、明治五年[illegible]四四七〇同[illegible]人、同[illegible]十年[illegible]四七二人[illegible]人[illegible]。

**トンタベヤシ** 宮田林町 大阪府[illegible]川内国[illegible]河内郡の中部。大和川の一支石川の西岸に沿ふ。面積一・一三方粁。東は小の町。西部には武蔵野の[illegible]山丘陵ある。東端も北は石川による[illegible]・[illegible]・東端の二川を合す。此町に[illegible]の中部[illegible]に位し交通の便よく相俱ら本部の中心をなし、[illegible]本町の[illegible]は知られ、なほ石川の河水を利用して[illegible]・[illegible]・[illegible]の工業が大大阪の[illegible]により大発に勃興す。住民[illegible]は西部の[illegible]を住居地とし、[illegible]は[illegible]に[illegible]。[illegible]人口は大正九年三六一人、同十年四三四七〇同[illegible]人[illegible]。

**トンタ[illegible]** 宮田[illegible]

**トンタ[illegible]** 宮田[illegible]

**トンタ[illegible]** 宮田[illegible]

# ナ

**ナ　苗村**　嘉賀縣近江國蒲生郡の西部。日野川流域に位し、八幡町の東南約一〇粁、八日市町（神崎郡）の西南約八粁、南は甲賀郡伴谷村と界す。南北に狹長にして面積約一三・七方粁。南部に低き臺地ある外は地形低平にして日野川は北部を西北流す。土地肥沃、水利よく米を第一とし菜種・麥・蕪・茶・桑葉・絞肥用作物等を產す。八日市町へバス通ず。（苗村神社）大字綾戸に鎮座、縣社。祭神、事代主神・大國主命・素盞嗚命（以上東本社）・國狹槌尊（西本社）。當社は東西二社に分る。東社はその創立年代不詳なるも、もと長寸神社と稱し延喜の制小社に列す。西社は安和二年三月の創祀。當二社は苗村の產土神にして寛和三年苗村逞に命じて祭祀を行はしめ、天文五年に勅使を遣して正一位を授け給ふと云ふ。社殿中、東本殿・西本殿・境內神社八幡社本殿並に同社懸門は何れも國寶。西本殿は建保五年の建築、他は悉く室町時代の造營に成る。社寶中、不動明王像（木造）一軀は丈三尺一寸三分、鎌倉時代の優作にて國寶。例祭、四月二十日。（眞言院）大字綾戸にあり。淨土宗。大永二年僧那學眞那の開創に係る。本尊阿彌陀如來坐像（木造）一軀及び地藏菩薩立像（木造）一軀は共に藤原期の作に係り國寶。（昆沙門堂）大字田中にあり。寺寶中藥師如來坐像（木造）一軀は藤原期の作に係り國寶。

**ナイ　內面**　朝鮮江原道麟蹄郡の南部。郡邑麟蹄の東南約二五粁。東は襄陽郡、南は平昌郡、西は洪川郡に接す。東西約三〇粁、南北二三粁餘に及ぶ廣大なる地域を占む。大白山脈の西斜面に當り、東境には羅峰五臺山（一五六三米）を初め桂芳山（一五七七米）等聳え、北境・南境に何れも一〇〇〇米以上の高嶺連り、餘脈域內に亙り極めて平地に乏し。此等山地に發する諸水は集りて昭陽江及びその支流內麟川となり北流し、下流沿岸に僅に低地あり耕地ひらく。產物は粟・燕麥・大麻・藥草等を主とす。邊隅に位するを以て交通不便なり。

**ナイエ　奈井江**　北海道石狩國空知郡砂川町の大字。函館本線の奈井江驛（明治二十四年設置）あり。

**ナイカ　內可面**　朝鮮京畿道江華郡の一面。江華島の西部、主邑江華の西約四粁にて、西は水道を隔てて廊毛島と相對す。東境に島の主脈をなす高麗山（四三六米）・穴口山（四六六米）等連り、その支脈西に延びて北境に落照峰、西部南偏に國壽山等を起す。これ等山地の間及び海岸寄りには平地拓け田畑よく耕さる。住民は農を主生業とし米・麥を產し、また桃の栽培行はる。中部を南北に周廻道路通じ、西部海岸には外浦里・浦村の泊津あり、交通不便ならず。落照峰山麓には古刹石窟寺、外浦里北方に修聖臺址あり、海岸には壇臺址凡そ三あり。

**ナイコ　內湖庄**　臺灣臺北州七星郡の西南隅。東は汐止街、西は臺北市（舊松山庄）、南は文山郡下石碇・深坑二庄、北は士林街にそれぞれ境を接し、南北に延びたる矩形をなす。基隆河は汐止街より來り、中央部を西流して後、西境を北上し更に西轉して臺北市に入り終に淡水河に合す。同河の流域を除けば南北共に丘陵性の山地をなすも流域には肥沃なる平野を展開す。基隆河流域には水田開け丘陵地帶は主に茶園として耕作せられ、主要農作物は米の外に蔬菜・甘藷・茶・果物類あり。また畜產にては豚・水牛・山羊等の家畜及び鶏・鶩・雷等の家禽類多く、一般農家に於て副業的に著く飼育せらる。山地よりは木材・薪炭・竹材等の林產物及び石炭・石材を產出す。また庄內には石炭鑛區處々にあり、その主なるものを表示すれば左の如し。（數字は昭和十年現在）

| 鑛山名 | 鑛區所在地 | 產額 | 經營者 |
|---|---|---|---|
| 源豐 | 內湖庄東興庄字鄭山庄字外埔 | 八、一二三瓩 | 臺灣炭礦株式會社 |
| 興南 | 內湖庄四分子（外一） | 三一、四三七 | 日東鑛業株式會社 |
| 德興松山 | 內湖庄後山 鄭山庄字鄭屋 金山庄字加投 青埔坑 | 二三、三四五 | 德興株式會社 |
| 內湖 | 內湖庄新里裏 | 一五、五七四 | 臺灣鑛業株式會社 |
| 松山 | 內湖庄後山（外一） 鄭山庄字外埔（外一） | 二五、三三八 | 臺灣炭礦株式會社 |
| 聯興 | 內湖庄後山（外一） 鄭山庄字外埔 | 一三、三二一 | 許金長 |

工業方面にては煉瓦及び瓦の製造盛にして、臺灣北部の需要を充たし、臺灣鐵・竹細工・指物の外・土器・土管・米粉・鍛冶等の製品亦尠からず。基隆河よりは淡水魚類及び貝を產す。鐵道線及び鐵道路は相並行して、基隆河南岸に沿ひて走り、前者は南港驛を置き、後者には局番バスの便あり。また臺北市より內湖に至る間には臺北市番バスを通じ、其他帶狀路開け、輕便軌道（手押臺車）ありて交通運輸に資する所多し。管內の內、基隆河以北內湖・北勢湖・新里莊の三大字はもと芝蘭一堡に屬し、何以南はもと總て大加納堡に屬ぜり。両して北部の三大字は古來著人の占居せし地にして清の乾隆三年間の漳州人林成祖其他に依りて開かれたるなり、拓殖の緒に就きし最初とし、爾後漢人の移住者漸加すると共に漸次に今日の基礎を築くに至れり。（南港）南港驛附近、鐵道路沿線の街肆の發祥。清の乾隆三十九年に成りし臺灣府志（鐵修）に南港仔庄とあるは、現時南港の地名を冠せし各大字を合したる總稱なり。





**ナイサン　內山面**　朝鮮忠淸南道扶餘郡の西部。郡邑扶餘の西約一三粁。四境は東南の一角を除き他は殆ど山を圍らし、西境に月明山（五四四米）、東北境に鳥峰・祝融峰（四五五米）等あり、更に西南方より來る一脈ありて境內中部に二〇〇—三〇〇米の山嶺る。錦江の一支、金川は月明山に發し山地間を廻流して東南に出で、其沿岸に低地あり水田拓く。產物は米・麥・棉・苧麻・大麻等を主とし苧布の製織行はれ、また西北部の三合鎭山より金・銀を出す。交通稍不便なるも民度高く、聚落は金川流域に何れも集村式に發達す。

**ナイシ　內四面**　朝鮮京畿道龍仁郡の中部東偏。郡邑金良場里の東六粁。北は廣州郡、東は利川郡に接す。北部に泰華山の山脈延びて三〇〇—四〇〇米の丘陵連り、南部にも最高約四四〇米の丘陵東西に走り、中部に東西に低地橫はりて慶安川の上支之を灌漑す。產物は米・大麥・大豆・棉・煙草・甘藷等を主とし、牛・豚・鶏の飼養並に蠶種製造等行はる。中部低地を社線京東鐵道水驛線東西に走り陽智・鐵日の二驛（共に昭和五年開業）あり、京釜一等街道これに並走し、主邑陽智より四方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。鐵日驛より約一粁秋美里附近は櫟の名所にて又松茸を產す。

**ナイショー　內獐島**（朝鮮平安北道）　↓臨浦面

**ナイジョーシ　撫牛子**　奥羽本線の一驛（昭和十年設置）。青森縣中津輕郡和德村大字撫牛子にあり。

**ナイセー　內西**　【內西面】　朝鮮慶尙北道尙州郡のほぼ中央。尙州邑に西隣す。小白山脈支脈の成す山地にて、北境の露絵山（七二五米）著はれ、西部には四〇〇米前後の臺地を見る。洛東江の小支谷、一は西北部を、一は中部を、何れも東し、沿岸に僅に低地あり。地產に乏しく麥・雜穀・蕭等を出すも其額多からず。中部の露谷を尙州・化寧間の道路通じバスあるも交通頗れ不便なり。露絵山中に南長寺の古刹あり。

【內西面】　朝鮮慶尙南道昌原郡の中部西偏。西及び北には咸安郡に接し、東南は馬山灣に臨みて馬山府を抱擁す。南部に最高五〇〇米の丘陵連りて舞鶴山・主山・沙理峰・大山・匡盧山等あり、匡盧山の山脚は北に延びて郡境を限る。其他東北境にも二〇〇—三〇〇米の丘陵群あり。西部山地に洛東江小支發して北流し、東部には馬山灣に注ぐ小川あり、流域に平地ありて田畑拓け、特に後者は廣潤にて地味肥沃なり。產物は米・麥・大豆・棉・蕭等を主とし、また栗を出し、昌館鎭山より金・銀を產す。總督府鐵道慶全南部線東方より來り一旦馬山府に入り更に中部を北西方に走りて西方晉州に通じ、中里驛（大正十二年設置）あり、また昌原・昌寧・咸安等の各地との間にバスを通じ交通至便なり。東南部馬山府との境に近き檜原里附近は骨浦、のちに合浦と稱せられし地にて新羅時代の郡治を置きしところ。郡必烈が日本を威嚇せんとしたる時、元の副將趙良弼は手兵四千三百を以て合浦僑に駐留す。その東北なる合城里は忠烈王の時、慶尙右道兵馬節度使營を置かれたる征東行營の分營を置きし地。また海岸に近き山湖里には馬山城址あり、伊達政宗の築きしと云ふ。

**ナイゾー　內藏**　【內藏面】　朝鮮全羅北道井邑郡の南部。井州邑の東南に隣り、東と南は淳昌郡に接す。南部は內藏山聳えて北に低夷し、一支脈東境を北走して郡界を成し高堂山（六四〇米）等を起し、その西方に之に並走する支脈あり、內藏山に發する井邑川支谷その間を開析して、平地開く。產物は米・大麥・豆類・棉・麻等の農產を主とす。井邑・淳昌間の通路に當り、途中龍下里より內藏山に探勝道路を通じ、何れもバスの便あり。（內藏寺）內藏山の北弧面、洞口里にあり。一名寶隱寺、百濟時代幸安祖師の創建、大雄殿その他の壯麗なる堂宇あり。なほ山內に月照庵・淨濟庵・碧蓮庵・圓寂庵・佛出庵等の末寺を有し、境內は谿谷美・楓葉の美を以て知らる。

【內藏山】　朝鮮全羅北道の南部。井邑郡內藏面・笠巖面及び、淳昌郡圓興面に跨る。藏嶺山脈中の一山塊にて、最高峰を神仙峰（七六三米）といふ。山は奇巖より成る峰巒重疊し、山岳美を以て知られ、南鮮金剛の稱あり。全山殆ど闊葉樹茂生し、特に樅の巨樹（樹齡約四百年）の天然生林著はれ、また紅葉の美觀あり。山の北面に井邑川支流、南面には秋嶺川發源し、特に前者は谿岩美を以て著はる。山腹には內藏寺あり。登山は湖南本線の井邑驛（井州邑內）下車、內藏寺まで約八粁にて達す。なほ探勝季節には寺までバスを通ず。これより南方の白羊山に至る約八粁の林道は好個のハイキングコースなり。※白羊山

**ナイソン　內村面**　朝鮮京畿道抱川郡の東南部。郡邑抱川の東南約七粁。南北二〇粁に及ぶ狹長なる地を占め、東は加平郡、南は楊州郡に接す。東境に雲岳山（九三六米）の山脈南走し、西境にも屈峴・竹葉山（六〇一米）を連ぬる山脈あり屈峴附近には兩山脈相迫りて一分水嶺をつくり、北に漢灘川の支流、南には漢江の一支王宿川を流下せしめ、沿岸に狹長の低地ありて耕作行はる。產物は大豆・大麥・大麻・稻等あり。屈峴（五三七米）を越えて抱川・清平間三等道路通ずるも

交通便ならず。

**ナイダイジン　内大臣山**　九州山脈南方部の一峯。一に天主山とも云ふ。熊本縣上益城郡白糸村に峙ち、標高一四九四米。美しき森林に掩はれ、平重盛ここに隠れ住みきと傳へ、山名これより出づといふ。

**ナイチュー　内中面**　朝鮮平安北道龍川郡の中部東側。龍嚴浦の東約八粁、東は義州郡と界す。東西に長く、長さ一七粁、南北は約五粁に過ぎず。北境には龍骨山（四七七米）を最高とする丘陵連り、東境にも二〇〇—二五〇米の丘陵横はるも、西南は廣き平地をなし、一部は大正水利組合の蒙利地域に屬し、農業盛に行はる。農產は米・麥を主とす。總督府鐵道京義本線東部を南北に貫きその南市驛（外上面）に近く、交通比較的便利なり。

**ナイトー　内東面**　朝鮮慶尙北道慶州郡の中東部　東部は大白山脈に屬する山地にて、東部陽北面との境に吐含山（七四五米・楸嶺等連り、西境には金鷲山（四九五米）・磨石山等聳え、此等東西兩山地間に高距二〇〇米臺の丘陵南北の方向に走り、此間を兄山江の支流北川・南川いづれも北西に流れ、特に南川流域には稍廣き平地あり、耕地東南に長く連る。產物は米・麥・豆・粟・楮等の農產を主とし、又牧牛行はる。總督府鐵道東海南部線中部を南北に通じ、北に東方驛（大正十五年設置）、南に佛國寺驛（大正十年設置）あり、蔚山街道は鐵道に並走する外、東北部の北川に沿ひ東海岸の甘浦港に通ずる道路あり、何れもバスを通じ交通便なり。本面は新羅の古都慶州の東南郊の地を占むるを以て舊時の遺蹟少からず、吐含山の西南麓の佛國寺はその尤なるものとす、佛國寺驛及び慶州・蔚山よりバスの便あり。有名なる石窟庵は寺より約三粁、吐含山の南麓にあり。又佛國寺驛の東南三粁、蔚山街道北寄りの松林中に掛陵（文武王陵）、面の北端九黃里には芬皇寺址、西端金鷲山の北麓に南山城址等あり。※慶州邑

**ナイトク　内德面**　朝鮮黃海道瑞興郡の西南部。郡邑瑞興の西南約一〇粁。西と南は鳳山郡、東南は平山郡に接す。中央に鼎足山（三六七米）聳り、その支脈四方に延びて平地に乏し。瑞興江の支流興水川西境を北流し、その流域に狹長の平地ありて農耕行はる。產物は大豆・雜穀・大麻等を主とし、山地よりは栗を出す。西北端の勾詩里附近には亞鉛の有望なる鑛床あり。瑞興より青石瓶里に至る道路南境を通じバスの便あるも、交通未だ便ならず。

**ナイナン　内南**

【内南面】朝鮮平安南道順川郡の西北部。順川面の西に隣り、北は价川郡、西は安州郡に接す。南北に長く、長さ一八粁、東西は四—九粁あり。東西兩郡にそれぞれ南北に走る二〇〇—三〇〇米臺の山脈あり、東北境の走馬山（三八三米）と西南部の國師峰（三四四米）やや著はる。これ等の兩山地間を北に熙州川支流ありて北流し、長鮮江支流に南流し、後者の流域にやや廣き平地開く。產物は米・小麥・大豆・粟・棉及び荏・胡麻等の農產を主とし、また新里鑛山より金・銀を、開岩鑛山・昌盛金鑛（鑛區はいづれも安州郡に跨る）より金を產し、また石泉金山・金坪鑛山（鑛區の一部）等ありて金・銀・鉛を出す。中部低地を總督府鐵道滿浦本線南北に縱走し、中坪・開岩の二驛（共に昭和七年設置）あり、順川邑より安州邑に至る道路は南部を通じてバスの便あり、交通便なり。

【内南面】朝鮮慶尙北道慶州郡の南部。慶州邑に南隣し、南は慶尙南道蔚山郡に接す。西半部は山地にて西北境の斷石山（八二七米）最も著はに、北境に碧桃山、南境に峻蜂峰あり、東部內東面との境に南山・金鷲山・磨石山等連り、これ等の東西兩山地間に兄山江支流西川の峽谷あり、蔚山郡より北流し來り北鍋に於て本流に合し、流域に平地開けて農耕營まる。產物は米・麥・棉・繭・朝鮮紙等を主とす。北境の兄山江に沿うて東海中部線及び慶州街道並走し、西川に沿うて梁山街道南下しバスの便あり。面の北部は東隣の內東面と共に慶州の南郊をなして新羅時代の遺蹟に富み、五陵・鮑石亭址・南山城址等あり。※慶州邑

**ナイハン　内板**　朝鮮忠淸南道燕岐郡東面の里名。總督府鐵道京釜本線の內板驛（大正十三年設置）あり。

**ナイフチ　内淵川**　樺太豐榮支廳榮濱郡にある川。樺太山脈の野田寒嶽の東斜面に源を發して東南流すること約五〇粁、東に流路を變じ中央低地帶に入り、落合町に至り南方より流走し來る大谷川を併せ、なほ北流し榮濱村の西にてオホーツク海に注ぐ。流程約一二〇粁。下流域は低濕にて河湯湖も見られ未だ農耕地は殆ど開拓されざるも、上流地域には森林廣く落合町に製紙工場あり、また流域は樺太の謂はゆる下部炭層群中の最も重要なる內淵炭田なり。

**ナイフン　——社**　臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。蕃柵驛溪上流右岸より西方約二・五粁の地點に位し、地勢微れ頼斜面地にて農耕に適せず。パロニヤオ頭目系四戶、十五人なほ以て約三百五十年前に現住地の社を形成されたり。當社は既往に於て數回の討伐膺懲を受けたり。即ちその概略は、（一）約三百年前、和蘭人の討伐隊三百名と應戰、當社は非常に優勢にして敵は僅に三名の生存者を殘したるのみにて大敗せりと云ふ。（二）明治八年に至り再び淸兵三千名の攻擊を受けたれども、他のチュウアン、ボンアランの二社と一體になり克く防戰に努めし結果無





條件解決となる。（三）大正三年の證從諸器押收に際し之に反抗せるため我が永田捜索隊長の率ゐる四箇部隊四〇五名のため蕃屋全部を燒却せられ徹底的なる膺懲を加へられたり。パイヤン族の恒春上番に屬する高砂族の部落にして、現在戶數四一、人口二六九（昭和十一年調査）。

**ナイフンポ　——社**　臺灣臺中州新高郡にある蕃社。陳有蘭溪右岸內茅埔山南方の中腹に位し、ブヌン族の群蕃に屬する高砂族の部落なり。戶數一三、人口一三二（昭和十一年調査）。

**ナイヘー　内竇島**（ないとう）→鳥島面（朝鮮）

**ナイホ　内埔**

【內埔庄】臺灣臺中州豐原郡の北端。東は東勢郡東勢街、西は大甲郡外埔庄に各相隣接し、南は大甲溪を隔てて豐原街及び神岡庄に、北は大安溪を隔てて苗栗郡三叉庄と對す。東西の各小部分に低き丘陵ある外は地勢概して平坦にして地味肥沃、加ふるに南北に大河を控へて灌漑の便に富む。農產の內、米の生產最も多く甘藷・甘蔗・蔬菜類・落花生・樟草・鳳梨・柑橘の產出また夥からず。大字后里に磯產局の蔗苗製成所あり。畜產には水牛・黃牛・豚・山羊等の家畜及び鷄・鴨・雞等の家禽あり、一般農家に於て副業的に盛く飼育せらる。尙大字后里には大牧場建設せられ、總督府の馬產計畫に從ひ將來本島產馬の中心地たらんとす。丘陵地帶には雜木及び竹叢茂し、薪炭・竹材其他の副產物を出すも產額多からず。工業は月眉の大日本製糖株式會社製糖所及び室內工業たる帽子編業を除き、見るべきもの少きも、小規模の甑摺精米工場及び製油工場、隨處に散在し、また磚瓦類の製造工場あり。交通は比較的便利にして臺中線東部を南北に貫通し、大安（大正元年設置）・后里（明治四十一年設置）の二驛を置く。后里驛構內の梅林有名なり。大日本製糖の社線は后里驛より西に向ひ大甲に至る。大安驛より東北方の卓蘭庄（大湖郡）に至る輕便軌道あり。道路は舊鑛買道路及び后里・大甲道路縱橫に走りて庄內外の諸主要部落を結び、乘合自動車の便あり。管內はもと總て苗栗三堡に包括せられ、漢人の手によりて開拓の緒に就きしは淸の乾隆二十年頃にして、閩の漳州人先づ月眉に來りて荒埔を開き、爾來漢人の移住する者年々遞うて多きを加へ、今日の基礎を固むるに至れり。

【內埔庄】臺灣高雄州潮州郡の北端。東は東港溪により屏東庄に接し、西は隆安溪を以て屏東郡長興庄に、西南は竹田庄に、北は八基堤防を越えて屏東郡仙埔庄に接す。東北部の平頂山なる丘陵を除けば土地平坦にして、西南部は地味肥沃、米・芭蕉其他豐饒なる物產を出す。產業は農を主とし、うち米は（作付面積一・二期共四千甲）價額百萬圓、芭蕉（三百甲、十五萬圓、甘蔗二十萬圓、甘藷六萬圓、其他甘橘・鳳梨・豆類等、畜產は牛三萬圓、豚廿七萬圓、鷄・鴨・雞等なり。工產は精米・染物・竹細工等十萬圓、水產・林產は貧ふるに足らず。領臺前本庄は淸福建省臺灣府鳳山縣港西中里・港西下里の管轄に屬したり。昔は平埔蕃に屬するマカヅオ部族此地一帶に棲息し居たりしが、淸康熙年間、廣東省惠・潮・嘉地方より福・李・馮・鍾・利・黃・曾姓の者庄の西南部各地に移住し來り土地の開墾を計り、次いで福建省漳・泉地方の林・沈・許・石・龔・楊・趙姓の者渡來して東北部呼埔蕃中に雜居し、更に乾隆年間に至り惠・潮・嘉地方の住民續々渡來し所謂六堆部落の中心として年々經るに從ひ人口增加したり。領臺後臺南・鳳山・阿緱等に屬し種種の改正を經しが大正九年十月地方制度改正により潮州郡內埔庄となり、昭和七年十二月小字舊隆安・豐埔庄に編入して行政區域變更を行ひ以て今日に及べり。

【昌基堤防】庄の北端檳榔山より西へ延長九百間の堤防。雨期に於ける下淡水溪の大氾濫を防止し本庄並に隣庄竹田庄の生命線なり。完成前、本庄は屢水災の襲ふ處となりしが數次の地方民の輝金・國庫支出等により昭和十一年春現在の如く竣工せり。（民蕃境界古令埔碑）老埔にあり。嘉慶二十年五月廿日の建立に係る圓建臺灣府の出示曉諭にして古令埔の地を封禁し、閩粵兩族の侵占を禁止せるもの。元來アマヅン溪南の保安林にありしものを移せるものと云ふ。鄕土的價値を有せるを以て史蹟として指定さる。

**ナイホ　内浦**　朝鮮咸鏡北道咸川郡上零南面の洞名。總督府鐵道咸鏡本線の內浦驛（昭和二年設置）あり。

**ナイホク　内北面**　朝鮮忠淸北道報恩郡の北部。報恩面の西北に隣る。小白山脈支脈の成す山地にして北境には局師峰（五六五米）、その他五〇〇米臺の嶺連り、これと並行して中部を東西に走る一脈を分水嶺とし、以北の水は達川に合して漢江に入り、以南の水は報恩川となり南流して錦江に注ぐ。此等の流域に僅に低地あり田畑拓く。產物は米・麥・豆・雜穀を主とす。北部の峽谷を米院里・報恩間三等道路通じバスの便あるも交通未だ便ならず。

**ナイホロ　内幌**

【內幌村】樺太本斗支廳本斗郡の略ぼ中央。本斗町に南隣す。樺太山脈の西斜面にて、東境は牛荷山（五八九米）聳え、北境に擺上山（四二九米）、南境には晉羽山等あり、椎內川及び牛荷川は何れもこの山地間を西流して日本海に注ぎ、椎內川流域に狹長なる小地開け農業行はる。海岸は中央に於て氣主岬僅に斗出して海岸線の單調を破り、その附近は對馬暖流が岬鼻に衝突するによりて本島中最も溫暖なる地域に屬す。主產業は漁業及び鑛業

とす。水産には鰯・鱈・蟹等あり。椎内川下流沿岸の内幌炭山より石炭を出す。本斗町より社線南樺太炭礦鐵道海岸沿ひに南走し氣主・北内幌・内幌の各驛を經て内幌炭山驛（以上は北内幌の昭和九年開業を除き何れも同六年開業）に至る。また海岸に沿ひ西部鐵道幹線道路過じ、内幌より東南方の中市街へ良路を岐ち、更に海上は内幌と本斗及び海馬島との間に定期航路開け、交通便なり。主色内幌は椎内川吐口に發達し、炭田開發により て近年急激なる盛況を示すに至れり。町の東南約四粁に温泉湧出す。氣主岬には氣主岬燈臺（大正七年設置）あり、燈質は連閃白光、二二秒を隔てて八秒間に二閃光を發す、光達距離二一浬。

**ナイホロ** 内幌炭礦 樺太の炭礦。南樺太炭礦鐵道株式會社の經營に屬し、鑛區は本斗郡内幌村及び好仁村に跨り約二一〇〇ヘクタールを占め、南部封鎖炭田の一部を成す。炭層は西海岸上部爽炭層群に屬し、鑛區内を南北に縦走せる一向斜軸を中心として東西に〇・六米乃至三・四米の炭層數枚を介在し、傾斜は平均七〇度東又は西なり。現在斜坑により本層上炭（三米）及び同下炭（三米）を稼行中にして、その產額昭和九年七八八二五瓲、同十年一三二八二九瓲を示せり。炭質は低度瀝青炭に屬するも汽罐用・家庭用並に低温乾溜用に適し、產出炭は附屬低温乾溜工場用及び鑛道用として使用せらるる外、樺太内にて家庭用として販賣し、一部を内地に移出す。内幌低温乾溜工場は年一〇萬瓲の内幌炭を處理し、コールタイト（半成骸炭）五萬瓲、揮發油九百瓲、重油七千五百瓲、ピッチコークス五千瓲及びパラフィン六百瓲を產出する計畫の下に昭和九年六月起工、同年四月操業を開始、昭和十一年に全工場完成して全能力を發揮するに至れり。

**ナイホンロク** ——社 臺灣臺東廳里壠にある蕃社。タピリン・タンシキ・マスホリズ・マチングル・カブラタン・マリブラン・ヲハラジ・サルベ等の部落に分れ、パイワン族の下三社蕃とブヌン族の塩武群蕃とに屬する高砂族の蕃社。戶數約一五七、人口約一五八五（昭和十一年調査）。

**ナイモン** 内門庄 臺灣高雄州旗山郡の西南邊。主色旗山街の北に連り、楠梓仙溪右岸一帶の山地を占む。東北より西南に細長き矩形をなし、面積九九方粁餘。住民は大部分福建系本島人なり。比較的廣大なる面積を擁するも、背内總て山地にして、低き禿山幾重にも重り、南部の内埔・觀音亭方面は二層行溪上流域に當りて盆地を形成し、主要部落たり。内埔は郡役所を隔つること六・五粁餘、自動車にて僅か二十分にして達し得らるるも、北部の溝坪・萊子坑方面は奥地に當るを以て交通極めて不便なり。耕地は丘陵の間に散在するも地勢ト漑費の便なきため、總て看天田または畑として開かれ、土地の生產力貧弱にして、人家は其間に點在し、全く山間僻地の農村なり。近時看天田の改良行はれ、臺灣製糖株式會社と協力してヒースプラウに依る深耕を實施したる結果、土地の生產力倍加し甘蔗を主作となす。尙到る處山地なるを以て龍眼・樣仔・芭蕉・蔗黄・木綿及び芭蕉纖の材料たる若竹の生產頗る多く庄の特產物たり。就學歩合三一%、内埔・溝坪に各公學校を有し合計十二學級なるも就學狀況頗る惡く郡下最低率なり。交通は不便を免れざるも、南隣旗山街との間に乘合自動車を通じ、なほ旗山より觀音亭を經て西方關廟庄（臺南州新豐郡）に至る調はゆる關廟道路開鑿せられ、當地方は臺南・屏東間自動車道路の通路となりて產業・交通上頗る重要性を加ふるに至れり。なほ管内にして、東北部の萊子坑・溝坪二字はもと羅漢外門里に、觀音は羅漢内門里に屬し、南部は北部に比して早く拓殖の緒に就き、清の康熙末年より内埔・中埔は地方の中心地たりき。溝坪は初め嶺坪と書かれ、萊子坑と共に乾隆年間に開かれたり。

**ナイラロー** 内羅老島 ↓麗

**ナイリン** 内麟川 朝鮮江原道の川。漢江の一支、大白山脈の五臺山（一五六三米）の西・北斜面に發する各一支流合して麟蹄郡内面を横斜を穿ちて西流、途中にて興亭山（一二七七米）に發し、北流し來る一支を容れ、芳臺山西麓にて昭陽江に合す。流程三〇粁餘。

**ナイロ** 内路村 樺太敷香支廳敷香郡の南部。敷香町の南に隣り、東は多來加灣に臨む。西部は樺太山脈の東斜面にして内川山（五九二米）・内路山（三九六米）等聳え、東北に緩斜して中央低地帶に達る。河川は内路川を最大とし、北部には内川、チョロナイ川等あり、何れも多來加灣に注ぐ。低地帶の北部にはワンドラ横はるも、南部は開墾せられて農牧行はる。河畔は單調なる砂濱にて僅に内路の泊港あるのみ。產業は製材を第一とし、また内路炭田より石炭を出す。同炭田は内川流域に位し、昭和三年來三井鑛山會社の經營に係り、敷香町より炭礦部落内川まで炭礦軌道を通ず。社線樺太鐵道東部海濱を走り内路驛（昭和十一年開業）あり、道路は東部鐵道幹線（半田街道）の中部を貫くほか、内路より海岸に沿ひ敷香街道を岐ち、また西方菅梁山脈を踰えて惠須取に至る路線あり、交通便なり。内路は内路川口の左岸に位し、明治三十九年初めて邦人渡來して開拓せられし地、大正七年市街地を設定せらる。交通の要衝に當り、夏季定期航路の寄港あり。製材工場・飛關支署・飛行場等あり。北郊には當村の共同牧場あり。本村は大正十二年舊町村制施行、翌十三年に南部の沿岸村を分村、昭和四年七月二級町村制施行せらる。



**ナウネ** 長畝村 福井縣越前國坂井郡の中央東部。福井市の東北約一〇粁。丸岡町の東に隣る。越前平野の東緣部に位するを以て、東部の小丘陵を除く外は低平なり。東隣竹田村に發源する竹田川北境を西流し、灌漑に便す。主生業は農にして米・煙草を產し、また近年白絹を多產し、清酒・鯉・鮎等をも出す。社線永平寺鐵道通じて長畝驛（昭和四年設置）を置き、國道北陸道丸岡町より來り西部を貫通して北走す。和名抄に坂井郡長畝郷とあるは本村及び竹田村の地なるべし。盛衰記に三條長畝城とあるは此地にありしもの。大字長畝に齊藤實盛產湯の池井にその塚あり。また大字女形谷には樓の大木あり、周圍約四・五米、高さ約一八米、推定樹齡は六百年なり。（白山神社）大字豐原に鎭座。村社。伊邪那美命を祀る。昔の豐原寺の址なり。泰澄大師の創建にして建治年中には尙ほ七堂伽藍、二百餘五坊ありしが、天正年中に兵燹に罹る。（高岳寺）大字藤岡にあり。天台宗。慶長十九年延岡藩主有馬康純の建立。其後元祿九年、有馬清純の當國丸岡に轉封せらるるや本寺も亦これに隨ひて現寺地に移る　同侯の菩持所なり。（齊藤實盛）藤原利仁將軍の子孫にして代々本郡に住せしが、實盛の時轉じて武蔵國長井に住す。初め源義朝に仕へ、義朝の死後平宗盛に仕ふ。壽永二年木曾義仲の舉兵による行せらる。

**ナウネ** 長畝村 福井縣越前國坂井郡の中央東部。福井市の東北約一〇粁。丸岡町の東に隣る。越前平野の東緣部に位するを以て、東部の小丘陵を除く外は低平なり。東隣竹田村に發源する竹田川北境を西流し、灌漑に便す。主生業は農にして米・煙草を產し、また近年白絹を多產し、清酒・鯉・鮎等をも出す。社線永平寺鐵道通じて長畝驛（昭和四年設置）を置き、國道北陸道丸岡町より來り西部を貫通して北走す。和名抄に坂井郡長畝郷とあるは本村及び竹田村の地なるべし。盛衰記に三條長畝城とあるは此地にありしもの。大字長畝に齊藤實盛產湯の池井にその塚あり。また大字女形谷には樓の大木あり、周圍約四・五米、高さ約一八米、推定樹齡は六百年なり。（白山神社）大字豐原に鎭座。村社。伊邪那美命を祀る。昔の豐原寺の址なり。泰澄大師の創建にして建治年中には尙ほ七堂伽藍、二百餘五坊ありしが、天正年中に兵燹に罹る。（高岳寺）大字藤岡にあり。天台宗。慶長十九年延岡藩主有馬康純の建立。其後元祿九年、有馬清純の當國丸岡に轉封せらるるや本寺も亦これに隨ひて現寺地に移る　同侯の菩持所なり。（齊藤實盛）藤原利仁將軍の子孫にして代々本郡に住せしが、實盛の時轉じて武蔵國長井に住す。初め源義朝に仕へ、義朝の死後平宗盛に仕ふ。壽永二年木曾義仲の舉兵により雜賀に從ひて北國に入り白髮を染め、請うて錦の直垂を着けて死戰なかざり雜原に戰死す。年七十三。墓卑分祔には實盛を在原氏の出といふ。

**ナエギ** 苗木町 ↓岐阜縣美濃國惠那郡の中部東偏。木曾川中流の右岸に位し、北は坂下町に隣り、南は川を隔てて中津町と相對す。面積約三二方粁なるも飛騨山脈の南端部に當り、北境に高峯山（九四五米）あり西南に傾き、高原性をなす。東境より南境を西流する木曾川、西境を南下する付知川は西南隅に於て合流す。この附近以下は謂はゆる惠那峽と稱せらるる溪谷なりしも今は下流に發電用のダム築造せられダム湖と化す。西南の平坦部には田畑拓け農業・養蠶盛なり。また石材を出し、副產物としてその量多からざるも水晶・トパーズ・サファイヤ・錫石・苗木石・フェルゲツナイト、其他雜々の鑛物を產し鑛物界に著名なり。尙ほ長石・陶土・磨砂等をも產す。社線北惠那鐵道（電車）は省線中央本線中津川驛に起り西南邦を横切りて北方付知町に向ひ町内に惠那峽口驛（大正十四年開業）・山之田川驛 大正十五年開業）・苗木驛（大正十三年開業）・上苗木驛（昭和四年開業）・並松驛（大正十三年開業）の五驛を設け交通便なり。この地は和名抄、惠那郡繪下郷の内にして近世遠山氏一萬六千石の城下町なり。（苗木城）城山にその址あり。一に鎭ヶ城ともいふ。木曾川の左岸山頂巨岩の上に天主を構へ碧潭に臨みて要害をなし中仙道・飛脚路を控制す。天文年中、遠山一雲入道昌利之を築き、のちその族左馬助直廉、その子久兵衛友忠、共に織田氏に從ひ、信長の死後、彚山城主森長可に侵され、友忠敗れて男久兵衛友政と共に逃れ德川家康に賴る。よりて城は森氏の有となる。慶長四年森忠政貧を轉じ川尻直次城主となり、城代關治兵衛盛祥を置く。翌年秋、關ヶ原戰起るや友政、家康の助けを得て歸國し、兵を起して盛祥を伐ち舊城を復し、やがて傳領一萬六千五百石を安堵せり。是より維新に至るまで相繼ぎ十三代に及ぶ。藩校日進館は明治元年遠山友祿の創立せるもの。（舊地平花の木自生地）指定天然記念物。花の木の自生區域の境界並に要所にして分布の範圍を表示し學術研究に資す。（神明神社）郷社。祭神、天照大神・豐受皇貴神外六柱。苗木城主遠山久兵衛尉友政が氏神として偶祭せるもの。遠山氏の寄進に係る太刀一口 銘備前國長船住近景。社寶。例祭、九月十六・十七日。

**ナエシキ** 苗敷山 ↓甘利山

**ナエバ** 苗場山 新潟縣南魚沼郡三國・三俣兩村、中魚沼郡秡成村及び長野縣下高井郡堺村に屬す。標高二一四五米。サスピーテ型の火山にして、西方に向ひて緩斜する南北三・五粁、東西二粁内外に及ぶ平頂面を有するを特異とす。その平頂面に偃松などの灌木あるも、多くは苗代と呼ばるる沼澤地なり、また山腹は山毛欅の原始林にして、清津川・中津川の水源地となる。

**ナエボ** 苗穂 ↓省線函館本線の一驛（明治四十三年設置）にして省營バス札幌線及び社線北海道鐵道の起點。北海道札幌市北三條東十三丁目にありて札幌驛に隣る。

**ナオ** 直島 ↓直島村（香川縣）

**ナオイリ** 直入郡 大分縣十二郡の一。豐後國の一部にて縣の南部。阿蘇火山の東麓に位し大野川上流の地を占め、南は九州山脈より北は九重火山の東半部に跨る。北は玖珠・大分二郡、東は大野郡に隣り、南の一部は宮崎縣西臼杵郡、西は熊本縣阿蘇郡と界す。南北約三六粁、東西一六—二〇粁、面積五一八方粁餘。南境には九州山脈の最高峰祖母山（一七五八米）聳えて北へ傾斜し、西北部には九重火山群の九重山（一七六四米）・久住山（一七八八米）・黑嶽・花卑禮山等の諸峯屏居して東南部に裾野を曳き、西部は阿蘇山東麓の地にして東方へ緩く下る。大部分山地と高原にして大野川は南部を東北に貫流し、郡の東部にて西境より東流する玉來川其他の水を容れて大野郡に出で、東北境には芹川東北流し大分郡に出づ。河川に沿ひては耕地拓けたるも其他は概して山林・原野なり。農・蠶業を主とし米・繭・麥・大豆・粟・玉蜀黍・甘

藷・薬煙草等を産し、その外林産・畜産あり、工産に和紙・麦粉等を出す。大野川に沿ひ竹田町・玉来町等發達し、竹田町の如きは人口密度二、〇三一人を算するも其他の町村は人口少く平均密度は九三人なり。郡内は以上二町及び久住町の外十七箇村を含む。縣道(肥後路)は大分より来り東部の竹田町・玉来町等を通過して中央を東西に横斷し阿蘇郡に出で別路は東北塩より湯原・久住を經て筑者に合す。省線豐肥本線、また竹田町・玉来町を經て東西に貫通す。書紀、景行天皇の十二年筑紫巡狩の際に豐岡直入縣に入りて土蜘蛛を誅し給ふと見ゆ。これが國郡制定の際郡となりしものなるべく、和名抄に奈保里と註し、三宅・直入・柏原・球覃の四郷を管す。

**ナオエ　直江村**　島根縣出雲國簸川郡の中部。今市町の東約五粁。南部には佛經山(三六六六米)あり て山鼓北方に延び、山麓を斐伊川の分流新川ほぼ東西に貫流し、その北岸にも小丘阜あれども低平なる地ありて簸川平野の一部をなす。米・繭の外に清酒・製茶あり、別墨として鯉を作る。北部を國道山陰道本線通じ直江駅(明治四十三年設置)は西隣伊波野村にあり。この地古くは和名抄、出雲郡漆沼郷に屬す。〔御井神社〕大字下直江に鎮座。郷社。祭神、水供神。式内社。例祭十月九日。

**ナオエダニ　直江谷**　石川縣河北郡にありし村。明治四十年他の二村を合し三谷村を建つ。

**ナオエツ　直江津**　【直江津町】　新潟縣越後國中頸城郡北部の海岸。荒川の河口に跨り、高田市を距る北方約五粁。面積三・二五方粁に過ぎざるも頸城平野の西北端に位し、前面は日本海に臨み直江津港を控ふ。古来北陸道の要驛として水陸交通の中心をなし、いま信越本線と北陸本線の分岐點なる直江津驛(明治十九年設置)あり。南は高田市、東は松代、東北は椿崎方面へバスの便あり、海上は北海道・新潟・佐渡への航路開け、頸城三郡の物資の集散地、長野縣への米・鹽・肥料・海産物供給の要地として商業盛んなり。港は荒川の河口港にて水深浸く、特に西風の衝に當り出入不便の港なるより、もとは此風の来らんとする時は諸船皆佐渡の夷港(両津町)に避くるを常とし、平時本船は海須より三隻乃至一浬の所に假泊し、舟舟は常に川内に蔵し、用ある毎に虚舟にて河口に出し、乗客・貨物は舟夫之を負ひ波間を伺ひて舟舟に移し、のち之を本船に搭載す、波浪激しき時は本船を郷津(隣村春日村)に廻し積卸みをなす。その上陸の困難なる海内無比と稱せられしも要衝の地なるを以て新潟港と共に北越の二大港と並稱さる。鐵道の發達と共に北越の二大港せしものち築港し、昭和五年には信越本線の貨物驛直江津港驛の設置を見、更に同七年より新潟縣廳の手により築港工事に著手、工費約四十三萬を費して昭和十年竣工。左岸防波堤四九六米、右岸防波堤二八六米、水深四米にて本造七二米の桟橋に約五百噸級の船を横付にし得るに至る。移出は特記すべきものなく總計約六萬六千圓に過ぎざるも、移入は石炭の約二百七十九萬圓を主とし食鹽・魚類等計約三百五十六萬圓に及ぶ(昭和九年)。この地古くは和名抄、頸城郡郡宇郷の内に屬せしものか。また延喜兵部省式に水門驛とあるはこの邊に求むべきものの如し。中古今の大字鹽田新田の地に越後の國府を置き一國政治文化の中心地たり。其頃は府・國と呼び、上杉氏春日山(春日村)に築城せし後も尚別館を存し府内と呼べり。慶長年中堀秀治入國し府内城を修めて之に居り、次で福島城を築きしも久しからずして廢す。慶長年中徳川忠輝高田に築城するに及び舊府全く滅び、人民亦多く高田に移りしが、のち商工漸く移住し終に一市街を成し今町と呼び明治維新に至るまで高田藩に屬す。直江の名義全く不詳なるも由来古し、源義家陸奥征討の際、土豪直江次郎從ひて功あり、上杉氏の時は直江大和守實綱として謙信の寵臣あり、天正五年横死せしかば、穐口與六郎を養子として其嗣を承けしむ、これ後の山城守景綱なり。義經記には直江の津とあり、文治三年頃義經主從この地を通過せしこと見ゆ。八阪神社は町の總鎮守。府中八幡は上杉氏の時鎌倉八幡を勧請せるものと云ひ、近世まで神田百石を付せられ、社前には上杉謙信の自書せる神額あり。神社の裏は砂山と呼ばるる砂丘にして、その海岸は波やや荒きも近時海水浴場として知らる。泉蔵院の本尊は弘法大師自作の木佛地蔵なりと傳へ信者甚だ多し。名古屋橋は往古荒川に架せし名橋なりといふ。古歌に「吹風のたより につけてふみみればまた渡らすな名古の橋はし」「いそしきも越路の名護の橋もあやなく吾やなけき渡らむ」など詠めるもの尠からず。いま荒川には河口に近く荒川橋、次に永代橋・直江津橋が架す。應化橋はもと荒川に架せる橋にて、俗に岩城判官の子女安藤姫・津知保丸が三莊太夫の爲に拐されし時、船を繋ぎし所といふ。名寄云、荒川の應化橋、昔は今の舟渡場より少し水上、門前といへる所にありて、直江の今町より春日新田の往還なりしに慶長中福島城を高田に引移されしより高田驛路筋となり、橋は名のみ、柱は朽ち殘ると。〔府内城〕大字安國寺に其址あり。一に越府御館といふ。貞治年中、上杉憲顕の居城たりしが故なり。憲顕嘗て當國の守護たりし労賀入道評可が討ち滅ぼし、遂に因襲して當城に據る。長尾景景、相模より越後に來り春日山に城きしも、治府はなほここにありき。次いで上杉謙信出で、謙信の歿後、景勝は謙信の養子景虎と家督を爭ひ、天正七年四月、景勝御館を攻めて遂に之を攻略す。慶長三年景勝會津に移り、堀秀政入部してここに居す。同十一年今の大字福島に築城せしものち絶家して廢す。〔八坂神社〕大字砂山に鎮座。郷社。祭神、健御名方命・須佐之男尊・大山咋命。創立年代詳ならざるも、江戸時代には府内鎮護社と稱し、鬼門鎮護の神として、高田藩主松平氏の崇敬を受けたり。また直江津町の産土神。



【直江津港】→直江津町

**ナオシマ　直島村**　香川縣讃岐國香川郡の北方海上。瀬戸内海中の直島を主島とし附近に散在する直島諸島より成る。直島は高松市の西北約一〇粁、同山縣兒島郡宇野町の東南約二粁。直島は東南より西北に細長く、地蔵山(一二四米)を最高とする山地起伏し、中部東西に亙る隘路あり、海岸は屈曲に富み、北に重石ノ鼻・獅子浅ノ鼻等、南にオカメノ鼻の突出、宮ノ浦・玉積浦・泊ヶ浦等の灣入あり、之等の灣奥には僅に低地あり て耕地開け、東部の直島、西部の宮ノ浦には集落發達す。本島人口の約半數は製錬所關係者にしてこの製錬所に依存すること大なり。この外各島に水産盛にして鯛・鰮等の漁獲多く、直島・家島には鯉田あり、また石工業も營まる。交通は高松市及び宇野港に毎日數回定期發動汽船の便あり。保元物語に崇徳上皇讃州流謫の時、この島に泊らせ給ふこと見ゆ。〔直島製錬所〕北岸の風戸浦にあり、宇野及び高松より船便あり。三菱鑛業會社の經營にかかり、生野鑛山・佐渡鑛山・福岡鑛山(宮崎縣)などの三菱直營の諸鑛山産出鑛及び買鑛を殺入して製錬を行ふ。製錬所にはマクドガル式焙燒爐、反射爐、グレートフォルス式コンバーター等を設備し、また粉炭設備としてコールドライヤー、レイモンドパルベライザーを、發電設備として蒸氣タービン發電機二臺を備ふ。〔直島諸島〕本村に屬する島嶼群。宇野港の東南に位する小島群にて直島を初め荒神島・葛島・福島・井島・家島・粟島の外二十餘島にして樣々の形をなして浮ぶ。直島の琴反地海岸は内海有數の海水浴場として知られ、且つ附近は春季鯛網の名所として聞ゆ。牛ヶ首島には日蓮上人の石像あり、參詣者多し。屏風島・宮兵衛島間には漁魚場が設けられ一名所となれり。〔八幡神社〕大字宮田浦に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。古来當村の産土神たり。例祭、十月十五日。

**ナカミ　直見村**　大分縣豐後國南海部郡の中部。東北は佐伯町と切畑村を隔て、東南は佐伯町の西南部に接す。面積約二一・五方粁。東南・西北兩部は山地をなし中央部を久留須川曲折しつつ東北流し北隣中野村に出で因尾川に合す。流域は平坦にして耕地拓け米・麥等の農産あり。國道(日向街道)この谷を通りて自動車往來し、省線日豐本線も亦これに並走し直見驛・神原驛(共に大正九年設置)あり。明治二十二年町村制施行の際上直見・下直見の二村を合して、直見村と稱す。

**ナオリ　名欲山**　→木原山

**ナオリ　直入**　【直入郡】　→直入郡

【直入(縣)】　豐後國(大分縣)の古地名。和名抄に直入郡直入郷見ゆ。釜ノ郡家の所在地なり。また延喜兵部省式に豐後國直入驛驛馬五疋と見ゆるも此地を云ふか。今審かならざれども、入田村・玉来町・竹田町に亙る邊を稱せしものならん。

**ナカ　那加村**　岐阜縣美濃國稲葉郡の南部。西北の大部は岐阜市との間に北長森村を隔て、その一部は市の東南部と接す。面積一四方粁餘。北部に低き山地ある外は概れ平坦にして田畑よく拓け、東南部は各務ヶ原の西部に當り原野にして今飛行場の一部をなす。米・繭・麥・甘藷等の農産あり。中山道・省線高山本線及び社線名古屋鎮西各務ヶ原線敷設して東西に通じ、高山本線の那加驛(大正九年設置)、各務ヶ原線に新加納・新那加・那加驛に達給す)・高農・一聯隊前の四驛(共に大正十五年開業)あり交通便利なり。この地は和名抄、各務郡那珂郷の地にして、正倉院文書に大寶三年戸籍斷簡に三野國各務郡中里とあるもここにして、中世には更木郷と稱せし地、近世は江戸廣本坪内氏六千五百石の領有なり、其邸を此に置きたり。〔から山古墳〕大字四市場カラ山にあり。前方後圓、西に向ひ全長約五四・五米、後圓直高約六・六米、規模稍小なりと雖も完全にして後圓腳部は葺石を施し、後方は山を切取りて墓となせり。埴輪・圓筒を存し、前方後圓古墳中完全なるもの一なり。〔手力雄神社〕大字日向に鎮座。郷社。祭神、手力雄神。織田信長天下太平を本社に祈願し成就の後各務野原八百町、近里山五百町を寄せらる。例祭、五月一日。〔少林寺〕大字新加納にあり。臨濟宗妙心寺派。龍慶山。正和元年疎石の開創と傳ふ。寛永年中坪内玄蕃頭家定堂宇を修興し曹洞和尚を中興開山となす。次で寺領を寄せ、その香華院となす。

**ナカ　那可**　出羽國(羽前・山形縣)の古地名。和名抄出羽國に那可の郷名二箇所にあり。一は最上郡にあり、諸本郡可(高山寺本は郡下)に作るも那可の譌なるべく、その地いま山形市の西北郊大郷・

金井・明治の諸村の邊なるべし。他の一は田川郡にあり、諸本那津に作るも、これも那可の誤なるべし。その地は審かならざるも、いま東田川郡の皇村の邊ならん。同村の大字に中里あり、郷名を傳ふるものにあらざるか。

## ナカ　那珂

【那珂郡】茨城縣十四郡の一。常陸國に屬し縣の北部を占む。東北境をなす久慈川、南境を流るる那珂川に挾まれたる地域にて、西北より東南に延び東南端は太平洋に面す。北は福島縣東白川郡・東北は久慈郡、南は東茨城郡・水戸市及び西茨城郡、西は新木縣芳賀郡・那須郡と界す。面積五一三方粁餘、縣の八・四%餘を占む。西北半部は八溝山脈の北部にて主として秩父古生層と第三紀層より成り、その中部を東流する押川（久慈川の支流）の谷によりて南北の二地塊に分れ、北部は八溝山（一〇二二米）を主とし六—七百米の高度を示す處少からず、南部は即ち鷲子地塊にして北部に比し稍低きも共に山地にして森林多し。郡の東南半部は主として洪積層の丘陵地にして高さ百米内外を示し、東南に至ると共に低下し二〇—三〇米の臺地となり畑地よく拓く。久慈川・那珂川に沿ふ細長き沖積地には田地あり。農産は米・麥を主とし豆類・栗・甘藷・青芋・大根其他の野菜を出し、また藁類・草の産多し。林産水産少からず、工業に和紙・薪炭・醤油等あり。陸前國街道と省線常磐線は東南部の臺地を横ぎり、水戸市に起り久慈川に沿ひて福島縣白河に至る縣道と省線水郡線は郡の東端を北上し、水郡線は上菅谷にて久慈郡太田に至る支線を岐ち、縣道は山方より那須郡烏山へ、大子より同馬頭に至る道路を分ち、これらの縣道にはいづれもバスの便あり。湊・平磯・瓜連・大子四町の外廿九餘村を含み、人口約一二・八萬、密度二四九人を算す。虎務天皇の朝國造を置きし伸國を大化改新の際那珂郡となす。今の那珂郡と東茨城郡の北半とに當る。和名抄は入野・朝妻・吉田・岡田・安賀大井・河内・川邊・常石・金澤・日下・志萬・阿波・芳賀・石上・鹿島・茨城・淺井・那珂・八郡・武田・幡田二十二郷を實す。中世私に分けて東邊を吉田郡とし、西北那珂川を挾みて那珂東西二郡とせしが、文祿の檢地に際し吉田及び那珂西郡を茨城郡に入れ、更に久慈郡の北部を加へて新郡境とす。後世これに據る。

【那珂川】栃木・茨城兩縣を流るる川。水源は那須火山西北の三斗小舎溫泉附近にて、那須野を貫流し、栃木縣東北部地方を流るる余笹川・蛇尾川・箒川・武茂川・内川・荒川等を忘れ、東して茨城縣との縣境をなす八溝山脈中に横谷をなして東流し、水戸平野に出で、水戸市の北端を流れ、涸沼の餘水を合せ海に至りて太平洋に注ぐ。流域には煙草の栽培甚だ盛んにて、我國第一の煙草栽培地帶をなす。中流良下約一〇〇粁には舟運の便あり。この川には鮭・鮎・鰻・鯉及び鯉等を產し、殊に鮭・鰻を名產とし、鰻は水戸にて那珂鰻と呼び聲價あり、流程一二七粁、流域面積約三二七〇方粁。

【那珂】常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に那珂郡那珂郷あり、那家の所在地なり。往昔伸國の國造の駐せし處も亦この地ならん。その地はいま明らかならざるも、小瀬村の大字に那賀あり、これ或は郷名の轉稱ならんも、那珂川を距ること約四粁の山中にあり、形勢上一國一郡を控ふべき位置にあらず、吉田東伍氏は後里村・飯富村の邊に當るかと云へり。

【那珂村】栃木縣下野國那須郡の南部。昭和十三年七月一日、小川町と改稱す。東北は黒羽町に近く、また西南は鹿谷郡喜連川町との間に上江川村を挾む。面積三八・一粁。人口六七一一人（昭和十年現在）。那珂川の西岸に位す。西半部は高度二百米内外の丘陵性山地起伏し、丘陵はよく開析され放射谷發達す。北境には箒川、中部には西北隣佐久山町より來る小川あり、共に東南流して那珂川に合す。東部の那珂川沖積地及び河川流域低地には田・畑よく開け、米・麥・煙草等を主產し、那珂川に產する鮎は廣く知らる。社線東野鐵道は東部那珂川沿ひに北部より來り終點那須小川驛（大正十三年設置）を設き、これに沿ふ縣道及び中部を往復東西に走る縣道あり、各バスを通じ交通便なり。古くは和名抄、那須郡三和郷の地にして、いま大字に三輪あり。近世は三和庄ともいひ、また那須上庄にも屬したり。村内に上那須の居城たりし那須城址あり。餘一宗隆以來、鎌流傳はりしも、永正十三年に至り上那須の正統絶ゆ。大字小川に大杉あり。目通幹圍六米、高さ三三米、枝葉四方に延び、その狀宛も傘を擴げたるの感あり。〔三和神社〕大字三輪に鎮座。郷社。祭神、大物主命。大和國、倭大物主櫛甕玉命を勸請せるに始まると云ふ。例祭、陰暦九月十三日。

【那珂】武藏國（埼玉縣）の古郡名。萬葉集に郡名見ゆ。和名抄には那珂・中澤・永保・弘紀の四郷を載す。明治二十九年見玉・賀美二郡と共に見玉郡となる。

【那珂】武藏國（埼玉縣）の古地名。二箇所あり、一は那珂郡那珂郷と和名抄に見え那家の所在地。その地いま見玉郡松久村の邊なる云ふか、同村の大字に中里ありこれ郷名の轉稱なるべし。一は和名抄に幡羅郡那珂郷と見ゆ。郡の中央なりしより起りし名稱なるか。その地はいま大里郡の別府・玉井・奈良諸村なるべし。

【那珂】越後國（新潟縣）の古地名。和名抄に魚沼郡那珂郷あり。その地審かならざるも、いま南魚沼郡六日町・豐澤町及び中之島村に亙る邊ならん。豐澤町の大字中は郷名の轉稱ならんかといふ。

【那珂】美濃國（岐阜縣）の古地名。那珂郡は即ち中にして郡の中央に位せるより起りし名稱なるべし。東大寺所傳の大寶二年戸籍に各務郡中里とあり、中は和銅年間良從改められたる那珂なるべし。和名抄に各務郷・那珂郷あり、其地審かならざるも、いま稻葉郡の森原村・那加村の邊なるべし。那加は郷名によりて建てたる名稱ならん。

【那珂】美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に席田郡那珂郷とあり、その地審かならざるも、いま本巣郡の西郷村の大字に中村あり、郷名を傳へしものか。

【那珂】美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に安八郡那珂郷あり、蓋し揖斐・長良二川の中間に位するより起りし名稱なるか。いま安八郡福東村に中郷の大字あり郷城は大藪町及び福東・仁木二村に亙る地ならん。

【那珂】播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に多可郡那珂郷と見ゆ。然るに播磨風土記には本郷を載せず。那内にいま中村あり、郡の中央に當る。これ郷名を傳ふるものか。

【那珂】大和國（奈良縣）の古地名。國内に三箇所あり。即ち和名抄に見ゆる平群郡の那珂郷、布（宇）智郡の那珂郷、吉野郡の那珂郷是なり。前者は凡そ今の生駒郡平群村なるべく、中者は中世中井莊と稱せし地にて凡そ坂合部の邊なるべし。同村の大字中は郷名の轉稱ならんか。後者はその地審かならざるも吉野川上流の中荘村の邊を稱せしものならん。

【那珂郡】讃岐國（香川縣）の古郡名。那珂は即ち中にして鵜足・多度二郡の中間に位するより稱するか。續紀慶雲四年五月讃岐國那賀郡名初めて見え、天平十九年法隆寺資財帳にも同縣郡名見ゆ。萬葉集卷一に中乃水門とあるは本郡の海岸とす。和名抄は那珂に作り倉野・良野・子松・高篠・椅無・垂水・喜德・郡家・柿原・金倉・智多の十一郷を載く。明治三十二年丸亀市郡より獨立しその餘は多度郡と合して仲多度郡を建つ。

【那珂（郡）】筑前國（福岡縣）の古郡名。那珂は中の意にして國の中央に位するを以てかく稱せしものならん。その地は古の儺縣（なのあがた）の中部にして那珂川に沿ひ、其港津を那津（なのつ）または博多津といふ。後の博多津即ち是なり。郡號は延喜式・和名抄共に那珂に作るも近世那珂・那賀・那珂に作りて一定せざりしが、明治に至り那珂に復ふ。明治二十九年本郡及び席田・御笠二郡を廢して新に糟屋郡を置く。

【那珂村】福岡縣筑前國筑紫郡の北部。西北半部は福岡市東南部に突入し、東南は大野村、西南は曰佐村・春日村に接す。東南より西北に細長く面積七・八方粁。全村地形平坦にして西北境には那賀川、東北部には御笠川共に西北に流れ、田畑よく拓けて米・麥・野菜等を產す。鹿兒島街道は東部を、省線鹿兒島本線は西部を東南に走りて後者の竹下驛（大正二年設置）・雑餉ノ隈驛（明治廿三年設置）あり。此地古くは和名抄那珂郡那珂郷の地にして那珂郡家の所在地たり、村名は郷名の遺稱なり。明治二十三年郡制施行せらるるや郡役所を置けり。

【那珂（郡）】日向國（宮崎縣）の古郡名。國の正中に位せるより名けたるもの。和名抄には夜間・新名・田島・於郡の四郷を載く。中世夜間・於郡の二郷兒湯郡に入り、また近世には宮崎郡の一部本郡に入る。明治十七年郡を分ちて南那珂・北那珂二郡とし、二十九年には北那珂郡を宮崎郡に併せ、南那珂郡殘る。

【那珂村】宮崎縣日向國宮崎郡の北部。北は佐土原町に接し、南は宮崎市との間に住吉村を隔て、西は兒湯郡都於郡村に界す。面積一七・三方粁餘。到る處に低き丘陵起伏するも中部より東南部には低地開けて田畑をなす。米・麥・甘藷・大豆等の農產を主とし工・林・畜產あり。宮崎市・佐土原町間の縣道東部を南北に横斷し自動車の往來あり。此地は和名抄那珂郡新名郷の内なるべく、古への郡家のありし所ならん。

## ナカ　那賀

【那賀（郡）】伊豆國（靜岡縣）の古郡名。名稱は田方郡と賀茂郡との中間の意か。賀茂郡の西部を割きて郡を建てしもの、建郡の期詳かならず。和名抄は井田・那賀・石火の三郷を載す。明治二十九年賀茂郡に入る。

【那賀】伊豆國（靜岡縣）の古地名。和名抄に那賀郡那賀郷あり、郡家の所在地なり。その地は伊豆の西海岸にして賀茂郡中川村・仁科村及び松崎町に亙る地なり。中川村の大字那賀は郷名の遺稱とす。

【那賀郡】島根縣一市十三郡の一。石見國中部にあり。東北は邇摩郡、東は邑智郡、南は美濃郡及び廣島縣山縣郡と界し、西は日本海に臨む。東北より西南に細長く長さ五〇粁、幅二〇粁あり、面積八〇〇・三九方粁。南境に聳立せる中國山脈の阿佐山（一二一八米）・大佐山（一〇六九米）その他の高峻なる連嶺の北斜面の山地を占め、山岳重疊して海に迫り平野殆んどなし。東北部を斜に江川屈曲して北流し、日本海に注ぐ。また西南に周布・三隅の西河川あり、何れも山間溪谷を流れて日本海に注ぐ。北半海岸は砂濱地處處に發達して出入に乏しきも、南半は沈降性の岩石海岸をなし濱田港・唐鐘浦附近は良港灣をなす。產業は林業・牧畜盛にして木材・牧牛は名あり。また日本海は豐饒區をなす鰐、魚類豐富にして水產業さかんなり。海岸に沿うて省線山陰本線西走し、國道山陰道もまた之と交體並行しつつ通過し濱田町より東南方に縣道を出し廣島市に至る。この地方は地產乏しき爲海外に出稼する人多し。濱田・江津・三隅・都濃津の四町と三十二箇村を包含し人口約九萬八千四百人、密度稀薄なり。郡名は、國の中央の意より出づ。

三代實錄貞觀九年紀にその名見ゆ。和名抄は都農・都於・石見・周布・三隅・祚東・伊甘・久佐の八郷を管す。

【郡賀郡】 徳島縣一市十郡の一。阿波國の南部に位す。北は勝浦郡、西及び南は海部郡と界し、東は紀伊水道に臨む。面積六六八・三六方粁。四國山脈の東部ここゝ東西に走り、その東端は海に沈みて出入多きリヤス式海岸をなす。郡の大部分は山岳重疊して深山幽谷をなし、それを切りて郡賀川曲流しつつ西南より、また桑野川は南方よりいづれも東北方に流れ、兩河川の下流川口に低平なる沖積地開き、合成して廣き勝浦平野の南部をつくる。山林地積廣く、從つて主生業は林業にして農業これに亞ぐ。また東部海岸は漁業盛なり。北東部より國道來り、東部を南下して海部郡に至り、縣道はその東部に發達す。省線牟岐線また國道に沿うて南下す。郡内、宮岡・羽ノ浦・新野・橘・鷲敷・立江の六町と十八箇村を含み、人口九二二一五。本郡は成務天皇朝國造を置きし長國を大化改新の際に郡となし今の字に改めしものか。三代實錄元慶五年の條に郡名初めて見ゆ。和名抄は山代・大野・島根・坂野・勝浮・和泉・和射・海部の八郷を管す。而してナガと訓みしものの如し。中世、私に海部郡を割きて海部郡を置き、更に郡賀郡を那東・那西の二郡とせしが、近世これを郡賀・海部二郡となして今日に至る。

【郡賀川】 徳島縣那賀郡及び海部郡を流るる川。水源の一は海部郡木頭村の西部剣山の南麓面、他は那賀郡澤谷村岩倉の剣山の東麓面に發す。那賀郡に入り宮谷村の西南部にて相合し東流し、延野村にて東北に流路を變じ、更に加茂村にて東折して平島村に至り廣き川幅を形成して紀伊水道に注ぐ。流程約一一〇粁、中流以上は穿入蛇行なせる部分多くその代表的河川として知らる。但し河口より合流點附近までは舟を通ず。沿岸平野は縣下第一の米産地にて縣内産出額の半以上を占め、品質も南方米の名を以て讃岐米と並稱さる。また流域一帯の山地に産する木材は薪炭と共に河口の富岡町にて集散され、東京・横濱方面にも移出され名産を揚ぐ。

【那賀】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に風早郡那賀郷あり、近世、中村に作る。いま溫泉郡立岩村の地飾ち是なり、大字の中村は郷名の遺稱なり。

【那賀川】 福岡縣筑紫郡にある川。郡の南部脊振山地に發源して北流し、福岡市の中央を過ぎりて博多灣に注ぐ。流程約三〇粁。上流の一部は佚流を成すも、大部分は沿岸低平にして灌漑に便すること多し。

【那賀村】 長崎縣壹岐國壹岐郡(島)の中央部。北は勝本町に接し、東北部は海に近し。全村丘陵性にて東北部及び西南部に僅に低地あり、米・麥・甘藷・薪炭等を出す。北方勝本町、南方武生水町とを結ぶ縣道は西部を縫に、武生水町より東隣田河村農產への縣道は東南部を斜に通じ島内への交通はさのみ不便ならず。古くは和名抄、壹岐郡那賀郷の地とす。全島の中央に當るを以てかく稱せしものならん。大字國分の郡城址は國府の址なりといふ。また大字中野郷に國分寺あり。蓋し延喜玄蕃式に「壹岐島、直氏寺、鎮島分寺」と見ゆるもの之なり。(住吉神社)大字住吉に鎮座。國幣中社。祭神、上筒之男命・中筒之男命・底筒之男命。神功皇后三韓より凱旋の際奉齋。神位、貞觀元年從五位上。式内名神大社。例祭十一月九日。

## ナカ

【中村】 中 青森縣陸奥國西津輕郡の中部。鰺ヶ澤町の南方にて、東南及び南は中津輕郡岩木村と界す。面積一一三方粁餘を有するも岩木山(津輕富士)の西北麓野に位し、地勢南部に高く北方に低下し山地廣し。中村川は村の中部西偏を北流し、下流沿岸幅狹き平地ありて耕地拓け、米を產する外、山地よりの木炭・杉を出す。人口は二千七百餘人にして密度は僅に二四人に過ぎず。省線五能線鰺ヶ澤駅(北隣舞戸村内)に近きも交通尙便なら ず。

【中岳】 奥羽火山脈に屬する一峯。田澤湖南岸より南方約二〇粁に當り、岩手縣二戸郡田山村と秋田縣鹿角郡燈平村の境上に聳ゆ。標高一〇二四米、山體輝石安山岩より成る。東麓四角岳(一一〇〇三米)直に鎭き、南西麓には獨鈷森(八三六米)連る。

【中村】 山形縣羽前國東村山郡の西部。山邊町の西方にて、之と大寺村の西南部を隔て西は西村山郡宮宿町に接す。面積約一八方粁。出羽丘陵南東部の臺地性丘陵にあり。鳥海山(五三一米)は村の略中央部に聳ゆ。中部南北に幅狹き低地ありて耕地は主としてここに拓け、米・繭を產す。道路は村の中部を東西に通じ、東方省線左澤線の羽前山邊駅へ自動車の便あり。

【中村】 茨城縣常陸國眞壁郡の北西部。下館町の北にて、これと伊讃村の一部を挾み、北西は栃木縣芳賀郡久下田町と隣る。南北に細長く面積七・四方粁餘の小村。東境を小貝川の支流五行川南流し全村平地にて西南部には田地よく拓け、その他には畑地多し。小麥・大麥・米を產し、足袋底の製造行はる。縣道と省線鶴岡線南北に通じ、前者にはバス運轉し、後者は行本駅(明治四十五年設置)を置き交通便なり。此地古くは和名抄、新治郡伊讃郷の内なるべし。文明五年、伊達朝宗の陸奥國伊達郡に移らざる以前、伊達氏(中村氏を稱す)の領せし地なり。吉野時代伊佐城(大字中館の遺といふ)あり、伊達行朝これに據りて王事に盡し、關城の北高親房、大寶城の北高顯時みな從く。





無國二年良來、高師冬等來り攻め、同四年十一月、關城等の陷るると共に此城も亦陷れり。

【中村】 栃木縣下野國下都賀郡の中部。北は栃木市との間に瑞穗村を隔て、東は小山町と穗積村を挾む。面積九方粁餘。全村平地にて中央を巴波川南流し、北部には畑地、其他には田地よく拓け、純農村にて米・麥を產し養蠶行はる。縣道村の略中央部にて交叉し、北方栃木市、南方茨城縣古河町、東方小山町、西方安蘇郡佐野町方面に通じ、何れもバスの便あり。古くは和名抄、都賀郡生馬郷の内とす。もと下總國古河藩主土井大炊頭領の中郷と稱せしより村名起るといふ。

【中村】 栃木縣下野國芳賀郡の西南部。鬼怒川の東岸に沿ひ、東北は瓜岡町に隣り、西は川を隔てて河内郡上三川町・本郷村と對す。面積二七方粁餘。全村平地にて畑地多く林地を交へ、東西兩部には田地よく拓け一部沼田をなす。米・麥・繭を產し、特產物に果實・葉煙草あり。瓜岡・下館間の縣道は東南部を、瓜岡・石橋間のものは北部を通じ、共にバスの便あり、また省線瓜岡線前者と並走して寺内駅(明治四十五年設置)を置く。和名抄に芳賀郡石田郷とあるはこの地か。中世は中村庄と稱せられ、東鑑文治四年三月の條にも中村庄の名見ゆ。大字八十岡あり。芳賀系岡に次郎大夫高親の六代の孫肥後守高房、八十岡を領す。その子高政は八十岡四郎と稱すと見ゆ。蓋しこの地の人とす。大字寺内にはもと莊嚴寺と稱する天台宗の古刹ありきといふ。(八幡神社)大字南中に鎭座。郷社。祭神、譽田別尊。古來中村庄の鎭守たり。例祭陰暦八月十五日。

【中村】 千葉縣下總國香取郡の南部。多古町の東隣にて、成田町と八日市場町との略中間に位す。面積約八・六方粁の小村。大部分低き臺地にて森林あり。西部は平坦南北に續き、栗山川西境を南流し田地よく拓く。農業行はれて米・麥を產し、養蠶・養鶏も盛なり。多古・成田・八日市場間の縣道南部を横ぎりバスの便あり。多古町内の社線成田鐵道多古駅に近く交通不便ならず。この地は和名抄、匝瑳郡中村郷の地にして、匝瑳郡家はここにありしものならんといふ。大字南中の字中城に中村砦址あり、高さ約一五米の桑地を存す。享德康正年中、中村俱馬守これに居る。大字南並木の字城に南並木砦址あり、千葉氏の臣飯田三左衛門の居城なりと。(日本寺)日蓮宗。正東山。一に日本鴻寺。當宗四十四箇本山の一にして、永仁年中日當の開創する所なり。第三世日祐の代に領主千葉鳳貞授越となりて諸堂を造營。のち談林となり飯高談林と共に日蓮宗の二大談林と稱せらる。

【中村】 千葉縣上總國君津郡の中部。本郷村の東南約八粁。東は小糸村、西は八重原村に隣り、面積一二・五方粁。北南部は共に低き臺地性丘陵にて森林あり。中部東西に低地ありて小糸川これを西流し、耕地よく拓く。米を主とし麥・繭を產し、また養蚕行はる。川沿ひに縣道通じ、西北木更津町、西方富津町方面へバスの便あり。この地は和名抄、周淮郡額田郷の内。

【中川】 東京市内東部の川。埼玉縣より南流し來れる荒川の分流古利根川の下流にして、隅田川・江戸川間の低濕地を流れ、下流は城東・江戸川兩區の境界をなして東京灣に注ぐ。埼玉縣境より河口までの流路は約一八粁にて、その中央部に於ては相當の蛇行をなす。途中荒川放水路のため横斷され、河水の多くは舊河道を通らずして荒川放水路の東側に沿ひ中川放水路となりて海に注ぐ。この川はもと利根川が南流して東京灣に注ぎし頃はその支流にて、猿ヶ又附近より西折して今の綾瀬川より隅田川に入りたりといふ。のち三つに分れ、一は東折して江戸川に入り、一は西折して綾瀬川に入り、中央のものが南流して海に注ぎ、これが中川となれり。要するに低濕地なるため河道の變遷は自然的にも人工的にも容易なり。江戸時代にはその西岸小名木川の口に番所が置かれ、江戸・行徳間の通船を監査せり、之を中川御關所といふ。

【中(村)】 神奈川縣久良岐郡にありし村。明治三十四年、横濱市に編入さる。

【中(村)】 神奈川縣足柄上郡にありし村。明治四十一年、井ノ口村と合し中井村を置く。

【中郡】 神奈川縣十郡の一。相模國の一部にて縣の中部南偏に位す。東は相模川下流によりて高座郡と界し、東南は平塚市に接し、西南は相模灣に面し、西は足柄下郡・足柄上郡に、北は愛甲郡に隣る。面積二三二方粁、縣の九・八%餘を占む。西北部は丹澤山塊の東南部に當り塊上の中部に大山(一二五三米)、西部に塔ヶ岳(一四九二米)峙ち、南部は海岸地塊に屬する大磯丘陵ありて最高處にて二百米内外を示し、西北には丹澤山塊との間に秦野盆地を圍み、南は相模灣岸に低下し、その沿岸は夏涼冬暖の氣候を有し保養地として著はれ、その砂濱はまた恰好の海水浴地たり。郡の東部は丹澤山塊東側の段丘とその裾を南北に續く相模川平野の南部より成る。產物に米・麥・落花生・甘藷・大豆・粟等のほか秦野地方には葉煙草の產多く、養蠶赤染えて繭の產少からず、他に沿岸漁業も行はる。東海道及び省線東海道本線南部の海岸に近く東西に通じ、足柄街道は伊勢原・秦野を經て矢倉澤に向ひ、社線小田原急行鐵道(電車)また略これと並走して東京と小田原を結び、その餘縣道また東部を南北に通じ、これら道路にはいづれもバスの運轉あり郡内交通便なり。大磯・二宮・伊勢原・大山・秦野五町の外甘糟村を含み、人口約一〇・三萬人、密度四四三人を示

す。中郡の名稱は足利幕府の頃の私稱たり。小田原北條氏之を襲用し、天正年中に至り郡號復古し中郡の名亡ぶ。明治二十九年改めて海綾・大住の二郡を合し中郡を成す。

【中山】 八ヶ岳火山群の一峯。西方長野縣諏訪郡豐平村と東方南佐久郡北牧村の境上に位す。標高二四九三米。北方丸山（二三三〇米）と南方天狗岳（二六四六米）との中間に起る。

【中村】 岐阜縣美濃國可兒郡の北部。御嵩町の西に接し、木曾川の支流可兒川に沿ふ。南北に二—三百米の丘陵を負ひ、中央を可兒川東より西に流れて沿岸平地に田畑拓く。農・蠶業を主とし米・繭の産多く、次いで製絲・鍛冶等の工業盛なり。また石炭の産多少あり。可兒川に沿ひ中山道東西に貫通し南方へ縣道を分岐す。社線東美鐵道を廣見町より通じ、村内に御嵩戸（昭和三年設置）・御嵩（大正九年設置）の二驛を置く。この地は和名抄可兒郡郡家郷の内たり。〔春日神社〕大字中に鎮座。郷社。祭神、武甕槌神外三神。社傳に據れば上古中村開闢の元祖中村連といへる人の創祀と傳ふ。例祭二月十一日。〔八幡神社〕大字顔戸に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。社傳によれば延長八年石清水八幡宮を勸請して創祀す。當時、社領三千五百石を有せる大社なりき。其後康平六年源義家再建す。爾來上下の尊崇厚く四十有餘の末社を有せしが中世悉く烏有に歸す。例祭九月十五日。

【中村】 靜岡縣遠江國小笠郡の中南部。掛川町の東南約八粁。北部及び西南部に丘陵繞るも他の大部分は低平、東境を菊川西南に流れ、北部丘陵の裾なる池と共に灌漑の便よく田畑よく拓く。米・繭・茶を産す。街道は東部を横ぎり南北に通じ掛川町及び東方横須郡相良町にバス通ず。

【中（村）】 愛知縣愛知郡にありし村。大正十年、名古屋市に編入さる。

【中郡】 京都府十七郡の一。丹後國の一部にして府の西北部に位し、東南は與謝郡、北は竹野郡、西は熊野郡に隣り、西南は兵庫縣出石郡と界す。面積一三六方粁餘。四周は概ね花崗岩より成る五—六百米の山地にて西南部の足古山（六六一米）を最高とし、西境に菱山峠、東北境に成相山（五六九米）・木積山等あり。竹野川東北隅に發し東部を西南に流れ、東南部に至りて急に北折し、中部に於て西南隅より來る支流を併せ北流し竹野郡を經て日本海に注ぐ。川の沿岸はその神積地たる峰山盆地にして郡の主要生産地區を成す。農産は米・麥を主とし養蠶行はれて繭を出し、工産には生絲の外、機業発え丹後絹織の産地として著る。盆地の西北部を占むる峰山町を中心都邑とし外に十二箇村を含み、人口約二四・八千人、密度は一八三人。但馬街道は與謝郡より來り西境菱山峠を越えて熊野郡に出で、北方竹野郡網野に至る府道之より岐る。省線宮津線中部を南北に貫走するも交通なほ大に便利なりといはれず。もと丹波郡と稱し元禄中郡に作り良後之による。

【中村】 大阪府河内國南河内郡の略中央部。金剛山脈西麓に位し、富田林町の東南方約三粁、これと彼方村・大伴村を隔つ。面積僅に三・七五方粁。東南部は細長くなりて東隣河内村と南隣赤阪村との間に突入す。東南より西北に緩く傾斜する平坦地にて、石川の支流東條川千早村より來りてほぼ中部を北流し田地よく拓け、西北境の丘陵地には果樹園あり。米・麥等の外蜜柑・葡萄等を出し工産も少からず。富田林街道は西部を、古市街道は東部を南北に通じ交通不便ならず。古くは和名抄、石川郡甜口郷の内なり。

【中町】 兵庫縣播磨國多可郡の中部。加古川の支流杉原川中流の地。東南は西脇町との間に日野村を隔て、東北は氷上郡和田村に接す。面積四八方粁餘なるも東北・西南兩郡には高き四—五百米の山地廣く、北境の妙見山は六九三米を示す。杉原川は西北隣松井庄村より來り西北より東南に中部を貫き、その沿岸に廣濶なる低地あり田畑よく拓け米・麥類を主とし食用農産・蒟蒻芋・雑穀等の農産あり、また製茶・蒟蒻・木製品・瓦・醤油・畳等の工産あり。西脇より柏原（氷上郡）へ、北條（加西郡）より柏原（氷上郡）への縣道南北と東西に通じ、また社線播州鐵道鍛冶屋線野村驛（共に大正十二年開業）を設き交通不便ならず。古くは和名抄、多可郡益田郷に屬す、大字安樂田は郷名の遺稱なるべし。中世は荒田荘といふ。大正十三年町制を布く。〔稲荷神社〕大字能屋に鎮座。縣社。祭神、倉稲魂命外相殿神二柱。推古天皇二年九月の創建と云ひ、初め字才井淡に鎮座し、古來安田庄の氏神として崇敬ゆ。神護景雲三年社殿を建立、仁壽二年四月神託により天安元年現社地に遷座す。元龜二年兵火に罹り天正元年十一月再建す。武將の崇敬厚く、地頭中原氏・足利尊氏・赤松氏・池田氏等の寄進多し。例祭、十月十四日。〔加都良神社〕大字間子に鎮座。郷社。祭神、加都良乃命。相殿、高皇産靈神・天忍穂耳命、天平元年の創建と傳へ、式内の加都良乃命神社なりといふ。例祭、十月十七日。〔量興寺〕大字天田にあり。古眞言宗。高寺山と號し高野末。天仁年中寂信の開創に係り、天正年中良遍中興す。明治三十四年境内に八十八箇所靈場を創設す。

【中島】 ↓海士村（島根縣海士郡）

【中村】 島根縣隠岐國周吉郡の北部。隠岐島後の北端に位し、北は海に臨む。東境に葛尾山（五九八米）・南境に峰張山（五二二米）、西境には大峰山（五〇八米）聳立し、末端は北方に突出して海苔田鼻等の岬となる。中村川は南部山地に發して北流し大字中村にて海に注ぐ。海岸は概ね北上して村内に入り隠岐中村驛及び終點鍛冶屋驛（共に大正十二年開業）を設き交通不便ならず。古くは和名抄、多可郡益田郷に屬す、大字安樂田は郷名の遺稱なるべし。中世は荒田荘といふ。大正十三年町制を布く。〔稲荷神社〕大字能屋に鎮座。縣社。祭神、倉稲魂命外相殿神二柱。推古天皇二年九月の創建と云ひ、初め字才井淡に鎮座し、古來安田庄の氏神として崇敬ゆ。神護景雲三年社殿を建立、仁壽二年四月神託により天安元年現社地に遷座す。元龜二年兵火に罹り天正元年十一月再建す。武將の崇敬厚く、地頭中原氏・足利尊氏・赤松氏・池田氏等の寄進多し。例祭、十月十四日。〔加都良神社〕大字間子に鎮座。郷社。祭神、加都良乃命。相殿、高皇産靈神・天忍穂耳命、天平元年の創建と傳へ、式内の加都良乃命神社なりといふ。例祭、十月十七日。〔量興寺〕大字天田にあり。古眞言宗。高寺山と號し高野末。天仁年中寂信の開創に係り、天正年中良遍中興す。明治三十四年境内に八十八箇所靈場を創設す。

【中島】 ↓海士村（島根縣海士郡）

【中村】 島根縣隠岐國周吉郡の北部。隠岐島後の北端に位し、北は海に臨む。東境に葛尾山（五九八米）・南境に峰張山（五二二米）、西境には大峰山（五〇八米）聳立し、末端は北方に突出して海苔田鼻等の岬となる。中村川は南部山地に發して北流し大字中村にて海に注ぐ。海岸は概ね





鑑屋をなし岬端には白島・沖ノ島・松島・琴島等の小島散布す。山地多く低地は僅に中村川沿岸及び海濱にありて耕地開けず米を産するも、山地に於ける木材は良質なるを以て知られ、なほ魚族・鹽幸も少からず。街道は僅流に沿うて走るも輸路ありて交通便ならず。〔高尾暖地性闊葉樹林〕指定天然記念物。字高尾にあり。樹種は主として極類・さかき・ひさかきにして、少數のねずみもち・もちのき・つばき・しひのき・ゆづりは・しきみ・やまもも・かごのき等の暖地性常緑闊葉樹を交ふ。ひめこまつ・くろべ・すぎ等の針葉樹・うりはだかへで・いたやかへで・かつら・みづなら等落葉闊葉樹は極めて僅かなり。樹相よりは蔓性植物垂下し附着せる羊齒・蘭類には、ひもちん・なごらんの如く日本南部亞熱帶性植物の北限と見做すべき珍らしきものなり。〔明神ノ松〕指定天然記念物。中等常高等小學校の校庭にあり。防風林の名殘にして大小二株の黑松なり、枝振美しく、大なる方は地上約一米半に於ける周圍七米四寸。〔隠岐海苔田ノ鼻〕指定天然記念物及び名勝。大字元屋の字平鳥・琴鳥・五葉鳥・イモリの海濱及び海面・岩礁を含む。〔隠岐白島海岸〕指定名勝天然記念物。大字西村字後浦地内笠崎より白島岬を經て同村字風浦地内毒仙崖に至る絶壁地及び其地先二〇〇米以内の海面・島嶼・岩礁を含む。白島は白色の石英粗面岩より成り、奇岩怪窟多く、青松參差名狀すべからざる勝區にして、ここに大水凡鳥と稱する猛禽棲息す。

【中ノ岳】 新潟縣越後國南魚沼郡五十嵐・東兩村と北魚沼郡湯之谷村との境上に位す。標高二〇八五米。又、銀山、御月山といひ古來の靈山なり。山頂は草原をなし國常立尊の銅像あり。「八海（山）」銀山・駒ヶ岳」と謳はれ、此三山を巡るを三岳めぐりといひ行者の登拜少からず。

【中ノ島】 島根縣隠岐の島前群島の一島。西にある西島とは別府灣と中井口を以て相對し、南の知夫里島とは木橋口（大口）によつて隔たる。中ノ島の東北方には松島・舟島・大森島等のほかに大礁・堺礁等の暗礁あり。島の東端は知々井崎といふ。島内の最高點は西端の家督山（約二四六米）にして、大部分は二〇〇米の山地なり。灣頭に僅の平地あるのみにて、海士・宇受賀・豊田・保々見・知々井・布施崎・須賀・菱等の灣頭聚落が僅に存するに過ぎず。骨後の丘陵性山地には畑・牧あり、粟・稗・蕎麥等の畑作物と牛馬を産す。海よりは柔魚・鯖・鰯等を産し、特に北西別府灣に面する菱と、知々井半島頭部にある知々井とに多し。周圍の島と共に海士村に屬す。周圍約六六粁、東西約七粁、南北約六・五粁。刈田山には後鳥羽天皇の行在所の遺址あり、隠岐神社を奉祀す。昭和十年人口五〇四八にして、大正九年六〇〇一、同十四年五四七八、昭和五年五三〇八に比し著しき減減を示す。

【中村】 岡山縣備中國川上郡の中部。成羽町の西にあり、北は吹屋町・宇治村、西は湯野・平川二村、南は富家村と界す。面積約一八方粁。地勢一般に三—四百米餘の山地より成り、西部は高き約六百米餘の山岳峠居して高峻なり。西南境を巡りて成羽川流れ、その流域に僅に狹長なる谷を開き平地を見る外は殆んど低地なし。米・麥・繭の外に蒟蒻・生姜・木炭等の産多く、また廣く牧牛を營む。成羽町に至る縣道ありてバスを通ず。この地古くは和名抄、下道郡成羽郷に屬す。

【中村】 廣島縣安藝國佐伯郡にあり。廣島灣上に浮ぶ西能美島の中部にありて東は鹿淵瀬村を隔てて江田島と對し、北は内海及び高田村、西は三高・神の二村、南は鹿川村と界す。面積六方粁。東部及び西部は丘陵性山地にて森林地をなし、中央部は低平なる地域をなして耕作行はる。米・麥・繭・蘭草等の産あり、また木産業・牧畜營まれ、從つて工産多し。高田村へは渡船の便あり。

【中（村）】 高知縣幡多郡にありし村。明治三十一年中村町と改む。

【中村】 福岡縣筑前國鞍手郡の中部西偏。直方市の西方約四粁にて、その間に宮田町・若宮村を隔つ。面積九・八六方粁。西部より西北部一帶にかけては山地をなし、西隅は約六百米の高さを有す。中部より東部へは緩く傾斜して漸れ平坦、東境には遠賀川に注ぐ犬鳴川東北に流れ、米麥を主とする農産あり。犬鳴川に沿ひて道路通ずるも交通疏にして便ならず。古くは和名抄、鞍手郡金生郷の内なりしものか。江戸末期の醫者にして筑前津醫學の首唱者武谷元立（贈正五位）は、この地の人、又その子にして名醫祐之（贈從五位）も此地に生る。殊に祐之の經營せる貴生館は九州帝大醫科の礎をなせり。

【中（村）】 熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年、郡浦村と共に廢し、新たに郡浦村を建つ。

【中岳】 ↓阿蘇山（熊本縣）

【中村】 熊本縣肥後國天草郡の東北部。大矢野島の南半を占め、東は千束島・維和村）に、南は小島嶼多くそれと柳ノ瀬戸・滿越瀬戸等を隔てて天草上島に對す。高距百米以下の丘陵起伏し、東南部及び東北部海岸には稍低地開ける。東岸には野牛島・横島・南岸には永浦島・鵜谷島・高歩島等をはじめ小島嶼散在して風景に富む。農業行はれ乳牛・大豆等を主産物とす。柳ケ浦海岸より縣道北上し登立町へバス、南方今津村へ發動機船の便あり。

【中之島】 鹿兒島縣大島郡十島村に屬する一島。ロノ島と諏訪瀬島との間にある寶七島の一。周圍約一二粁餘の活火山島にて、中央より北西に偏して御嶽（一〇三七米）聳ゆ。山はコニーデ式の未だ削剝の進まざる幼年期の火山にして頂上部

に噴火口あり、大正三年火口底沼の平より泥土を噴出し小島を形成せり。東北端の高元埼と南端のセリ岬との間は一大淺灣をなし、鹿兒島・那覇間の定期船寄港す。御嶽西南麓に集落あり。

**ナカ　仲(國)**　國造本紀に見ゆる古國名。成務天皇の朝、建借馬命を以て國造に定め給ふ。國郡制定の時に郡となり、常陸國に隸す。那珂郡即ち是なり。されど現時の那珂郡は文祿の檢地に際して郡境を異動せしめたること靜からざるを以て、往時の那珂郡と久慈郡との各一部に當る。※那珂郡(常陸國)

**ナガ　名賀郡**　三重縣十五郡の一。伊賀國の南半にて縣の中部西偏に位し、北は阿山郡(伊賀國)、東は一志郡、南は奈良縣宇陀郡、西は岡山盆郡と界す。面積三二八方粁餘。東境には布引山脈南北に連り、南部は室生火山地域の山地にて東南界に尼ヶ岳(九七八米)、南境に國見山(八六〇米)、西境に茶臼山(五三五米)あり、郡内は東部及び南部に高く北部は上野盆地の一部にて伊賀川の支流長田川西北に流れ幅狹き低地とその北方の臺地をなし、西南部には宇陀川と長瀬川の合流に因る名張川の小盆地をなす。長田川流域に阿保町、名張川流域に名張町の二町あり、外に十七餘村を含む。低地は肥沃にして田畑よく拓け米・麥の産多く煙草・青苧等の食用農産あり。林産・工産これに次ぐ。道路は名張町・阿保町を經、東境の青山峠を越えて三重縣に出づる大和(初瀬)街道と、名張より北方阿山郡上野町に至る名張街道、及び阿保町と上野町とを繋ぐものありて概れバスを通じ、また社線參宮急行電鐵は略ぼ大和(初瀬)街道に沿ひその伊賀線は名張町・上野町を經れて省線關西本線に連り、交通不便ならず。本郡は明治廿九年名張・伊賀の二郡を合併して設けるもの。

**ナガ　那賀**　【那賀郡】和歌山縣七郡の一。紀伊國の一部にして縣の西北部に位し、東は伊都郡、南は有田郡、西は海草郡に接し、北は大阪府泉南郡と界す。面積四三〇方粁餘。地形上、北部の和泉山脈、南半の高野山塊の西につづく山地及び中間の紀ノ川流域の三部に分かる。和泉山脈は白堅紀層より成りて東西に連り、葛城山(八五七米)・犬鳴山・三峯山(五七七米)・四石山(三三四米)等を起すも概して高峻ならず、南方紀ノ川谷に傾斜す。南半の山地は高野山塊と同じく主として結晶片岩及び變成岩より成り、その南境を限りて東西に天狗岳(九六八米)・尖峯山(八六二米)・生石ヶ峰(八七〇米)等を起す長峯山脈とその北方に貴志川及び紀泉川・柘榴川の谷によりて切られまた東西に延びたる二條の山脈より成る。紀ノ川流域は和泉山脈の南側に生ぜし斷層に因る鍵谷にして、南北兩山地に接する部分には洪積層、中部には神積層の平地ありて郡の主要産業地區をなし、名手・粉河・岩出等の町ありて人口最も稠密なり。物産に米・麥・蜜柑・綿・豆類・甘藷等の農産、綿織物を主とし酒・和紙等の工産あり。交通は紀ノ川流域に大和街道その他の縣道ありて東西に通じ、泉南郡より來るものに粉河・根來兩街道ありて共に和泉山脈を越え、前者は中部を、後者は西部を南下して大和街道に達り、省線和歌山線また東西に走りて交通の便よし。南部山地には柘榴川・紀泉川の谷及び貴志川の谷に沿ふものと、和歌山市に起り西南部を掠むる龍神街道及び社線和歌山鐵道・野上電鐵等西部に來るも概れ便利ならず。書紀大寶三年に奈我郡とあり、續日本紀神龜元年に初めて那賀郡名見え、和名抄に賀音加と註し、石手・橋門・那賀・荒川・山埼・埴埼の六郷及び神戸一を管す。【那賀】紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に那賀郡那賀郷あり、郡家の所在地とす。その地審かならざるも長田・池田・田中諸村の邊に當るか。

**ナガ　長**　【長沼】宮城縣登米郡西北部の沼。新田村と北方村に跨り、東西約五・五粁、南北約一粁、周圍約三〇粁あり。佐沼山、日向臺などの丘陵を以て圍まれ潮汐海抜は二八米、沼澤の排水は日向臺の北より東へ流る。この沼は灌漑の用に供せらること多く、且つ雜魚類の產に富む。【長(村)】宮城縣名取郡にありし町。もと茂ヶ崎村といひしが大正四年長町と改稱、昭和三年仙臺市に編入さる。【長沼】千葉縣印旛郡北部の沼。豐住村に屬し、南北二つに分れ、北岸より排水して利根川に注ぐ。沼面は海抜一米、沼岸の延長三・九粁。面積は南沼〇・八方粁にして北沼は一・六方粁、深度は兩沼とも一米内外なり。沼面は秋季ヒシクヂサを以て蓋はれ、底棲動物としては介類多し。【長島】↓裳掛村(岡山縣邑久郡)【長島】廣島縣豐田郡中野村の屬島。一に大崎長島といふ。↓中野村【長島】↓上關村(山口縣熊毛郡)【長(國)】國造本紀に見ゆる古國名。成務天皇の朝、豐松彥色止命九世の孫韓背足尼を以て國造に定め給ふ。國郡制定の時郡となり阿波國に屬す。凡そ今の那賀郡の地是なり。【長島】鹿兒島縣の西北端、出水郡に屬する島。東南の本陸とは黑ノ瀬戸薩摩迫門)の狹水道を以て相隔て、東は八代灣、西南は天草灘に臨み、東北に伊唐島・諫訪島等、西北に天草下島を望む。面北約一六粁、東西八—一〇粁。天草上島の東部に起り西南走する念珠岳山脈と走向及び構造線に於て一致し、全島の火部分は白堅層より成る開析臺地にして、中部に四百米前後の行人岳・矢嶽等聳え、ただ東南部は花崗岩臺地をなす。海岸は到



る處に海蝕を見、岬角灣入多し、これ本島が一度降起し谷の開析されたる後、輕度の沈降を見たるに因るとせらる。平地に乏しく、聚落は多く海岸に發達し、生業は半農半漁なり。中部の分水嶺により東長島・西長島の二村に分たる。東岸の鹿迫・宮ノ浦は八代灣沿岸汽船の發着所たり。

**ナカアイ　中合**　新潟縣西蒲原郡にありし村。明治三十九年、魚道・蛛津の二村と合併して月潟村を建つ。

**ナカアイベツ　中愛別**　北海道石狩國上川郡愛別村の大字。省線石北線の中愛別驛(大正十二年設置)を置く。

**ナカアシガワ　中芦川村**　山梨縣甲斐國東八代郡の南部。御坂山脈の北面、芦川の山谷に位し、東は上芦川村、西は榮宿村にて、南は南都留郡と界す。南北に山嶺を負ひ、聚落は中間の谷を西流する芦川に沿ひ、農・蠶を主業とし、秋冬は木炭製造に從事す。主產物は繭・木炭・木材なり。道路東西に通ずるも交通不便なり。此地はもと芦川郷と稱せし地の一部にして明治十三年より上芦川・中芦川・榮宿の三舊村を以て組合村をなし役場を本村に置く。

**ナカアズマ　中吾妻山**　吾妻山(福島縣)の一峰。

**ナカアマダ　中甘田村**　石川縣能登國羽咋郡の中部。高濱町の南に接し、羽咋町を距る北方約一〇粁。西は日本海に面す。面積九・二六方粁。概れ低き丘陵をなし、その中間と北部に平地ありて田地拓け、海岸は砂濱をなす。農・蠶業を主とし米・繭の產あり。海岸に沿ひ外浦道と社線能登鐵道並走し、鐵道は大島驛(昭和六年開業)を置き、また外浦道には高濱町・羽咋町へのバスを通じ、交通不便ならず。

**ナカアライ　中新井**　東京府北豐島郡にありし村。昭和七年東京市に編入し他町村と共に板橋區を成す。

**ナガアリ　長有**　陸奥國の古地名。續紀、弘仁二年四月に、「廢二陸奥國海道十驛一。更於二通常陸一道、置二高野・長有二驛一。爲レ省二機急一也」と見ゆ。延喜式兵部省式にも陸奥國高野・長有二驛驛馬二疋とあり、これ常陸國より直に東山道の本路に合する支道に置きたるもの。長有驛はその位置審かならざるも白河郡依上保内と見るべく、後世常陸國久慈郡に入れる宮川村の大字下野宮の邊なるべし。

**ナカイ　中井**　【中井村】神奈川縣足柄上郡の東南隅。北は中郡秦野町との間に南秦野村を隔て、東は同郡土沢村、東南は同二宮町に、南西は足柄下郡下中村・下曾我村と界す。面積二〇方粁餘。海岸丘陵の西部にて西部は三百米の高度を有するも北部へ次第に低下して臺地をなし畑地・林地を交へ、またその中間には南北に通ずる細き谷地あり。麥・甘藷・粟・黍・大豆等を產し產蠶行はる。縣道は南北に通じ、二宮町・秦野町へバスの便あり。此地は和名抄、餘綾郡中村郷の内なるべく、中世は中村庄と稱せし地なり。明治四十一年中村及び井ノ口村を合併し本村を置く。(八幡神社)大字澄藤に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・猿田彦命外十九神。後白河天皇の保元二年僧義圓の勸請に成ると傳へ、源頼朝所願所六十一社の一といふ。また當社を一に五所八幡と稱するほ、宇佐八幡を勸請してより次第を追うて第五に當るが故なり。即ち一に宇佐、二に日光、三に男山、四に鎌倉、五に當社なりと傳ふ。例祭四月二十日。【中井】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五舊村と共に廢し新に六ツ美村を置く。【中井村】岡山縣備中國上房郡の西部。東は中津井・瓦瀬二村、南は川面村及び高梁川を隔てて川上郡高倉村と界し、西及び北は阿哲郡草間・豐永二村と隣る。面積三一方粁餘。全村高距約三—四百米の臺地性山地より成り、東南部に秋葉山(五九一米)聳ゆ。平地は中央部の山間谷地及び高梁川に沿ふ河岸にあるのみ。山地は良好なる牧場をなして牧牛盛に行はれ、また米・麥を產する外、木炭・繭・生姜・蒟蒻等を出す。南境高梁川に沿うて省線伯備線通じ方谷驛(昭和三年設置)あり。この地は和名抄、英賀郡中井郷の地なり。賀田域址あり、戰國の頃城主植木秀資、浮田直家に屬し毛利の軍と戰ひたる處なり。また明治初年の碩儒として名聲天下に高き山田方谷(贈正五位)はこの地の人なり。

**ナカイ　中居**　石川縣鳳至郡にありし村。昭和八年南北村と合して住吉村を建つ。

**ナガイ　永井**　【永井村】岩手縣陸中國西磐井郡の南端。西南は宮城縣登米郡石越村・石巻町に、東南は同郡上沼村に隣接す。村内には一〇〇米内外の丘陵起伏し、南部に高倉山(一三四米)あり、東北境を東南流する北上川は北境を東流し來る金流川を容れ、また西南境には迫川の一支夏川東南に流れ、流域に低地ありて鮮地開く。米・麥類・大豆等を產し、養蠶も盛なり。街道一脈登米線は西北より東南に縱貫し、石越川口線は西部を南北に走り、バスを通ず。この地は和名抄、八代郡長江郷の内なり。いま米倉村と共に組合村をなし役場を本村に置く。【永井村】山梨縣甲斐國東八代郡の中北部。甲府市の東南約五粁。面積〇・七九方粁の小村。濁戸山山嶺の北麓斷層線に沿ひ、笛吹川の一支金川の扇狀地の扇端に位し、西方にやや傾くも土地低平、甲府盆地の東南緣に當る。米・麥を產するも養蠶を主とする農業經營をなす。他の町村に至る幹線道路なく交通便ならず。人口は大正九年六二七人、同十四年六五

七人、昭和五年六三一人、同十年六三八人と一遍一遍して増加率恐しきも、昭和十年の一方粁密度は面積小なるにより八〇八人の稠密を示す。

**ナガイ　長井**

【長井町】　山形縣羽前國西置賜郡の東北部。南に平野村、北に長井村あり、東は東置賜郡伊佐澤村と界す。面積九・四七方粁。最上川の上流のなす長井盆地の略中央部に位し郡の首邑たり。東半は金井神山（約四〇〇米）の丘陵性山地なるも西半は平坦にして、その山地との境を最上川北流し、西北部には安流野川流る。田地よく拓けて米の産あり、附近一帯は養蠶地ななし、その中心たる本町は生絲・絹織を始め長井紬・米琉等の機業榮ゆ。また町内の龍森鑛山よりは、清俺鐵を産す。道路四通し東南は赤湯町、北方は荒砥町、西南は萩生（豐原村）方面へバスの便あり、また省線長井線南北に走り長井驛（大正三年設置）を置く。和名抄に置賜郡長井郷と云ふは本町の邊を指させるものならん。中世、一時は置賜郡の名を失ひ長井郡或は長井莊の名を以て呼ばれし事あり、而してこの地はその中心都邑たり。初め平泉藤原氏の館たりしが、鎌倉時代には大江廣元の次子大江時廣の所領となり子孫相襲ぎ世々長井氏と稱し、のち伊達氏に亡ぼさる。本町は本場とする長井紬の發祥は萬だ古きも、斯業中興の祖として登達の基礎を置きたるは上杉鷹山、專ら殖産興業に鋭意し特に意を蠶桑の業に用ひたるに因る、而も當時の製産品は純めて單純なる白または縞紬に止まり、未だ今日の如き絣紬の製出なりしが文化年間に浮浪人某に因りて横絣製造の方法を傳へられ、これ實に絣紬織の濫觴とす。其後、下總結城にて紬織の方法を研究して歸る者あり、また横竪の絣を考案する者ありて漸次に改良進歩を示し、更に經緯完全なる紋紬を製出され、斯業の面目を一新し以て今日に至る。〔總宮神社〕大字宮に鎮座。縣社。祭神、日本武尊・大己貴命。延暦年間に坂上田村麿が、日本武尊東夷征討の御此地にて民の水害を除き給ひし神德を追慕して本社を創建。のち荒廢せしを康平六年源頼義これを再興す。降りて文祿年中に潮生氏鄕當郡釜頭となり勤農に努めたりし際、神社・佛閣の肥饒の地に鎮座せる爲め敬崇不足を告ぐるにより長井庄五十餘箇村の神佛を廢し、これら神靈を總て宮村神社に合祀し、長井庄總鎮守として崇拜し、神號を總宮と稱へ、神領三百石を寄せ、以て五十餘箇村の氏神と定む。祠率上下の尊崇厚く、元祿十五年に正一位總宮大明神の神號來授す。例祭、九月十九日。〔慈照寺〕　大字宮にあり。新義眞言宗豐山派。金剛山胎藏院。往古は奥ノ高野山と稱せられ高堂山實性院末にして、堂宇莊嚴を極めしが、のち次第に衰頽す。應永年中、慈宥日再興せしが、次で宮の城代が片倉小二郎の當寺に歸依すること深くして、遂に仙臺に一宇を創建して遍照寺と號し、以て新願所となす。上杉公慈も當寺を以て新願所と定む。爾來、下長井四十餘郷の檀那寺となり、末寺三十三餘寺を擁して法威盛んなりき。

【長井村】　山形縣羽前國西置賜郡の東北部。郡の首邑長井町の北に隣り、北部は狹長に西北方に延びて西隣西根村、北隣置賜郡の間に突入し、東南は東置賜郡伊佐澤村に接す。面積約一七方粁。東部は金井神山、西北部は最上川上流の長井盆地に屬し土地平坦にして田地・桑畑よく拓け、米・蠶を産す。長井町・荒砥町間の道路は中央部を南北に通じ、兩町へはバスの便あり。省線長井線また西部に通じ羽前成田驛（大正十一年設置）を置く。〔葉山神社〕大字白兎に鎮座。郷社。祭神、保食命外三神。創建は朱雀天皇天慶年中なりといひ、附近四十ヶ村の崇敬社。例祭七月十五日。〔八幡神社〕大字成田に鎮座。郷社。祭神、仁德天皇。後冷泉天皇永承七年源頼義、安倍貞任征討の時、これを勸請すといふ。その後の來歴傳はらず。例祭、九月十五日。

【長井線】　省線奥羽線の一。山形縣東置賜郡神郷村の奥羽本線の赤湯驛より西置賜郡に入り、今泉驛（豐田村）・長井驛（長井町）を經て荒砥町の荒砥驛に至る三〇・六粁。今泉驛にて省線米坂線に連絡す。なほ本線は將來に於て省線左澤線に接續すべきものなり。

【長井村】　埼玉縣武藏國大里郡の東北部。熊谷市の北約四粁にて、妻沼町の東南に隣る。利根川の右岸に沿ひ、土地卑濕なるを以て利根川岸には堤防を設く。その小支は中部を東南流し、湿潤の便よく、利根川岸一帯の桑園地域の他は水田となる。熊谷市より妻沼町に至る縣道は西部を南北に通じ、他は利根川に並行し妻沼町に至る街道ありてバスを通ず。此地はもと長井庄と稱し、新編武藏風土記に依れば齊藤實盛の住せし地といふ。

【長井町】　神奈川縣相模國三浦郡の西部。相模灣東岸に沿ひ、南は初聲村に接し、東北は横須賀市の西南部と、武山村を隔つ。面積僅に三・七方粁なるも東半は土地平坦にして耕地よく拓け、農業行はれて米・麥・甘藷・馬鈴薯等を産す。西部は丘陵にて荒崎西岸に突出し、北部は大楠村との間に小田和灣彎入し、漁業また榮ゆ。冠子・葉山より三浦半島の南端なる三崎への縣道東部を南走し自動車を通じ、交通不便ならず。大正十五年町制を布く。この地は和名抄、御浦郡安東郷の内か。ここは三浦大介義明の子、長井五郎義季の住せし地なりと云ふ。

【長井】　山城國（京都府）の古地名。和名抄に乙訓郡長井郷あり。長岡舊京の廢址に配置せし四郷の一にして、北部にありしものゝ如く、その地は凡そ向日町の北





郡の邊にありしものゝ如く、いま向日町の邊なる云ふか。

【長井村】　兵庫縣但馬國城崎郡の西北部。北は香住町を距てて日本海に近く、西及び南は美方郡に隣まる。全村山岳地ななし、西北境に久斗山（約六〇〇米）聳ゆ。中央東偏には矢田川ありて本村を北へ貫き、北方約二粁にて日本海に注ぐ。沿岸稍々低地あり。農産物中、繭の産額最も多く米産これに次ぎ、食用農産物・大麥・裸麥・小麥等もあり。縣道は河谷に沿ひて蜿蜒しバスの便あり。省線山陰本線香住驛（北方二五粁）に近し。明治二十九年城崎郡に入る。村社椋橋神社は俗に椋橋大明神と稱し伊香色乎命を祀り、式内の古社たり。この地古くは和名抄、但馬國美含郡長井郷の地なり。

【長井】　日向國（宮崎縣）の古地名。延喜式兵部省式に日向國長井驛々馬五疋、傳馬五疋と見ゆ。日向國筆頭の驛次にして豐後國より入りて第一の驛次なり。その址は審かならざるも、いま東臼杵郡北川村の大字に長井あり、驛址はこの附近に求むべきか。

**ナガイ　長居**

【長居】　下總國（千葉縣）の古地名。和名抄に姫瑳郡長尾郷あり、蓋し長尾は長居の誤なるべく、その地は姫瑳郡共興村の邊なるべし。

【長居】　大阪府東成郡にありし村。明治二十七年に依網村より分離獨立す。大正十四年に大阪市住吉區に編入す。

**ナカイオチ　中魚落**　千葉縣夷隅郡にありし村。明治三十二年に大原町と改稱す。

**ナガイケ　長生村**　徳島縣阿波國那賀郡の東部。東は見能林・實田二村に、北は中野島・大野二村に、西は加茂谷村に界す。面積一七方粁餘。西部及び東南部には數百米の山岳連亙して聳立し兩山地の裾を切つて桑野川北流し、北部には那賀・桑野二川によつて造られたる稍や廣き神積地あり、土地平坦にして地味肥沃かつ水利の便よろしきため耕地よく拓けて農業盛なり。米・麥・繭その他の農産物多し。北境中央より國道南下して來りて山間低地を通り桑野村に至る。省線牟岐線國道に沿うて南走するも村内に驛なし。大字宮内に八棹神社、大字明谷に古刹明谷寺あり。〔八棹神社〕大字宮内に鎮座。郷社。祭神、大己貴命。創祀年代詳かならざれど延喜の制小社に列す。社寶中、大己貴命立像（木造）一軀・男神立像（木造）一軀は藤原時代作にて、金泥法華經八卷と共に國寶。例祭、九月二十七日。

**ナガイケ　長池**　奈良線の一驛（明治二十九年設置）。京都府久世郡宮野莊村宮野にあり。

**ナカイジューイン　中伊集院**　鹿兒島縣日置郡にありし村。大正十一年伊集院町と改む。

**ナカイズミ　中泉**

【中泉町】　静岡縣遠江國磐田郡の南部。北は見附町に接し、濱松市の東方約一二粁に位す。面積僅に三・三六方粁。北部は磐田原の南西端部にして低き臺地ななし、町はその南西に建ち、南部は天龍川平野の一部にて土地平坦肥沃なり。米・茶等の農産及び畜産あり、清酒・醤油の酒造、製茶・製糸・染織等の工業榮え、その産額多し。古くは東海道の一驛にて今は省線東海道本線の中泉驛（明治二十二年設置）置かれ、縣道また四通して附近町村へバスの便よし。古くは和名抄、磐田郡豐國郷の内なるべし。此地は往古國府の置かれし地といひ、一説に隣接の見附町の地ならんといふ。遠江國風土記傳には此地のものを古府とし、見附町なるか新府とすと見ゆ。或は然るか。天正中に徳川家康この地に別墅を構へし頃附近の政務を分掌せしめんために陣屋を置きしが、のち遠州の幕領をこゝにて支配せしめたり。其址今猶ほ存す。昭和四年梅原村を廢しその地域を當町に編入す。

【田中森貝塚】　一に手長森といふ。貝塚の遺跡にして嘗て石器を發見すといふ。式内田中神社の舊址とす。〔庚申堂古墳〕前方後圓墳にして、後圓部の頂上に庚申堂あるを以て俗にオサルダカと呼ぶ。三四十年前、その前方部より優秀なる二神二獸鏡外一面と石鎧・車輪石各一を出せり。〔京見塚〕主墳は恐らくは前方後圓墳の前方部を缺きしものなるべし。その陪冢三箇は各舟形石棺（無蓋）を有せり。

〔府八幡宮〕　大字中泉に鎮座。縣社。祭神、足仲彦命外二神。天平年間、府の長官井王赴任に當り院内に勸請せるものにして、古く國司の祭りし故を以て府八幡宮または國府八幡宮と稱す。足利氏・今川氏等は社領を寄せ、慶長八年德川家康改めて社領二百五十石を寄す。元和元年後水尾天皇紀、東福門院當社御再建の事あり。普軍秀忠また大鳥居一基を寄す。例祭、九月十四・十五日。〔鹿苑神社〕　大字二之宮に鎮座。郷社。祭神、大名牟遲命。式内社。從四位下。往時は一ノ宮小國神社と併稱せられ、社殿宏大、社領三百石といふ。例祭、十月五日六日。

【中泉】　福岡縣直方市の町。伊田線の一驛（明治三十一年設置）を置く。

**ナカイズミ　中出水**　鹿兒島縣出水郡にありし村。大正十二年に米ノ津町と改稱す。

**ナガイズミ　長泉村**　静岡縣駿河國駿東郡の東南部。狩野川の支流黄瀬川に沿ひ、南は沼津市との間に大岡村・金岡村を挾み、東南は伊豆國田方郡三島町に接す。愛鷹山の一峯位驛岳（一四五八米）東南斜面にて、西北より東南に細長く面積約二六・四方粁。大部分は山地にて森林なるも山麓を南流する黄瀬川の東は平坦にて田地・桑園拓く。製紙業盛にしてその産額最も多く農産これに次ぎ、

山地の麓には牧牛行はれ畜産また少からず。省線御殿場線通じ、下戸狩駅、明治三十一年設置）あり。又その省線は東海道本線との連絡駅三島駅に近し。縣道は南北に通じてバスの便あり。この地は足柄官道の古駅にて、もと永倉郷と稱す、大字長窪に豐國の頃城砦あり。小田原北條氏に屬せしが後に武田氏に屬す。武田氏の滅後は徳川氏の有となり、牧野康成これを守る。

**ナカイダ　中井田**　大分縣大野郡にありし村。明治四十年に外四村と共に廢されて東大野村を置く。のち大野町と改稱す。

**ナガイト　長糸村**　福岡縣筑前國糸島郡の南部。前原町の南に接し、南は佐賀縣小城郡北山村・東松浦郡七山村に界す、面積二三・六方粁餘。脊振山塊西部の北斜面に位し、南境に羽金山（九〇〇米）聳ゆ。概ね山地なるも中央部より北邊にかけてほぼ平坦にて、田畑よく拓けて米・麥を產し、木材・竹材等の林產を出す。省線筑肥線の加布里駅（前原町神在）・一貫山駅（西隣一貫山村田中）・筑前深江駅（深江村）等へ各々バスの便あり。明治二十三年、長飯原村を長糸村と改稱す。大字飯原より雷山村に亙り、雷山神籠石（指定史蹟）あり。※雷山村。古くは和名抄、怡土郡長野郷の地にして、大字長野はその遺稱とす。〔宇美八幡宮〕大宇用付に鎮座。縣社。祭神、譽田別命・息長足姫命・玉依姫命・氣比大神。社傳に神功皇后三韓より凱陣後、武内宿禰をして此處に祭祀せしめ給へるが當社の創建と云ふ。此地もと糟屋郡宇美神社の神領なりしこと鎮眞土記に見えたれば、當社は宇佐八幡の分靈か勸請せしものなるべし。荐落時代、中津領怡土郡東十二村の總社として土俗の崇敬を受めたり。例祭、九月十五日。

**ナガイノ　永井野村**　福島縣岩代國大沼郡の東部。高田町の西南に隣接す。面積約一五・六方粁。村の西半部は西南隣の尾岐村の西北境に峙つ明神ヶ嶽（一〇七四米）の東北嶺の山地にて、約六〇〇米を示し東側の斷層線に向つて急斜す。東半部は鶴沼川の支流宮川の扇狀地に屬し會津盆地の西南部をなす。平坦地の東部には田地よく拓けて米を主產し、西部には畑地多く大豆・蔬菜・柿等を產しまた養蠶行はる。東北若松市へ道路を通じてバスの便あり、また省線會津線高田駅（東北隣高田町內）へ近く通交不便ならず。この地は和名抄、會津郡屋代郷の內なるべし。村內の船岡の屋敷は松本氏代代の居所たり。

**ナカウオヌマ　中魚沼郡**　新潟縣十六郡の一。越後國のほぼ中央の南部。信濃川の中流に沿ふ。東は南魚沼郡に、西は刈羽・東頸城兩郡に、北は北魚沼郡に、南西は長野縣下高井・下水內兩郡に界す。面積六二五方粁餘。長野縣との境上には笛場山（二一四五米）を初め一千米を出づる山岳重疊し、東西の郡界はいづれも高度六—七百米の山脈南北に走る。信濃川は郡の中部をやゝ西偏して略南北に貫流し、右岸に下高井郡より來る中津川、南魚沼郡より下る清津川の二支流を合す。流域に細長き平地開け、殊に中部の兩岸には河岸段丘發達し、そこに十日町・千手町相對して興り本郡の中心地をなす。平地には水田・桑園拓け、農蠶業盛にして米・豆類・粟・蕎麥・甘藷等の農產、繭・生糸の蠶業品あり、山地は森林繁茂し林業・製炭を主生業とするもの多きも、本郡の主產物は銅鐵物にして十日町はその中心機業地をなし、十日町明石の名は世に著はる。省線十日町駅は上越線の越後川口駅より分岐南下して十日町に來り、社線飯山鐵道は信越本線豐野駅に起りて十日町に達し省線に連絡す。信濃川右岸に沿ふ谷街道は往時より信越を結ぶ重要道路の一にして衆落は概れ之に沿ひて發達す。其他、十日町より道路東西に分岐し、山越に隣郡に通じ何れもバスの便あり。郡內は十日町・千手町外二十箇村を含み、人口約九・三萬人、密度一四九人を示す。本郡は古への魚沼郡を明治十三年南・北・中魚沼の三郡に分ちて置けるものなり。

**ナカウスキ　中臼杵**　大分縣北海部郡にありし村。明治四十年に外一村と共に廢して南津留村を置く。

**ナカウチ　中有知村**　岐阜縣美濃國武儀郡の中部。長良川中流の左岸に沿ひ北は美濃町に接し、南は關町との間に下有知峽を挾む。面積六・五七方粁の小村。東半は高さ二百米臺の丘陵起伏するも、西半は關盆地の一部にて土地平坦、南部は畑地、北部は田地多し。農業・養蠶を主業とし、米・繭の他に蔬菜園藝植物の產あり。略中央を南北に省線越美南線と社線名古屋鐵道美濃町線貫通し、前者の美濃町駅に、後者の美濃駅前駅に近く、越前街道また之に並行して南北に通じ、北は美濃町、西南は岐阜市へバスの便あり。交通便なり。この地は和名抄、武儀郡生櫛郷の內なり。

**ナカウチダ　中內田村**　静岡縣遠江國小笠郡の中部。掛川町の東南約四粁、北は上內田村、南は下內田村に隣す。西北部には二百米以內の丘陵性山地連り山地を開拓する水は東境を南流する菊川に合し、流域にやや廣き低地なりて耕地よく開け米・麥・茶を產し養蠶も行ふ。縣道は東北部を貫通しバスを通ず。下內田村と組合村を成し本村に役場を置く。

**ナカウミ　中海村**　石川縣加賀國能美郡の中北部。小松町の東方約三粁。北境には觀音山（四〇二米）、東境に火燈山（四八一米）、南境に大峰（四五三米）・梅木ノ山（二一〇五米）あり。中部を梯川の一支西北に流れ、沿岸に低地ありて田畑よく開け、米・繭を產す。縣道は川に沿うて走り小松町にバスを通ず。



**ナカウラ　中浦**　【中浦村】新潟縣越後國北蒲原郡の中部。新發田町の南に隣接し、福島潟東岸に臨む。面積二四・四方粁餘。東南部に經木山の丘阜横はる外は全く低平にして美田拓く。加治川の分流ほぼ中央を東西に貫流し福島潟に注ぎ灌漑便なり。米を主產物とし、養蠶・養魚等の副業も行はる。省線羽越本線と縣道並行して村內を南北に走り、省線の新發田駅・天王新田駅（南隣本田村內）にも近く交通便なり。寛永五年新發田藩主溝口宣勝その三男宜利を當村の大字池端の地に封じ、新知五千石を與へて幕府の旗本に加へしめ、爾後その子孫相嗣ぎて明治維新に至る。

【中浦村】大分縣豐後國南海部郡の東部。北は佐伯灣に臨む。東は東西浦村、西は西中浦村に、南は米水津村に隣接す。佐伯灣の南を扼する中浦半島の中部北岸を占め、狹長なる村にて西北部は北に突出して白崎となる。全村山地にして平地に乏しく半農・半漁の形態をなす。街道は海岸に沿うて通じ、佐伯灣沿岸の發動機船の便あるも、交通便ならず。大正十一年、東中浦村の大字羽出浦・中越浦を以て本村を置く。

**ナガウラ　長浦**　【長浦村】千葉縣上總國君津郡の北部。昭和町の東隣にて北は東京灣に臨み、東は市原郡姉崎町と隣接す。面積一八方粁餘。全村低き臺地性にて森林あり。丘陵間には巾狹き低地散在東西に續き、田地畑地をなし、米・麥・藺を產し養鶏行はる。海岸は單調なる砂濱にて遠淺をなし貝類の養殖營まれる。縣道は海岸に沿ひて走り姉崎町・昭和町へバスの便あり。省線房總西線の稲葉駅（昭和町內）・姉ヶ崎駅にも近く交通不便ならず。大宇蔵波に蔵波砦址あり。里傳によれば里見義堯ここに砦を城き、近藤駒判大膳をして守らしむ。のち北條氏の攻むるところとなりて砦陷る。大宇久保田には久保田城址あり。里傳によれば里見義成の築きしところと云ふ。その子義通これに居り、のち笠原新六郎これを守り、北條氏に攻められて笠原氏ここに死す。両して北條氏の臣某の居る所となしが、天正十年豊臣氏の爲に城陷る。

【長浦村】新潟縣越後國北蒲原郡の西部。福島潟の西南岸に沿ひ、北は葛塚町、南は水原町に界し、面積一八・六方粁餘。福島潟の餘水は新井郷川となりて西境を西流す。全村平坦にして、肥沃なる水田をなし、米の產額多し。葛塚・水原兩町に通ずる道路にはバスを通じ、省線羽越線水原駅への交通の便よく、また新井郷川には舟運の便あり。

【長浦村】長崎縣肥前國西彼杵郡の北東部。西彼杵半島の東岸中部に位し大村灣に臨む。南は杵松村、北は龜岳村なり。面積三六方粁餘。半島の脊梁山脈の東斜面に當り西境上に飯盛山聳え。東方へ急斜して平地乏し。東岸には東北部より南方へ突出する半島ありて南北に狹長の形上灣を抱き、大口海峡によりて大村灣に連る。甘藷・蕃薯を主とする農產の外に水產少からず。縣道は南北に走りバスを通じ交通不便ならず。

**ナカエ　奈狩江村**　大分縣豐後國東國東郡の南東端。東北部は安岐町、北は南安岐村、西は速見郡杵築町、東南部は半島狀をなして突出し、その突端春石鼻は別府灣の東北岸をなす。大部分は丘陵性山地にして高度は二〇〇米內外を示すも、東部と西南部の海濱ひには巾狹き低地ありて耕地拓く。東南部半島の西南端には砂嘴西方に發達して北に守江港を抱く。米・麥・藺等の農產の他に水產少からず。縣道と社線國東鐵道も海岸低地を通じ、鐵道は灌手・守江・狩宿・奈多・八幡・北奈多の五駅（前二者は大正十一年、其他は同十二年開業）を設け、また大阪商船の細島通ひは守江港に寄航し、交通不便ならず。古くは和名抄、國埼郡安岐郷の內にして、岡田帳に安岐郷、守江浦三町、地頭戸次太郎時親と見ゆ。守江浦は即ちいま大字守江の地とす。大字守江の守江灣の東端に住吉ノ濱なる景勝地あり。白砂青松逶迤り、天ノ橋立に擬せらるるものあり。〔えびあやめ自生南限地帶〕指定天然記念物。えびあやめは蒐尾科に屬する矮小なる植物にして、春季に藍紫色の花を開く。〔奈多神社〕大字奈多に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・比賣大神・神功皇后。創建年代詳ならずと雖も古來宇佐八幡の別宮として地方の名祠たり。足利末期大永年間以降は社運隆昌を極め、後水尾天皇の勅書を賜へること豐後國誌に見ゆ。社殿の再興は天平九年以後詳かならず。降りて寛永年中に諸殿の造營成り、細川・小笠原の兩氏相繼いで崇敬怠らず、社殿造營・神領寄進等あり。社寶中、舞形八幡神坐像（木造）二軀は共に國寶に指定せらる。例祭、四月五日。

**ナカエ　中江の瀬戸**　鳥取縣西伯郡弓ヶ濱半島と島根縣八束郡の半島部との間にある水道。長さ約五・五粁、幅二〇—九〇〇米にて、中の海と美保灣とを聯絡す。入口狹く且つ淺き爲に小汽船の他は出入すること不可能なり。

**ナガエ　長江**　【長江】福島縣南會津郡にありし村。昭和三年に二川村と合併し江川村を建つ。此地は北會津郡大戸村・大沼郡本郷町と共に和名抄、會津郡長江郷の地にして、中世に長江莊と稱せられし處なり。

【長江】加賀國（石川縣）の古地名。和名抄に江沼郡長江郷あり。その地は凡そ今の三木村の邊なるべし。同村の大字永井は郷名の轉訛なるべし。

【長江】甲斐國（山梨縣）の古地名。和名抄に八代郡長江郷あり、奈加江と訓ず。

その地今の東八代郡永井村・米倉村・增田村・岡村の邊に當る。

【長江】 攝津國にありし莊園。今その地詳かならず。承久三年、後鳥羽上皇の寵か蒙れる白拍子魚菊がこの地及び倉橋の莊を領せしが、關東より詰きし地頭がこれを押領せるため、上皇は關東に命じてこれを停止せしめ給ひしこと兩度に及ぶも、義時命を奉ぜず、上皇逆鱗甚しく、よりて義時を追討せしめ給ふ。これ承久の亂の一導因をなせり。

【長江】 島根縣八束郡にありし村。明治四十一年に古曾志村・古志村と共に廢しその地域を以つて古江村を建つ。

**ナガエ** 長柄村 群馬縣上野國邑樂郡の西部。館林町の西方にて、これと多多良村を挾み、西は小泉町に接す。面積一四・五方粁餘。全村平地にて畑地多く、林を交へ、西部と東北部には田地拓け、米麥を產す。縣道は館林町・小泉町に通じ、また北走するものは足利市方面に至る。社線東武鐵道小泉線は館林町より來り、北部を掠め藤塚驛(大正六年開業)を置く。〔長柄神社〕大字藤塚に鎭座。總社。祭神、事代主神・藤原長良。別に大國主命・大日孁命等二十二柱を合祀す。創立年代詳かならず。石打村・新川村・秋妻村等七ヶ村の土產神たり。例祭、四月十五日。

**ナカエダ** 中枝村 德島縣阿波國麻植郡の中部。北は東山・三山の二村に、南及び東は木屋平村と名西郡に界し、西は美馬郡に接す。面積三〇方粁餘。四國山脈に屬する剣山山脈の北斜面の地を占め、南方には一〇〇〇米餘の高峰聳立して頗る高峻なる地形をなして北に低下し三—四百米に下る。從つて平地殆んどなし。山麓を耕作して粟・米・麥・煙草・蒟蒻玉等を栽培し、山地よりは用材・下駄材・木炭等を產す。省線德島本線の山瀬驛へは約八粁バスの便あり。明治二十二年、中村山村・別枝山村を合して本村を置く。

**ナカエチゴ** 中越後 中越ともいふ。上越後・下越後に對する稱呼。新潟縣の南は米山より北は阿賀川の間の地方、卽ち中蒲原・西蒲原・南蒲原・古志・三島刈羽・南魚沼・中魚沼・北魚沼の九郡をいふ。

**ナガオ** 長尾 【長尾村】 群馬縣上野國群馬郡の北部。南は吾妻川を隔てゝ澁川町の北隣なる金島村に界し、東は白郷井村、西は小野上村なり。南北に狹長にして面積一四・五方粁。子持火山(一二九六米)の南斜面に續く南傾斜し、山林多きも南部吾妻川の北岸には平坦地ありて耕地拓け麥・米を產し、また養蠶盛にて繭を多產す。澁川町より吾妻郡中之條・草津方面への縣道は南部を略東西に通じバスの便あり。古くは和名抄、群馬郡利刈郷の內とす。延喜左馬寮式に利刈御牧とあるは利刈郷內なるべく、いま大字に北牧の名あればその御牧は蓋し本村にも亙りしものか。〔白井城〕大字白井に其址あり。康元元年、長尾景盛の城くところ。景仲に至り永享十年上杉憲實と、鎌倉管領足利持氏と相戰ひし際、主家たる憲實方當城に迎ふ。憲景に至り永祿三年小川原北條氏と爭ひ、また元龜三年には武田勢輒に攻められて敗走せしが、天正元年、上杉謙信の援助に依りて之を奪還す。天正十八年小田原役にはその子政景、前田利家の軍に攻略さる。德川氏江戸入府と共に其臣本多廣孝二萬石を領して當城主となる。其子康重に至り、慶長六年三河岡崎に轉す。元和二年西尾忠永二萬石を以て封ぜられしも、同四年常陸土浦に移され、本多康重の第二子紀貞一萬石を食みて來住せしが、同九年死して子なく城また廢せらる。

【長尾】 下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に匝瑳郡長尾郷あり、その地詳かならず。或はいま共興村の大字に長谷あり、郷名の韓訛にあらざるかといひ、また一には長尾は生尾の譌にして、生尾は匝瑳村の大字なるより長尾郷を以て匝瑳村の邊に擬せんとするも定說なし。

〔長尾村〕千葉縣安房國安房郡の西南岸。白濱町の西隣にて、南は太平洋に臨む。面積六・八四方粁の小村なり。村內の北半は丘陵地なるも、南半の沿岸と東部を南流する長尾川流域には低地ありて田・畑をなし米・麥を產し耍蒟も行はる。海岸は磯濱にて風景雄大、また海水浴場をなす。北方の館山北條町に縣道を通じ、省營自動車通ず。この地は和名抄、安房郡白濱郷の內にして、近世は長尾藩のありし處なり。〔長尾藩〕駿河國田中藩の本多氏は明治元年ここに移り四萬石を領す。同四年藩を廢し長尾縣・木更津縣を經て千葉縣に入る。

【長尾】 神奈川縣鎌倉郡にありし村。大正四年に外二村と共に廢し、大正村を置く。

【長尾峠】 箱根火山北西部の外輪山を乘越す交通路の一。神奈川縣足柄下郡仙石原村と、靜岡縣駿東郡富士岡村に跨る。最高點九〇三米。北麓に續く丸岳(一一五四米)・乙女峠(一〇〇〇米)・長尾山(一一一四米)、南麓に連る御殿峠(八五〇米)と共に東方仙石原火口原を圍む一大馬蹄形火口壁を形成す。小田原よりは湯本・宮ノ下・仙石原を經てこの峠にかかる。この間約四二粁。峠はいま隧道を穿ちて通過の便を計る。隧道を出でゝ靜岡縣側に出づれば前面に麗峯富士・愛鷹を望み、展望開豁せらる。乙女峠と共に富士の展望地として海內にその名高し。峠より御殿場まで約一四粁。小田原・御殿場間に乘合自動車を通ず。また東方峠下より南方蘆ノ湯尾に至る山道あり。この間約四粁なり。

【長尾山】 箱根火山北西部の外輪山の一峯。靜岡縣駿東郡御殿場町と神奈川縣足柄下郡仙石原村の境上に位置す。標高一一四四米。山體は輝石安山岩より成る。※長尾峠。

【長尾】 大阪府北河內郡菅原村の大字。片町線の長尾驛(明治三十一年設置)を置く。

【長尾村】 兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方粁餘。西北半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米多作なせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生產物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・觀類・セルロイド加工品等にして鷄卵・瓦等もあり。山地は松茸の產額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者には山本・中山等の諸驛、後者には中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に圓北公麿の支配に屬し、のち坂上頼次を以て此地を領せしむ。のち農多の墾邊を設て、德川氏に至り山本・平井は一橋藩、中山・中筋・鴻池・荻野は尼崎藩に屬せり。山本は多田源伸の多田城を築きし時、坂上頼次の山城國坂本莊山本より移住し來り村落を作りしに始まり、維新前は一橋千石の領なり。中筋は弘安年間、阿保親王の裔小池三郎光俊この地を隔り子孫世々この地を領せしを以て小池村と稱せしも、弘治年中に中筋と改む。中山寺は江戸時代前は多田郷の內の米谷莊に屬し里坊村と稱し住民なく僧坊のみなりしが德川氏に至り寺中の雜仕に年寄役を務めしめ中山寺村と稱するに至る。當時、民家は足洗川の西に數戸存せしのみ。維新後寺屬を脫し二十三年本村の一大字となる。荒牧は聖德太子中山寺に參詣の際、容住寺を建立し森林を開墾して寺田とせらる。之を太子田といひ播種し新廟村と云ひしが、文政二年荒牧と改稱す。大字鴻池は中世尼子氏の臣、山中鹿之助の裔この地に鴻池氏を稱す。鴻池家は江戸時代より現代に至るまでの富豪。その祖先は慶長・元和の頃より醸造業を營み家運漸く榮ゆ。初代善右衛門は寛永二年九條島に海運業を創め、爾來四國諸大名に對する金融に從ふ。明暦二年に至りて、善右衛門始めて兩替店を開き、七年後に早くも十人兩替の一員となる。二代善右衛門その後を承けてより鴻池家の兩替業益々盛運に向ひ、元祿の頃既に諸大名との取引三十二藩に達し、謂ゆる掛屋・藏元として諸藩の金融財政を管理す。其後、益々同家の大名貸順調に成功し、當時最も有力なる掛屋となりし事は、諸藩よりの扶持米のみにて合計一萬石の收入に達し、別家すら七十人扶持を受けたる事によりても明かなり。かの有名なる鴻池新田は三代の時に開墾されしものにて、百二十一戶、男女七百五十名が移住し來りしといふ。幕末には屋々幕府の御用金を仰付かり、殊に十代の時恰も明治維新なりしため、新政府のため屋々多大の財政的援助を與ふ。爾來わが國資本主義制度の發達に遭遇し、あらゆる企業に關與し有力なる財閥となる。また鴻池銀行は明治十年の設立にして今日に至るまで隆盛たり。當主は十一代なるが、よく父祖の遺業を繼ぎ家運益々繁榮す。江戸時代の鴻池家につきては「町人考見錄」、「甲子夜話」及び「浪花の風」等に記載せらる。また本村の園藝業の沿革は菅記によれば、中山寺・目代浦部小太郎季盛の數世の孫福龍なるもの當地に住し、その八代の孫は久明親王の御庭奉行を勤め、弘安八年入道して元玲坊と名乘り園藝に從事し居たり、降つて天正の頃坂上善太夫なるもの接木の妙手として、堺區秀吉より接木太夫の號を賜りたり、傳によれば大阪城の大手門外の並木松は山本より寄造せしものなりと云ふ。また桃山御殿造營に方り當地の庭園師は數百名の園丁を引連れ造庭を了すと云ふ。然れども當時の園藝業は規模小にして農耕の餘力を以て栽培せるものならん。安永八年に山本村は江州膳所城主石原清右衛門の代官所に屬し、植木・苗木の栽培段別六町九段十一歩とあり、のち一橋領に變じ、天保十三年五月には農民の本業を等閑にする嫌ありとて栽培を禁止せられたるに、解禁を嘆願し漸く聞き屆けられ、文化五年には植木業を營むもの山本村に三十六戶あり、主として諸大名を顧客とし、牡丹は販路遠く奥州地方まで及び、杉・檜の苗木も福岡藩に一時に百萬本を送りたる事ありといふ。明治六年に至り時の縣令神田孝平は園藝業の有望なるに着眼し、之を奬勵し神戶市に於て園藝令を開くこと五回、當に本村はその出品數に於て過半を占めたり。爾來、一般園藝趣味の發達と共に本村の同業も漸次盛大に赴き遂に今日の盛況を見るに至り、現今は斯業に從事するもの四百戶を超ゆ。〔中山寺〕大字中山にあり。古義眞言宗。聖雲山と號す。聖德太子の建立と傳へ、のち字多天皇堂字を造營せらる。室町時代、寺運最も隆盛にして三十餘宇の堂を連れ壯觀なりしと。寶永年中に仁和寺末となり、現に准格寺たり。藥師如來(木造)・同六日如來像は國寶なり。寺域二萬坪、名蹟多し。西國三十三所第二十四番の札所にして、詠歌は「野なも過ぎ里なも行きて中山の寺へまゐるは後の世のため」

【長尾山】 兵庫縣西宮市の北方約一二粁前後、猪名川と武庫川の中間なる一連の丘陵性の山々の稱。川邊郡西谷村と長尾村に屬す。構成岩は主として石英斑岩なり。主峯中山（四七八米）を中心とし、東方は白く輝く岩肌に松樹點綴し、西方は暗色の樹林帶をなす。南方は直に大阪平野に接すれども北方は丹波高原の山波にうち續る。南麓に中山寺あり。

【長尾村】 兵庫縣攝津國有馬郡の中央西部。北境東半は三田町に、東は道場村に接し、西北は美嚢郡奥吉川村に界す。面積一三・三方粁餘。南・北には低き山地あるも中部東西に細長き低地ありて田畑よく拓く。米・蔬菜・食用農產物・繭・麥・鷄卵等を出し、藁製品・瓦等もあり。北部には縣道東西に貫通して三田・天神（加東郡上東條村）間のバスを通じ、東部は社線神戸有馬電鐵の横山驛に近し。〔多聞寺〕 曹洞宗、寺寶中、毘沙門天立像（木造）一軀・吉祥天立像（木造）一軀は共に藤原時代作、他に地藏菩薩立像（木造）一軀は鎌倉時代にして以上は何れも國寶なり。

【長尾鼻】 鳥取縣氣高郡の西北部に突出する岬。岬は八一米にして山脚直ちに海に迫り、殆んど海岸をなす。

【長尾町】 岡山縣備中國淺口郡の東北部。東は船穂村に、南は玉島町に、西は富田村に界し、北は吉備郡穂井田村に接す。面積五・七五方粁。北には高距約百—二百米の丘陵起伏し、南麓には高梁川下流の神積平野廣く開けて灌漑の便利と相俟つて耕作よく行はれ、米・麥・蘭草・薄荷・繭等の產出多く、また葡萄の特產あり。域內の中央を東西に省線山陽本線走り、玉島驛（明治二十四年設置）を設く。北方より來る縣道は中央を縱走して玉島町に至る。市街は兩交通路の交錯する處に開け、麥稈眞田・綿絲紡績・造酒業等を營む。玉島港及び岡山市に至る自動車の便を有し活況を呈す。古くは和名抄、淺口郡船穂郷に屬す。大正十四年町制を布く。

【長尾炭鑛】 ↓大嶽町（山口縣）

【長尾町】 香川縣讃岐國大川郡の西端。北は造田村に、東は石田村に、南は五名村・多和村に界し、西は木田郡井戸・奥脇二村に隣す。南北に細長く、面積約二・七方粁。南境には讃岐山脈に屬する矢筈山（七八八米）聳え、町の南半はその北斜面の地を占めて山岳重疊し中央に於て百米以下に低下し、北半は低平なる讃岐平野の東部を占めて土地肥沃なり。平地と山麓には處々に用水池ありて灌漑の便よく農業盛なり。主產物は米・麥類・木材・竹材等にて團扇・竹籠等の工產もあり。市街は北部平野の西端にありて平地を東西に走る阿波街道に沿ふ街村型をなす。社線高松電軌の終點驛長尾ありて高松市と連絡し、またバスの便あり。明治二十三年郡制の施行さるるや郡役所の所在地となり、大正四年町制施行す。古くは長尾郷に作る。和名抄に寒川郡長尾郷あり、奈賀乎と訓す。德治中の記文に長尾莊の名見え、興善院領なり、後には醍醐寺法華堂領となれり。正平七年の文書に、東長尾莊の名見ゆれば、當時は既に東西二莊に分れたるにや。元亨年中、寒川元隣、大字前山の地に城きて之に居り、城を畫寢城と呼ぶ。天正年中、十河存保と長宮袋郡氏の兵が拒ぎ敵する能はずして城陷り、寒川氏亡ぶ。のち松平氏の領地となりて明治維新に及ぶ。〔鶴公園〕 大字長尾東、字佐神社神域內にあり。八幡池及ぶ附近の山林を含み櫻の名所として知らる。〔宇佐神社〕 大字長尾東に鎭座す。郷社。祭神、仲哀天皇外二神。社傳に後圓融天皇永德二年の創建といひ、當村の產土神として、古來崇敬の社。例祭、十月二日。〔長尾寺〕 大字長尾西にあり。天台宗寺門派。補陀落山觀音院と號し、西國八十八所第八十七番札所。もと當國天台十宗七壇林の一にして國內七觀音の一に數へらる。天平十一年行基の草創と傳ふ。のち圓珍これを再興す。生駒氏・藩主松平氏等の崇敬厚かりき。詠歌「あしびきの山鳥の尾の長尾寺秋の夜すがら彌陀を稱へよ」〔法樂寺〕 大字長尾東にあり。古義眞言宗。紫雲山寶藏院と號し、開宗大曼寺末。寺傳に據れば行基の開創に係り、自作の藥師如來像を安置すといふ。天長元年に空海再興し眞言祕密道場となす。本尊藥師如來立像（木造）一軀は國寶なり。

【長尾】 讃岐國（香川縣）の古地名。和名抄に鶴足郡長尾郷あり、奈加乎と訓す。その地今の綾歌郡長岸村・造田村の邊に當る。

【長尾】 筑紫本線の一驛（明治三十四年設置）。福岡縣嘉穗郡桂川村にあり。

**ナガオ　長狹（縣）** 筑紫國の古地名。書紀、景行紀十二年に、天皇筑紫に幸し豐前國長狹縣に到り給ひ、行宮を起して居給ふ。名づけて京といふとあり。その地はいま福岡縣豐前國京都郡の地なるべし。※京都郡

**ナカオーチ　中邑知** 石川縣羽咋郡にありし村。昭和八年に外二村と共に廢して邑知村を置く。

**ナカオーミ　中大見村** 靜岡縣伊豆國田方郡の中部。東は伊東町に接し、西南は上大見村、西北は下大見村にて、西は修善寺町にも遠からず。面積四八方粁餘。東南境上に天城山の遠笠山・矢筈山聳え繞れ山地にて山林多なす。村の略中央を狩野川の一支なる大見川西北流し、その谷に狹少の平地ありて耕地拓け、農產額最も多く林產額これに次ぐ。また持越金山ありて金を產す。なほ河津には四通し、伊東・修善寺間のバスの便あり、社線駿豆鐵道修善寺驛は四方約六粁の隔つ。〔來宮神社〕 大字八幡に鎭座。郷社。祭神、五十猛命。大見十六箇村の總鎭守にして、正保二年の棟札に貞和年間藤原朝臣祐義社殿を造立すと見えたれば古き社なるべし。例祭、十月十八日。〔最勝院〕 大字宮上にあり。曹洞宗。妙高山金光明寺。吾寶五濁、一千二百餘寺の本寺にして、相州小田原の最勝寺末なり。上杉憲忠（或は憲清）の開基にして、吾寶宗壑を開山とす。江戸時代には此寺を以て伊豆一國の曹洞宗錄所とし、寺領十七石三斗の朱印を附ぜり。〔實成寺〕 大字樽廻にあり。日蓮宗本門宗本山。東光山と號す。正安三年日祟關東に巡錫の際に建てし寺。寺域は澄越大見小路太成家の邸址なり。

**ナガオカ　永岡村** 岩手縣陸中國磐澤郡のやや北部。水澤町の西北方にて北は金ヶ崎町に隣り、西北は和賀郡岩崎村に界す。土地東西に長く約二〇粁、南北に狹くその廣き部分にて五粁餘、面積六九方粁に近し。西北境に駒ヶ嶽（一一三〇米）・經塚山（一三七三米）あり、東方に緩く傾斜し、癒ね山林・原野多なし、黑澤川とその支流この傾斜地を東流し磐澤川は東南境を流れ、東北境に於て相合し、金ヶ崎町に出でて、北上川に注ぐ。東北部に稍平地ありて田畑拓く。農產は米を主とし麥・大豆等を出し、牧畜行はる。省線東北本線金ヶ崎驛は東北界より約二粁なるも村內の大部分は交通なほ不便なり。此地は和名抄、磐澤郡驛家郷の內。村內に羽山氏の故墟あり。

**ナガオカ　長丘村** 長野縣信濃國下高井郡の西南部。千曲川右岸に沿ひ、西は川を境に下水內郡豐井村に對し、東は平岡村、東南は中野町との間に平野村を隔つ。南北にやや長く、面積八・九方粁餘。西半は千曲川に沿ひ低き丘陵南北に延び、東半は千曲川支流の夜間瀨川の沖積による平坦地の一部を占め田畑よく拓く。農業を主とし米・麥の產あり、また養蠶行はる。谷街道より岐るゝ道路は村の略中央を南北に走り、社線長野電鐵の赤岩・四ヶ郷兩驛に近く、交通不便ならず。

**ナガオカ　長岡** 岩手縣陸中國紫波郡の東部。

【長岡村】 岩手縣陸中國紫波郡の東部。北上川の左岸、盛岡市の東南約一〇・五粁。東部には高度五百米餘の山地あり、西部の北上川沿岸一帶は平坦地にして地味肥え耕地開く。米（約一五萬圓）・大麥（約一・五萬圓）・小麥（約八千圓）・大豆（約二千圓）の外に繭（約三千圓）・果樹蔬菜（約三千圓）等を產す（昭和十二年）。縣道盛岡線は北上川に沿うて通じ、大字柳內にて縣道は岩谷堂線を分つ。大字西長岡に斯波氏の臣、長岡八右衛門詮ヂの長岡館址あり。江柄部落の江柄館址は斯波氏の臣、江柄式部の居所なりと云ふ。柳內部落の柳內館址は天正の頃に柳內源蔵の居住せし所なり。〔八坂神社〕 大字東長岡に鎭座。郷社。祭神、素戔嗚尊。社傳に延暦年中坂上田村麻呂征の時の創建といふ。領主斯波・南部氏等の崇敬篤かりき。例祭、九月十五日。

【長岡村】 宮城縣陸前國栗原郡の南部。高清水町の西南隣にて、東は遠田郡田尻町・富永村に接し、西南は北上川支流なる江合川によりて志田郡荒雄村に界す。面積約一二・八方粁。陸前平野の略中央部にあり、西北境には高さ五〇米內外の丘陵の末端あるも、其他は平坦にして田よく拓け。米・繭・麥を產す。陸羽街道は中部を南北に通じ、南方は省線陸羽東線の古川驛（古川町內）に近く交通不便ならず。和名抄に長岡郡長岡郷とあるは本村及び宮澤村・志田郡荒雄村の邊とす。村內に大崎沼あり、千枝池と稱す。明治九年明治天皇、奥羽御巡幸の時、及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、本村に御小休あらせらる。

【長岡（郡）】 陸奥國（陸前、宮城縣）の古郡名。續紀延曆八年紀に郡名見ゆ。和名抄に奈加乎加と注し長岡・涌城の二郷を管す。近世に至り栗原郡・遠田郡に編入し、郡名を失ふ。

【長岡】 出羽國（羽前、山形縣）の古地名。和名抄に村山郡長岡郷あり、その地は今の北村山郡尾花澤町・大石田町の邊に當るらし。

【長岡村】 福島縣岩代國伊達郡の西北部。東北は桑折町に接し、東は阿武隈川によりて伏黑村と隔たり、西南は阿武隈川支流なる摺上川を挾みて信夫郡湯上町に對す。面積は桑折町と合して六方粁餘に過ぎず。福島盆地（信達平野）の中央部にありて土地平坦、田地・桑畑多く繭・米・櫻桃等を產す。陸羽街道は村の中部を南北に通じ、北方桑折町、西方湯野村・飯坂町へバスの便あり。省線東北本線伊達驛（明治二十八年設置）あり。また社線福島電鐵通じて西は飯坂、東は掛田・梁川へ、南は福島市への交通便利なり。

【長岡村】 茨城縣常陸國東茨城郡の中部。水戸市の南方約八粁にてその間に緑岡村を挾み、東南は鹿島郡沼前村、西南は大部分高さ二—三〇米の臺地にて、林地多くその間に畑地を交へ、南境を東流する涸沼川及び村の中央を南流するその支流に沿ふ低地には田と水田あり。米・麥を主產す。陸前濱街道は中央を北走して水戸市に通じてバスの便あり、又これより分れて水戸市の東北に達する縣道、西北の笠間方面に向ふ縣道ありて交通不便ならず。古くは和名抄、那珂郡八部郷の內とす。大字小鶴は中世は庄名に呼ばれ弘安・嘉元田文共に小鶴庄四百丁と載す。また烟田文書、鹿永中のものに小鶴修理亮と見ゆ、蓋し小鶴庄の地頭なるべし。大字大戸は大戸氏（大掾氏の族）發生の地とす。此地は水戸城南の咽喉を扼し、幕末水戸の志士ここに屯集して勤皇の返證な抗拒し、次いで櫻川義塾の計畫を立てしことは著名なり。〔大戸の櫻〕 指定天

然記念物。樹の下部より大小十數本の支幹を生じ根元の周圍一〇米餘に達す。山機の瓦樹として有數のものなり。

【長岡村】東京府武藏國西多摩郡の東部。青梅町の東方約六粁、箱根ヶ崎村の西、假村の東に隣り面積僅に二・一六方粁の小村なり。武藏野臺地の一部を占め、土地平坦、桑畑多く、養蠶盛なり。他に野菜・米等を產す。府道（青梅街道）に通じバスの便あり。また東隣箱根ヶ崎村に省線八高線箱根ヶ崎驛ありて交通便なり。石畑村・箱根ヶ崎村・殿ヶ谷村と組合村なし、役場を箱根ヶ崎村に置く。

【長岡市】新潟縣のほぼ中央、信濃川の右岸に位し、西の一部が三島郡（保才村）と河を隔てて相對する外は、古志郡（上川西・黑條・富曾亀・柄吉・山道・上組の諸村）に隣まる。東西四・八粁、南北五・二粁。面積一五・九方粁。地は信濃川の氾濫原にして、東には東山山地連なり、その西麓に悠久山等の削剝殘留段丘あるも域内には及ばず、市域は極めて低平にして、市街地周邊には水田及び畑ひらく、信濃川は市の西境を約一粁の河幅を以て北流し、東部山地に發して西北流し來る栖吉川・西川（柿川）等を容れ、また河心には美寫島・柳島・行島・金比羅島を浮ぶ。本市の平均氣溫は一三度前後にて新潟市より僅に低き程度なるが、近年の最高氣溫は昭和八年七月の三七・八度あり、最低氣溫同九年一月の零下一八・五度あり

| | |
|---|---|
| 工業生產物 | 一四、四五三、五八二圓 |
| 農業生產物 | 一、八八〇、六五一 |
| 蠶糸類 | 四四五、一二三 |
| 畜產物 | 二三四、〇二一 |
| 水產物 | 一九八、六六三 |
| 合計 | 四一一 一七、二一二、四五一 |

て高低の差比較的多し。昭和十年の天氣は同市調査にては晴天七九日、曇天二〇一日、降雨五七日、降雪二八日と計上さるゝも、何れも毎日午前十時に於ける天氣にして實際は曇天頗る多く晴天少し。また降雪は十一月下旬か十二月初旬に始まり三月下旬か四月初旬に終り、積雪は大體一・五米乃至二・五米とす。本市の人口增加率は凡そ普通なるが昭和九年一三二〇人といふ稍々異常なる增加を見た

即ち明治二十六年古志郡山本村の加津保澤に於ける大噴油を契機として、長岡には寶田石油會社の出現を見、先づ精油工業起り、次で石油に關聯する機械器具製造工業起りて漸次發達し、今は石油方面は振はざれども、一般の機械器具製造工業が長岡市最大（年額三八六萬餘圓）の產業たり。いま大阪機械製作所の長岡鐵工所・同藏王工場及び新潟鐵工所の長岡分工場等、職工數百人を擁する工場を始めとして、職工五人以上を擁する鐵工場・鑄物工場のみにても百に亦んとす。次には石油・油脂・藥物・護謨等に關聯する化學工業盛にして、年產三〇一萬餘圓たり。被服裝身品製造（一九六萬圓）・紡織染色工業（一八八萬圓）これに次ぐ。また北越製紙の長岡工場は附近農村の藁を原料として「ボール」紙を製造せしに始まり今日年額約一二〇萬圓を出し、之に伴ふ市中の紙製品工業も三〇萬圓に昇る。其他の工業として機械器具製造以外の金屬工業・醸造業等主なるものにて、以上總ての工場は職工五人以上のもののみにて二二八あり、その職工總て三千餘人とす。工業のこの隆盛の基因たりし製油業は、その盛時（明治末年）四十餘戸ありしといふが、今は東山油田の減量其他の原因と相俟つて僅に五戸を存するのみ。農家は專業とするもの三八三戸、兼業とするもの六五戸、而して全農產物の八割は米とす。以上により生產物の總額を一戸當り

に割當つれば一四五圓となり、一人當二七四圓となる。この外に商業による收入あるを考ふれば、當市民の經濟狀態の一班を推し得べし。商業に就て考察せんに、今や附近の商業的勢力圏として魚沼三郡・古志郡・三島郡・刈羽郡の北部、南蒲原郡の南部を合し人口約七十萬を抱擁し、剩へ地方都市に珍しくも、東北諸縣・關東・北陸にも多くの取引を有し、本町通の如きは問屋街地す。本市には遠隔の地を相手とする大問屋多けれど、最も數多きは呉服問屋にて數十軒あり、年一回、三日間に互る聯合郡賣出には四五十萬圓の取引ありといふ。以上の如き工業並びに商業の都市でありながら、中央の金融機關の殆ど進出なきは最も異とする處にして、凡そ六十九銀行並に長岡銀行を主體とし地元生えぬきのものが、長岡市のみならず中越七十萬人に金融するの現狀にあり。なほ本市に本殼株式取引の所存する事は、產業都市としての活氣を偲ぶ一助ともならん。信越本線は市の東部を南北に貫通し、市内に長岡（明治十一年設置）・城岡（大正四年設置）の二驛を置く。この兩驛を通じて當市の移出入品を窺ふに、前者の主要到着貨物は木材・石炭・石灰・鐵鋼並に鋼製品・鹽・石油類・砂糖類、主要發送貨物は米・麻・石油類・機械類にて、後者の主要到着貨物は石灰・石炭、主要發送貨物は炭化・石灰・洋紙とす。上越線は宮内驛にて信越本線





に合して長岡に至るが、上野驛よりは僅に約五時間を要するのみ。社線栃尾鐵道は長岡驛より岐れ、袋町（昭和十一年設置）・神田口（大正五年設置）・下長岡（大正四年設置）の各驛を經て栃尾町に至り、別に四郎丸驛（大正十三年設置）を經て悠久山へ至る路線あり、更に長岡驛より西して信濃川對岸の西長岡驛より長岡鐵道に連絡し、日本海岸の寺泊に達す。古へ信濃川は上流魚沼、下流新潟へ何れも船運ありて重要なる役割を演じたりしも、今は凡そ廢絕す。道路は信越線の西側に國道走りて高崎・三條・新潟等に通じ、之より見附・栃尾・與板・關原等の各町を繫ぐ縣道あり、特に關原方面へ至る街道には信濃川に有名なる長生橋を架す。市域は舊長岡城の本丸址なる長岡驛を境として城東・城西に分れ、城西の北部は工業地、城西南部は商業地域にて、城東には學校多し。市内の繁華地は本町・表町とす。なほ本市の草生津町はもと臭水にも作り、明治時代精油所のありし地。蓋し臭水は石油の臭氣より出でたる名とす。家鉢を見るに冬々厩木と稱する廊架を構へて冬季の深雪に備へ、建築は切妻造の吾妻建となすもの多く、屋根より下す雪を堆積する必要に基く。官公署の特殊なるものに區裁判所・縣農事試驗場等あり、教育機關には高等工業學校・女子師範學校・中學校（明治五年創立）・工業學校・高等女學校・業暁學校・盲學校・商業學校等あり。また互尊文庫（藏書五萬八千冊）の存在を見逃すべからず。其他に商工會議所・北越新報社・越佐新報社・中越醫療組合病院等あり。近郊の名勝に悠久山公園あり。（治革）古へ信濃川右岸に殿倉（又倉）と稱する地あり。一方、榆原（いま栃尾町の内）を中心に大發展をなせし藏王權現が何等かの原因にて矢田（いま三島郡大河津村の内）に退き、更に再發展せんとして殿倉の地に移る。之より先、殿倉には相當の聚落ありしものと想定せらるゝが、權現を迎えて更に發展し遂に殿倉を藏王乃至藏王堂と稱ふに至る。信濃川沿岸の變遷は當なければも、其地はほぼ今の本市藏王町及び其地先の信濃川邊とす。吉野朝の頃は北方に北朝方居り、此地邊より今の栃尾町邊にかけ南朝方居りて此邊は屢々戰場となる（引用文參照）。大和國の吉野には古くより藏王堂あり、また金峯神社もありし如し。されば此地はもと南朝方なりしものなるべし。吉野朝の終る頃、藏王堂氏の名見ゆ。その先は關東八平氏の一なる上州長尾氏にして、藏王堂禁前守秀景これなり。諸所に長尾秀景と見え、勿論、長尾姓を名乘りしも、當時長尾氏の族近隣に蟠り居りし故、區別するため藏王堂氏を稱す。藏王權現の地に藏王堂城を築きしは或は秀景の頃なりしか。爾來、藏王堂長尾氏こゝに居り景達に至り永祿三年厩橋に移る。次で丸田周防守・松川大隅守の居城す。慶長三年堀秀治は越後を領して春日山城に入るや一族堀美作守親良は藏王三萬石を以て長岡城に治したりしが、慶長十五年罪に坐して信濃國飯田城に移る。次で松平忠輝入國するや、家士山田隼人氏この城に來り治し、元和二年忠輝流により沒領せられ譜代藩國代り、同年、堀直寄は魚沼の板戸（或は信濃國飯田ともいふ）より轉じ八萬石を以て當城に封ぜらる。當時城は信濃川の河畔により支へ難きものあり、依て直寄は元和三年四郎丸の地に新に築き、かくて藏王堂城は廢絕す。新城は即ち長岡城にして兜城・浮島城とも稱せられ、沼に據る平城なるも築城に特殊なるものありしと稱せらる。元和四年堀直寄越後國村上に移封さるゝや牧野駿河守忠成（新二郎）質城の長峰より此地に封ぜられ、長岡城に居して七萬四千石を食む。牧野は源氏を名乘れども藩倫譜などによれば、其祖は平氏の侍にて讃岐國の人、阿波民部重能の嫡男田内左衛門教能なり。源氏の世となりて教能本領を失ひ子孫諸國をさ迷ふ、その末流の三河國に住せしもの即ち牧野氏なりといふ。始め三河の今橋（今の豐橋市）に城せし如し、其後幾變遷、駿河守忠成に至り、長岡に封ぜられてより三百年、譜代大名として子孫相繼ぎ明治維新に至る。戊辰の役には越後方面に於て最も官軍を惱ませしは本藩とす。これより先、長岡は七萬四千石の城下町として、また信濃川筋の要津として榮えしが、官軍の東下を見るや、藩の幹部は中立を持して無事を期せんとし、血氣の青年武士を押へ、藩獄その他を具陳上書せしが官軍の容るゝ處とならず、遂に藩總督河井繼之助も全士一千二百を率ゐて二萬五千の官軍に抗す。寡兵を以て將に百日に亦んとするの間、良く戰ひしも遂に敗れて會津に退く。この戰により長岡は全く兵燹の惨になり終る。されど此の長岡の焦土化は、戰ののち焦土なるが故に、士族も平民も共に舊營より獄を出るの氣運を醸化し、逸早く即ち明治五年中學校・小學校を建てゝ新知識の輸入に努め、身一つが財產と稱して早く病院を建て、新經濟體制に應ずべく六十九銀行を起し、或者は横濱に至りて洋物を仕入れる等、名家も老舗も新文明の輸入に徒食する者なく鼎つて新分野の開拓に努力して、城下町より一躍地方の一大新商業地たらしむといふ。偶々明治廿六年東山油田の加坪澤の大噴油以來、長岡は非常なる活氣を呈し、同年には寶田石油會社の創立あり、爾來、發展を辿りたるが明治末年を以てその最高時とすべきか。とまれ其後、東山油田の製出減じ、また寶田石油會社は日本石油會社と合併して長岡より石油の本據去るや、此方面のみならず一般の景氣は一時失墜したるが、のち鐵工業を中心として諸工業勃興し以て今日の景況に至る。行政的沿革を述べんに、明治廿二

年市町村制實施當時は現在の市域に七箇町村あり、其内の六箇町村は三十四年合併して長岡町となり。三十九年市制を布く、大正十年更に四郎丸村を市域に編入して現在に至る。古文書「村山七郎義盛代方切七郎光義軍忠事　右越後國奥郡内徒池多助石坂以下之輩令蜂起今月三日押寄藏王堂、及散々合戦内徒等打負、稲瀬大河庄之由、依有其聞大將軍風間越後守御發向之間馬手彼御手同五日馳向當庄、令致軍忠候上者、給御證判爲備後證恐々言上如件　正平七年八月　日承了」「三浦和田三郎左衛門尉義成軍忠事　當國御發向之間自最前馳參、同時渡河賀河道能河内因徒等城内、今月五日出張小國城御敵之間、於新潟宿致合戦同六日古志郡乙面陣に馳付候之處、同八日朝一品宮、新田武州、脇谷金吾以下攻落候事。同十三日至于藏王堂下着、致忠節候了　此等子細御見知之上者爲賜御證判之狀如件　文和二年十一月十六日」「三浦和田三郎左衛門尉義成軍忠事　右當國内徒等蜂起之間馬三浦和田土佐守宗貴乎。不廻時日馳向之處河内御敵等出張、差塞路次之間今月二日青海庄賀茂口於陣峯致散々合戦追落畢。同三日藏王堂仁馳著、同七日一品宮脇谷金吾以下御敵等志度乃岐庄於木野島出向之間守護相共致散々合戦之時、被切乘馬、吉田彌次郎時綱被疵。同日於大島庄平方原致散々合戦畢。此等次第御見知之上者、爲賜證判爲備支證言上如件　永了　文和四年四月廿九日」〔金峯神社〕藏王町に鎮座。俗に「きんぼう」と呼ぶ。舊稱は藏王權現。藏王神社ともいふ。縣社。祭神は金山彦命。一説に少彦名命といふ。式内の宇奈具志神社に擬せらる。創建年代に三説あり、和銅二年大和國吉野郡金峯の藏王權現の勸請と云ひ、又は寶龜五年の創祀と云ひ、或は大同五年の創建とも云ふ。往昔は檜原（いま古志郡栃尾町）に鎮座ありしが、永祿三年、矢田（いま三島郡大河津村）に移り、更に股倉（後の藏王）に移る。いま信濃川の河中なるべし。慶安元年幕府朱印地三百石を寄す。當時、古志郡の小島氏の女は家光に寵され、家光歿後に尼となり當社の神領を管理すと云ふ。正德三年に社地信濃川の洪水其他の天災に崩潰せしため現社地に移遷す。爾新の際に藏王權現を改め現社號を稱す。例祭、七月十五日。なほ當社に俗に王神樣と稱する神坐し一男神二女神を以て一組となり四組坐します。雖新前には此神は上條・中條・下條・河西の豪家へ各一組止宿し給ひ藏王社に止まらせ給ふは、年の内十月末より十一月初旬のみとす。而して一年毎に宿を替へ給ふ。此神の止宿し給ふ間、其家の主人は外出することを得ず。正裝にて家に止り近隣の誹彼となく來る者を迎えて馳走する義務を有す。此神を以て藏王權現と混同するものあれど、此神は權現が股倉（今の藏王）に移る以前より股倉郡落に鎮座し給ひしものと云ふ。明治新維前、天台宗靜觀院安禪寺は境内にありて別當寺たり。近世中興の祖なる道義僧正となす。明治維新に一旦廢絶せしが、十數年の後いまの石内町に復興せらる。〔平湯諏訪神社〕表町一丁目に鎮座。縣社。祭神、健御名方富命外配祀二神。別に青木神社を合祀す。創建年代詳ならざるも、天平八年僧行基は當社に自作の菩賢菩薩像を納めて此地に流行せる悪疫退散を祈願せりと傳ふ。天文・天正の交、上杉謙信・景勝父子の崇敬篤く、殊に牧野氏は元和四年上野國大胡より入部以來、當社を新願所とし慶安二年現在地に造營せらる。社地はもと舊藩主牧野氏の城址西北（今の省線長岡驛邊）にありて地名に因りて平湯殿とせり。享保十三年社殿炎上、同二十一年再建、明治二十七年再度炎上、同三十二年再築さる。當祭神は大國主命の御子にて、配祀神の后神・八坂刀賣命と共に北陸一帶の地を平定、且つ土民に鋤作・漁撈・狩獵を教へ給ひき。なほ合祀の青木神社は、元祿元年藩主牧野氏の命にて古志郡高畑村（いま山通村大字青木）に創せしめ、享平年中に當社に合祀す。例祭、七月二十六日・二十七日。社地は正平年中、宗良親王が新田義貞・脇屋義治等を率ゐて北軍と戰ひ給ひし平方原の故地なりと傳ふ。〔千藏院〕千手町にあり。眞言宗豐山派。善門山觀音寺と號し、俗に千手觀音として知らる。本尊千手觀世音は行基作にして、文治中には村上義清の兜守の本尊たりしと傳伝す。延寶七年堂宇再建、觀音木像を彫りその腹中に本尊を秘藏す。八月十日、日の出の大護摩供は盛儀にて、往時は境内に觀音市開かれ、長岡唯一の年市として著はれたり。〔昌福寺〕四郎丸にあり。曹洞宗。萬融山と號し富山牧大和尚の開創。元和三年まで長岡城の地にありしが築城の際に現地に移る。境内に光炎上人墓・鶴殿春風墓あり。〔河井繼之助〕號香龍窟。若くして諸地に遊學、佐久間象山等の名士に會ひ、また長崎にて蘭人と交り歸藩後藩主に用ひられ百十石の小身より遂には執政職に至る。爰に於て彼は藩士の祿を平均せんとし、最高二千石を五百石に引下げ、最低二十二石を五十石に引上ぐ。また當時本邦に三門ありしといふ新式砲を二門まで藩に買入れるなど、その改革の爽跡や偲ぶべし。戊辰役に官軍の東下を見るや長岡に歸り、領内を鎮撫し中立の態度を持して書を官軍に上りしも省られず。剩へ官軍は長岡藩討伐と決するや藩を挙げて對戰、千二百の寡兵よく二萬五千の官軍に抗すること約百日、城は一度陷りしも之を恢復す。されど藩之助の傷くに及んで士氣振はず、遂に會津に退去、大沼郡盤澤の陣中にて歿す、時に歳四十二。明治二年會津の群福寺より長岡の柴涼寺（東神田町）に改葬、故宅は表町一丁目にあり。〔小山正太郎〕本



邦洋畫界先驅者の一人。安政五年に落髮良運の長男に生る。十四歳の時上京して川上冬崖・ゲーノー（佛人）に從學、のち陸軍士官學校・工部美術學校に入る。十一年十一月同窓の松岡等十二人と十一宇會を創立。二十二年明治美術會の創立に與し、また團子坂に家塾不同舎を設く。第一回—第七回文展春展委員。大正五年十一月歿。名作に山村線女・渴想療渴・黃葉村居・川上冬崖像などあり。

【長岡鐵道】社線。新潟縣三島郡にあり。來迎寺村の省線信越本線及び魚沼線の來迎寺驛より、長岡市の西對岸にある西長岡驛（深才村）及び省線越後線の大河津驛（大河津村）を經て寺泊町の寺泊驛に至る三九・二粁。寺泊驛附近には海水浴場・寺泊溫泉あり。軌間一・〇六七米、動力はガソリン・蒸氣・重油。省線と連帶運輸す。

【長岡村】富山縣越中國婦負郡の北部。富山市の西北に接す。面積僅に三・八二方粁の小村。南隅に吳羽山（七六米）の小丘陵ある外は概ね平坦にして、南半は桑畑・果樹園多く、北半は田地なし、米を主産し、繭の産あり。富山市に起る社線越中鐵道（電車）の八ヶ山驛（東隣百塚村）、省線北陸本線の吳羽驛（西隣西吳羽村）にも近く交通不便なら子。

【長岡】越中國（富山縣）の古地名。和名抄に礪波郡長岡郷あり奈加乎加と訓ず。その地今の西礪波郡正得村・荒川村・大門村・高波村の邊なるべし。

【長岡村】愛知縣尾張國中島郡の西南部。組矢江町の南に隣り、木曾川と佐屋川の分流する所にあり。土地低平なるため西境の木曾川、東境の佐屋川岸には堤防を築きその慘害を防ぎ、輪中藥落を示す。卑濕地なるため灌漑排水の便を計り田畑よく開け、米・麥・繭を産し養鶏も盛なり。交通は輪中藥落なる爲に便なら子。木村は明治三十九年神明津村・馬飼村・拾町野村・西鶴ノ本村・四貫村を廢して新たに設けるもの。

【長岡村】三重縣志摩國志摩郡の東岸。東は太平洋に面し、南は的矢灣を隔てゝ安乘村・國府村を望む。面積一四・九方粁。北境には百米臺の丘陵性山地連り、西南部の淺間山（一九九米）を最高處とする。中央南部に小半島突出し、その南端菅崎に對岸の安乘崎に對して的矢灣口を扼し、それより北岸には鯨崎・鍛崎ありてその頸部に相差・國崎藥落あり、的矢灣北岸には小支灣ありて畔鉢・千賀・鰒子の藥落發達す。土地概ね東南への傾斜地なるも、中部半島の頸部にはやや廣き低地ありて、中農半漁行はれて米・麥（合計九萬圓）・繭（二萬圓）の農産の外、水産（八萬圓）多し。西南隣の的矢（へ巡航船あれど、陸上交通は概して便なら子。大字畔鉢の海岸を安太古濱と云ひ、地は的矢灣の北岸にして北に青山を負ひ、南に安乘崎を見渡し風光明媚、古來、志摩國の名所たり。大字相差より出る古くより神宮に毎年鮑を獻進するを例とし、その漁師を伊勢海士と呼ぶ。

【長岡】近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に坂田郡長岡郷あり奈加乎加と訓ず。その地今の坂田郡東黒田村・柏原村の邊なるべく、東黒田の長岡はその訛稱なるべし。

【長岡京】桓武天皇、平安遷都以前の帝都。この都は延曆三年に平城より遷されしものにて、爾後十年を經過して費用不足のため遂に完成を見るに至らず、延曆十三年に至り、和氣清麿の奏請により更にその附近なる今の京都、卽ち平安京に遷り、將に完成せんとせし長岡の都は遂に荒廢に歸せしものなり。長岡遷都の公表の理由は、交通の便利と、風光の美と稱するものにて、而もその翌年の正月には既に宮城も造營成れりと見え、天皇大極殿に御して朝賀を受けさせらる。然るにその年九月に造宮使の長官なる中納言藤原種繼は事によりて暗殺され、これより造宮の事業一大頓挫を來せり。是より先、桓武天皇は御父光仁天皇の後を承け給ひ、奈良朝多年の佛寺興隆その他による國庫窮乏の善後處置として、行政財政の整理に沒頭せられ、延曆元年四月の詔には、「今者宮室惟ゝ居、服飾足ゝ用、佛廟云畢」との理由のもとに、多年設置の造宮省庁の二省、法花・鑄錢の二司をも廢せられ、府庫を充實せしめ給ひし程なりき。然るに未だ數年ならずして忽ちにして遷都の御發表あり事は、その間必ず隱れたる事情あるべし。蓋しこの遷都の計畫は、專ら造宮使長官たる藤原種繼によつて成されしものなり。種繼の母は北山城地方に莫大なる領地を有し、大富豪として知られたる秦朝元の娘にて、從つて長岡宮の造營につきては、外戚たる大富豪の秦氏の出資に依賴して、計畫せるものなるべし。然るに種繼が暗殺されしため、外戚秦氏も出資を手控へ、これがために費用の不足を來して十年を經るも遂に完成せざるの結果を生ずるに至りしものならん。平安京の地と雖もまた秦氏一族の宗家太秦氏の所領にて、この平安遷都の際には、太秦島麻呂の女婿彭原小黒麻呂が造宮大夫にてありし事より見れば、恐らく太秦氏の出資によつて無事に完成を見しものならん。長岡京の四至は之を正確に示すこと能はざるも、いま乙訓郡向日町・新神足村を主とし、なほ羽束師村・淀村（いま久世郡淀町に入る）の一部を含み、東は桂川・淀川、西は西山との間の平地にあり、長岡の稱は其の北部を南北に亘る長丘より出でしものなるべし。而して大内裏は其北部にあり、向日町の大字鶏冠井の小字に荒内・大極殿によりて凡そ其の址を探るべし。いま記念碑建つ。

【長岡】美作國（岡山縣）の古地名。和名抄に久米郡長岡郷あり、その地今の久米

郡佐良山村・加美村の邊に當るか。

【長岡郡】 高知縣（土佐國）七郡の一。縣の中央部より東に偏し、東は香美郡、西は土佐郡及び高知市に隣り、北境の東半は德島縣美馬郡、西半は愛媛縣宇摩郡に界し、南は土佐灣に臨む。南北に長く東西は北に廣く南に狹く銀杏の葉を倒立せるが如き形を呈し、面積約六九二方粁にて縣の九・七%餘に當る。北境には石鎚山脈東西に逕りて、美馬郡界には黒滝山（一二一〇米）・野鹿池山（一二九五米）、宇摩郡境には椪尾山（一二二二米）・大森山（一四一六米）・玉取山（一三三一米）等の山岳聚え、中部東西に瓶山脈に屬する槇ヶ森（一四〇〇米）・杖立山（一一三三米）・國見山（一〇八九米）等の脈つづき郡を南北の二部に分つ。北部は即ちこの兩山脈間の山谷にして自ら一境をなし森林繁茂し良材あり、吉野川の上流西隣土佐郡より來りて東流し、北より下る汗見川・立川川、南よりする穴内川を合し黒滝山の東面を藏りて美馬郡に出づ。南部は土佐灣の斜面にして東の物部川、西の甫戸灣の間の地を占め北半は山地なるも南半は高知平野の中央部に當る平坦地なり。農産に米・麥を主とし蕎麥・玉蜀黍・甘藷・青芋・茶・蠶・三椏等、林産に木材・薪炭等、水産に魚族、工産に和紙・生糸あり。阿波街道は高知市より郡の南部を北上し穴内川に沿ひて吉野川の谷に出でて東し、同盟街道は南部の平野を横ぎり香美郡に出でバスを通じ、省線土讃本線また略ぼ阿波街道と同方向に走りて德島縣西郡に出で、社線高知鐵道は濱街道と並走し、吉野川谷の西半にも縣道ありてバスの便あり。いま後免・本山二町の外二十三ヶ村に分れ、人口七・四萬餘人ありて密度は一〇八人なり。本郡は土佐郡を割きて置かれしものなるも建郡の年次詳ならず。和名抄は奈加乎加と註し登利・植田・宗部・江村・大角・片山・氣良・篠原・大曾の九郷を管す。

【長岡村】 高知縣土佐國長岡郡の南部。後免町の北に隣り、東は香美郡山田に隣接す。南部には年越山（新年山）の丘蟠るも、他の殆どは土地低平にして香長平野の中心地域に位す。國分川は北境を西南に流れ灌漑の便よく水田よく開け、裏作に麥作を行ひ煙草の栽培も盛なり。縣道は中央部にて十字に交叉し、山田町・後免町・高知市方面にバスを通じ、省線土讃線東南部を通じ、後免驛（大正十四年設置）を置き、ここにて更に社線高知鐵道を分ち交通便利なり。交通の便よきと農業の發達に伴ひ、人口密度も大にして昭和十年の國勢調査によれば、人口六三〇三人にて、一方粁密度は七四九人、後免町に次ぎ最も稠密なる地域をなす。古くは和名抄、長岡郡宗部郷に屬せしものの如し。南部の年越山は高知市と後免町間に於ける險路をななし、坂折とも云ふ。壽永年間平家の碁なる難波碁盤ここにて土佐冠者源希義を討つ。〔新年神社〕大字廿枝に鎮座。郷社。祭神、大年神。創建年月詳かならざるも、昔和天皇貞觀八年正六位上新年神に從五位下を授けられたる由、三代實錄に見ゆ。長曾我部氏の崇敬厚かりいふ。例祭、七月二十三日・十月十九日。

**ナカオカ　長園**　筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄に御笠郡長園郷あり、その地今の筑紫郡筑紫村・山家村・山口村の邊に當る。

**ナカオキ　中奥村**　石川縣加賀國石川郡の北部。西北松任町に接し、東は富奥村に隣る。面積僅に四・八二方粁の小村。加賀平野の中央部を占め、土地平坦肥沃にして全村殆んど田地なり。加賀米の産多し。村の略中央を松任・鶴來間の縣道走りバスの便あり。省線北陸本線松任驛に近く交通不便ならず。人口は近來やや減少の傾向を示し、飽和狀態にあるものゝ如し。古くは和名抄、石川郡中村郷の地にして、中世は中興庄と呼ばる。大字に徳丸あり。康正二年寺内引付に、「拾貫文、玉泉寺領、賀州徳丸、尾州味鏡分段錢」とあるは此地とす。大字倉光は本曾義仲の代官倉光成澄以下四世の居せし地にして、今その館址存し俗に館山といふ。

**ナカオコッペ　中興部**　北海道北見國紋別郡西興部村の大字。名寄本線の一驛中興部（大正十年設置）を置く。



**ナカオタイ　中小田井**　愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢し山田村を置く。

**ナカオバラ　中小原**　大曳線の一驛（昭和九年設置）。樺太留多加郡留多加町にあり。

**ナカカサイ　中笠居**　香川縣香川郡にありし村。大正四年に香西町と改む。

**ナカカズミ　中加積村**　富山縣越中國中新川郡の北部。上市町の北方約二粁、滑川町の東南方約三粁。富山平野の東部を占め、土地概ね平低にして、西南境を上市川西北に流る。村内水田に富み、米の産多し。また製藁業盛にしてその産多額に上り、實藁行商に從ふものまた多し。社線富山電鐵西部を掠め中加積驛（大正二年設置）を置く。縣道また南北に走り、奥津町・上市町間の自動車の往來頻繁なり。

**ナカカツシカ　中葛飾郡**（千葉縣）　→葛飾

**ナカカノ　中狩野村**　靜岡縣伊豆國田方郡の中部。狩野川上流に沿ひ、修善寺町の南方約四粁。西部に達磨火山彙を負ひ、東部は天城山脈の餘波を受け、この兩山地に挾まれ中央より東寄りに狩野川南北に貫流す。平野は河岸に僅に開くるのみ、山地は森林・原野をなす。平野には水田拓け、米・茶・山葵等の農産額最も多く、次いで林業盛なり。其他、工業・牧畜・養蚕も行はる、南部狩野川支流に沿ひ船原温泉湧出す。南北に縣道走り、更に、これより西方土肥に至る縣道を分岐す。社線駿豆鐵道修善寺線へは約六粁、バスの便あり。大字上船原より月出石を產す。灰色、緻密の角閃安山岩にて角閃石・雲母の斑昌あり。專ら東京・横濱にて建築材として用ひらる。古くは和名抄、田方郡狩野郷の内とす。大字松ヶ瀬は名跡志に據れば狩野介茂光の居住地なりと云ふ。上船原に船原温泉あり。黄命湯（硫黄鹽類泉）・子寶湯（炭酸泉）の二あり。天城山の北麓中の瀬場山御料地の東麓に當り頗る閑寂の境なり。〔輕野神社〕大字松ヶ瀬に鎮座。郷社。祭神は不詳なるも一説に貴邪本王を以て之に充つ。創立年代は座神天皇の御代といひ、同天皇五年冬伊豆國に令して長さ十丈の船を造らしめ給ふ。船成りて水に浮べしに、輕く浮き速力また速し。依りてその船を枯野と名づく、枯野は即ち輕野にして、本社おそらくはこの舟木を伐出せし時に祭れる神ならん。延喜式の輕野神社なりといふ。例祭、十月九日。

**ナガカベ　長堀山**　常念山脈の一峯。長野縣上高地の北東方に峙ち、南安曇郡安曇村に屬す。標高二五六五米。蝶ヶ岳の南西方、大瀧山の北西方に當り、西方は梓川渓谷を距てて穂高連峯と對峙す。

**ナカガミ　中神**　東京府北多摩郡にありし村。昭和二年に外七箇村と共に合し昭和村を建つ。

**ナカガミ　中頭郡**　沖縄縣五郡の一。沖縄島の南部の地を占め、北は國頭郡、南は島尻郡及び首里市に接し、四と東とは海に面す。南北約二四粁、幅は七—一五粁あり。面積約二八八方粁。北部は最高四百米前後の丘陵地にして、山脚南に延び、一支脈は東南海中に突出して勝連半島をなし、北の金武灣と南の中城灣とを分ち、餘勢更に東に延びて濱比嘉島・津堅島その他の島嶼群をつくる。地質は第三紀層の地域多く、一部は珊瑚石灰岩に覆はれ、全體として低き臺地狀の地貌を呈す。河川は北部山地に發して西流する比謝川、東流して金武灣に入る天願川等を主なるものとし、此等の流域と海岸には廣闊なる沖積地あり、沖縄島の主要農業地帶を形成す。海岸には概ね良好に發達するを以て良泊に乏しく、僅に中城灣の北岸に泡瀬港あるのみ。産業は農業を第一とし、溪谷地及び海岸沖積平地は多く甘蔗・水稻の栽培地として利用せられ西南部の浦添方面には移出向蔬菜の栽培行はる。かく縣の重要なる農業地域なるを、北谷村嘉手納に縣立農林學校、宜野灣普天間には畜産試驗場、西原には蚕業試驗所が設けらる、畜産は豚を主とし、水産に鰹・鰹節等あり、工業は製糖を主とし、黒糖・白下糖の農家生産ある外、工場設けられて分蜜糖なも出す。縣營鐵道は那覇市より來り、西海岸低地を北走して嘉手納に至り、道路は南部鐵道と並走して名護に至るもの、與那原と泡瀬を繋ぐもの、普天間より那覇へ至るもの等の各縣道通じ何れもバスの便あり。行政上、十一箇村に分つ。郡の總人口は昭和十年末に約一四六、六一八にして、人口密度は一方粁當り五〇九人を數へ、特に宜野灣・中城・浦添の各村に稠密なり。その最も疎なる村と雖も三四九人（越來村）にして、之を縣平均密度の二四八人に比する時は、本郡が農耕地域として他に類例なき程大なる人口密度を有す。古へは中山王直轄の地にして島尻を下方と呼ぶに對し、上方とも稱ふ。舜天・英祖・察度の三王統は引續き此處より興りしものにして、浦添城・牧港・ようどれの王陵や普天間宮等史蹟に乏しからず。

**ナガカミ　長上村**　靜岡縣遠江國濱名郡の東部。濱松市の東北方約三粁、笠井町の南に接す。天龍川デルタの一部を占め土地平坦肥沃にして田畑拓く。米・野菜等の農産物に富む外、近年は染織工業頓に興り、その産八十萬圓の多額に上る其他に養蚕・牧畜も盛なり。濱松市・井笠町に道路通じ、社線遠州電鐵の遠江上島驛に近し。昭和二年に市野村・天王村の廢しその地域を以て本村を置く。村社大歳神社あり、大年神外數神を祀り、式内の古社たり。

**ナカガワ　中川**（なかがは）　〔中川郡〕 北海道天鹽國四郡の一。その東南隣の上川郡と共にいま上川支廳管下に屬し、管區の最北部を占む。西南は石狩國雨龍郡、西と北は天鹽郡、東北は北見國枝幸郡、東南は同紋別郡に界す。天鹽川中流々域の地にて西北より東南に長く面積約一六八四方粁を有す。北見國との境に北見山脈連り、東南部にピヤシリ山（九八七米）・シアッシ山（九〇三米）、中部に函岳（一一二九米）、北部にペンケ山（七一六米）・パンケ山（六三一米）等あるも山腹は緩く傾きて高峻ならず。中部には雨龍郡より續く夕張山脈の延長とも見るべき山嶺ありて北方に延び、南部に布袋山（七〇三米）、北部に鬼刺山（七三八米）ありて、その北麓はペンケ山の南方に移り、西境には天鹽山脈の北端部ありて南部にて四百米臺を示すも北方に從ひ次第に低下し二百米臺の丘陵となる。これ等の山地により郡内は東西の谷に分れ、天鹽川は東南隣上川郡より來りて東谷を北流し、鹽て西折して鬼刺山の北麓を截り、西谷と南方より來る安平志内川を併せて北流し、郡の西北境にて更に西折して天鹽郡に出で、東谷南部に美深、北部に音威子府、西谷北部に幌平の三盆地を作る。省線宗谷本線は天鹽川に沿ひて南北に通じ、音威子府盆地にて支線北見線を岐ち、道路また鐵道線と同方向に通ず。三盆地をはじめ天鹽川及び支流の谷には耕地開墾せられ、各種の農産を出し、山地には良林ありて木材を產す。人

口二萬六千五百餘人にて、密度はなほ一方粁一六人に滿たず。

【中川村】北海道天鹽國中川郡の最北部。上川支廳管内最北に位し天鹽川に沿ふ。北は宗谷・留萌二支廳に、西は留萌支廳に、東は常盤村・美深町に接す。面積五九九平方粁。四周山岳重疊として村内概ね三—四百米の山地に占めらるるも、天鹽川西北流し鬱平附近より大いに蛇行を初め流域に沃野を作り、支流なる安平志内川また北流し中部にて合流す。流域に耕地・聚落多く、また山地の一部に泥炭地存す。馬鈴薯・甜菜・米の產あり。省線宗谷本線川沿ひに通じ、神路・佐久・鬱平・宇戸内の四驛（前三者は大正十一年、後者は同十二年開業）を置く。この地は大部分御料地及び國有林にして明治三十六年頃は天鹽川の舟筏を唯一の交通機關とせる爲に天鹽川近接に移民住し、のち交通の便やや加はり、同三十七八年に至り移民漸次增加し二百餘戸を算したり。同四十五年下名寄村より分離獨立して本村となし、大正五年、本村の一部を割きて常盤村を置く。

【中川郡】北海道十勝國十勝支廳の東部。十勝川の南北兩岸地域を占め、北は北見國境より南は廣尾郡界に亙る南北に長き大郡にして、西は河東・河西二郡に、東は釧路國及び十勝郡に接す。面積二四七九・四五平方粁。郡内に池田町・本別町の外、幕別・西足寄・豐頃の三村を含む。北境は東三國山（一二三〇米）・クマネシリ嶽（一五六六米）等連亙し、極めて高峻なるも郡内中央部に傾き、丘陵性の臺地となりて展開す。北部山地に發したる諸川は合して ピキベツ・斗滿川となつて東南流し利別川に注ぐ。沿岸に沃野開く。南部また二—三百米の丘陵性臺地にして、十勝川支流猿別・牛首別川流域に屬す。中央を十勝川東流し諸川の水を集む。沿岸に十勝平野展開す。河水氾濫多きため未だ潤沢なる耕地多く存すれども一般に土地肥沃農工行はれ、池田町を始め聚落集る。米・稞麥・大豆・小豆・馬鈴薯・亞麻・甜菜等を產し、池田町には王子製紙工場・大正製麻工場設けられ、また本別町・幕別村に煉乳・ペニヤの製造盛んなり。北部山中の西足寄村には林產多し。省線網走本線南北に通じ、大誉地・足寄・勇足・本別・仙美里・高島・池田の諸驛を置き、池田驛に於て省線根室本線連り、豐頃・十弗・利別・止若の諸驛あり。他に池田町に植民軌道あり、地方費道にはバス四通す。

【中川村】青森縣弘前藩國北津輕郡の西南部。五所川原町の北に隣り、西南は岩木川を隔てて西津輕郡に對す。津輕平野の中北部に位し全村概ね平坦なり。十川は村の東南部より來り、中央部を横斷し村の西境をなして北流す。岩木川は西南境を北流す。米を產す。道路は村の東部を南北に通じ、南方の五能線五所川原驛へはバスの便あり。

【中川村】秋田縣羽後國仙北郡の中部。角館町の西北に接し、西北は河邊郡に境す。西北境に利森（八七八米）、西境に奥山（七五一米）あり、東南方に傾斜し、檜木內川の一支流西北境に發源し、村の中央部を東南に流れ、檜木內川に合す。檜木內川は東境を南流し、玉川に合す。村の東部にやや耕地拓く。米を產し、山地には木炭・木材等の產あり。村民には農・山の業業者多く、また角館町に勞働及び山菜行商をなす者あり。村內は交通便ならず。生保內線の角館驛は東南方約四粁あり。

【中川】秋田縣河邊郡にありし村。明治二十八年に稲平・戸米川の二村に分割さる。

【中川村】山形縣羽前國南村山郡の中部。上山町の東に隣り、東は宮城縣に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境に蔵王山（一八四一米）あり、西方に傾斜し、蔵王川は東境に發源して西流し西北部に於て宮川に合す。宮川は西境を北流す。村の西部は山形盆地に屬して平坦なり。米・繭・蔬菜・木炭を產す。西方の奥羽本線上ノ山驛へは約三粁あり。

【中川村】山形縣羽前國東置賜郡の北部。西南は宮內町・赤湯町、東は南村山郡に隣接す。東南境に大洞山（七三七米）、西北境に鍋石山、西境に鷹戸山あり。宮川の一支流は、中央部を西南より東北に流れ沿岸に耕地拓く。米・繭を產し葡萄の栽培行はる。道路は中央部を西南より東北に通じ、西南方の米澤市、東北方の山形市へはバスの便あり。この道路に並行して奥羽本線通じ、中川驛（明治三十六年設置）あり。明治十四年、明治天皇は山形・秋田及び北海道行幸の際にこの地に御小休あらせらる。村內に城址あり、蒲生氏の時に蒲生左文、また上杉氏の臣横田旨俊の居城せりといふ。（白髭神社）大字中山に鎭座。郷社。祭神、久延毘古命。和銅七年に近江國の白髭明神を勸請せるものと傳ふ。

【中川村】茨城縣下總國猿島郡の南部。岩井町の南隣にて利根川の東岸にあり。西は川を隔てて千葉縣東葛飾郡の一部と相對す。全村平地にて北境に鵠戸沼の南端をなす。畑地多く南の一部は水田をなす。麥・米を產し、葉煙草の栽培も盛なり。岩井町に驛設を通ず。古くは和名抄髮島郡石井郷の內に當る。

【中川村】栃木縣下野國芳賀郡の東北部。茂木町の北隣にて那珂川に跨る。北は那須郡、東は茨城縣那珂郡及び東茨城郡の一部と隣す。八溝山脈中の一部を占め、北境に松倉山（三四五米）あり。南境附近も約二五〇米の山地をなし、村の中央はそれ等の裾合にて那珂川東流す。また支流逆川は西南より來り、村の東端にて那珂川に合す。那珂川流域のみ狹き平地あり、て、米・麥・繭を產し葉煙草の栽培盛





んなり。茂木町へ驛設を通じバスの便あり。

【中川村】群馬縣上野國群馬郡の東南部。高崎市の北隣にて面積僅に六方粁餘の小村。全村平地にて農業行はれ、米麥を產し、養蠶また盛にて繭の產多し。高崎市に近きため交通便利にて、高崎市より前橋市に通ずる國道、若線上越線と社線東武鐵道高崎線は何れも村內を北走す。古くは和名抄、群馬郡八木郷の內にして、大字の大八木・小八木はその遺稱とす。明治二十六年に明治天皇前橋・高崎行幸の際、本村にて演習天覽ありたる。

【中川村】埼玉縣武藏國秩父郡の南部。秩父町の西南約四粁にて荒川の南岸にあり。南は東京府西多摩郡氷川村と隣す。關東山脈中の一部を占め、南境に天目山（一七一八米）、東境に矢嶽（一三五八米）あり。これ等の山は何れも北方に傾斜し北境附近はその山麓にて荒川東流す。川沿ひに狹き平地ありて麥・米を產し、また養蠶盛にて繭・生糸を多く出す。山地一帶には林產も多し。川沿ひに縣道通じ社線秩父鐵道またこれに沿ひ浦山口・武州中川・武州日野の三驛（昭和五年設置）を置く。他に山地のため交通不便なり。この地は和名抄、秩父郡上隈郷の內なるべし。明治二十六年に本村の大字久那を分離獨立して久那村を置く。（長泉院）大字上田野にあり。曹洞宗。薩日山世戸院と號す。開山は徹翁性哲、中興は香庵春公なり。本尊は聖觀世音菩薩。秩父三十四所第二十九番札所たり。詠歌「わけ登り結ぶに世の戸おしひらき佛を拜む身こそ願もし」

【中川村】千葉縣上總國夷隅郡の中部。大多喜町の東隣にて夷隅川に跨る。北境南境共に一五〇米前後の丘陵地連りて、何れも村內に傾斜し森林多く、その裾合なる夷隅川東流し、流域は狹き低地をなして田地・畑地拓く。米・麥・繭を產し養蠶も行はる。川沿に縣道あり。省線木原線また之に沿ひて西走し、村內中央に上總中川驛（昭和五年設置）を置く。此地は中世に伊北莊と稱せし地にて、大字大野は延喜兵部省式の上總國大野馬牧とある地なりといふ。また大野城址あり、上總廣常の居城なりと云ひ、大字引田の伊保館址は和田義盛の居館ならんと傳ふ。

【中川村】千葉縣上總國君津郡の北部。小櫃川の北岸にあり。木更津町の東約九粁。面積ほぼ七方粁の小村なり。小櫃川流域平野の一部を占めて水田多く米を主產し、他に麥・繭・鷄卵の產あり。縣道は村の中央を西走して木更津に通じ、省線久留里線また之に沿ひ、村內中央に横田驛、東部に東横田驛（共に昭和十二年設置）あり。この地は和名抄、望陀郡磐田郷の內なり。

【中川村】神奈川縣武藏國都筑郡の東北隅。東の一郡は川崎市、北は橘樹郡宮前村と隣す。多摩丘陵の一部を占め森林あり。中央を東流する早淵川の流域のみ狹き低地ありて水田・沼田をなす。農業行はれて米・麥・甘藷・粟・馬鈴薯・大豆等を產す。縣道は川崎市に通じバスの便あり。（杉山神社）大字大棚に鎭座。祭神、日本武尊。式內杉山神社を當社に擬するものあれどなほ考ふべし。例祭、十月十五日。

【中川】↓三保村（神奈川縣足柄上郡）

【中川村】神奈川縣相模國鎌倉郡の北部。戸塚町の北隣にて北は都筑郡の一部と隣す。多摩丘陵の一部を占めて森林あり。中部を南流する柏尾川附近には稍平地ありて耕地をなす。麥・甘藷・馬鈴薯・粟・大豆等を產し、養蠶も行はる。縣道は戸塚町に通じ、同町の省線東海道本線戸塚驛へバスの便あり。また村の西北部大字阿久和に社線神中鐵道の三ツ境驛（大正十五年設置）を置く。この地は近世に矢部郷と稱せられし地。もと鶴岡八幡宮の御供料所たり。

【中川村】長野縣信濃國東筑摩郡の東部。東は小縣郡に界す。松本市の東北方約一〇粁。北部・東南部は筑摩山嶽の山地を負ひ、中央に細長き平地を擁む。農業・養蠶を主生產とし、米・麥・繭の產あり。松本平・美光寺平を結ぶ西街道に沿ひ、省線篠ノ井線西條驛へ約六粁、バスの便あり。なほ社線上田温泉電軌青木驛へバス通ず。この地は和名抄、筑摩郡錦服郷の內。村內に會田小次郎廣政の城址・會吉オトロ觀音岩・金井不動尊等の名所舊蹟あり。また立嶽の中腹の岩井堂觀音には傳行基作の千手觀音を安置す。

【中川村】岐阜縣美濃國安八郡の中部。大垣市の北に接す。濃尾平野の一部を占め、土地平坦にして豐饒なる耕地開く。農業を主生業とし、米の產多く柿の副產物あり。南北東西に通ずる縣道村內にて交錯し、大垣市へバスの便あり。此地は和名抄、安八郡那珂郷の內なるべし。中世は中川庄と稱し伊勢の神領たり。大字曾根に曾根城址あり。今の華溪寺の境內これなり。戰國の頃、稻葉一鐵の居城なりしといふ。江戸末期の儒者にして勤王家なる梁川星巖（贈正四位）は本村の出身なり。

【中川村】靜岡縣伊豆國賀茂郡の西部。松崎町の東に接す。天城山脈の巒波なる七—八百米臺の山地全村に起伏し、略中央を中川西流す。平地は西部河岸に僅にあるのみ。概ね山林にして木材・木炭の產多く、平地よりは米・繭を出す。また中川上流の溪谷には山葵の特產あり。村の略中央の谷には溫泉湧出す。縣道は谷沿に東西に走り箕作・松崎町間にバスの便あり　此地は昔時の那賀郷の地にて、仁科庄に屬す。もと中ノ郷村と稱せしも明治二十四年中川村と改む。

【中川村】靜岡縣遠江國引佐郡の南部。

都田川に沿ひ、北は金指町に、西は氣賀町に、南は賀名郡に接す。村の東南部は三方ヶ原の西北端なる臺地をなし、北部に二〇〇米内外の山地あり、略中央を都田川東西に貫通し沖積地開く。南部臺地には三方ヶ原に續く茶園多く、平地には水田拓かる。農業を主とし米の産多く、次いで茶・繭多し。近時は染織工業勃興し、織物の産も相當あり、其他、牧畜・林業も行はる。社線濱松鐵道東西に貫通し、金指驛まで約一・五粁バスの便あり。字荊部に刑部城址あり。元亀三年十二月武田信玄三方原に大勝を得て兵を此の城に收め、翌天正元年正月まで滯留し、遠んで三州野田城を攻め病に罹りて遂に起たざりき。大字三和地内に一ノ坪及び十ノ坪と呼ぶ字あり、約六十間・百九米）づつ方形となれる田地あり。字祝田・刑部にもほぼこれと同系統の田を存す。中古條里の遺址なるべし。「寶林寺ノ黄檗宗。寛文九年領主近藤語石の開基にて、支那僧獨湛禪師を開山となす。近世寺領百石を有せり。

【中川村】 三重縣伊勢國度會郡の中部北偏。宇治山田市の西界を去る西南方約一二粁、北は多氣郡西外城田村・川添村に界す。南境に御子ヶ鼻（七三三米）聳えて北方に金剛針と山地多し。宮川北部郡界を東流し、次いで東南に曲流して東隣内城田村に出で、その沿岸と山麓間の谷に小低地あり。農業を主とし米麥を産し養蠶も行はる。山地よりは木炭・木材（松・檜・松）を産す。北部に村道通じ、また省線紀勢本線栃原驛（川添村内）に近きも交通疎して不便なり。往時より皇大神宮に由緒ある村にして、大字に注連指なる名稱遺り、また現在は神宮茅生地ありて神宮の屋根葺料となる。（正法寺）大字注連指にあり。曹洞宗。天龍山。寺内に觀音堂ありて、同所に安置さる十一面觀音立像一軀は光背に天永□年十一月日願主藤原有助の銘あり。國寶たり。

【中川村】 三重縣伊勢國一志郡の東部。松阪市の西北方約八粁、東は櫻田村、西は川合村に接す。面積六方粁の小村なるも伊勢平野の南部に位し、中村川中央を北流し、南隣豐地村より來りて東北境を東流する雲出川に合し、西南部に僅き臺地ある外は土地平坦にて田畑よく拓け、米・麥を産し、蠶業に愛蠶行はれて繭を出す。また絹布機業も行はる。中央を縣道走りて東方矢白村に至りて參宮道と連り、また社線參宮急行電鐵西北より東南に貫き參急中川驛（昭和五年開業）あり。支線津線こゝより分岐し交通便なり。この地は和名抄、壹志郡小川郷に當り、大字小川は郷名の遺稱とす。

【中川村】 京都府山城國葛野郡の南部。葛野郡二村の一にして北は小野郷村、南は京都市右京區の北部に接す。面積五・四三方粁の小村。全村山地をなし西南部及び東境に高く四—五百米の高度あり。北方より流下する清滝川は東部の谷を南へ貫流す。谷に沿ひ周山街道（北桑田郡周山村に至る）通じて聚落ここに發達し、低地乏しきも米・麥を産し山地は薪炭を出す。永久元年の文書に中河莊と見え、仁和寺領たり。

【中川村】 兵庫縣但馬國朝來郡の中部。圓山川に跨り、北は竹田町に接し、東南は生野町の北東部に隣り、西南は生野町の西部と山口村を挾む。面積四六方粁に餘るも、全村殆ね山地にして東境に青倉山（八一一米）、東北境に朝來山（七五七米）聳え、西北境にも高度七百米内外の山地あり。ただ圓山川中部西偏を北流し沿岸に稍々沖積低地ありて田畑拓く。繭の産額最も多く其他米・麥類・蔬菜・果實・蒟蒻芋・鶏卵・製藥・藁製品・畜産物等の産あり。圓山川河谷に沿ひて縣道南北に走り北方竹田町・和田山町及び南方生野町方面へバスの便あり。省線播但線の新井驛（山口村）・竹田驛（竹田町）にも遠からず。和名抄に朝來郡桑市郷と云ふは本村にして、大字桑市は郷名の遺稱とす。東大寺天平勝寶二年の文書に朝來郡桑市郷戸主赤染部大野と見え、但馬記に東鑑建久五年の條に、但馬國多々良岐莊は源宰相領たり、両して鳥居鐘尼の湯休料に充つとあり。弘安大田文に「朝來郡多々良岐莊、安富門院領、立脇御祇田、皇嘉門院領、菅井地頭多々良岐長基」とあり、これ上古の桑市郷にして多々良岐は中川村の大字多々良木がその遺稱なるべし。

【中川村】 岡山縣備中國小田郡の中部。矢掛町の西南方約三粁。西は小田町・北川村に、北は川面村に、東は山田村に界し、南は吉田村及び後口郡鴨方町に隣接す。面積約一〇・五方粁。村の中央を略東西に小田川の臨層通りて四地をなし、その流域に低平なる沃野を拓く。これを挾みて南北は高距約二—三百米の山地をなし小田川沿岸に向ひて傾斜す。平野は農業盛に行はれ、米・麥・繭の産物の外、生柿・蒟荷等の産もあり、山地よりは木炭・木材を出す。小田川の北側山麓下を山陽街道及び社線井笠鐵道通り、後者の山田驛は約二粁の所にあり。

【中川村】 愛媛縣伊豫國東宇和郡の西北部。八幡濱市の東南約三粁。東西兩部には高度五百米内外の山嶺南北に縱走し、その兩山麓下の低地を宇和川の上支南流して流域に耕地發達す。農業盛にて米・麥・繭等の産多く瓦・菜種を特産す。中央低地を南北に縣道通り南方宇和町に至り、バスの便あり。此地は和名抄、宇和郡石野郷の内なり。近世まで宇都宮氏、木下城にありて統轄せる處とす。

【中川村】 愛媛縣伊豫國周桑郡の西部。小松町の西約四粁、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鎚山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ森（一二三三米）聳立す。東南部は石鎚山麓にして東





端は臨層崖をなす。中山川は東南部を東北流し沿岸には肥沃なる沖積地あり。農家は地戸數の八三%餘を占め商家の八%これに次ぐ。從つて農林業に從事する者多く、米・麥の外に繭・果物・櫨・製茶等の産あり。谷山市に至る縣道は東南部崖下を東西に通じ、北方の壬生川町に至る縣道を分ちて各バスを通ず。なほ北吉井村には關屋間峠（六二八米）越えの通路あり。古くは和名抄、周敷郡田野郷に屬す。村の南西に文寿城址あり、源平時代平氏に屬せりといふ。

【中川村】 大分縣豐後國日田郡の東部。筑後川の上支玖珠川の左岸に沿ひ東南より西北に細長く、西北部は日田町に近く東は玖珠郡北山田村・玖珠町に界す。面積ほぼ二九方粁に近きも山地多く、山間と川岸の所々に幅狭き小低地ありて農耕行はれ、山地よりは良材・薪炭・椎茸等の林産を出す。日田町より阿蘇の内ノ牧町方面に至る縣道は西部を貫きて自動車の便あり。また省線久大線ほぼ玖珠川に沿ひて通過し、豐後中川・天ヶ瀬の二驛（前者は昭和九年、後者は同八年設置）を設け、交通は近時大に便利となれり。古くは鞍嶋郷の内とす。村内に女子畑水力發電所あり。九州水力電気會社の經營に係り、筑後川水系の玖珠川、大山川の水利を利用し、出力二萬六千七百キロワットなり。また天ヶ瀬温泉あり。泉質は硫黄泉。附近に三州峡ありて、風景頗る佳なり。

**ナカガワ　中河村**　福井縣越前國今立郡の北部。鯖江町の東に隣る。北境に稿立山（二五九米）、東南部に丘陵蟠るも他の殆どは土地低平、中部を水無瀬川が北流し田畑よく開け、米・茄子・胡瓜等の産多く、織物も盛なり。なほ縣立苗圃所は廣く知らる。街道は南部を東西に走り、省線北陸本線は西部を通じ鯖江驛（鯖江町）にバスを通ず。大字上河端の豐願寺は眞宗三門徒唯一の由緒正しき寺にして、大正稿立には昔眞宗本願寺派の眞宗寺のありし所にて、一向一揆にて知らる。

**ナカガワ　仲河**　周防國（山口縣）の古地名。和名抄に吉敷郡仲河郷あり、その地いま詳かならず、或は吉敷郡平川村の邊か。

**ナカガワ　那珂川**　常磐線の貨物驛（明治二十三年設置）。茨城縣水戸市下市細谷にあり。

**ナカガワショードー　中川昌道鑛山**　朝鮮江原道にある鐵山。鑛種は金・銀・銅・亞鉛・鐵・硫化鐵・重晶石。鐵鉱は金化郡岐橋面の南部にあり。中川鑛の經營にして、昭和十年の産額は重晶石のみにて八、四七五瓩（九萬三千圓）、六月末現在使役人員二四六。

**ナカカワリエ　中川副村**　佐賀縣肥前國佐賀郡の東南部。筑後川の分流早津江川の西岸に沿ひ、佐賀市の東南方にて西は南川副・西川副二村、北は北川副村に接し、東南は川を隔てて福岡縣三潴郡大野島に對す。南北に細長く面積六・三一方粁。筑後川下流流域沖積地の一部を占め、地形極めて平坦にして南方は有明海北岸に近く、田地よく拓け、米を主とし繭・麥・菜種その他農産あり。省線佐賀線の南佐賀驛（北川副村）に近くまた佐賀市へバスを通じ交通便なり。古くは和名抄、佐嘉郡城埼郷の内か。大字早津江は、肥陽軍記には蛋津に作り海軍所址あり。海軍所は舊藩主鍋島直正が海軍兵學を學ばしめる爲に創設したる學校にて、もと縣立商船學校もこゝに置かれたり。（志賀神社）大字早津江に鎮座。郷社、祭神、底筒男命外二神。例祭、四月二十五日。

**ナカカワチ　中河内郡**　大阪府七郡の一。河内國の中部を占め、西北は布施市及び大阪市住吉區に接し、南は南河内郡、北は北河内郡に續き、東は奈良縣生駒郡に界す。面積一二五方粁餘。東境には生駒の地塊山脈南北に連りて西方へ急斜するも、其他は舊大和川と淀川による沖積地にて謂はゆる大阪平野の中部に當り、土地低平にして東北部は恩智川・玉串川北流し、西南部は新大和川西流し耕地よく拓く。地味肥えて米・麥・菜種・蔬菜・梨・甜菊等の農産多く、工産には古來河内木綿の名高く、近時大阪市の工業勃興につれ各種の工業起りて農村よりも寧ろ工業地帶化しつゝあり。八尾町・龍華町の外二十九餘村を含み、人口約一五・三萬人、平均人口密度は一二二人の多きを示す。東高野街道と河内街道は東北部を南北に通じ、大阪よりの奈良街道は中部を、堺よりの長尾街道は南部を東西に走り、省線關西本線・社線大阪電氣軌道奈良線・同櫻井線・社線大阪鐵道等ありて普大阪市より起りて郡内を横ぎり交通至便なり。明治二十九年河内國の淀川・若江・河内・高安・大縣・丹北の六郡と志紀郡の一部とを合せて本郡をなし、現在に至る。

**ナカカワテ　中川手村**　長野縣信濃國東筑摩郡の西部。犀川の東岸。松本市の北方約八粁にして南安曇郡穂高町の東に接す。西は犀川と高瀬川の合流點を境に北安曇・南安曇兩郡に隣す。東部に山地を負ひ、東より會田川來り村内を貫流し北境にて犀川に合す。平地は西部河岸にありて松本平の一部をなし水田拓く。農業を主とし、米・麥・繭の産あり、犀川には漁業も行はる。山麓に沿ひ村内を南北に省線篠ノ井線縱走し、明科驛（明治三十五年設置）あり。縣道また之に並行し、會田川に沿ひ上田に至る縣道を分岐す。

**ナカカワネ　中川根村**　静岡縣遠江國榛原郡の中部。大井川に沿ふ。東は大井川を境に志太郡に對し、西は赤石山の一支脈を境に周智郡に接す。南北

に稍長く、全村山麓ちにして珠に西北部には千五六百米の山岳重疊す。東境なる大井川南流し、沿岸に僅かの平地あるも峡谷みなす部分も多し。林業を主生業とし農蠶業これに次ぐ。林産額最も多く次いで茶・米・繭等の農産額、その他工産・畜産も多少あり。交通は舟運によるのみなりしも、最近、對岸に此線大井川鐵道の開通するに及び一躍發展す。駿河德山・田野口・下泉・變郷の各肆に近し。山地より伐出されし木材は概れ大井川に依り下流の志太郡島田町に送る。

**ナカカワベ　中川邊**　岐阜縣加茂郡川邊町の大字。高山本線の中川邊肆（大正十一年設置）を置く。

**ナカガワラ　中川原村**　兵庫縣淡路國津名郡の東部。洲本町の北に接し大阪灣に臨み西南部は三原郡に界す。東西兩部は山地をなし、西南端に先山あり。東岸は丘陵海に迫りて平地乏しく北部を厚浦と云ふ。中央は低地開けて北部に小河東北流す。米と糧の產多く蔬菜・花卉・食用農產・果實・小麥・大麥等の產出もあり。外に鷄卵・葛製品・水產養殖・畜物・庭園樹等を出す。四國街道中央を南北に走り、東岸には洲本町・由良町方面へ至る縣道通じバスの便あり。

**ナカカンバヤシ　中上林村**　京都府丹波國何鹿郡の東部。由良川の支流上林川中流の地にて、東は奥上林村、西は口上林村に續き、西北は舞鶴市の東南部に隣り、南は鮎井郡上和知村なり。面積五一・七方粁あるも西北端と南端には山嶽連り、北端に愛老山ありてその山脚東境に延びて君尾山となる。奥上林村に發する上林川中部を西南に貫流し、その流域に狹長の低地ありて田畑拓く。米・麥・園藝農產・食用農產・繭等を出して山地よりは木炭・木材の產あり。また工產額も少からず。河谷に沿ひて縣道通じバスの便あり。村は要塞地帶に屬す。〔八幡宮〕大字八津合に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・大山祇神・伊邪那岐神・伊邪那美神。江戸時代、領主藤懸氏歴代崇事す。古來附近八ヶ村の物氏神たり。

**ナカカンバラ　中蒲原郡**　新潟縣十六郡の一。越後國の中部。阿賀川と信濃川に東西を挾まれたる地域にして、東北は越後山脈を境に東蒲原郡、西南は南蒲原郡、西は中ノ口川・信濃川を以て西蒲原郡に界し、北の一部は新潟市に、一部は日本海に面す。面積七四二—八一一方粁。南北に長く、東南部に越後山脈の一支脈迫互し矢筈山（一二五八米）を初め一千米前後の山岳重疊し、其餘脈は猿毛山の丘陵となりて郡の中部に延び新津町の南に終る。信濃川・阿賀川はこの丘陵によりて東西に流域を分たれ、能代川を始め數多の支流を合して北流し、北部にて小阿賀川・通船川の二巡河によりて連結す。兩川の流域は廣大肥沃なる越後平野にて、本郡はその主要部を占む。西北部は中ノ口川と信濃川本流とによる三日月形中洲及び鳥屋野潟を含み、土地一帶に低濕にて越後平野特有の湛水地多し。平野には農業盛にして越後米の產額多く、西部丘地の土質は和鄕に似て花卉栽培に適し、近時チューリップ・ヒヤシンス等の球根植物は、東京・大阪は元より遠くアメリカまで輸出さる。また亀田町附近の新潟梨、村松附近の茶に有名なり。阿賀川の流域一帶は本縣に於ける主要なる煙草地帶にて五泉町はその中心をなし、絹織物業また盛なり。五泉町・村松町は原料を遠く山形・福島等より求め五泉平・村松縞の產を以て著はれ、其他、亀田町・小須戸町の布團縞及び木綿織物、白根町の白根鮫など、本郡の主要都邑はいづれも染織工業を以て繁榮す。また新津町附近の石油、農家の冬の副業たる蓙工品等また本郡の主要なる物產なり。省線信越本線は郡の西部を南北に貫通し、新津町に於て東より來る羽越本線及び東南より來る磐越西線と合し、新津町は本縣交通の中心地をなす。縣道また之等諸線に並行し更に郡內諸町村へ分岐し自動車の往來頻繁なり。其他、五泉町より村松町を經て加茂町に至る社線蒲原鐵道及び阿賀川・信濃川兩川には舟運の便等ありて交通便なり。郡內は新津・五泉・亀田・小須戸・白根・村松の六町外二十八ヶ村を含む。本郡は明治十三年五月、蒲原郡から新潟區及び東・西・南・北・中の五郡に分けし時に置かれしもの。



**ナガキ　長木村**　秋田縣羽後國北秋田郡の東北部。大館町の東北に隣り、東は鹿角郡、北は青森縣に接す。面積一三四・二九方粁。北部には東北境に炭塚森、東に東股山（五八五米）、西境に黑森（五五五米）聳立し長木川の水源をなし、東股山の南には高地山（四八四米）、南境には高森（五九三米）あり。全村概れ山地にして、長木川は北境に發源して村の略中央部を南流し、村の東南部に於て流路を變じて西流す。村の南部長木川沿岸には耕地拓く。山地は長木澤國有林にして杉の美林あり。米・木材を產す。長木川に沿ひて社線小坂鐵道東西に通ず。西より信野（明治四十二年設置）・小雪澤（大正四年設置）・新澤（昭和二年設置）・茂内（明治四十二年設置）の四肆あり。人口密度は一方粁につき二六人なり。

**ナカキサイチ　中私都村**　鳥取縣因幡國八頭郡の北部。東は上私都村に、南は安部・大御門二村に、西は下私都村に界し、北は岩美郡に隣す。面積一二・八六方粁。各村境には高距約五百米の山岳嶙居して、何れも中央に傾斜し狹長なる谷を開き、東南より西北に流るる千代川の上支あり流域に耕地拓け、米・繭等の農作物を出す。山地は牧牛を營み、また木材を產す。省線因備線郡家肆へは約八粁バスの便あり。此地古くは和名抄に私都郡私都郷に屬す。大字市場の秋葉山に私市城址あり。因幡志に「餘倉右慕の時大江廣元に當國守護職を賜り、その子孫は毛利を家號とし私都に留任し、累代の領主たり。天正の始め毛利豐後守豐元山名家に隨從し藩州毛利に一味す。然るに雲州浪人山中鹿之助に攻め破られ、淨蓮入道豐元鳥取へつぼみけりる。即ち當城には尼子浪人入り替て之を守る。同三年藩州より吉川元春大軍にて押寄せ尼子勢退散私市城も落城し、淨蓮入道も遁住ありしが、同九年羽柴のため再び沒落し、毛利の一益斷絶せり」と見ゆ。〔美幣奴神社〕大字篠波に鎮座。郷社。主祭神、太玉命。合祀神、瀧織津姫命・保食神。式内社。中世に現社地東二町の灰塚なる地より移遷す。附近に安全田と稱する耕地あり、肥料に屎尿を用ひず、もし誤りて用ふる時は必ず祟りありと云ふ。また同村字梅ヶ津に供田と稱する二町餘の耕地ありて舊時の祭典耕地なりと云ふ、蓋し往昔社領の遺跡なるか。なほ太玉命は忌部氏の祖神にて且つ幣帛を作り給へる神の故に一に社名を美幣奴、また忌部とも云ひ、忌部大明神と稱せし事もあり。合祀の瀧織津姫神はもと字遠山に鎮座せしもの、保食神はもと境內社なる稻荷社に鎮座ありしもの。例祭、四月九日。

**ナカキシ　中貴志村**　和歌山縣紀伊國那賀郡の西部。紀ノ川支流貴志川の西岸に沿ひ和歌山市の東方約一〇粁。西は西貴志村、東南は東貴志村、北は丸栖村なり。面積四・七四方粁なるも、北部には御茶屋御殿山（二七九米）の山地ある外は低平にて田畑よく拓け米・麥・繭を出しまた蜜柑の產あり。縣道南北に走りまた西方和歌山市へも通じてバスの便あり。省線和歌山線船戸肆（北隣小倉村內）へも近し。東貴志村・西貴志村と共に中世の貴志莊の內なり。

**ナカキトー　中木頭村**　徳島縣阿波國海部郡の北部。西は上木頭村に南は川上村に界し、北及び東は那賀郡に隣す。面積五七・四五方粁。村の北部を横に那賀川上流貫流して峡谷をひらき、村內は高峯聳立して高峻なる山岳地をなし平地殆んどなし。農業僅に行はれ米・麥・繭の產あり、山地は森林よく繁茂し美林をなす。南方鯖瀬町へ約四〇粁餘、縣道を通じ道程の半までバスの便あり。山間の僻村なれば交通不便なり。本村は木頭村・上木頭村と共に木頭谷と總稱さるる處なり。

**ナカキョー　中京區**　京都市の行政區の一。京都は久しく三條通を以て上京・下京の二區に分けしが、漸次市域の四方に擴張せらるるに及び增區の必要を生じ、昭和四年遂に中京・東山・左京の三區を增設す。即ち中京區は東は賀茂川を限り、北は凡そ丸太町通を以て上京區に、南は凡そ四條通を以て下京區に境す。西はもと葛野郡に接せしが、昭和六年の市域大擴張の結果、新設の右京區となる。面積は僅に七・五〇方粁なるも、人口は十八萬餘にして一方粁の密度實に二四、一九四人なり。本區は實に京都市の中心にて、三條通・四條通・新京極及び河原町通の商店街を含み、二條離宮をはじめ京都市役所・京都郵便局・京都ホテル等は本區の中にあり。

**ナカキリ　中切村**　廣島縣安藝國賀茂郡の南部。東は內海町に、西は川尻町に、南は安登村に、北は野路村に界す。面積三・九方粁。全村殆ど二—三百米の山地より成り森林地をなし、北東隅に僅に平地ありて、農業・養蠶業・牧畜業を營む。東南部を縣道縱走し安登村を經て呉市に至り、三津町・內海町と連絡す、何れもバスの便あり。

**ナカクキ　中久喜**　→大谷村（栃木縣下都賀郡）

**ナガクサ　長草**　愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外六箇村と共に廢され大府村を置く。

**ナカグスク　中城**　【中城村】沖繩縣中頭郡の東南部。那覇市の東北一〇餘粁に位し、東は中城灣に臨む。南北約八粁、東西約三粁、面積二七・九方粁。西部は南北に連る低き第三紀層の臺地をなし、海岸には肥沃なる沖積層ありて田畑開く。海岸は概れ單調にして、たゞ北端に奥武岬ありその南に小灣を擁するも、海岸一帶に瓦りて椶櫚發達するを以て良泊を缺く。農業盛に行はれ、甘藷・甘蔗・米等を多產し、蔬菜も家內工業として行はる。東岸に沿ひ與那原・泡瀬間の縣道走りバスを通じ、北端に近き渡口よりは吾天間を經て那覇・名護間の縣道に連絡し、交通便利なり。字の泊に中城々址あり、尙家の忠臣なる護佐丸盛有の居城にて石疊を存し、眺望佳なり、附近に護佐丸の墓あり。城の北なる荻堂部落には貝塚發見せらる。字安里は今は沃野の中央にあるも、蓍は港灣なりしと傳ふ。魚野權現を祀る安里寺の小祠あり。

【中城灣】沖繩島の西南部東側にある一灣。東北に勝連半島及び瀋比嘉島・平安座島・高離島等を始め、小島及び岩礁多く、南には知念半島・久高島および淺礁突出し、東の出入口なる二ツ口の最狹幅員に僅か五粁ほどに過ぎざるも、灣內は深度一〇—二〇尋に達する部分多く、よく大艦すら碇泊し得る。灣の西南灣入は與那原灣と呼ばれ、北部は勝連灣と呼ばれ、前者に與那原・場天港、後者に泡瀬の小港町あり。

**ナカグチ　中口**　石川縣河北郡にありし村。明治四十年外三村と合して小坂村となり、小坂村は昭和十一年に金澤市に編入す。

**ナガクテ　長湫**　愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に外二村と共に廢され長久手村を置く。

**ナガクテ　長久手**
【長久手村】愛知縣尼妻國愛知郡の東北部。瀬戸市の南約三粁の丘陵地にあり、東は三河國西加茂郡に、西北は東春日井郡に界す。村内概れ一〇〇米前後の緩丘陵連亙し、東南部より矢田川の一支西北に流出し、流域に平地開け、小盆地を作る。丘陵には桑園多く、平地には水田拓く。農業・養蚕を主生業とし、米・麥・鶏卵・蕨・繭糸等の産あり。瀬戸・名古屋間の縣道西北部を貫通し、バスの便あり。此地は和名抄、山田郡石作郷の内なるべく、明治三十九年長湫村・岩作村・上郷村を廢して本村を設く。此地は豐臣秀吉と徳川家康との間はゆる長久手の戰のありし所なり。指定史蹟たり。※小牧山(小牧山長久手戰)。なほ別掲長久手鑛山の外に愛知鑛山(長久手村・日進村・豬高村に跨る亞炭山)・醍野鑛山長久手村と東春日井郡守山町に跨る亞炭山)・横道鑛山(長久手村にある亞炭山)其他の亞炭山あり。〔石作神社〕大字岩作に鎮座。郷社。祭神、建甕利根命。承和元年の創祀と傳へ、式内山田郡石作神社に充てらる。もと神明と稱せり。例祭、九月十日

【長久手鑛山】愛知縣愛知郡の長久手・日進・幡山の三箇村に跨る亞炭山。鑛區五あり、其一は長久手・日進に跨りて約十七萬坪、其二・三・四は長久手にあり。二は約十二萬坪、三は四十二萬餘坪、四は三十三萬餘坪、其五は長久手・幡山に跨りて約三十七萬坪とす。鑛區の地質は第四紀層にて主に粘土より成り、炭質は亞炭としては上質に位す。既に江戸末期の發見に係りて、當時は川底にあり、採取して燃料に供せらる、因つて之を川木と稱するといふ。昭和十年の産額は九、三七四瓩にしてその價額六萬餘圓、我國の重要鑛山に屬し、同年六月末現在にて使用鑛夫一七三人とす。

**ナカクビキ　中頸城郡**　新潟縣十六郡の一。越後國の西南部にて、東北は刈羽・東頸城二郡に、東南は長野縣下水内郡に、西南は同縣上水内郡に、西は西頸城郡に界し、北は日本海に面し、略中央部に高田市を囲む。面積一一三〇方粁餘ありて縣の約九%を占む。西南部には妙高火山群、東南境には斑尾山・毛無山・黒倉山等の火山ありて新火山岩の被覆する山地をなし、西部と東部とは主として第三紀層の山地にて、西部には重倉山・南葉山等(高度千米内外)あるも東部には著しき山峯なく、たゞ北端部に第三紀安山岩より成る米山(九九三米)聳ゆ。妙高火山群の南谷に出で關川は中部を北流し妙高山北面より來る片貝川・矢代川等を合せ荒川となり、東頸城郡より來る飯田川・保倉川と河口に於て相合して日本海に入り、流域に頸城平野を造る。海岸は西部・東北部に於ては山麓直に海に迫り海湖をなす處あるも、中間の大部分は平直の砂濱をなし荒川口の直江津良外に良泊地なし。農産は米を第一とし謂ゆる頸城米として著はれ、麥・豆・粟・甘藷・果實等の外繭を産し、工産に生絲あり。また東頸城郡に亙り頸城油田あるも今は産額多からず。北國街道と省線信越本線は荒川筋を南北に通じ、直江津に於て日本海岸を西より來る北陸街道と省線北陸本線に會す。北陸街道と信越本線はこゝより平行してなほ海岸を悔ひて刈羽郡に出づ。この外中央部にある高田市、その南方の新井町、北の直江津、東北方の柿崎等を中心として東方及び東北方に縣道通じ、多くはバスの便ありて交通不便なちず。海上は直江津より佐渡・新潟・北海道・伏木方面への航行あるも冬季の季節風期には多くは杜絶するの不便あり。郡内にはいま直江津・新井・柿崎三町の外四十六ヶ村を含み、人口は約一八・二萬、密度は一六一人なり。本郡は明治十三年上越後と稱する頸城郡の地を、東・中・西の三頸城郡として置けるもの。同十四年高田市獨立し以て今日に至る。

**ナガクボシン　長久保新町**　長野縣信濃國小縣郡の東部。舊中山道の一驛にして長窪古町の南に接し、東は大澤山の谿谷細く南にのびて北佐久郡に昇す。西部を千曲川の支流依田川北流し、沿岸に多少の平坦ある外は、概れ緩やかなる傾斜地をなす。平地には水田・桑園拓け繭・米を主産とす。中山道は東北・西南に町を横断し丸子町・大門峠に出る道路を分岐し、丸子町・下諏訪間の省營バスも通ず。もと長久保村と稱せしが、いま本町と長窪古町に分る。〔松尾神社〕大字町裏に鎮座。郷社。祭神、大山咋命、山城國葛野郡松尾神社よりの勸請す。酒造守護の神なるを以て遠近酒造業者の尊崇厚し。例祭、九月二十日。

**ナガクボフル　長窪古町**　長野縣信濃國小縣郡の東部。長久保新町の北、丸子町の南に接し、東は北佐久郡に昇す。町の略中央を千曲川の支流依田川北流し沿岸に狹き平野開拓す。東部・西部は何れも山林をなし、平坦地には水田拓け、米・麥・繭の産あり、製絲も行はる。中央の平地を南北に走る縣道は丸子町・下諏訪町間の省營バス和田峠線の一部にして、丸子町までは上田市より社線丸子鐵道の便あり。もと長久保村と稱せしが、いま本町と長久保町に分る。村内に山の鼻砦址あり。

**ナガクマ　長隈**　下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に印旛郡長隈郷あり、その地、今の印旛郡和田村の邊に當る。

**ナガクラ　長倉・永倉・永藏**
【長倉村】茨城縣常陸國那珂郡の西南部。那珂川の北岸にあり、大宮町の西約八・五粁、南は川を隔て東茨城郡伊勢畑村に對し、西は栃木縣芳賀郡中川村に隣す。村内概れ二百米餘の山地をなし、西北境に八溝山脈に屬する三玉山(二五三米)あり。南部の那珂川及び中部を南流する支流の流域に僅に狹き平地ありて米・麥を産す。また蠶繭の栽培行はる。川沿ひに縣道あり。西は栃木縣に入りて茂木町方面に通ず。古くは和名抄、那珂郡川邊郷の内なるべし。佐竹氏の一族に長倉氏あり。蓋しこの地の人なり。

【長倉】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に武射郡長倉郷あり、その地今の山武郡大總村の邊に當る。

【長倉】信濃國(長野縣)の古地名。延喜兵部省式に信濃國長倉驛々馬十五疋とあり、また同左馬寮式に見ゆる信濃國の牧の中に長倉牧あり、東鑑文治二年の條にも長倉牧を記す。いま北佐久郡軽井澤町に者掛驛あり、もと北國街道の一驛にして碓氷峠の西麓に當る。これ古の長倉驛なり。また此の附近は淺間山裾野の廣闊なる平野にして古來牧馬に適す。これ長倉牧ある所以なり。

【長倉・永藏・永倉】駿河國(靜岡縣)の古地名。和名抄に駿河國駿東郡永倉郷あり、奈加久良と訓ず。其地今の駿東郡長泉村・上長窪・下長窪の邊なるべし。延喜兵部省式の長倉驛馬十疋とあるは此地ならんか。長倉驛は續日本後紀承和七年紀には永藏驛に作り、三代實錄貞觀六年には永倉驛と見ゆ。

**ナカクロセ　中黒瀬村**　廣島縣安藝國賀茂郡の中部。北は郷田村に西は下黒瀬郷・原二村に、南は野路村に東は乃美尾村に界す。面積二二・九二方粁。村の中央を黒瀬川東北方より西南方に流れ、その流域は地勢平坦にして耕地よく拓け農耕に適す。南北兩部は數百米の山地にして中央部に向つて緩斜す。所々に牧場ありて牛豚を飼育し、また林産物を多く出す。耕地は農業盛にして米・麥・繭及び果實類を多く産し、殊に黒瀬水瓜は定評あり。また呉市・廣村に近き爲め花卉・野菜の産多し。中央平地を縣道走りて南方廣村に至り、バスの便あり。呉海軍工廠職工通勤者の在住する者多し。この地は和名抄、賀茂郡調奚郷の内なるべし。村内に惠比須城址あり、武田氏の家臣、房田萬五郎の居城にして、萬五郎、農に歸し地方の産業開發に力め、萬五郎の愛子宗友に至りて毛利氏に降り、その城下に移る。

**ナカゴー　中郷**
【中郷村】青森縣陸奥國南津輕郡の中部。黒石町の北に接す。津輕平野の東南部に位し、全村概れ平坦にして淺瀬石川の二支流村内を南流し、耕地よく拓く。米・林檎の産あり。道路には村の略中部を南北に通ずるもの、及び南部を東西に通ずるものありて、北方の奥羽本線浪岡驛、西方の川部驛へは各々バスの便あり。省線黒石線黒石驛(大正元年新設置)は本村内にあり。

【中郷鑛山】(1)茨城縣多賀郡南中郷村・松岡町・磯原町の三箇町村に跨れる石炭山。鑛區二四二萬餘坪にて、昭和十年には塊炭一二、〇九四瓩、粉炭二二、二〇六瓩、粗炭九、二二一瓩、この總價額約二十萬圓を出し、我國の準重要鑛山に屬す。現在、入山採炭株式會社の經營に屬し、昭和十年六月末の使用鑛夫一九四人とす。(2)南中郷村内、鑛區七萬五千餘坪の石炭山。もと中郷鑛山と稱すれど現在事業活潑なら ず、されば いま一般に中郷鑛山と云へば前者を指す。

【中郷村】千葉縣上總國君津郡の北部。小櫻川の北岸にあり。木更津町の東北にて、間に清川村の一部を挾む。小櫻川流域平野の一部を占め、水田多く、米を主産し、西部には畑地ありて麥・繭を産し養蚕も行はる。縣道は木更津町に通じ、また南隣清川村には省線久留里線上總清川驛ありて村道を通ず。この地はもと望東村と稱し、天慶年中、上總守興世の殺されし地なりと云ふ。

【中郷村】新潟縣越後國中頸城郡の西部。新井町の南に接し、妙高山東北麓を占め、西南より東北に長く、面積二二・九方粁餘。大部分は東北に向つて緩傾斜をなし概れ荒地なるも略東部を北流する荒川の支流片貝川の兩岸と、北部一帶には低地ありて田地よく拓け、米を主産し養蠶また行はる。また日本曹達會社の二本木工場あり。省線信越本線と北國街道は片貝川に沿うて北に下り、省線には二本木驛(明治四十四年設置)あり。冬季積雪深き地方なり。(明治天皇二本木御小休所)大字二本木。明治十一年に北陸東海巡幸の際、九月十一日御小休所となりたる處にて、主要部は舊規模よく保存せられ、史蹟に指定せらる。

【中郷村】福井縣越前國敦賀郡の中部。敦賀市の南に隣り、東北は東郷村に隣接す。東部及び南部には概れ花崗岩より成る四乃至六百米の山地連り、東端部にても二百米内外の高度あり、北部の第四紀新生層より成る平地に居住なして臨む。北部低地には水田よく開け、蕪・麻・石灰等も産す。敦賀市より國道北陸道に至る縣道は中部をほゞ南北に通じ、これに沿うて省線北陸本線走り、省線小濱線また西北部を掠む。大字道口は深平盛衰記に見ゆる三ノ口にして京都より北國に下る道口にて、西若狭路・東木芽路・北敦賀路と三方に分る故にかく唱へしものなるべし。また三日講が文治年間に此處に設かれしといふ。

【中郷】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外一町四ヶ村と共に廢され矢作町を設く。

【中郷村】宮崎縣日向國北諸縣郡の南端。都城市の南に隣り、南は鹿兒島縣曽於郡東吉町に昇し、面積七四・五方粁餘。中央部より東南部一帶は高度六百米内外の山地起伏し、その間に尾平野・石原の谷あり。西北部は都城盆地の東南部にて、其西隅に僅に高さ百米餘の丘陵ある外は概れ平坦の低き臺地を成し、田畑よく拓

く。村民の九割八分は農業を營み米・麥等の產額多く、林產これに次ぎ工產・畜產もあり。大字梅北に後一條天皇の御代より鎌倉幕府の開かるゝまで約百七十年間島津庄の庄衙置かれたり。村名は島津庄を北郷・中郷・南郷に分ちし際、その中郷の地に當れるを以て今に尙ほその名を留むるものならん。〔今町一里塚〕指定史蹟。本村及び都城市に亙る。縣道の兩側約二粁七を隔てゝ相對し、高さ二米七、基底徑七米三割あり。殆んど完形を保つ。

**ナカゴーリ　中郡**　靜岡縣濱名郡にありし村。明治四十年有玉村と小野田村の大字中田と共に積志村を建つ。

**ナカゴーリウ　中郡宇**　鹿兒島縣鹿兒島郡にありし村。昭和九年に鹿兒島市に入る。

**ナカコシ　中越**　石北線の一驛。（昭和四年設置）北海道石狩國上川郡上川村にあり。

**ナカコマ　中巨摩郡**　山梨縣九郡の一。甲斐國の中部。北及び西に翼狀に突出部を有し東北鎖は長野縣南佐久郡に、西は同上伊那郡に接し、北は北巨摩、南は南巨摩・西八代、東は西山梨・東八代の各郡及び甲府市に界す。面積四四一・二一方粁。東北部には金峰山（二五九五米）一帶の山岳起伏し、西部には宗石山脈の諸峯いづれも二〇〇〇米以上の高嶽を連れ一帶の山林をなす。この南山地を負ひ中央に平地開け甲府盆地の主要部を占む。郡の東境を荒川、略中央を釜無川いづれも南流し、東南境を西流する笛吹川と合して富士川となり南下す。中央平地は之等諸川の本支流に開析されたる混扇沖積地にして豐饒なる耕地拓く。主に東南部には水田多く、山麓の御勅使川扇狀地帶には桑園多し。蠶業に主力を注ぎ農業これに次ぐ地方にて、峡西の農產額は縣下第一なり。農產物は米・麥を主とし、五所柿の特產あり。其他、金峯山附近の水晶、白峰山地の勝栗の特產、及び林產物もあり。峡西諸部落には製糸・機業また盛なり。交通は東南隅を社線富士身延鐵道貫通し、國母・西條雷永・小井川・東花輪の四驛あり、また略中央を東西に横切りて省線中央本線走りて韮崎・鰍澤町に至る社線山梨電鐵の便あり。道路は郡の中央を南北に貫き信州より甲斐を經て駿河に通ずる縣道を初め幾多の縣道四通し、主要町村へはバスを通ず。本郡は明治二十九年、巨摩郡を南・北・中の三郡に分ちし時設置きしもの。昭和十二年、賀川、國母二村を甲府市に編入、いま小笠原町の外、三十七箇村を含む。

**ナカゴメ　中込町**　長野縣信濃國南佐久郡の北部。千曲川右岸に沿ひ、川を隔てゝ西南は野澤町に對し、北は北佐久郡に界す。佐久平の一部を占め土地廣れ平坦にして水田・桑園に富む。農蠶業盛にて、米・繭の產多く、生糸根・桑苗・馬鈴薯等の特產また多額に及ぶ。近時は工業盛にして山國製絲場・愛興社製絲場をはじめ、製絲業最も榮え、生絲の產多額に及べり。其他、養鯉業行はれ鯉仔の產また相當の額なり。野澤町と共に佐久平中心地にして縣道四通し、臼田町へはバスの便あり。省線小海線は町の東部を南に走り、滑津・大正五年設置）・中込（大正四年設置）の二驛を置く。この地は近世平賀庄に屬し、明治三十二年に中瀨村を中込村と改稱、のち町制を布く。

**ナカゴヤ　中小屋**　札沼線の一驛（昭和十年設置）。北海道石狩國石狩郡當別村にあり。

**ナガサ**　【長狹】　上總國（千葉縣）の古地名。和名抄に夷隼郡長狹郷見ゆ。いま夷隅郡の東村の邊ならん。同村の大字に長志あり、これ或は郷名の轉訛ならん。

【長狹（國）】　古國名。卽ち古事記神武天皇の段の最後に、御子神八井耳命の子孫の繁衍せる諸國を註せる中に長狹國造あり。國造本紀には國名をあげず。その地は後に郡となりて安房國に隸せる長狹郡の地なるべし。※長狹（郡）

【長狹（郡）】　安房國（千葉縣の古郡名。もと長狹國の郡となりしもの。續紀、養老二年五月上總國長狹外三郡を割きて安房國を置くとあり。和名抄は奈加佐と註し、壬生・日置・田原・酒井・伊都・賀茂・丈部・曲津の八郷を載す。明治三十年四月安房四郡を合して安房郡となし、郡名を失ふ。

**ナガサ　長讃村**　茨城縣常陸國眞壁郡の東部。眞壁町の西隣にて、東境を櫻川南流し、北部は畑地多く、南部は水田なす。米・小麥・大麥を產す。眞壁町に縣道を通じ、同町に社線筑波鐵道眞壁驛を置く。古くは和名抄、眞壁郡伊讃郷の內とす。大字拙尾は古く拙火にも作り、鎌倉圓覺寺文書元應二年に、正續院領、常陸國拙火郷宮山村とあるもこれとす。

**ナガサオ　長竿村**　茨城縣常陸國稻敷郡の南部。利根川の北岸にあり、面積五・七方粁餘の小村なり。全村低地にて水田多く、米を主產し、他に大麥・小麥の產あり。副業として養蠶行はる。縣道は西走して龍ヶ崎町方面に至るもの、及び北走して江戸崎町方面に至るものあり。また利根川は水運の便多し。

**ナガサカ　長坂**　【長坂村】　岩手縣陸中國東磐井郡の西部）大原町の西方約一〇粁。北境に富ヶ森山（三二三米）、南境に弓折山（八三四米）あり、西部もまた山地にて、砂鐵川は東方より來り村の中部を西流し、北方より猿澤川を合して村の西部を南流す。砂鐵川の西流するあたり捉鼻渓の勝地ありて指定名勝たり。米・麥・大豆を產す。道路は村の中央部を略東西に通じ、西南方の省線大船渡線陸中松川驛へは約三粁。西方省線の東北本線平泉驛へはバスの便あり。此地は和名抄、磐井郡丈部郷の內なるべし。村內に鍵引城址（唐梅館ともいふ）あり、往昔、千葉刑部少輔の居城なりと云ふ。今は陸田となる。

【長坂】　中央本線の一驛（大正七年設置）。山梨縣北巨摩郡日野春村の長坂上條にあり。

**ナガサキ　長崎**

【長崎村】　宮城縣陸前國栗原郡の南部。一迫町の西に隣り、南は玉造郡に接す。臺山丘陵の北斜面に屬し、南境に大森（二三六米）、東南に臺山（一一七米）あり、北方に傾斜し、長崎川は北部を東流し、沿岸に耕地拓く、米・繭・麥・木炭等を產し、南部に牧馬行はる。また慶長鑛山ありて金を產す。登米街道は北部を東西に通じ、東方の一迫町に至る。

【長崎町】　山形縣羽前國東村山郡の西部。山形市の西北約九粁。北は西村山郡寒河江町に接す。山形盆地に屬して全村概れ平坦なり。最上川は北部を東流す。須川は東境を北流し、東北境に於て最上川に合す。米・繭・果實を產しまた絹織物・絹綿交織物の產あり。道路は中央部を南北に通じ、東南方山形市、北方寒河江町へはバスの便あり。大字長崎に省線左澤線の羽前長崎驛（大正十年設置）を置く。此地は和名抄、最上郡山邊郷の內なり。明治三十年最上村を長崎町と改稱。長崎



曾は長崎式部少輔の居りし所。〔八阪神社〕大字長崎に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚尊。後土御門天皇文明元年に疫病流行の際、長崎村領主中山宗朝、祇園牛頭天王宮を館の鬼門として勸請せしに始る。例祭、七月十五日。

【長崎】　茨城縣筑波郡にありし村。昭和十三年に鹿島村と共に谷原村を建つ。

【長崎】　東京市豐島區の町名。昭和七年大東京實現以前は北豐島郡に屬せる町なりき。江戸時代享保十二年公收し、春秋二季に騎馬勢子の調馬の地に定められし所にて、古來桃農村たり。雜司ヶ谷より練馬に至る往還に當り、椎名町（いま長崎南町）の小商店街ありき。現在は住宅地となる。町內に武藏野鐵道通じ、椎名町（大正十三年設置）・東長崎（大正四年設置）の二驛あり。

【長崎】　新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年に南・旭村外三村を合併し上田村を置く。

【長崎】　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外一町二村と共に廢され知立町を置く。大字藤目は安城町へ、井杭山は依佐美村に入る。

【長崎縣】　九州島の北西部に位し、東は佐賀縣に隣り、西方は海に臨み、壹岐・對馬・五島・平戸島等の諸島嶼を含む。面積約四〇七六方粁にして小縣に屬するも、水平的肢節よく發達し、東西一五〇粁、南北二一四粁に跨り、面積に比して海岸線の長きこと他に比類なし。人口約一三〇萬。行政上、長崎市・佐世保市と西彼杵・東彼杵・北高來・南高來・北松浦・南松浦・壹岐の各郡及び對馬島に分たれ、縣廳を長崎市に置き、また五島・壹岐・對馬に各支廳を置く。〔地形〕縣の本土は佐賀縣の西に延びたる一大半島にて、これより北方に北松浦半島、南東は島原半島、南西には長崎半島（野母崎）及び彼杵半島が南北正反對の方向にそれぞれ突出し、其間に大村・千々石（橘）・長崎等の大小の陷沒灣を抱き、本土全體が半島岬角の一大集合體をなす。その東部は雲仙岳及び多良岳の火山區域にて、前者は普賢岳を最高とし周圍に裾野をひき、これに放射狀に淺き谷が刻まれ、この谷に沿ひ田畑分布す。この地帶は溫泉（雲仙・小浜）の湧出と相俟ち、風致秀に勝れたるを以て雲仙國立公園となる。多良岳も赤外方は壯年的開析を受け放射谷の間に裾野の原形を留め、その南邊は島原半島の北部と連りて縣下最重要農業地帶をなす。長崎・西彼杵兩半島は共に結晶片岩を基盤とし、その走向に從つて北と東乃至北東の山脈が蛇蟠し、概れ山地をなし、省線長崎線の通る地帶に沖積平野を現はす。而して兩半島の會する基部卽ち長崎市北部一帶は廣き火山岩地にて三—四百米のトロイデ丘多し。北部の北松浦半島は古第三紀層の上を廣く玄武岩（以上對馬）・郷ノ浦・勝本（壹岐）等とす。見張地帶あり、其他、南北と東西の地帶に分たる。河川は東彼杵郡の郡川・波佐見川、北松浦郡の志佐川・相浦川・佐々川等やや著るしく、此等の流域には沖積地よく發達するも大なる平野なし。なほ北松浦郡及び西彼杵郡の第三紀層よりは石炭を產す。本土との間に平戸瀨戸を距つる平戸島は北東方向の地塁にて、殆ど火山岩に被はれ中央に長き低地帶あり。五島列島は前者の西南海中に北東—西南に連ること約八〇粁、その基盤は白堊層なるも隨處に花崗岩・玄武岩・安山岩等噴出して地形複雜を極め、特に福江島は處々に玄武岩のホマーテあり、中央に沖積盆地をつくり、農業行はる。壹岐・對馬は共に丘陵性又は臺地性にて、海岸出入に富む。而して壹岐の山地は準平原化して農牧盛に行はれ、對馬は平地少く、中央に淺海灣の陷落谷あり、自然美に勝れ、良港また少からず。之を要するに本縣の地體構造は極めて複雜にして、山岳丘陵多く、平地は總面積の十分の一にも足らず、耕作は臺地・丘陵上の人工的段丘に行はるるもの多し。港灣頗る多くその主なるものは長崎・佐世保（軍港）を始め、茂木・瀨戸・面高・時津・野母（以上西彼杵）・諫早（北高來）・大村・早岐（東彼杵）・島原・口ノ津（南高來）・平戸・田助・今福（以上北松浦）・福江・富江（以上南松浦・厳原・竹敷・大船越・佐須奈（以上對馬）・郷ノ浦・勝本（壹岐）等とす。

〔産業〕九州西部地方の産業は大体農業に属し、殊に米作は最も盛んで、畑作・養蚕・養豚・養鶏・養牛・養馬・養羊・養蜂・養魚・養蚕・養蜂・養魚・養蚕・養蜂・養魚・養蚕

佛寺多く、寺院總數五〇、その中、浄土宗寺・禪宗寺・眞言宗寺・眞宗寺・日蓮宗寺の順に多く、また佛寺は國内に於ける寺刹の大半を占め、佛教寺は國内に於ける寺刹の大半を占め、また佛教寺は國内に於ける寺刹の大半を占めて、神社寺は寺刹の大半を占めて、神社寺は寺刹の大半を占めて、神社寺は

だ見るべきものあり、卽ち堂舍の建立・書物の印行・慈善の事業・祭禮の行事等いづれも盛なりき。然るに慶長十六年に至り我が九州の耶蘇敎徒と葡萄牙人との謀議が和蘭人によりて幕府に告げられ、また西班牙人の異志あること蘭人より密告せられしかば、外敎の禁過大第に嚴酷となり、この政策の變動はまた貿易にも影響し、元和二年外國貿易港は長崎・平戸の二箇所にのみ限らるゝに至れり。かくて耶蘇敎徒は總て放逐・死刑等の嚴刑に處し、寛永十三年には我が船舶の異國渡海を禁ぜられ、江戸町前面を埋立て居留地を築き、葡萄牙人は悉くこれに居らしむ。これ卽ち出島にして、島原の亂後は葡萄牙人の渡來をも禁じ、蘭人を平戸より此處に移轉せしめて專ら蘭人居留地となせり。されば外敎は表面上全く息して、僅に「かくれ宗徒」の禮拜ありしのみ、その間の消息は西坂の首塚（千人塚）等の史跡に窺ふを得。かくて長崎港は我が國唯一の貿易港となりて歐洲及び支那貿易を獨占し、幕府は依然此地を福要の直轄地となし奉行をして治せしめたり。幕府は禁敎以來、禁書令をも布きしが、長崎奉行に屬する譯官和蘭通詞中の篤學者によりて蘭學なるもの開かれ、近代の醫學・天文・地理・博物・歷史等は次第に先覺者によりて、研究せらるゝに至れり。近世、安政六年に横濱・函館と共に開港場となる。明治元年、奉行を廢して長崎府を置くに及び、府の行政と長崎の市政とは分離し、市には町會所を設け肝煎（のち乙名と改む）ありて行政に當る。三年、市鄕會所と改稱、四年乙名を廢し十七名の町年寄によりて町務を分掌せしむ。五年全城を十七區に分ち、各區に町年寄一人宛を置き、十一年長崎區役所を置き區制施行。二十二年四月市制施行。次で再度に亘り市域を擴張、更に大正九年十月上長崎村・浦上村を併合、今日に至る。長崎は久しく泰西文化輸入の門戸たりし故に之が刺戟によりて人材の出づるもの亦多く、特に蘭學者の輩出せるもの尠からず、卽ち西川如見（贈正五位）・高島秋帆（贈正四位）・本木庄左衞門（贈正五位）・本木仁太夫（贈正五位）等は何れも蘭學者として、楢林宗建（贈正五位）は蘭醫として聞え、其他、本邦活字の元祖なる本木昌造、官費術元祖なる上野彦馬、臺灣探檢に名を擧げし須田彌兵衞等また維新文化の先驅として名あり。明治に至りては福地源一郎（櫻痴）・廣津柳浪等を出せり。〔明治天皇行幸所小菅修船場址〕指定史蹟。小菅町にあり。明治五年明治天皇近畿中國九州行幸の砌、軍艦龍驤に御乘、六月十四日長崎大波止場御上陸、翌日縣廳に、次で小菅造船所に御成、御巡覽、また他ノ浦なる造船寮に成らせられ、十六日御乘艦、熊本へ向はせらる。〔風樹〕長崎三大行事の一。例年桃の節句より初まる行事にて、市內男子ある家へ近親知己よりハヤ（鳳）を節句の贈物とする古來の例あり。鳳揚は古くは市內到る處にて行はれしが、現在は四月十日金比羅山、同十五日風頭山、同二十一日城の古址、同二十五日風頭山、同二十八日準提觀音（唐八景）た各敎日として盛大なる鳳谷戰を催す。鳳の文祿に萬國旗及び信號旗より生れたるもの多きにより鳳を「はた」と稱す。〔盂蘭盆會〕長崎三大行事の一。七月十三日より三日間。この間四方の山腹にある墓地には多數の燈籠を揭げ、墓前に香を焚き、爆竹の音、火矢の光芒、天に冲す。かくて十五日の夜には精靈流しと稱し、各町競うて編孤船に帆を張り之に提灯・燈籠を飾り供物を積み、兼故の若者樽ひの法被にて銅鑼・鉦などの鳴物にぎやかに掛聲勇ましく大波止に繰込み、園平船に送り、船は翌朝港外に投棄す。古くは大波止より海に流せり。〔ペーロン〕劃龍または伯龍とも書く。長崎名物の一。六月十五日に近き日曜日を選びて港の內外にて行ふ一種の競漕。これに用ふる船は細長き木造の輕快なるものにて、肚者三四十人を乘せ、褌は折褌の一種にて銅鑼・太鼓を叩き調子を合せて競漕す。德川初期に南方支那より傳はりしものと云ひ、南國的興趣深く、勇壯を極む。〔諏訪神社〕上西山町に鎭座。國幣中社。祭神、健御名方大神・八坂刀賣大神。元亀・天正の頃、外國人この地に來り天主敎を弘むるや、土人多く之を信じ爲に社寺の破却せらるゝこと多く、當社また燒却せらる。當時、當國佐嘉に青木氏金重院賢清なる者ありて大いに僧敎し、元和九年に當然長崎に赴き山留孫右衞門を訪ひ神道再興を說き、更に同志宗包森城等と之を議し、かくて當社前代神主の末裔九郎左衞門に諮ひ神社護狀を受け、賢清は京都に上り吉田兼英に當社再興を請ひ且つ許可を得、寛永元年七月奉行長谷川氏に其社地の寄附を願ひ、翌二年遂に社殿を建立す。松森の地これなり。正保四年社地狹隘なるを以て新に玉園山の地に假殿を建て慶安元年八月舊地より遷宮、同四年八月十九日造營成り正遷宮を行ふ。永應二年に拜殿を建立し、延寶六年に拜殿其他の造營に着手、翌年成る、享保八年七月五日正一位を授けらる。爾後幾度の造營・修理の事あり。神職は代々青木氏勤む。安政四年九月社殿炎上、文久三年蒼島原藩主松平主殿頭專ら之が造營に當り、十餘年後の明治維新に完成す。例祭、十月七日より三日間。當社にては當祭禮を「おくんち」と云ふ。境內は諏訪公園と稱せらる。〔諏訪祭〕諏訪神社の祭禮。豪華壯麗を以て有名。賀茂・住吉と共に日本三大祭の一に數へらる。寛永十一年佐賀の人青木賢清、大村の公文九郎左衞門と協力し、切支丹宗徒に對抗するため、長崎奉行の力を借りて、諏訪三社の祭禮を執行せしを嚆矢とす。神事は十月一日より十三日まで執行され、七・八・九の三日間は「おくんち」といふ。七日に三社（諏訪大神・森崎大神・住吉大神）の神輿は大波止なる御旅所に渡御、九日還御の儀あり、行列は數町に亘り社前の長坂を競ひ降り、競ひ昇る光景勇壯を極む。また同日は社前の踊馬場に於て市內の年番町の儘にかかる蛇踊・鯨の潮吹・コッコデショ・蛇船等十餘種の奉納踊あり、八日には十一の傘鉾が市街を巡行す。故に祭禮當日は近縣は勿論遠く京阪地方より見物に來る者少からず。因に奉納踊は寛永時の當初の祭禮に際し、丸山の遊女高尾・晉羽の二人が神前に三韓征伐の舞曲を演奏せしに始まるといひ、從つて今日も丸山町・寄合町より隔年交替に踊の奉納あり。〔皇大神宮神社〕坂本町に鎭座。縣社。祭神、天照大神・豐受比賣大神・大山咋神外十神。當地は天主敎傳來以來これを信仰する者多く、鳥原役後も幕府の禁壓厳きたるもなほ信仰するものあり、依りて明治二年に長崎府尹澤宣嘉の奏上にて朝廷は現在の浦上の地に社殿を造築して皇大神宮を祀り氏子區域を定め、春秋二季の祭典・奉米すべて官費を以てす、これ當社なり。同十七年に官許を得て同地村社日吉神社に當社の神靈を遷し景觀を新たにし現社號に改稱し同時に日吉神社を廢す。爾來氏子は漸く舊來の誤見を改め社運も次第に盛大に向へり。例祭、三月十八日。

## ナカサ——ナカサ

〔松森神社〕上西山町に鎭座。縣社。祭神、天穗日命・菅原道眞・同是善。寛文三年長崎奉行水野河內守信、土地安全守護のため博多町に當社を創立し、爾後國府內住吉神社の祠官なる大藤修理大夫嘉原宗也を擧げて社司となす。明暦二年幕府は松の森に社地を下し、朱印地に準す。寛治二年に奉行黑川與兵衞尉正直は幕命を承けて神殿を建立す。爾來當社の營繕悉く公費を以てせらるゝを例とす。例祭日不詳。〔伊良林稻荷神社〕伊良林町に鎭座。郷社。祭神、保食大神。延寶元年若杉氏の勸請する所にて、江戸時代を通じて長崎奉行・同代官等の崇敬するあり。〔金刀比羅神社〕坂本町に鎭座。郷社。祭神、大物主大神・白峯大神・崇德天皇。本社は崇敬または瓊杵山とも稱せらる。蛋山を控へて鎭り坐す。當山淡修驗當樂院快晴なる者、寛永元年、金毘羅大權現を主神とする眞言修驗の靈場を長崎市八幡町に創めしに起る。爾後、長崎奉行を始め市民の崇敬篤かりき。〔皓臺寺〕寺町にあり。曹洞宗。海雲山。慶長年中肥前平戸の貿魚翁良鶴、岩原郷に一宇を創せしに始る。德川氏の庇護厚く、故に長崎に於ける寺院の格は當山を以て筆頭となせりといふ。現に末寺十院を存す。境內に高島秋帆・上野彦馬その他の墳墓あり。〔興福寺〕寺町にあり。黃檗宗。東明山と號す。初め明の歸化人陸陽氏の別業なりしが、慶長・元和の頃、明朝貿圓來朝して住し、よりて長崎在住の明人相國り梵刹を建立し貿圓を以て開基とす。寛永中、如定來り寺僧に天妃を祀り唐船の航海安全の祈願所となす。懇請四度の後、隱元禪師渡來して堂宇を增築し、それより高僧の寺に入る者多し。本堂（大雄寶殿）・媽祖堂・開山堂・三江合會・庫裡・山門等に見るべき物尠からず、特に本堂は如定の建立、元祿二年の再建、明治十六年重建にして、國寶。全部支那工匠の計畫に成り、その重層にして切妻造なるは珍しく、斗栱軒廻りより內部の床天井扉窓等の手法は特異にして、更に纖巧なる刻形及び彫刻を隨處に應用せるは近世的南方支那建築の樣式を代表し、日清建築最後の主なる交渉を記念するものなり。歷代南京人の菩提等あるを以て僧に南京寺或は唐寺といふ。三代逸然は長崎漢費（唐費）の元祖たり。〔悟眞寺〕稻佐町にあり。淨土宗。慈南山光明院。福岡善導寺末。慶長三年善導寺玄故の開創に係る。切支丹教徒橫惡後に於ける最初の梵刹。境內に和蘭人・支那人の墳墓數多あり。明治四十二年日露戰役に於ける露國俘虜の我國にて死歿せる者、及び日本海々戰の戰歿兵士の遺骨を今假埋葬地より蒐集して其の追善の爲に建てしといふ大記念塔あり。〔春德寺〕夫婦川町にあり。臨濟宗建仁寺派。華嶽山。切支丹宗の總本山トドスオス・サントス寺の址にして、寛永年中泰室の開創に係る。往時は塔頭五院ありしが今は廢す。境內に芭蕉紗・蔵・宇蔵の發句塚、去來・宇蔵の追悼碑あり、芭蕉の發句塚は時雨塚とも呼ばる。〔聖福寺〕上筑後町にあり。黃檗宗。萬壽山。舊時は長崎唐寺三箇寺の日付寺と稱せられし名刹。もと眞言宗知覺寺の古址なりしが、鐵心道胖は鎭地の廢滅を惜みて延寶六年伽藍を建立せしに始る。寺內の大梵鐘は僧に鐵心の大鐘と稱し、九州第一の巨鐘として著名。境內に塔頭五院あり。〔崇福寺（福州寺）〕今籠町にあり。黃檗宗。聚壽山。寛永六年明の歸化人王・何・林・魏の諸大商、費を集めて一宇を創建し、福州より渡來の超然を開山となす。堂宇中、本堂（大雄寶殿）・三門（赤門）・第一墓門・護法堂（關帝堂）・鐘鼓樓の五棟は國寶なり。何れも支那風、殊に本堂はよく明末の特徵を示し、我國に於ける黃檗派に屬する最初の建築として建築史上貴重なる遺構とす。境內に僧坊十二あり、尙ほ大釜塔あり。四石二斗を容る。瓦釜（慳約二米、深さ約一・八米）を藏す。天和二年の大鐘に、一山の僧托鉢して得たる米穀を此釜にて粥にし數萬の饑民に恤みしものにして、故にこれを萬人鍋または濟民鍋とも稱す。〔大音寺〕今德町にあり。淨土宗。正覺山と號し檀林たり。元和二年傳譽の開創に係る。始め長崎奉行長谷川廣智、長崎人の切支丹宗を信奉して國害を惹起せんことを怖れ、傳譽をして當地の民を

教化せしめんとして、その宅址に小堂を建立せしに始まる。いま寺内に四院を有す。〔長崎別院〔佛光寺別院〕〕小島町にあり。眞宗佛光寺派。光壽山正覺寺。慶長九年道智の開創に係る。慶長八年小笠原一庵長崎奉行となり幕命を奉じて切支丹宗を禁壓するや、道智は大音寺傳譽、光永寺慶西等と共に召されて尊ら破邪の任に當る。元禄十一年本願寺派を脱して佛光寺派末となる。〔福濟寺〕下筑後町にあり。黄檗宗。分紫山。俗に唐寺といふ。寶永五年支那福建泉州の僧曇悔、長崎在留支那商人の請に應じて東渡、現地に堂宇を建立して支那商人の菩提寺となす。いま境内に四院あり。堂宇の建築樣式は支那明式に屬し、うち本堂（大雄寶殿又は釋迦堂）・前堂（護法堂、彌勒堂又は天王殿）及び廻廊・青蓮堂（觀音堂）・中門（大觀門）及び廻廊等は國寶。〔本蓮寺〕西坂町にあり。日蓮宗。聖林山。長崎五山。京都本圓寺末。元和六年日慧の開創に係る。日慧は當國大村の人、當地に來りて法を弘むるや代官之に歸依し切支丹の舊址を寄せて堂宇を建てしむ。現に塔頭五院を有す。寺内の南鑒井戸は切支丹宗徒を虐殺して埋葬せしところと云ふ。〔諏上天主堂〕諏上驛の北部、もと諏上村の中央小丘上に立つ。東洋一の大教會堂と稱せらる。往年、禁教時代に長崎を逃れし切支丹宗徒が、この諏上に止まり村民は殆ど皆その信者なりしと云ひ、今なほ信仰厚し。佛國宣教師フレノー、元諏上村庄屋の邸宅を買求め假聖堂となせしが、明治二十八年新たに本聖堂を起工、大正三年三月献堂式を擧げ、同十四年五月正門の高塔を竣成す。堂の高さ、間口各一八米餘、奥行六〇米餘、六千人を收容し得る。〔大浦天主堂〕國寶。南山手町にあり。切支丹殉教者二十六名の靈を祀るため、文久二年來佛國宣教師フュレー（Furet）の創始にかゝり、翌三年教區長ウラル（Girard）及び宣教師プチジャン（Petitjean）相次ぎて工事を監督し、元治元年十二月一日竣工、慶應元年一月二十三日献堂式を擧行せり。當初は三側式木造の教會堂なりしも、明治七、八年の間、宣教師ポアリエ（Poilier）擴張を企て左右に各一間の側廊を增築、且つ外壁を煉瓦積となし以て現在の如きものとなす。其外觀は稍々平凡なるも、内部の身廊・奥陣及び左右側廊等に木造滲彩の方法により穹窿天井を巧に構成せるは教會に値す。其他、細部またゴシック式手法を表はす。内陣中央には壯麗なる祭壇を構へ、左右側廊には處々に小聖龕を作る。要するに本會堂は佛國宣教師の宣匠により、その指揮の下に我國工匠の經營せしものにして、我國洋風建築輸入の初頭を飾るべき、現存の代表的遺構なり。〔五社山〕 長崎驛の北、西坂町に聳く高臺にて、外人間にはセント・ヒル（聖山）の名によりて知らる。往昔、耶蘇教徒の斬罪・磔刑・焚殺等の極刑行はれし血腥き史蹟。天草一揆の豐主益田四郎以下三千三百人を埋むる有馬塚及び寛永十七年南蠻人六十一人を慘刑に處せし南蠻塚といふ二基の塔婆あり。天和七年には衢莉牙人・邦人・朝鮮人等五十五人の伴天連が虐殺され、以後明治初年まで凡ての犯罪者を獄門に曝したり。二十六聖人殉教の日、二月五日には市内は勿論、全國の信徒、山頂に集りて終日祈禱す。〔シーボルト宅址〕指定史蹟。鳴瀧町、鳴瀧より上流約一一〇米の所にあり。一に鳴瀧學舍と呼ぶ。近世わが國文化の恩人なる蘭醫フィリップ・フランツ・フォン、シーボルトが出島蘭館の醫官として長崎滯在中、奉行の許可を得て設けし別宅にて、もと南蠻寺の址なりしと云ひ、文政六年來朝以來ここに居宅。いま古井戸・石垣倉庫址等存し、また有名なるシーボルト樹（くろうめもどき科、學名Rhamnus Sieboldiana, Makino）あり、その前面に當時の二階建書齋あり、向つて右方の井戸の前には平屋建の住宅ありしといふ。シーボルト此處に在りて醫學及び植物學の研究に沒頭し、傍ら全國より集りし俊才の薫陶に當り、その門下より高野長英・桂林宗建・戸塚靜海・伊東圭介・高良齋・二宮敬作・緒方洪庵・三宅良齋等の碩學を輩出せしむ。文政十一年國禁の地圖を入手せし廉に連座して歸國を命ぜられ、安政六年再び渡來せしが、爰千もなく歸國、慶應二年七十一歳にてミュンヘンに逝去す。學會背後の高臺は俗に「城の古址」と稱し、貞應三年長崎小太郎貞綱の築城せしところ。〔諏訪公園〕諏訪公園の神域に隣る玉園山の一帶、もと安禪寺のありし地なり、明治七年公園となせるもの。面積四六三アール、眺望絶佳なり。城内に東照宮・武德殿・音樂堂・縣立圖書館・商工奬勵館等あり。シーボルト・ツンベルク・ケンペル及びグランド將軍等の記念碑あり。前三者は公園入口に並び、シーボルト碑は明治十二年建設、大森悟中の撰文を刻す。ツンベルクは瑞西の植物學者にて和蘭東印度會社の醫師、シーボルトと共に日本研究の双璧にして彼此の學界に貢獻する所多く、ケンペルは元禄三年來朝せる和蘭の旅行家にして「日本誌」（一七二七）により我國情を歐洲に紹介せし學者、此兩者の碑はシーボルトがもと出島屋敷の花畠に學積を追慕して建設せしものとす。〔高島秋帆舊宅〕指定史蹟。小島町にあり。我國洋式砲術の鼻祖高島秋帆の別邸。天保九年本邸焼失後、ここに移り砲術を諸生に教授す。晉て秋帆の書齋たりし「櫻の間」、その他書籍・武器等を納むる倉庫、彈痕石・石燈籠・土塀の一部等遺存す。〔出島和蘭商館址〕指定史蹟。出島町にあり。此地もと扇島と呼ばれ、寛永十一年江戸幕府が長崎商人に命じて蒯莉牙人の爲に江戸町前方の海面三九六九坪（周圍二八〇間）





の扇形の地を埋立てしめし所。同十三年工竣りて蒯莉牙人をここに移し邦人との雜居を禁じ、島原亂後、同十六年蒯莉牙人の通商を禁じ退去を命ぜしため一時空屋となりしが、同十八年平戸より和蘭人を移してその商館となす。爾來安政元年神奈川條約締結に至るまで我國に於ける唯一の海外貿易場たりき。當時、島の中央より今の通路を進み江戸町に向ひ突當りに橋を架して、外部との唯一の交通路となし、出入を厳にす。島内には商館長以下の住宅を始め乙名部屋・通詞部屋・札場・倉庫・番所等の建物あり。和蘭の甲比丹（領事）ここにありて貿易事務を掌る。創ち約二百三十年間、出島は泰西文物流入の門戸として我國文化の上に大なる貢獻をなし、同時に長崎市の今日あるを胚胎せしめたり。明治十九年及び二十二、三年兩度の港灣修築以後、出島前面の海は埋築せられて悉く市街地と化し、往年の俤なきも、扇形の町並・通路・河岸・石塀・倉庫等に當時の遺構を見るべし。〔唐人屋敷遺址〕長崎驛の南方、館内町附近にあり。天后堂は元文元年在留南京人等の創建、明治三十九年改修せられし木造煉瓦葺、八三方米扁の建物にて天后聖母・千里眼・順風耳の神像を祀り海上安全を祈る。觀音堂は觀世音菩薩と關帝とを安置し在留唐人の崇敬厚く、今なほ毎年祭典を行ふ。その他、土神堂・幽靈堂（唐墓場）町）等あり。〔長崎警察大學〕江平町にあり。もと長崎警察專門學校の組織を變更し大正十二年四月開設せる官立警察大學。その前身は萬延元年創設の長崎奬生所に起れる第五高等學校醫學部なりとす。〔三菱造船所〕東洋第一の造船所。長崎港の西岸。西泊灣より平戸小屋に至る沿岸一帶約三粁、面積約三五ヘクタールを占め、小菅船渠・製鋼工場・社宅用地等を合すれば總面積約七三ヘクタールに及ぶ。安政三年、江戸幕府が蘭人を聘して飽ノ浦機工場を開きしに初まり、明治十七年、三菱社の經營となる。立神工場は造船工事を、飽ノ浦工場は機械類（ディーセルエンヂン・ポーピン、發電機等）の製作鑄造を主とし、船渠は立神・飽ノ浦・八軒屋の三箇所にあり、八軒屋の第三船渠は長さ約二二二米幅約三五米、水深約一〇米、我國最大のものといひ、戦艦日向・鵜島、商船港間丸・龍田丸等はここにて建造されたり。本造船所は時により一萬—二萬の從業員を擁し長崎市民の約三分の一を直接間接に養へる功大なり。〔眼鏡橋〕東酒屋町より磨屋町に通ずる中島川に架せる唐風の石橋。寛永十一年興福寺を建設せし明僧如定の築くところ、唐風拱式割石積の樣式による日本最初の眼鏡橋なり。脚柱を中に挾んで双圓を描き、滿潮時には橋影恰も眼鏡の形に映り、江戸の日本橋、岩國の錦帶橋と共に當て日本三橋の一に數へらる。〔高島秋帆〕江戸時代の砲術家。通稱四郎太夫、のち喜平と稱す。寛政十年長崎町年寄の家に生れ、長じて町年寄にして鐵砲方を兼ね、のち長崎會所頭取となる。清英戦爭の敗敗に鑑み、火技の奬勵、兵器の改良を痛感し屢これを奉行に建白すると共に、自ら蘭人につき蘭學・兵學を學び、私財を投じて鉄砲を輸入、砲術を研究し兵書を飜譯せしむ。入門する者多く、遂に西洋流のちに高島流砲術を創む。天保十二年召されて江戸に至り火技を演じ、且つ技を諸士に傳授す。江川坦庵等も彼に師事せり。のち長崎に歸りて九州諸藩士を誘掖し名聲大に擧りしが、遂によりて天保十四年に其子の淺五郎等と共に江戸に檻送、弘化三年に中追放に處し安部侯に預られしが、のち坦庵の斡力により赦免、坦庵に屬して砲術教授方を命ぜらる。秋帆は高島寄平の名を以て幕府の諮問に對へ、攘夷の無謀なる事、兵器改良の急務、通商貿易の有益なることを建白す。安政二年講武所の砲術師範後、文久三年具足奉行となり子弟を教授す。慶應二年正月歿、年六十九。贈正四位。〔本木昌造〕我國活版界の恩人。文政七年長崎北島三彌太の四男に生れ、十一歳和蘭通詞本木昌左衛門に養はる。長じて家業の傍、泰西の技術を修め特に活字製造を研究、嘉永元年蘭書植字判及び印刷機を和蘭より購入し、同四年流込み活字製造法を案出す。次で造船術を會得し小蒸汽船の模型を造り、また兵書・醫書・會話書を新鑄活字にて摺立て刊行す。萬延元年長崎飽ノ浦製鐵所に勤務、造船・造機・航海の事に與り、型年外國船を購入、自ら船長として諸方を航海す。明治元年製鐵所頭取役、二年製鐵局機關傳習方教頭となり、傍ら科學校を開きて子弟を教ふ。同三年上海より來人ガンブルを招き電胎法母型を傳へて鑄造活字を完成、大阪に活版所を開き、日刊横濱毎日新聞を刊行せしむ。築地活版所・石川島造船所は皆な彼の指針に據り高弟平野富二が基礎を築きしものとす。八年九月病歿、年五十二。贈從五位。〔福地源一郎〕明治時代の文學者。櫻痴また夢之會主人と號す。天保十二年長崎の醫家に生れ、蘭語を學び、のち江戸に來り外國奉行水野痴雪の家に寓す。文久元年竹内下野守一行に隨ひて歐洲に使し、歸朝後、幕府に出仕して通辯御用頭取となり、又渡歐す。慶應二年下谷に私塾を開き外國語を教授、維新に際し江湖新聞を發刊、筆鋒により一時退京。明治三年より六年まで大藏省に出仕し大に重用せらる。辭官後、東京府會議長となり、東京商法會議所を創設、また明治七年東京日々新聞を發刊、十四年立憲帝政黨を組織、三十七年に東京府選出代議士となり憲政本黨に屬す。その筆になる社說は一世を風靡す。風流才人の稱れ高く、二十二年歌舞伎座創立に逃し、その經營に任ずると共

に劇作を遺すところ多し。明治三十九年一月没、年六十六。「幕府衰亡論」・「懐ノ往事談」等の著、及び「春日局」その他の脚本あり。〔須田彌兵衛〕江戸時代初期の航海家。和蘭人の間にては Jan Fiet Yedinno の名を以て知らる。寛永三年（一六二六）長崎の貿易商末次平藏の命により臺灣に赴し貿易せんとして和蘭總督の爲に妨げらるるや、同五年武裝せる乘組員四百七十名を率ゐて渡臺、上陸を拒絶せられしが、强ひて入城して初留せらる。即ち謀りて總督に面會し、白刃の下に彼の不法を謝罪せしめ、また損害を賠償せしむ。而して總督の子ほか四名を人質として長崎に歸航、爾後和蘭が屢々使船を以てその釋放を請ひしも許されず、寛永十三年に至り漸く赦して彌兵衛の一件は落着す。大正十四年、從五位を贈らる。〔上野彦馬〕我國寫眞術の祖。天保八年新大工町に生る。年少にして蘭學を學び舍密學に專念す。十六歳、父彦之丞の志を繼ぎ寫眞術の研究に沒頭し、完成して長崎に開業す。明治三十七年歿、年六十七。

【長崎半島】 長崎縣の南部、長崎市の東邊より西南に向ひて突出し野母崎に終る半島。東北より西南に矢岳・戸町岳・熊ヶ峯・八郎岳（五九二米）・寺岳・二ノ岳（三二六米）を連ねる山脈走り、南端に近く畦津の地峡を經て再び權現山を起す。地質は結晶片岩より成る北部には三—四百米のトロイデ丘多し。地形上、北東側の八郎岳地塊及び南西側の二ノ岳地塊に分たる。海岸は小屈曲に乏しからず、西北部の長崎港の外、東部に茂木、南端に野母の良港あり。沿岸は漁業盛にして、また茂木附近は枇杷の產額多し。

【長崎線】 省線の一。長崎本線・佐賀線唐津線・佐世保線・伊萬里線・松浦線及び大村線の總稱。

【長崎本線】 省線長崎線の幹線。佐賀縣三養基郡鳥栖町の省線鹿兒島本線の鳥栖驛より佐賀縣（佐賀市）・久保田驛（佐賀郡久保田村）・肥前山口驛（祈島郡江北村）を過ぎて長崎縣に入り、諫早驛（北高來郡諫早町）を經て長崎市の長崎港驛に至る一三三・二粁。本線は內地より支那・臺灣その他の所に渡航する爲めの重要線にて、鹿兒島本線と連絡して門司・長崎間に直通急行列車を運轉し約四時間五十分にて達す。佐賀驛にて省線佐賀線・此線佐賀電氣、久保田驛にて省線唐津線、肥前山口驛にて省線佐世保線、諫早驛にて省線大村線・此線島原鐵道に各連絡す。

【長崎電氣軌道】 長崎市內電車。大橋より大學病院前・長崎驛前・思案橋・新大工町を經て螢茶屋に至る。別に大波止より浪の平に至る連絡線を併設す。

【長崎港】 ↓長崎市

【長崎】 熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年他の二村と共に廢して不知火村を新設す。

【長崎鼻】 ↓山川町（鹿兒島縣揖宿郡）

**ナカサツナイ** 中札內 廣尾線の一驛。昭和四年設置。北海道十勝國河西郡大正村にあり。

**ナカサト** 中里

【中里】 樺太大泊郡千歳村の大字。東海岸線の中里驛。明治四十年設置）を置く。

【中里村】 滋賀縣近江國野洲郡の中部。野洲町の北に接し、西南は野洲川下流により河西村・中洲村に隣り、東南は祇王村、西北は長主村、東北は北里村に接し、琵琶湖に近し。面積約八・六方粁。湖岸沖積地の一部を占め、地形極めて平坦、日野川東北部を西北流し、村內到る處乾田をなし、米の產額多く、其他蔬菜・菜種・桑葉・飼肥用作物・茶等を產す。南方は野洲町へ、東北は八幡町へ、東南は祇王村、西北は長主村、西方は中洲村への道路あり。省線東海道本線の野洲驛へはバスの便あり。〔錦織寺〕大字木部にあり。貞宗木邊流大本山。寺名の起りは、天女が錦を織りし奇瑞ありしため、その錦を四條天皇に獻ぜしに叡感斜ならず、「天神護法錦織之寺」の勅額を賜はりしに因る。天安二年惠覺大師の開創に係る。嘉祿元年親鸞來りて貞宗の道場となせしより寺勢大いに揚る。親鸞三年本願寺の存覺の子綱厳入りて寺主となり大いに面目を一新し錦織中興の名匠と稱せらる。享保十一年廣橋懋忠の子良惠入りて當寺十四世を嗣ぐ。良惠は伏見宮家仁親王猶子たり。寶暦十二年東山天皇の舊殿一棟を賜ひ更に輪奐の美を整ふ。明治五年兩本願寺と共に華族に列し、貞宗一管長の所轄下にありしが、同十年別立して貞宗木邊流を公稱し、別に管長を置く。いま塔頭二院あり。寺寶頗る多し。〔泰師堂〕 大字比留田にあり。天台宗貞盛流。村內西得寺所屬。本尊泰師佛坐像一軀は藤原末期の作。〔觀音堂〕 大字比留田にあり。貞宗本願寺流。寺寶の十一面觀音立像（木造）一軀は藤原期の作と推せられ國寶。〔佛性寺〕 大字乙窪にあり。天台宗貞盛流。靈龜山。往古七堂伽藍具はりて謂はゆる江東三僧寺の一たりしが近世衰類し昔日の觀を留めず。本尊阿彌陀如來坐像一軀（木造）は藤原期の作にして國寶。〔蓮乘寺〕 大字比江にあり。天台宗貞盛流。天長元年禪源の開創、盛全を中興とす。寺寶中昆沙門天立像（木造）一軀は藤原末期の作に係り國寶。

**ナカサト** 中郷村 千葉縣下總國印旛郡の東北部。成田町の北隣。中部より東部にかけては丘陵地にて森林あり。丘陵間に畑地を交ふ、西境附近は西北隣豐住村內の長江に續く沼田をなし米を產す。他に繭・麥を產し養蚕も行はる。縣道成田町に通じ省線成田線またこれに沿ひて西部を縱走するも村內に驛なく成田町に成田驛、北隣久住村內に久住驛を設く。この地は和名抄、埴生郡山方郷の內なり。村內に大須賀加賀守の居りし城址あり。〔八幡神社〕 大字苗田に鎭座。郷社。祭神應神天皇。古來、此地の鎭守たり。例祭、一月十五日。

**ナカサト** 中佐都村 長野縣信濃國北佐久郡の中部。岩村田町の西に隣る。淺間山の南麓、佐久平の一部をなす造分原泥流扇狀地の末端を占め、西南に傾斜せる平原性丘陵なり。全村畿れ田地にして悉園點綴す。農・蠶業盛んにして米・繭の產共に多し。縣道縱橫に通じ、岩村田町・中津村へバスの便あり。省線小海線の中佐都驛（大正四年設置）は岩村田町に設く。この地は和名抄、佐久郡美理郷の內なるべし。木曾義仲の郎從に根井大彌太あり此地に住せしものならん。〔諏訪神社〕 大字塚原に鎭座。郷社。祭神、健御名方富命・八坂刀賣命・事代主命。平城天皇の御宇、大井正之武逞長久の所願の爲め勸請するところと傳ふ。

**ナカザト** 中里

【中里村】 青森縣陸奥國北津輕郡の北部。金木町の北部に隣り、東は東津輕郡に接す。東境に袴腰岳（六二八米）あり、西方に傾斜し、東半部は山地及び原野をなす。西部は津輕平野に屬して平坦なり。西北部には沼田あり。宮野澤川は東境に發源して村の中央部を西北に流る。米・竹細工等を產す。道路は村の中西部を南北に通ず。またこの道路に並行して社線津輕鐵道通じ、大澤內（昭和五年設置）・津輕中里（昭和五年設置）の三驛を設く。この地は源義經の侍大藤寺力の討死せし地と云ふる。

〔八幡宮〕 大字深郷田に鎭座。郷社。祭神、譽田別尊。按ずるに、往古征夷大將軍坂上田村麿東夷征討の時此地に創建せしものか。例祭日、五月一日。

【中里村】 岩手縣陸中國西磐井郡の東北部。一關町の北に隣り、平泉村の東南に接し、東は北上川を隔てて東磐井郡舞川村と相對す。東部に蘭梅山（一五一米）の第三紀層の山地あり、杉・松・落葉松等の人工材その大部分を占む。山地以外の大部分は概れ平坦にして東境を南流する北上川及び南境を東流するその一支磐井川の沖積層より成り、耕地よく開く。產業總額は五二六、八一四圓にして農產額は四二一、二九六圓、工產額は八三、四二三圓、畜產額は一一、一三三圓等を擧げ、一戸當約七四四圓、一人當一二〇圓餘なり。農產には米・麥・大豆の外に小豆・甘藷・馬鈴薯・園藝農產等あり、工產物には生絲類・醸造・麴・製麺・植物油等の外に木竹製品あり（昭和十二年）。省線東北本線は西部を南北に通じ山目驛（昭和三年設置）を設き、國道陸羽街道は縱道に沿ひ集落の大半はこの兩側に櫛比す。なほ縣道今泉街道はこれより分れ中部を東西に通ず。本村は明治二十二年町村制施行の際、川邊村を合して發ばるものなり。關學者、大槻玄澤は本村の出身なり。

【中里村】 茨城縣常陸國久慈郡の東部。太田町の北方約九粁にて久慈川の支流里川に沿ふ。東より北は多賀郡日立町其他と隣る。阿武隈山脈中の一部を占め、東南境に高鈴山（六二四米）・神峯山（五九四米）あり。これより北境にかけて山地連り何れも村內に傾斜す。西境も約二〇〇米の山地にて村內に傾斜し、村の西部はこれ等兩山地の裾合にて里川南流す。山地一帶森林多く木炭の產多し。川沿ひの平地には農業行はれて米・麥を產し自給自足の狀態なり。また副業として養蚕・草の栽培をなす。日立鑛山及び同製作所へ出稼する者多し。川沿ひに縣道ありて太田町に通じ、またこれと分れ東走して日立町に通ずるものあり。

【中里村】 群馬縣上野國多野郡の西南部。神流川の上流に沿ふ大村にして、北は北甘樂郡、南は埼玉縣秩父郡の一部と隣接す。關東山脈中の一部を占め、北境に赤久縄山（一五二二米）、南境に二子山（一一六六米）あり。これ等の山地は南北より村內に傾斜し、中部はその裾合にて神流川東流す。山地一帶森林多く神流川の谷に沿ふ部分のみやや畑地ありて麥を產す。十石峠街道は川沿ひに西走して長野縣に通じ集落は主にこれに沿ふ。他は山地のため交通便ならず。

【中里村】 神奈川縣武藏國都筑郡の中部。鶴見川の上流に沿ふ。西北は東京府南多摩郡の一部と隣接す。多摩丘陵の一部をなし、森林あり。中央を南流する鶴見川の流域にのみ細き低地ありて畑地多く、麥・甘藷・大豆・馬鈴薯等を產し養蚕も盛なり。大山街道は中央を橫斷して西南に走り村內にてこれと交叉する縣道は橫濱市より東京府北多摩郡府中町に通ずるものなり。省線橫濱線長津田驛は西隅田奈村にありてバスを通ず。この地は和名抄、都筑郡針塚郷の內なるべし。大字青葉は小田原役帳に小机青戸內長谷川とあり、正保頃までも青戸に作れり。青葉左衛門產綱の住居せしよりこの名あり と傳ふ。〔杉山神社〕 大字西八朝に鎭座。郷社。祭神、五十猛命。式內社杉山神社は恐らく當社なるべし。承和五年寶龍により官幣にあづかり、同十五年從五位下に叙せらる。武藏總國社六所の一。例祭十月一日。

【中里村】 新潟縣越後國刈羽郡の東部。信濃川支流濁海川の右岸に沿ひ、北魚沼郡小千谷町の西に接す。東部に三〇〇米臺の丘陵起伏し、西部河岸に平野あり。農業を主生業とし米の產最も多く、次いで繭を產す。省線信越本線山目驛へ約六粁、小千谷町へ八粁、いづれも縣道通じバスの便あり。古くは小國郷の內とす。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の砌この地にて御小休遊ばさる。

【中里村】 三重縣伊勢國員辨郡の北部。東南の一部は河下宮町の西北に隣り、西は白瀬・立田二村に接し、北は岐阜縣美

老郡時村と昇す。南北に細長く面積一八方粁餘。愛老山脈北部の西麓に當り北半は低き山地なし南端部は伊勢平野の西北端部に屬す、員辨川の支流相場川北境に出でて中部を南下しその谷と南部の平地に耕地よく拓け、米・麥・茶等の農産の外、養蠶も行はれて繭を出す。南部には阿下喜町より北方岐阜縣關ヶ原方面へ通ずる縣道走りバスの便あり。

【中里村】長崎縣肥前國北松浦郡の南部。東南は佐世保市の西北部に接し、西南は相浦町に隣る。面積約九・五方粁。南北兩境には低き山地あり、相ノ浦川東北隣骨瀬村より來りて中部を西流し相浦町に出づ。この川沿ひには低地ありて田畑拓く。石炭を產しその產額最も多く農產之に次ぎ、また工產・畜產あり。平戸街道中部をほぼ東西に走りバスの便あり。省線松浦線また中央を通過し、肥前中里驛（大正九年開設）を置く。村內の東瀨寺共同墓地內に寶筬印塔あり。松浦氏一族の建立と傳ふ。〔新中里鐵山〕本邦重要炭山の一。中里村に屬し、骨瀬・大野兩村に跨る。炭層は數枚あれども最厚〇・七米に過ぎず、炭質は無青炭にして粘結性强く、且つ佐世保市の港外にあり、佐世保鐵道及び相ノ浦川によりて相浦港に出すに便利なるを以て、昭和十年度の產額八七、九五八瓲、六一・三萬に達す。

**ナカサト　中郷**

【中郷村】福島縣磐城國田村郡の西部。三春町の南に接す。阿武隈山脈の西斜面に屬し、全村概れ高原性丘陵地をなし、大滝根川は中部を西流す。米・繭・葉煙草・馬等を產す。道路は村の中央部を南北に通じ北方三春町に至る。村內の三春滝桜は紅枝垂櫻にして四百年來の古木、齡の高さ約九米、根本の周圍約一〇米、指定天然記念物たり。

【中郷村】長野縣信濃國上水內郡の東北部。千曲川支流鳥居川に沿ひ、長野市の北方約七粁。北隅に斑尾山（一三八二米）聳立し南へ傾斜してなだらかなる高原となる。鳥居川は西南部を東南に流れて篠の平地を作る。米・麥・繭の產多し。省線信越本線は鳥居川に沿ひ牟禮驛（明治二十一年設置）を置く。國道また西部を北に走る。本村ほぼと牟禮村と稱せしが明治二十三年中郷村と改稱せり。弘化四年の地震には被害甚しく、牟禮宿は百五十軒皆潰れ十七軒焼失して焼死者十人、外に壓死者百七人ありきと。〔牟禮神社〕大字牟禮に鎮座。郷社。祭神、健御名方命。口碑によれば、初め横吹山に鎮座せしを、壽永二年兵火に罹りしを以て字古宮に移す、領主鳥津氏の鎮守たりきといふ。のち現地に移る。例祭九月十八日。

**ナカザト　中郷**

【中郷村】靜岡縣伊豆國田方郡の西北部。狩野川の左岸。三島町の南部に接し、西は駿河國駿東郡と界す。狩野川沖積平野に屬し、東北部に箱根山の末端なる一〇〇米前後の丘陵僅にあるほかは概れ平坦なり。狩野川本支流に灌漑され水田拓け米の產額多く、次いで畜產・工產及び蠶絲の產多し。社線豆鐵道の大場驛（明治三十一年設置）あり。二條の縣道南に走り、三島町・修善寺町へ自動車の便もあり。

【中郷】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の一町四箇村と共に廢しその地域を以て矢作町を建つ。

【中郷村】三重縣伊勢國一志郡の東南部。松阪市の西方約一〇粁。東北は嬰地村、西南は宇氣郷村に續く。面積約二五・五方粁。西南部は境上に聳ゆる矢頭山（七二三米）の山地、東南部は堀坂山北嶺の山地にてやや高峻なるも北部と東北境は低下して百米臺の臺地性山地となる。雲出川の支流中村川宇氣郷村より東北に流れて村の中部を貫きその沿岸に幅狹き平地あり餅地拓け、傾斜面は桑畑をなす。米・麥・繭を產し、また工產あり。中村川の谷に沿ひて縣道通じ交通不便ならず。

**ナカサト　仲里村**　沖繩縣島尻郡の西方海上にある久米島の東半部を占む。面積約四三方粁。久米島が火山島なるをもつて、村の大部分は古き火山岩より成り、北部に島の最高なる字江城岳（三三六米）あり、南部には阿良岳（三一一米）聳ゆ。この山麓を圍みて隆起石灰岩の臺地及び沖積土の低地あり田畑少からず、開析谷は處々に堰止されて潤澤つくられ灌漑の便よろしきをもつて、傾斜地といへども耕作によく利用せらる。海岸には奥武島・オーハ島あり、また珊瑚礁の發達著しく、オーハ島の北より東へ約一〇粁に亙る柳神岬あり、西南岸には儀間の泊港あり、その附近には褶礁の發達を見る。山地には檜・柯子・蒲葵・沖縄松等の有用樹の密林あり。農業盛にして米・甘藷・甘蔗の產多く、副業として蠶及び久米絣の紡織行はれ、其他砂糖・木炭・鬚蘭等を主要物產なす。聚落は儀間・銭・謝名を主なるものとし、儀間には近海航路の汽船又は發動汽船の寄港あり。〔仲城城址〕大字字江城にあり。城主仲城按司は伊敷索按司の次男にて威勢甚だ盛なりしが、中山王の攻むる所となり、按司は一幼兒を堂の比屋に託して城を逃る。のち中山王按司の子を立てて城主とせしも比屋これを殺して城を奪ひ詐りて中山に入覲す。かくて眞謝泊より歸島せしが城門に入らんとする時馬蹄きて倒れ、比屋は自ら帶ぶる所の劍に傷つきて死す。のち里人仲城按司の靈骨を掛拜して神となす。〔狩武那覇城址〕大字眞謝の西南山中にあり。笠末若茶良の居城たり。若茶良は伊敷索按司の第四子にして君眞物の神出現して之を守護せしを以て女按司これを嫉み其生母たる夫人を栗國島へ配流し當城を攻む。若茶良父に抗するに忍びず竈を避けしも、栗國島に母を迎へに行く途にて女按司のために殺さる。〔伸





里番所址〕大字前浦にあり。漁落區在番奉行の詰所にして、番封使の船久米島神に碇泊すること屢々なるを以て、丈餘の石垣を繞らし、中に堂々たる建築を營めり。當縣後番所（今の村役場）に充當せられしも大正十四年村役場は移轉し今は外壁のみ遺存す。〔菩薩堂〕大字眞謝にあり。尙穆王の册封使渡琉の鎔夾、風候不穩のため眞謝港外にて破船す。その際村民これを救ふ。副使周煌これが謝恩のため一宇を建立し天妃を勸進す。即ちこれにして乾隆二十一年周煌撰文の碑石一基及び額字あり。〔阿嘉ノ鐵水〕大字阿嘉にあり。飛瀑十丈の懸崖より直下し、冬季海面より吹き來る疾風に煽られて瀑水逆上し、飛沫宛も鐵の如きを以てこの名あり。

**ナカサバイシ　中結石村**　新潟縣越後國刈羽郡の中部。鯖石川に沿ふ。東西に四—五百米の山地を負ひ、略中央を鯖石川北流し、沿岸に平地開かる。米作を主とし次いで養蠶行はる。鯖石川左岸に沿ひ縣道通じ、省線信越本線安田驛へ約六粁、縣道バスの便あり。

**ナカサロマ　中佐呂間**　省線湧網西線の一驛（昭和十一年設置）。北海道北見國常呂郡佐呂間村にあり。

**ナカサワ　中澤**

【長澤村】青森縣陸奥國三戸郡の東南部。八戸市の西南約一二粁。南は岩手縣に接す。北上山地の北部に位し、南境は海拔約三百米にして北方に傾斜し、新井田川の一支流北部を東流す。全村概して山地をなす。米・小麥・粟・稗・林檎等を產す。道路は南部より東北部に通じ東北方八戸市へは車馬の便あり。北方東北本線北高岩驛へは約八粁。

【中澤】武藏國（埼玉縣）の古地名。和名抄に那珂郡中澤郷あり、その地は今の兒玉郡秋山村の邊にこれを擬す。

**ナカザワ　中澤村**　長野縣信濃國上伊那郡の南部。天龍川左岸に沿ふ。伊那町の南約一〇粁。東南の一部は山脈を以て下伊那郡と界す。東境戸倉山（一六八一米）を初め村內山岳重疊して平地に乏し。略中央を天龍川の一支流西北に流れ西境を南流する本流に合す。流域に稍平地あり水田拓かる。農・蠶業を主とし、米・麥・繭の產あり。東部聚落は林業・製炭に從事する者多し。對岸赤穗村より縣道來り更に數條の里道となり村內各部落を結ぶ。社線伊那電鐵赤穗驛に最も近く約四粁の道程、交通さして便ならず。この地は、近世は中澤郷と稱せし地なり。

**ナガサワ　長澤**

【長澤】山形縣最上郡舟形村の大字。陸羽東線の長澤驛（大正四年設置）あり。

【長澤村】新潟縣越後國南蒲原郡の南部。信濃川の一支五十嵐川の南岸に居り三條市の東南約四粁。南は古志郡下鹽谷村に接す。西部に三百米餘の山地連互し、東南境にも三百餘米の山地あり、概れ山地をなし北境を西北流する五十嵐川及び中部を北流する支流沿岸に低地ありて耕地よく開く。米・繭を產す。縣道は五十嵐川に沿うて通じ、中部を南下する街道を分ち、また省線彌彦線は北地に終り大浦驛・越後長澤驛（昭和二年設置）を置く。

【長澤村】愛知縣三河國寶飯郡の西部。赤坂町の西北に接し、北より西へかけては塩田郡と界す。北部及び南部に四〇〇米前後の丘陵横ばりて村內に傾斜し、略中央を東南に流るる音羽川の谷に臨む。河岸に多少の平地あり耕作行はる。米・繭・蠶糸・鷄卵等の產あり。東海道及び社線名古屋電鐵谷沿に貫通し、愛電赤坂驛に近し。この地は和名抄、寶飯郡宮道郷の內なるべし。長澤松平氏の出でし所にして、大字關口には清和源氏、今川氏の一族、關口氏を稱す。今川氏の將、糟谷宗益・小原鎭吉等當國を抑へしが、永祿四年德川家康に陷るる所となる。

**ナカサンジ　中山路村**　和歌山縣紀伊國日高郡の東南部。田邊町（西牟婁郡）の北約一五粁。東は上山路村、北は下山路村、南は西牟婁郡栗栖川村・秋津川村に各隣接す。南境には小分水嶺なる果無山脈西端部の山嶺連り、虎ヶ峯（七九〇米）等の九百米に及ぶ山地あり。日高川は山間を縫ひ曲流をなしてほぼ西北に流れ、谷深くして平地乏し。米・麥・繭を產し木材も出す。街道は日高川に沿うて通ずるも交通便ならず。上・下山路村と共に中世の山地庄にして玉置氏の一族山地氏の所領たり。

**ナカシオダ　中鹽田村**　長野縣信濃國小縣郡の北部。上田市の西南約三粁。東南は東鹽田村に、南は西鹽田村に隣接す。上田盆地の西南緣に位し、西・南部に丘陵連るも他の地は殆ど皆低平。千曲川の一小支は東部を北流して灌漑の便よく、西・南部に桑園廣く、養蠶を主とする農業經營をなす。縣道は中部を貫通し、社線上田溫泉電軌は東・南部を通じ中鹽田驛を置く。

**ナカシダ　長信田村**　秋田縣羽後國仙北郡の東南部。角館町の東南約四・五粁。東境には奥羽の主分水山嶺連り、藥師嶽（一二一四米）・甲山（一〇一三米）・青シカ山（一〇二〇米）あり、北境にもまた白岩嶽（一二三〇米）・小鷹山・扇形山（八四四米）、南境に黑澤御臺山（八三三米）聳立す。傾斜は比較的急にして西部の横手盆地の東北邊低地に連る。東境山地に發する桧木川は北部を、川口川は南部を共に西に流れ、西部低地を潤す。山麓には雜木林あるも低地はよく開け、桧木川の上流に桧木鑛山、川口川の上流に川口鑛山あり。山麓及び溪流に沿うて街道通ずるも交通便ならず。

**ナガシノ　長篠村**　愛知縣三河國南設樂郡の東部。三輪川右岸に沿ひ、東は

川を境に八名郡と接し大野町に對す。北方に聳立する寶來寺山（六八四米）の東南山裾を占め、全村山林多し。三輪川は東・南境を西南に流れ西境を流るる宗狭川と合し豐川となり南流す。河岸は概れ狹谷をなす。桑蠶最も盛にして繭の産多く、次で米・麥の耕作行はる。社線鳳來寺鐵道、三輪川に沿ひて北上し、長篠古城址驛（大正十三年設置）・鳳來寺口驛・三河大野驛・湯谷驛・三河槻原驛（昭和四年設置）を置き三河川合驛（三輪村）にて社線三信鐵道に連絡す。ほかに村内鳳來寺口驛より北に分岐して田口町に至る社線田口鐵道もあり、交通概して便なり。此地は有名なる長篠戰の古戰場として著名なり。天正三年、武田勝頼、當時德川家康の有たりし此地の長篠城を圍み、村の北部なる醫王寺山に陣す。家康、織田信長の援を得て當時新兵器たる鐵砲を利用し武田勢を潰走せしむ。此戰は戰術史上一新紀元を劃したるものと云はる。〔長篠古城址〕指定史蹟。大字長篠字市場、三輪川と宗狭川との交流點にあり。三方は自然の懸崖をなし、背面には山を負ひし要害の地にして、本丸址には宏壯なる土壘を存し、その周囲には濠址あり。本丸の西北に彈正郭あり、土壘址を存し、本丸の東南には野牛郭址あり。その他帶郭、巴城郭等の遺址には何れも濠址あり。城は永正五年今川氏親の築く所にして、その後武田氏の有となりしが、信玄歿後、德川家康これを攻略し奥平信昌を置けり。天正三年五月、武田勝頼來りて攻奪せんとせるも、家康諸將を率ゐて出陣し、織田信長も來援せしもつて勝頼敗戰し、圍を解きて甲州に歸れり。本丸址の土壘には長篠城址の碑あり、附近には奥平方の忠臣鳥居强右衛門墓等あり。〔馬背岩〕指定天然記念物。本村及び八名郡七郷村に亙る。第三紀の集塊質凝灰岩を貫きて三輪川の河床に其の全長を露出せる流紋岩の岩脈なり。東北より西南に向ひて走り、長さ約一二二米、幅二・九米乃至六・三米、高さは平水面上最高七米に及ぶ。此種岩脈の最も標式的のものなり。

**ナカシベツ　中標津**　標津線の一驛（昭和九年設置）。北海道根室國標津郡標津村にあり。

**ナカシホロ　中士幌**　北海道十勝國河東郡士幌村の大字。士幌線の一驛（大正十四年設置）。

**ナカシマ　中島**

【中島】茨城縣鹿島郡にありし村。大正十四年息栖村と改稱す。古く和名抄に鹿島郡中島郷とあるは此邊の地なり。

【中島】相模國（神奈川縣）の古地名。和名抄に大住郡中島郷あり、その地今の中部城島村の邊か。

【中島】信濃國（長野縣）の古地名。和名抄、水内郡に中島郷あり、その地今詳ならず、上水内郡神郷村・鳥居村の邊か。

【中島（郡）】美濃國（岐阜縣）の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もとは尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしため、天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建てて中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽栗郡と合して羽島郡を建つ。

【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。

【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地部は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工産として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ國道あり。省線東海道線同じく東部を走り、此線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稲澤町・萩原町・眼父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の一一六三人之に次ぎ最低は長岡村の三四八人に及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次陸地となり、やがて郡となりしものなるべし。和名抄は奈加之萬と註し美和・神戸・拜師・小塞・三宅・曹部・石作・日部・川埼の九郷を管す。大正十二年木曾川を以て濃尾の境とするや中島の一部美濃に入り今日に至る。

【中島】愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年他の一町六箇村と共に廢し稲澤町を置く。

【中島】尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に海部郡中島郷あり、その地今の海部郡大治村の邊なるべし。

【中島村】三重縣伊勢國度會郡の南部。宇治山田市の西南界より西南約一八粁。熊野灘北岸に臨む。北境に山地東西に連り、その山脚南方に延び、西境の高山（四九七米）、東南境の局ケ頂（三一一米）となり、中部は熊野灘へ突出して半島狀をなし、西隣鵜倉村南部の半島部と相對し、其間に恵柄灣を抱く。灣岸小岬角の間に處々に小低地あり米・繭等を産するも其額多からず。漁業榮えて水産額多し。道路は恵柄灣北岸を東西に走り、中部より岐るる一路は北境野見坂を越え宇治山田市へ通じ定期バスあり。此地は和名抄、奈賀郡道湯郷の内にして、いま大字に道方の名あり、蓋し郷名の轉訛なるべし。

【中島】大阪府西成郡にありし村。大正十四年大阪市東淀川區に入る。

【中島】廣島縣廣島郡にありし村。大正二年、他の四箇村と共に廢し、その地域を以て肇家村を置く。





【中島】流前國（福岡縣）の古地名。和名抄に郡珂郡中島郷あり、その地今の福岡市の博多邊に當る。

【中島村】熊本縣肥後國上益城郡の中部北偏。御船川の水源地を占め須町に北接す。東北部は阿蘇郡久木野村と界す。面積七三・五方粁の廣きに亙るも阿蘇外輪山の西南斜面にて、東北境の地藏峠（一〇九〇米）より西南方に傾斜する大矢野の一部にて殆ど原野をなす。南境東西には間谷山（約八百米）の山嶺連り、その北に緑川の支流御船川西流す。耕地少きも米・麥を産し、原野には牧畜も行はれ、山地よりは木炭を産す。御船町より須町に通ずる縣道ありて自動車を通ず。

【中島村】熊本縣肥後國飽託郡の西部。熊本市の西方約四粁にあり、半は白川下流との間に中原村の小村を隔て、西は神新村を挾みて有明海に近し。面積一・四八方粁の小村なり。白川沖積地の一部にて村内平坦、耕地全般に發達し米・麥・蔬菜等を産す。中原村・神新村と共に組合村を成し、役場を本村に置く。

**ナカジマ　中島**

【中島村】埼玉縣武藏國北埼玉郡の中部北偏。羽生町の東方にて間に手子林村の一部を挾み、面積僅に二・四四方粁の小村なり。全村平地にて古利根川の一支流れ水田・畑地をなし米・繭・麥を産す。縣道羽生町に通じ自動車の便あり。

【中島村】石川縣能登國鹿島郡の西南部。七尾灣西灣に臨む。西南部に二條の小流東に流れ、東南部は海に臨み此沿岸に平地ありて水田拓く。他は概れ山林なり。農業を主とし米・麥を産し、漁業も行はる。鳳至郡穴水町・和倉町・富來町等へ縣道通じバスの便あり。

【中島】石川縣能美郡にありし村。明治四十年他の二箇村と合し川北村を建つ。

**ナガシマ　長島**

【長島村】岩手縣陸中國東磐井郡の西部。北上川の東岸に沿ふ。西は北上川を隔て東部には三—五百米の山地あり、東北境に郡内第二の高山なる東稲山（五九六米）、北境に駒形山（四三〇米）、南境に觀音山（三二五米）・東岳峠あり。山地は概ね花崗岩より成るも南部の觀音山地域は緑泥片岩にて石骨を露はす。裾野は表面壌土なる所あるも赤粘土多く、西部北上川沿岸の低地は表土深く砂質壌土又は壌土にして肥沃なる耕地をなす。農家戸數は總戸數の九割を占め、田二九二町、畑四四四町。一箇年の總生産額、三四・二萬餘圓、一戸當約五九七圓となる。米・麥・麻・大豆・菜種・繭・葉煙草等を産し、米作は北上川による水利便ならざるも大小の溜池多數ありて灌漑に便す。また麻は本村の特産物なり。本村は三方山に圍まれ且つ大河を控へしを以て交通不便なりしも其後綾坂隧路除かれ、更に昭和十年北上川の架橋成り、東南隣舞川村に至る東岳峠（二九五米）の開鑿、縣道河東線の編入等ありて面目を一新せり。村内に佐藤庄司屋敷址あり、源義經の郎黨佐藤繼信・忠信及びその父基治の館なりと。

【長島村】三重縣伊勢國桑名郡の東部。木曾・長良兩大川に挾まれ中洲長島の北東部を占め、南は伊曾島村に、西北は楠村に接し、西南は長良川・揖斐川下流を隔てて桑名市と對し、東北は木曾川を境に愛知縣海部郡彌富町と隣る。面積一〇方粁餘。地形概ねて低平にして兩大川の河岸は堤防にて包み、所謂輪中をなし乾田・畑地よく拓けたり。米産額多く、繭・麥・鶏卵・鶏等も出す。外に水産あり。東海道（國道）中央を横斷し、省線關西本線またその北方を貫きて長島驛（明治廿二年設置）あり。文明年中、伊勢重晴此地に據り諸處に砦を設く。永祿中、服部友定ここにありて北畠氏に屬す。元龜二年願證寺四世證意、本願寺光佐に應じ近國の門徒を集めて一揆を起し織田信長に抗す。元龜二年以來信長これを攻むること三次、天正二年遂に三千餘を殺戮して平定せり。世にこれを長島一揆と稱す。平定後信長は瀧川一益をしてその營址に築かしむ。これを長島城といふ。織田信孝と信雄の爭ふや、一益、信孝に寄せしも賤ヶ岳役に柴田勝家敗れ、一益また秀吉に降り長島を織田信雄に獻ず。慶長五年、福島正則城主となり、次で菅沼定盈居る。元和元年、桑名藩に參治せしめ、慶安二年松平良尚移り、元祿十五年增山正弼受封し三萬石を食む。子孫世襲して明治維新に至る。〔願證寺〕大字又木にあり。貴宗本願寺派。永正年中本願寺蓮如の六男蓮淳之を創せしが、退隱の後その次子實慧をして主たらしめしを以て之を開山とす。爾來本願寺連枝として寺勢旺なりしも、一向一揆の際信長の兵火にかかり爾後退轉す。今は連枝の血統斷絶し普通の末寺として待遇せらる。

【長島町】三重縣紀伊國北牟婁郡の北東部海岸、熊野灘北岸の小灣に臨み良泊をなす。面積僅に五・九方粁。大部分は山野ちなるも北部の宗羽川沿岸には小低地開く。米・麥・繭等の産あれど町内需要の米・麥の大部分は移入に俟つ。他の移入品に清酒・煙草・孝麻製品・揮發油・石油・紙・麥酒・麺類等ありて價額約二百萬圓に近く、また移出品には木材・木製品・木炭等（約六十萬圓）及び乾魚・鮮魚介・鰹節等の水産（約廿五萬圓）、外に蜜柑等あり、其總額約百萬圓に上る。古く熊野街道に當り西南方相賀・尾鷲・木本・新宮方面へバス通じ、また省線紀勢東線通じて紀伊長島驛（北隣二郷村地内）に近く海運の便もあり。古くは和名抄、志摩國英虞郡二色郷に屬す。長島御厨とも云へり。明治三十二年町制を施行す。

【長島】廣島縣安藝國豐田郡中野村に屬する島、また大崎長島ともいふ。大崎上島の北に位置す。山がちの小島にして傾

斜地には柑橘類を栽培し、東南海岸の砂濱地には鹽田廣く拓かれ製鹽行はる。

**ナカシヨー　中庄村**　岡山縣備中國都窪郡の南部。倉敷市の東北隣。南は早島町に接す。南部には百米餘の丘陵連るも他の大部分は平地をなす。岡山平野の西邊に位し田畑よく開け、米・麥・繭を產し、米の裏作には蘭草の栽培行はれ、梨・酒類をつくる。縣道は北部をほぼ東西に貫通し、省線山陽本線またこれに並走し中庄驛（明治五年設置）を置く。この地は和名抄、都宇郡撫河郷の内にして、中世は一に別府莊と云へり。

**ナカショー　中莊**　【中莊村】石川縣能登國羽咋郡の南部。羽咋町の南方約九粁、寶達山（六三七米）の西北山麓を占め東西に細長し。東半は山林多く西半は平地にして水田拓かる。米を主として繭も多少產す。省線七尾線及び縣道村の西部を南北に貫き寶達驛に近し。古くは和名抄、羽咋郡大海郷の内とす。「光照寺」大字上田にあり。眞宗大谷派。淸和天皇の御宇高野山弘融の開祖。當時七堂伽藍並に七坊を具備し、北陸諸州の眞宗を統べしが、仲恭天皇の皇子義懷親王四世の孫義勝本寺に入るに及びて眞宗に改む。

【中莊村】奈良縣大和國吉野郡の北部。吉野川に跨り吉野町に東接す。面積約一四方粁なるも吉野山の東北斜面を占め、南境に於て八五八米の高さを有し、村內は略ど到る處山地にして低地に乏しく、ただ北部の山麓を蛇行する吉野川西北流し、その河岸と處々の支谷とに小低地あり少量の米・麥を產し、外に繭・木材等を出す。伊勢街道は上市町より來り吉野川北岸に沿ひ東隣國樓村に出で、東熊野街道之より岐れて東南隣川上村に通ず。

【川上廬遮神社】大字樫尾（もと廬遮に作る）にあり。村社。祭神、天照皇大神・忍穗耳命・瓊瓊杵命。式內小社。新年の官幣の外一口を加へらる。俗稱、大藏明神。例祭、六月十日・九月一日。

**ナカジヨー　中條**　【中條町】新潟縣越後國北蒲原郡の北部。胎內川の左岸に沿ひ、省線羽越本線に沿ふ。東境には櫛形山脈連亙し、北境を胎內川西流す。平地は西北半に開け、聚落は中部の山麓に稠密なり。平地には水田多く繭產便にして米の產多し。本郡北部の中心地にして附近農產物の集散地、商業繁盛なり。村の略中央を南北に省線羽越本線貫通し、中條驛（大正三年設置）あり。東部山麓に沿ひて國道走り、バスも通ず。中世は奥山庄の內とす。鎌倉幕府の時、相州三浦氏の一族中條郷の所職を賜はりて來住すと。また和田太郎義盛の孫義資初めて中條郷の地頭となり、子孫累世中條氏とも稱したりと。中條山は形狀雖疑に似たるを以て鳥坂山ともいふ。その麓に羽黑の觀音山とて城跡あり。土人は板垣御前の城跡と傳ふ。蓋し城資盛の據守せる鳥坂城これとす。

【中條村】新潟縣越後國中魚沼郡の北部。信濃川の右岸。十日町の北に接し、東は七〇〇米前後の山脈を以て南魚沼郡と界す。東部山地は緩かなる臺地狀を呈して西に傾斜す。信濃川は西境を北流し河岸に平地あり。聚落は西部山麓に密集して農業を主生業とし、米の產多し。次いで繭、また傾斜地は疏れ山林にして薪炭を出す。省線十日町線魚沼中條驛（昭和二年設置）あり。此地は大井田郷の地にして越後野志に「大井田郷有九村」と見ゆ。大字四日町は大芦田郷の主邑なりしより近世大井田と復稱せしが幾何もなく中條村に併合せらる。此地は上州新田黨の大井田氏の居邑たりし地なりといひ、大字四日町に天王社・神宮寺・觀音堂・十王堂等ありて如何にも舊邑たりしを物語るも此等寺社の緣起不詳なれば大井田氏の如何なるかを知らず。されど吉野時代の勤王家にして新田義貞と共に諸處に轉戰せし大井田經隆（贈正四位）及びその子氏經（贈從四位）は共に此地の人とす。

**ナカショコツ　中渚滑**　渚滑線の一驛。大正十二年設置。北海道北見國紋別郡渚滑村にあり。

**ナカシレトコ　中知床**　【中知床半島】單に知床半島とも呼ぶ。樺太島の東南端部を占め、鈴谷山脈の東方宮內湖群を隔てて略ぼ南北に走る知床山脈を脊梁とし、遙か西方に、等しく南に突出する能登呂半島との間に亞庭灣を抱き、東はオホーツク海に臨む。北端の愛郎岬より南端の中知床岬まで約一〇〇粁、北部は愛郎岳（五〇五米）、南部は知床山（六六七米）を最高とし、高距三—四百米の高原狀の丘陵起伏するに過ぎざるも山脚海に迫りて海崖をなす所多く、海岸線は顧る單調にて東岸に岩別・乳根の僅に泊地を提供する程にて、平地は殆ど無く、漁獲も不振なるため、交通不便を極め、人煙頗る稀にて、外知床にては驛逓所と指定されし岩別すら僅に數戶に過ぎず。但し內知床（亞庭灣岸）の北部は近年開拓稍進み、農業及び漁業行はる。中部の岩別川上流には美田炭坑あり。

【中知床岬】樺太東南端の岬。中知床半島の末端にして附近は顯著なる海崖を成し、餘勢は岬端に海馬岩を分立せしむ。此の附近は恋瑳兩海流の衝突するにより濃霧の發生甚だし。

**ナカジン　中臣山**　兵庫縣揖保郡揖保村大字中臣にある小丘。粒丘と稱す。この山名は萱原志摩乎命の故事に因ると傳ふ。ここに式內名神大社中臣印達神社あり。揖保里・揖保郡の名この山に起るといふ。播磨風土記「粒丘、所以號粒丘者……萱原志摩乎命……先欲占國巡上到於粒丘而飲之、於是自口落粒。故號粒丘。其丘小石皆能似粒」

**ナカス**　【中洲村】長野縣信濃國識訪郡の中部。識訪平の中部を占め、土地平坦肥沃、西南境を宮川西北流し灌漑の便よし。村內疏れ田地にして米の產多く、麥・繭等も多少出す。縣道東南部を掠め、上識訪町へバスの便あり。この地は和名抄、識訪郡神戸郷の內なるべく、往昔より識訪上社あるを以て知らる。もと神宮寺村と稱せしが、いま中洲村と改稱す。（識訪神社（南方刀美神社））上・下社に分れ、上社を本社とし下社は本郡下識訪町に坐す。官幣大社。祭神、健御名方宮命。天祖天照大神葦原中國を平定せんとし健御雷命を出雲國大國主命の許に遣はして其領地を獻ぜしめ給ひしに、大國主命及び長子言代主命等は直ちに命を奉じたれど、獨り其次子健御名方命は服せず。されど遂に敵せずして敗走し、健御雷命これを追ひて信濃國識訪に到る。健御名方命卽ち軍門に降り此地に永住を誓ふ。これ此地に健御名方命を祀る所以なり。鎭座の年代は詳かならざるも神氏の奉齋にかかり、顯る古社と考へらる。早くより世に著はれ、神戸七戶を奉られ、神階從一位に昇り、延喜の制名神大社に列し、當國一宮として尊敬せらる。のち村上天皇天曆二年正一位を奉る。延曆年間坂上田村麻呂東夷征伐の時、識訪明神の靈驗ありしにより、田村麻呂凱旋後、天聽に達し識訪郡の田畑・山野各千町及び毎年稻八萬四千束を祭料に充てらる。當社は狩獵神・農業神として崇められ、古へより神田神地の寄進多く、江戸時代に朱印領千石を附せらる。社寶中太刀二口（一は無銘、一は銘忠吉）は國寶なり。例祭、四月十五日。

【中洲村】滋賀縣近江國野洲郡の西北部。琵琶湖に面す。東南方河西村を經て野洲町の北部に至る。野洲川の分流間に挾まれたる沖積地を占め地形低平にして西部湖岸近くに繁昌池その他の溜湖あり。村內到る處乾田拓け水利の便よく、米產を主として繭・綿肥用作物・桑葉・麥・菜種等の外に茶の特產あり。琵琶湖岸には水產少からず。野洲町へはバス通ず、湖上の便また良し。（下新川神社）大字中津川に鎭座。郷社。祭神、豐城入彥命・小稻輪命。三代實錄に仁和元年九月正五位上を授け給ふと見ゆ。延喜の制小社に列せらる。例祭、五月五日。

【中洲村】岡山縣備中國都窪郡の西南隅。倉敷市の西に位し、北は菅生・清音二村に、西及び南は淺口郡西阿知町に隣る。南北に狹長なる村形をなし、面積一〇・四六方粁。北隅に高さ一—二百米の丘陵起伏する外は全村低平なる耕地をなし、東高梁川の水利よろしきを得て農產多し。米・麥の產多くまた蘭草・繭・生柿等の產も少からず。最近は麥稈眞田・綿糸紡績等盛に營まる。村の中央を東西に省線山陽本線通過す。西阿知驛へ數百米、倉敷市へ二粁、何れも自動車の便あり。鎭道の北側を縣道並行して通過す。

**ナカス**　中須村　山口縣周防國都濃郡の東部。北は須金村、西は須々万村、西南は米川村と界し、南は熊毛郡、東は玖珂郡と隣る。東北より西南に延びし菱形の村にして長軸一三粁、幅五粁、面積三七・五六方粁。東北部に數百米の山脈縱走し東南部にも山岳重疊して中央に傾斜し、村內丘陵起伏して平地に乏しく、中央部に僅に耕地ありて米・繭等を產し、山地よりは木炭を出す。西部を南北に縣道通りて北方須金村と南方下松町とを連絡しバス通ず。

**ナカズ　中洲**　東京市日本橋區の町名。江戸時代岡場所の一。安永元年大川の新大橋南方に埋立地を築き同四年に家居が出來て岡場所となり、納涼地を兼ね、夏季は繁昌せり。寛政元年十月埋立地取拂はれ、隨つて岡場所も廢止さる。當時三股富永町といひ、明治二十一年埋立てられて中洲町となる。當世繁榮通寶「吉原のぼりつよき、兩ごく中洲のすゝみは三國一なり」世說新語茶「ほんに今度のつき出しはうつくしいげなの。アイなんでも中洲の硝子を遣といふ評判さ」

**ナガス　長洲**　【長洲町】熊本縣肥後國玉名郡の西部。大牟田市の南方約七粁。北と東とは清里村、東南は腹赤村に接し、西は有明海に面す。面積僅に四・九二方粁。地勢平坦にして畑地多し。海岸は平直なり。中央西岸縣道に沿ひて市街地發達す。本町は農產の外、漁業盛にして殊に鮫網漁を主とし、その漁獲方法の研究行はれ、新漁網・新漁具の實地試驗を重ね良結果を擧げつつあり。その他海老等の漁獲物は遠く東京方面に輸送さる。また繭市場・製綿會社等ありて漁網の製作盛なり。北方大牟田市・東方高瀨町方面へバスの往來あり。省線鹿兒島本線長洲驛（明治二十四年設置）は東隣清里村に置かる。古くは和名抄、玉名郡石津郷の內なるべし。もと長洲にも作り釋日本紀に玉名郡長清村と見ゆるもこの地とす。

【長洲町】大分縣豐前國宇佐郡の北部。驛館川口の右岸を占め、北は周防灘に面し、南は宇佐町に接す。面積五・二方粁餘。豐前平野の一部にして土地平坦、田畑よく拓く。米・麥・野菜等の農產及び水產あり。町は川口の東岸に發達し、西岸柳ヶ浦とは橋によりて連る。縣道並に省線日豐本線中央を橫ぎり、後者の豐前長洲驛（明治四十四年設置）あり。明治二十四年町制を布く。（長洲神社）大字長洲に鎭座。郷社。祭神、加茂別雷命。社傳に聖武天皇天平元年山城國愛宕郡上賀茂神社よりの勸請に係るといひ、古來當村の產土神として崇敬厚し。

【長洲】鹿兒島本線の一驛（明治二十四年設置）。熊本縣玉名郡清里村にあり。

**ナガス　長栖**　筑後國（福岡縣）の古地名。和名抄に御原郡長栖郷あり、今詳ならざるも三井郡太刀洗村・本郷村の邊か。

**ナガス　長須村**　茨城縣下總國猿島郡の南部。岩井町の西隣にて利根川の北岸に位す。全村平地にて北境より東境にかけて鶴戸沼あり。南部はそれに續く沼地なる。農業を主とし米・麥・蜀黍・粟を主産し、特産物に蒟蒻芋ありて年產數萬圓あり。岩井町に村道を通じ、利根川は水運の便あり。延喜式に下總國長洲馬牧とあるはこの地なるべし。「阿彌陀寺」眞宗大谷派。屋敷山と號し、惠佩の開基なり。その宗派は三論・天台を經、十四世安了の親鸞に歸依せるより現宗に改めらる。

**ナカスガヤ　中菅谷**　水郡線の一驛（昭和十年設置）。茨城縣那珂郡菅谷村にあり。

**ナカスジ　中條村**　島根縣隱岐國周吉郡島後の中央、西郷町の西北に隣り、海に接せざる內陸村をなす。面積三九・五三方粁の大村。北境に島後の高峰なる大滿寺山（六〇八米）・葛尾山（五九八米）・時張山（五二二米）の山嶺連り、西境にも横尾山（五七三米）あり、山地の水は集りて八尾川となり東南に流れ西郷灣に注ぐ。八尾川流域には、耕地よく開け、米・雜穀の外に用材・木炭を出し、縣立農事試驗場あり。街道は八尾川に沿うて通じ西郷町に達す。この地は和名抄周吉郡新野郷の內なり。村內に隱岐判官清政の小松の故城及び國分寺あり。（國分寺）大字造田にあり。創言宗東寺派。天平平中勅建の國分寺の一にして、當時七堂伽藍悉く並べ頗る壯麗を極めしが、近世衰頽す。當寺は元弘の昔後醍醐天皇隱岐御遷幸の時の行在所たりしこと諸書に見ゆ。

**ナカスジ　中筋**　【中筋】京都府加佐郡にありし村。昭和十一年舞鶴市に編入す。

【中筋村】京都府丹波國何鹿郡の西南隅。山良川の南岸に沿ひ東は綾部町に隣り、西は福知山市との間に天田郡西中筋村を隔つ。面積一四平方粁餘。南境には高畑（四一六米）の山嶺ありて北方へ緩傾斜し概ね山地をなす。たゞ北境を西流する山良川の南岸に狹長なる低地あり、米・麥を產し、養蠶行はれ、山地よりは薪炭を出す。縣道北部を東西に走り、綾部町と西方福知山市を結び、また京都を南に下りて南隣の天田郡上六人郡村に出づるものもあり。省線山陰本線の綾部驛・石原驛（西中筋村）にも遠からず。（八幡宮）大字高津に鎭座。府社。主祭神、應神天皇、配祀神、仲哀天皇外三神。元慶五年、國守橘良基の勸を奉じて創建するところと云ひ、石清水八幡宮の別宮たり。明應九年炎上、聖文龜元年再建成る。室町時代以降、武人の崇敬厚く、福知山領主有馬氏はその一人なり。寛文十年綾部に封ぜられし九鬼隆季また社領・什器を寄せ社殿を修造す。嘉永五年造替の事あり、現社殿これなり。例祭、十月十五日。

【中筋村】兵庫縣但馬國城崎郡の東部。豐岡町の南方約二粁に位し東は出石郡に界す。南部に小丘陵ある外は平野にして豐國盆地の一部を占む。圓山川は西部を村境に近く北流し、北部にて東南方より來たる出石川を合す。米・繭・蔬菜・花卉・食用農產を產し、外に靈製品あり。東北部には豐岡町と東南方出石郡出石町とを結ぶ縣道通じ、南部には東西に走る道路あり。省線山陰本線豐岡驛へは北方約三粁を隔つ。この地は和名抄、氣多郡賀陽郷に當り、大字加陽は郷名の遺稱とす。【東樂寺　大字浩冷寺にあり。古義眞言宗。高野末。奉安の四天王立像（木造）四軀は、寺傳に源信作とするも藤原末期の作に係る。

【中筋村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の北部。野村町の北に隣り、西は奚筋村に、北は喜多郡大谷・藏川の二村に接す。面積二三・八四方粁。北境に宇和山塊の高度六〇〇米以上の山嶺連り、御在所山（六六九米）あり。東南境を宇和川東流し北部山地に發する溪流を合す。村內は山岳重疊して高峻なる地形をなし、平地殆どなし。養蠶業・林業を第一とし製絲も行はる。なほ米・麥等を產するも農業は不振なり。北方、內子町・喜多郡、と野村町に縣道を通じバスの便あり。

【中筋村】高知縣土佐國幡多郡の中部。四萬十川下流右岸の山中に在りて支流中筋川の上流地方を占む。概ね山地に藏はれ北は大塔山（三八三米）を以て大川筋村に界し、東は東中筋村、南は見ヶ森（四五四米）にて平田・三原二村に界す。面積二一・五六方粁。北境・南境に於て高き山地は漸次中央に傾斜し、中央の中筋川流域に東西に亘る平地あり。耕地拓く。繭・米・麥・木材を產す。北部山中に林用軌道あり。中央部を縣道二線通じ、バスの便あり。

**ナカズマ　中妻村**　茨城縣常陸國東茨城郡の西部。水戸市の西方約七粁。西北は西茨城郡の一部と隣す。北部は八溝山脈一支脈の南端をなすも、中部より南部にかけては平地にて畑地・水田ありて米麥を產す。縣道水戸市に通じバスの便あり。省線常磐線は中部を東走するも村內に驛なく、西隣下中妻村に內原驛あり。古くは和名抄、那珂郡安賀郷の內なるべく、中世は中妻庄と稱せらる。

**ナガスミ　長裳村**　香川縣讃岐國綾歌郡の西南部。土器川上流の東岸に位する山村にて、北は岡田・栗熊・羽床・羽床上の四村に、東は西分・造田二村に界し、他は仲多度郡に隣す。面積二八・四三方粁。全村高き三—四百米の山岳重疊して高臺狀の山地をなして西方に傾斜し、そこを流れる土器川の流域に低地開けて耕作行はる。東部山中に用水池あり、土質壓沃にして西部は米・麥・繭等の農產あり。山地は森林よく繁茂し西北部には新古官有林地あり。仲多度郡琴平町に近きも、山間の僻村なるため交通さして發達せず。（西長尾城）大字炭所東にはあり。細川頼之の部將、海崎元高の居城。子孫相繼ぎて據りしが、天正八年長曾我部元親のため滅さる。

**ナカズル　中鶴**　【中鶴炭鑛】福岡縣遠賀郡の中間町・折尾町・香月町・水巻村及び八幡市に跨り本邦重要鐵山の一。鑛區の地質は第三紀層に屬する砂岩・頁岩・礫岩の互層より成り其間に數多の炭層爽在す。炭質は方形に剖れ目を有する褐炭にして粘結性に乏しく筑豐炭田に於ける二等炭とす。昭和十年には塊炭二八八、九九五瓲、粉炭二五六、六八三瓲、切込炭四七、二二二瓲、粗炭四八、六二四瓲、この總價額四八七萬餘圓を出し、また同年六月末には使用鑛夫三、七六三人とす。本炭礦は明治十七八年頃に廣瀬護之の開掘に係り爾來幾變遷、現在は大正鑛業株式會社の經營に屬す。なほ本炭礦名は中間町の字名に因む。

【中鶴】筑豐本線の貨物驛（大正十二年設置）。福岡縣遠賀郡中間町にあり。

**ナカセ　中瀬**　【中瀬村】埼玉縣武蔵國大里郡の北部。利根川の南岸にある小村なり。北は川を隔てゝ群馬縣新田郡の一部と相對す。全村低地にて畑地多く蒟・麥・米を產す。縣道南走して深谷町に通じ、北は利根川を渡りて群馬縣に入り、伊勢崎町方面に通ず。利根川の水運の便あり。

【中瀬村】三重縣伊賀國阿山郡の中央南部。上野町の東、山田村の西に隣る。面積約九・四方粁。東部には高度一—三四百米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支服部川東隣山田村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主生業とし米麥の產多く南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特產物に蒟石材あり。伊賀街道は中央を横斷してバスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便なら字。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡服部郷の內に屬し服織部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。（須智荒木神社）大字荒木に鎭座。村社。祭神、猿田彦命・武內宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鶴鶴命等十四柱。式內社。もと朱智明神・白髭大明神と稱す。伊賀五社の一として領主藤堂氏の崇敬篤し、例祭。十一月二十日。伊賀國分寺址（指定史蹟）。西明寺長者屋敷にあり。友生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土器が周圍に存し、遺瓦を出土す。（長樂山廢寺址）指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。友生街道の南側に沿ひ、山林中に土壇を存し、四周に土塁あり、遺瓦等を發存す。その位置及び規模からして、或は伊賀國分尼寺址とも考へらる。

【中瀬鑛山】↓關宮村

**ナカゼ　中瀬村**　靜岡縣遠江國濱名郡の東北隅。天龍川右岸に沿ふ。東より北へかけて天龍川を境に磐田郡に接し二俣町の南隣をなす。天龍川沖積平野の北部を占め土地平坦なれど、河岸は砂土多く耕作に適せず。水田に乏し。南部には桑園・畑多く蠶業に主力を注ぐ。繭・生糸の產額多く次いで農業・牧畜盛なり。西部を南北に貫通する道路ありて二俣・笠井兩町に通じ、社線遠州電鐵遠州岩水寺驛に近し。

**ナガセ　長瀬**　【長瀬川】福島縣耶麻郡にあり、猪苗代湖に注ぐ最大の河。吾妻火山群及び檜原峠の南麓に發源し、水は一度、檜原・小野川・吾妻の堰塞湖に入り、ついで安達太良山に發する酸川を容れ、下流に氾濫原を造り、猪苗代町の南に於てデルタを形成して湖に入る。流程約三五粁。沿岸に川上・中ノ澤等の溫泉湧出す。この谷は明治二十一年磐梯山の爆發により前記の三湖を生成したるものとす。

【長瀬村】福島縣岩代國耶麻郡の東南部。猪苗代町の東に隣り、東南は安達郡に隣接す。東境に北より一ノ野山（一〇七三米）・川桁山（一四一三米）ありて隣屋岳をなして西方に傾斜し、村の西部は平坦なり。長瀬川は村の西境を南流し、耕地拓け、米・繭を產す。道路は村の西南部を西北に通じ、西北方猪苗代町に至る。之に並行して磐越西線通じ川桁驛（明治三十二年設置）あり、社線耶麻軌道これより分岐して村の西部を南北に通じ、會津下館驛あり。

【長瀬村】長野縣信濃國小縣郡の東部。千曲川支流依田川右岸に沿ひ、丸子町の北に接し、上田市より約四粁東南方に當る。北部・西部に平地開け、東南部は傾斜地なり。平坦地には水田・桑園あり、米・麥・繭の產あり、縣道と社線丸子鐵道並行して依田川に沿ひ、信濃石井・長瀬・共に大正七年設置）上長瀬（昭和九年設置）の三あり。（長津瀬神社）大字上屋敷に鎭座。郷社。祭神、健御名方命・事代主命。古來當村の產土神たり。例祭九月七日。

【長瀬村】岐阜縣美濃國揖斐郡の東部。木曾川の支流根尾川右岸。北より東へかけて本巣郡に界す。揖斐町の東北方約五粁。全村概ね山林にして西より東に傾斜し、東境を南流する根尾川の谷に迫る。平地は河岸及び中央南部に少しくあり。農業・養蠶を主生業とし、米・繭・麥の產あり、林業も行はる。東部河岸を南北に縣道走り、南部を東南より西へ社線谷汲電鐵貫通し、赤石・長瀬・長瀬茶所の三驛、大正十五年設置）を置く。

【長瀬】愛知縣碧海郡にありし村。明治

三十九年、外一町四村と共に廢され、その地域を以て新たに矢作町を置く。

【長瀬】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に鈴鹿郡長瀬郷あり、奈加世と訓ず。其地は今の鈴鹿郡深伊澤村・椿村の邊なるべし。

【長瀬】 大阪府中河内郡にありし村。昭和十二年布施市に編入す。

【長瀬堤】 河内國（大阪府）の西北流して淀川に入る舊大和川の一部を、また長瀬川ともいふ。江戸時代寶永年間、大和川の流路小流殘る。これを曙川または長瀬川ともいふ。往昔、長瀬川の堤防屢々決潰氾濫せしこと史に見ゆ。一例は淳仁天皇の天平寶字六年六月長瀬堤決潰し、早功二萬餘人を發してこれを治めしこと續日本紀に見ゆ。

【長瀬村】 鳥取縣伯耆國東伯郡の北部。東郷池の西北にあり、東は橋津村に南は花見・日下・上北條三村に、西は天神川を隔てゝ中北條村に界し、北は日本海に臨む。面積六方粁餘。東郷池及び天神川口右岸の沖積地の大部分を占め、村内は低平にして水田廣く發達し、米作その他の農作物多し。海岸の砂濱地は桑畑及び果實畑に拓かれて特に長十郎梨の名産あり。養蠶業盛にして製糸業行はる。この外牧牛を營みまた水産業も盛なり。國道山陰街道は東北部より來て西南方に走り河岸にて西走し、そこより南に藤道を派す。省線山陰本線は日下村を通過し上井驛まで約五粁、バスを通ず。

**ナカセン　中仙道**　また中山道にも作る。江戸時代、江戸を中心として東西の重要地點に至る五街道を定む。中仙道は其一なり。卽ち京都江戸を結ぶ大道にして東海、北陸兩道の中間の山道なるため一に中山道とも書き、木曾の山中を通ずるを以てまた木曾路ともいふ。江戸の日本橋を起點として、關東平野を北に進み、碓氷峠を越えて信濃に入り、北國街道と追分にて分れ、西に進みて和田峠を越え、諏訪盆地の北部を掠めて松本平に入り、鳥居峠を經て木曾谷を通り美濃に入り岐阜の南なる加納を通り、關ヶ原を經て近江國に入り、草津に至りて東海道に合す。其間に驛を置くこと約六十八、里程約百三十四里。此間、木曾谷の福島

| | 中仙道（木曾路）六十九次 | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 日本橋 | 東京市日本橋區 | 現在地名 |
| 2 | 板橋 | 同 | 板橋區 |
| 3 | 蕨 | 埼玉縣武藏國北足立郡蕨町 | |
| 4 | 浦和 | 同 | 浦和市 |
| 5 | 大宮 | 同 | 北足立郡大宮町 |
| 6 | 上尾 | 同 | 同　上尾町 |
| 7 | 桶川 | 同 | 同　桶川町 |
| 8 | 鴻の巣 | 同 | 同　鴻巣 |
| 9 | 熊谷 | 同 | 熊谷市 |
| 10 | 深谷 | 同 | 大里郡深谷町 |
| 11 | 本庄 | 埼玉縣兒玉郡本庄町 | |
| 12 | 新町 | 群馬縣上野國多野郡新町 | |
| 13 | 倉賀野 | 同 | 群馬郡倉賀野町 |
| 14 | 高崎 | 同 | 高崎市 |
| 15 | 板鼻 | 同 | 碓氷郡板鼻町 |
| 16 | 安中 | 同 | 同　安中町 |
| 17 | 松枝（松井田） | 同 | 同　松井田町 |
| 18 | 坂本 | 同 | 同　坂本町 |
| 19 | 軽井澤 | 長野縣信濃國北佐久郡軽井澤町 | |
| 20 | 沓掛 | 同 | 同 |
| 21 | 追分 | 同 | 同　西長倉村 |
| 22 | 小田井 | 同 | 同　御代田村 |
| 23 | 岩村田 | 同 | 同　岩村田町 |
| 24 | 塩名田 | 同 | 同　中津村 |
| 25 | 八幡 | 同 | 同　南御牧村 |
| 26 | 望月 | 同 | 同　本牧村 |
| 27 | 芦田 | 同 | 同　芦田村 |
| 28 | 長窪 | 同 | 同　小縣郡長久保新町 |
| 29 | 和田 | 同 | 同　和田村 |
| 30 | 下諏訪 | 同 | 諏訪郡下諏訪町 |
| 31 | 塩尻 | 同 | 東筑摩郡塩尻町 |
| 32 | 洗馬（瀬淵） | 同 | 同　洗馬村 |
| 33 | 本山 | 同 | 同　宗賀村 |
| 34 | 贄川 | 同 | 西筑摩郡贄川村 |
| 35 | 奈良井 | 同 | 同 |
| 36 | 藪原（八五原） | 同 | 同　木曾村 |
| 37 | 宮ノ越 | 同 | 同　日義村 |
| 38 | 福島 | 同 | 同　福島町 |
| 39 | 上松 | 同 | 同　上松町 |
| 40 | 須原 | 同 | 同　大桑村 |
| 41 | 野尻 | 同 | 同 |
| 42 | 三留野（三留野） | 長野縣西筑摩郡讃書村 | |
| 43 | 妻籠 | 同 | 同　吾妻村 |
| 44 | 馬籠（馬籠） | 同 | 同　神坂村 |
| 45 | 落合 | 岐阜縣美濃國惠那郡落合村 | |
| 46 | 中津川 | 同 | 同　中津町 |
| 47 | 大井（大炊） | 同 | 同　大井町 |
| 48 | 大久手 | 同 | 同　土岐郡釜戸町 |
| 49 | 細久手 | 同 | 同　日吉村 |
| 50 | 三袋 | 同 | 可兒郡御嵩村 |
| 51 | 伏見 | 同 | 同　伏見村 |
| 52 | 太田 | 同 | 加茂郡太田町 |
| 53 | 鵜沼 | 同 | 稻葉郡鵜沼村 |
| 54 | 加納 | 同 | 同　加納町 |
| 55 | 合渡（河渡） | 同 | 本巣郡合渡村 |
| 56 | 御影寺（美江寺） | 同 | 船木村 |
| 57 | 赤坂 | 同 | 不破郡赤坂町 |
| 58 | 垂井 | 同 | 同　垂井町 |
| 59 | 關ヶ原 | 同 | 同　關ヶ原町 |
| 60 | 今須 | 同 | 同　今須村 |
| 61 | 柏原 | 滋賀縣近江國坂田郡柏原村 | |
| 62 | 醒ヶ井 | 同 | 同　醒井村 |
| 63 | 番場 | 同 | 同　息郷村 |
| 64 | 鳥井本 | 同 | 同　鳥井本村 |
| 65 | 高宮 | 同 | 犬上郡高宮町 |
| 66 | 愛知川 | 同 | 愛知郡愛知川町 |
| 67 | 武佐 | 同 | 蒲生郡武佐村 |
| 68 | 守山 | 同 | 野州郡守山町 |
| 69 | 草津 | 同 | 栗田郡草津町 |

と碓氷峠とには驛所を置く。各驛の距離は一定せず、最も短きは二粁位のものもあれど、ほぼ七、八粁に一驛を置きて馬を次げり。各驛の旅舍には本陣・脇本陣などの格式ありて、參覲交代の際の諸侯方の宿泊に充てたり。※東山道

**ナカソネ　中曾根村**　愛媛縣伊豫國宇摩郡の北部。三島町の南に接し、東は松柏村、西は中立庄村に接す。面積七・〇五方粁。南境を東西に連亙する四國山脈の分脈あり、村内の南半部は其の北斜面に屬し、北部に平野展け、耕地存す。米・綿・麥を産すれども少額なり。

**ナカゾネ　中埜村**　宮城縣陸前國遠田郡の西部。田尻町の南に接す。陸前平野の略中央にあり、江合川は南境を東流し、全村概ね平坦なり。米・綿・麥を産り。道路は村の北部より南東部に通じ、南方の東北本線小牛田驛へはバスの便あり。この地は和名抄、遠田郡清水郷の内なるべし。

**ナカタ　中田**

【中田村】 宮城縣陸前國名取郡の東部。仙臺市の南に隣り、南は増田町、東南は閖上町に接し仙臺平野の中央部にあり。土地概ね平坦。名取川は北部を東流す。米・麥・綿を産す。陸羽街道は西部を南北に通ず。東北本線陸前中田驛（大正十三年設置）あり。この地は舊奥州街道の中田宿もありし所なり。

【中田村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の東海岸。面積六・五六方粁の小村。概ね高地なれど、西境に高さ二百餘米の大杉山あり。東南部僅に海に面しその東に觀音崎、西に親崎の小突出ありて小灣を抱き、灣岸に船津の聚落あり。耕地面積乏しきも村内約一九〇戸中三分の二は農業を營みて米麥を産し、副業に製炭業・養蠶業行はる。三分の一は近海漁業に從ふ。北方本渡町方面へはバスの便あり。船津は三角・牛深線の定期汽船の寄港地なり。碇石村と組合村を成し本村に役場を置く。

**ナカタ　名方**

【名方（郡）】 阿波國（徳島縣）の古郡名。國の東北部にあり。凡そ鮎喰川の流域を占む。名稱は諏訪明神なる健御名方富命の名方より起れりといふ。續紀、神護景雲元年三月の條に郡名初めて見ゆ。寶平八年分けて名東・名西二郡とす。※名東郡・名西郡

【名方】 阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄に名東郡名方郷あり、奈加多と訓ず。今の名東郡國府町の邊に當る。

**ナカダ　中田**

【中田町】 富山縣越中國東礪波郡の東北部。庄川の右岸に沿ふ。高岡市の南方約五粁。北は射水郡に界す。土地概ね平坦にして水田に富む。西境庄川沿岸には砂土多く耕作に適せざる部分多少あり。農業は米を主産とする外、町は工業盛にして賣藥の産多額に及び、次いで和紙・清酒・麻織物・植物油等の工産額多し。町を縦横に藤道を貫通し、省線北陸本線越中大門驛及び西礪波郡戸出町へバスの便あり。古くは和名抄、礪波郡小野郷の内なるべく、中世は穀若野庄に屬せり。町の東南一帯の平野を栃搾野と汎稱す。壽永二年木曾義仲の將今井兼平は平氏の軍を破り、のち天文十四年には上杉謙信の父長景は越中を略せんとして神保氏等の僞計にかかり殺されし所なり。

【中田村】 山梨縣甲斐國北巨摩郡の南部。荒崎町の南方約四粁。釜無・鹽川の兩河に挾まれたる丘陵地帶の一部を占め、西は七里岩の斷崖に依り釜無川に臨み、東境を鹽川南流し、多少なる平地あり。農業・養蠶を主生産とし、米・綿・麥・桑の産あり、林業も多少行はる。省線中央本線は村の中部を横斷し、穴山驛へ約二粁、韮崎町へは、縣道に依りバスの便あり。（新府城）武田信玄は四方の天險を以て城郭となし、特に定まれる城を設けざりしが、子勝頼に至りて國力衰へし結果、天正九年この地に城き新府と稱す。翌十年三月、織田信長に攻められて城陷り、次いで亡ぶ。

【中田村】 兵庫縣淡路國津名郡の中部。東は大阪灣との間に志筑町ありて内陸村たり。百乃至二百米の丘陵性山地連り、東部淡流沿ひに僅に低地あり。耕地はよく開け米・麥類（裸麥・小麥）・綿の外に蔬菜及び花卉・果實・果樹苗等を産し、副業に藁製品・養鶏等盛に行はる。縣道は中部をほぼ東西に通じ西方の郡家町及び志筑町にバス通ず。この地古くは和名抄、津名郡志筑郷に屬す。本村出身の歴史的人物に岡田鴨里あり、江戸末期の儒者にして、徳島藩に仕へ、明治元年參政に擧げられ藩政の改革に功あり、明治十一年歿す、年七十五、贈正五位。

**ナガタ　穴田**　→穴田。

**ナガタ　永田村**　長野縣信濃國下水内郡の南部。斑尾山東南麓を占め、西は上水内郡に昇す。飯山町の西南方約五粁。全村高原性の山地にして西北隅に斑尾山（一三八二米）聳立し、東南部を斑尾川東に流る。農業を主生産とし、米・蠶絲・麥・大豆の産あり。其他に林業・牧畜も多少行はる。信越に通ずる谷街道より里道通じ、社線飯山鐵道の普佐驛に近し。町村制施行の際に永江村・穴田村を合して本村を置く。

**ナガタ　長田**

【長田】 陸奥國（岩代國、福島縣）の古地名。和名抄に白河郡長田郷あり、今の石川郡石川町・中谷村の邊に當る。

【長田村】 茨城縣下總國猿島郡の中部。境町の北隣にて、利根川に近く全村平地にて水田・畑地なる。農業主にて米・麥・煙草・栗・蔬菜類・西瓜・干瓢・茶等を産し、養蠶も行はる。境町に縣道を通じバスの便あり。古くは和名抄、榎島郡菜津郷の内とす。

【長田】 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に吾妻郡長田郷あり、奈加太と訓ず。

その地今の吾妻郡名久田村・伊參村・高山村の邊に當る。

【長田(郡)】 遠江國(靜岡縣)の古郡名。建郡の時期は未詳。續紀和銅三年に郡名見え、後これを長田上・長田下の二郡に分けしが、同六年の勅によりて田の字を省きて二字とし、長上・長下となす。※長上(ナガノカミ)(郡)・長下(ナガシモ)(郡)。

【長田】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に長上郡長田郷あり、奈加多と訓す。地は今の濱名郡和田村の邊に當る。

【長田村】 三重縣伊賀國阿山郡の西部、北境を西流する伊賀川の南岸に沿ひ、東は支流長田川を境に城南村・小田村に隣りその東の上野町と隔たる。面積一〇方粁餘。大部分は二三百米の山地にて中部東西に中興き谷地を挟み、東部は上野盆地の西北部に當り、長田川沿岸の地に沃野開け乾田多し。米・繭等の農產を主とし外に工產・畜產・林產等あり。上野町より西方京都府相樂郡木津町方面への縣道中央を貫きバスを通ず。上野航空燈臺あり、燈質自然電燈閃自光、燭光一二〇萬燭光、光達距離は晴天の時夜約五〇粁。この地は和名抄、伊賀郡長田郷の內なり。もと長田莊と稱す。天正十一年、織田信雄・羽柴秀吉と隙を生ずるや、秀吉の將脇坂安治伊賀に侵入して上野城に瀧川一益を襲うに走らせて此地に陣す。〔射手神社〕大字長田に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・玉垂命。地方の名社にして源義經の參拜所願せることあり、江戸時代には藩主藤堂家の崇敬厚し。古來長田郷の總社たり。例祭、十月二十八日。〔西蓮寺〕 大字長田にあり。天台宗眞盛派。眞盛一派の廟所にして現に本山西教寺三末頭の一。もと傳教大師の草創にして觀音寺と稱せしが、明應元年眞祖眞盛來錫して、伽藍を再興して自ら開基となる。境內には後土御門天皇の寶塔、眞盛(當寺に入寂)の墓塔を遺す。寺寶中、絹本着色藤堂高虎畫像(天海贊)は國寶。

【長田】 攝津國(兵庫縣)の古地名。書紀神功皇后に「事代主尊謂之曰、祠(ヤシロ)吾子御心長田國」云々」と見ゆ。長田國とはいま神戸市林田區の地名に長田あり。或はこの邊を稱せしものならん。和名抄、八部郡長田郷は此地なるべし。式內長田神社鎭座す。

【長田】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に賀古郡長田郷あり、奈加太と訓す。その地今の加古郡尾上村の邊なるべし。尾上の大字長田は郷の遺稱なるべし。

【長田村】 和歌山縣紀伊國那賀郡の北部。紀ノ川北岸に沿ひ東は粉河町に接す。南北に細長く、面積七方粁餘。北半は和泉山脈の南斜面の山地、南半は紀ノ川流域の平野を占め土地肥沃・水利よく田畑よく拓けて米の產多く繭・柑橘なも出す。大和街道東西に走り其北にも縣道並行して東は粉河町、西は岩出町方面へバスを通じ交通便なり。中世には長田莊といふ。大字北志野には村社東屋御前神社あり、これ卽ち日本書紀に「神功皇后南詔ニ紀伊國ニ、會ニ太子於日高ニ、以ド議及ニ群臣ニ、遂欲ド攻ニ熊鷹王ニ、更遷ニ小竹宮ニとある小竹行宮に當るといふ。また大字別所に觀音寺あり、世に長田の觀音と稱し、本堂を如意輪觀音とし本堂・庫裏・樓門・鐘樓・三重塔ありて郷內の名刹とす。大字島の生土神社を一に風宮と云ひ、その杜を風宮杜と云ひ和歌の名所なり。公任集「いとこへも花のあたりはあだなれどいかに散るらん吹く風の杜」

【長田】 廣島縣高田郡にありし村。昭和四年に戸島村・坂村と共に廢され、その地域を以つて向原村を置く。向原(ムカハラ)村は十二年町制を施行す。

【長田村】 長崎縣肥前國北高來郡の北部。西境の南半は諫早町に、北半は本野村に東は深海村に接し、東南部の南半は本明川によりて小野村に界し、北半は諫早灣に面す。土地は南北に長く面積二九方粁餘。多良岳火山一峰の五家原岳(一〇五八米)の南斜面にて、北半は急傾斜なすも中部以南は緩めて緩く低下し、南部は緩めて低平なる海岸平地にて田畑よく拓く。米麥その他の農產を主とし山地には林產あり。南部低地に沿ひて縣道通じてバスの便あり、省線長崎本線またこれに並走して東長田に肥前長田驛、西長田に東諫早驛、共に昭和九年設置を置き交通便利なり。



**ナカダイラ** 中平(ナカヒラ) 廣島縣神石郡にありし村。明治三十年外四ヶ村と共に合併して豐松(トヨマツ)村を建つ。

**ナカタカヤス** 中高安 大阪府中河內郡にありし村。昭和六年北高安村と合併し高安(タカヤス)村を建つ。

**ナガタキ** 長瀧村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に近くこれと日根野村・南中過村の一部を隔つ。面積僅に二・七方粁餘。全村地形平坦にして殆ど乾田に拓かれ、漁獵用湖沼多く散在し西南境に近く樫井川西北流し、その分流は中央を西北方へ流る。米・麥・玉葱等の農產あり、また大阪灣岸工業地帶の南部にあたり綿工業發達し、その產額は村の生產額中の第一位を占む。西北境に接して紀州街道走り佐野町へバスの便あり、東部に社線阪和鐵道の長瀧驛(昭和五年開業)あり、交通の便よろし。中世は長瀧莊といふ。此地に有名なる蟻通明神あり。古昔、棄老の風習の行はれし頃、或る孝行なる中將ありて秘かに十に餘る兩親を匿ひ、孝養に努む。偶々異國より渡れる者、我國人の才を試みんものと、上下に孔ある七曲の玉に絲を貫く難題を出せり。識一人これを解し得ざりしが、中將の匿へる老親が一方の穴に蜜を塗り蟻に絲を結びつけて入らしめれば、通し得べしと敎ふ。その如く行ひしに、易々と絲を通し得たり。時の帝これに感じ、以來令して棄老の風を禁じられ、後その老人を祭主として祀れりと傳ふ。

**ナガタケ** 長竹 神奈川縣津久井郡にありし村。明治四十二年に外二村と共に合併し串川(クシガハ)村を建つ。

**ナカタケノ** 長竹野村 兵庫縣但馬國城崎郡の北部。城崎町の西に隣り北は約一粁にて日本海岸に出づ。東西兩境は約四—五百米の山脈にて隔られ、東境中央に來日岳(五六七米)峙つ。中央に竹野川北方へ貫流し沿岸に低地開く。農產物を主とし、米・繭・大麥・裸麥・小麥・食用農產・蔬菜・花卉・果實等を產し、外に鷄卵・獸物等あり。東北部には縣道通じ省線山陰本線北部を走りて北境に竹野驛(明治四十四年設置)あり。古くは和名抄、美含郡竹野郷の內なり。〔竹野鑛山〕中竹野村及び竹野村にある金銀山にして鑛區は三より成る。(一)中竹野・竹野の兩村に跨り鑛區約三十二萬坪、重要鑛山に指定せらる。(二)は中竹野村の地籍にあり、鑛區二萬二千六百坪。(三)は中竹野村の地籍にあり、鑛區二萬二千六百八十坪にして、後二者は(一)と合併施業せらる。昭和十年には金銀鑛二八一五瓩を產し、製錄は佐賀關製錄所にて行はる。大正十年の發見にて昭和十年六月末には鑛夫五十人を使用し、現在日本鑛業會社の經營に屬す。〔金原鑛山〕中竹野村及び奥竹野村に跨る金銀山、鑛區二十八萬九千九百坪、昭和十年の產額は金八四四瓦、銀六四六瓦とす。鑛山名は中竹野村大字金原に因む。

**ナカタチ** 媒島 東京府小笠原支廳管內聟島列島の一。聟島の東南約五粁、南方約一三粁に線島あり。島內には屏風山(一五五米)・劍山等の群山重疊し、四周は懸崖絶壁を繞らす。ただ西南岸に小舟を入るゝに足る袋港あり。曾てはその灣頭に滑龍の小部落形成せられ、天日製鹽の試みられしことありしも、現在は無人島なり。屏風山の東南なる興平は海蝕臺地にて平曠なるも、海風强く僅に矮樹・蔓菰繁殖するのみにて、信天翁の群棲地たり。

**ナカタド** 仲多度郡 香川縣二市七郡の一。讃岐國の西部に位し、丸亀市の南にあり、北及び東は綾歌郡に、南は德島縣に接し、西は三豐郡に界し、西北は瀨戸內海に面す。西北より東南に狹長にして面積一九四・四七方粁。南部には讃岐山脈東西に走り六—八〇〇米の山峯連亙して南半は高峻なる山地より成り、その山地中央を東西に切つて溪流西に出でて三豐郡に入り、財田川となりて內海に注ぐ。中央部に近き東部山間には名高き滿濃池あり。北半の西境附近には大麻・琴平・我拜師・火上・八國山等の諸山連亙し、それ等の山腹東及び北方に延び、その麓に低平なる丸亀平野ひらけ、金倉川こゝを縱流して北にゆき丸亀市の西方より內海に注ぐ。平野中央に如意山(一五八米)の小丘ある外は、概く平坦にして處々に多數の用水池ありて灌漑の便よろしき筈、土地肥る豐沃にして農業盛に農產物多し。山麓は桑園・煙草畑等開け、山地よりは木材を產出す。海岸は大體に於て出入に乏しき砂濱地なすも、多度津港その他の漁港を根據地として漁業盛んに行はれ鯛・鰆等の漁獲多し。國道(四國街道)は丸亀より北東部に來り平野中央の金藏寺附近にて分岐し、一は西方に走り三豐郡に出で、一は琴平町を經て南下し阿波池田町に至る。縣道は是に並行または交叉してよく發達し省線讃予本線は海岸を西走し、多度津町より分岐せる省線土讃本線は琴平町を經て南下し池田町を通過して高知市に至る。また琴平町を中心として琴平電鐵・琴平參宮電鐵・琴平急行電鐵等の社線あり、高松市・坂出町・多度津町に通ず。明治三十二年、丸亀市が那珂郡より獨立せる時、殘餘の那珂郡と南方の多度郡を合併して仲多度郡と稱す。いま善通寺・多度津・琴平の三町及び二十三ヶ村を含み、人口九萬二千九百人を算す。

**ナカタニ** 中谷 〔中谷村〕 福島縣磐城國石川郡の南部。石川町の東に隣り、東及び南は東白川郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東境は海拔約七百米にして西方に傾斜し、川は南部に發源して西部を北流するもの及び北部を西流するものあり。村の西部に於て合し石川町に出でて社川に合す。沿岸に群地拓く。米・蒟蒻草・蒟蒻・木炭等を產し、馬の飼養行はる。道は村の西部を南北に通じ、西方石川町へはバスの便あり。この地は和名抄、白河郡長田郷の內なり。

〔中谷村〕 兵庫縣橘津國川邊郡の東北部。猪名川上流の谷合に位し、池田町(大阪府)の西北方にて多田村を隔て、東は東谷村、西は西谷村、東北部は大阪府豐能郡西能勢村に接す。面積三八方粁に近きも概ね山地にて、北隅には三草山(一五六四米)聳え、南隅には鳥脇山(四八四米)、西南部に城山(四〇五米)等あり。猪名川西北より中部を東南に貫き、これに沿ひて狹長なる河谷低地あり。米・麥類・蔬菜・食用農產物・鷄卵・蠶製品等の產あり。山地よりは木材・薪炭を出す。中央河谷に沿ひて篠山街道走り、之より分れて西方の町村を結ぶ道路もあり。東北隅には丹州街道もありて、各方面にバスの便あり。この地古くは和名抄、河邊郡楊津郷に屬す。

〔中谷村〕 岡山縣美作國苫田郡の西南部。北は宮村に、東は久田・小田二村に、南は芳野・郷の二村及び久米郡大井東村に界し、西は眞庭郡美和村に隣す。面積二三・八五方粁。南境には矢倉・榊の二山を始め、高距數百米の山岳重疊し北及び北西部にも高距約七—八百米の山岳連亙して、高峻なる地勢をなして東方に低下す。東部には吉井川の上流南流し流域に

良好なる耕地を拓く。米・麥・繭を產し、また生姉・蒟蒻等の特產あり、山地は好牧場をなし牛を飼ふ、また木炭の產も少からず。隣村小田村及び東南方津山市に自動車の便あり。この地古くは和名抄、苫西郡能美郷に屬せるものゝ如し。

【中谷村】福岡縣豐前國企救郡の西南部。小倉市の南方約四粁に位置し、これと西谷村を隔て、東は東谷村に隣り、南は田川郡採銅所村に、西は直方市の東部に界す。面積三六方粁餘を有するも四境に福智山・尺岳等ありて、大部分はその東面の山地をなし、東部には紫川北流しそれに沿ふ兩岸の地に巾狹き低地あり。米麥等の農產、木材・竹材等の林產あり。また石炭も產す。東隣東谷村の西部を縫貫する小倉・香春間の縣道及び社線小倉鐵道の石原町・呼野等の肆にも近く交通不便ならず。古くは和名抄、企救郡蒲生郷の內とす。大字道原の紫川上流に菅生瀧あり。小倉市上水道の水源にして三段の瀧を成す。一ノ瀧最も大にして高さ約七米あり。四邊閑靜、疎林の間に溪流折曲するところ幽邃の氣滿つ。〔西大野八幡神社〕大字山本にあり。郷社。祭神、息長足姫命外五神。山緒記に天智天皇五年岡郡高尾山上に創祭し、のち現在地に遷座すと傳へ、往古は社頭盛大なりしといふ。例祭、九月二十五日。

**ナガタニ　長谷**

【長谷村】兵庫縣揖斐郡佐用郡の東部。西南は佐用町に、西北は平福町に接し、東は宍粟郡三河村に界す。全村高度二―三百米の山地起伏し、中部と南部に西方に低下する谷地ありて西方に低し。西部の千種川支流の谷につづき、田畑拓け、米・裸麥・小麥を產し、副業としては養蠶・製品・藁製品等の產あり。佐用町にて作州街道より岐れ因幡に至る道路西部を通じ、平福町と佐用町にはバスの便あり。また南部には之より分れて德久村に出づる道路あり。この地は和名抄、佐用郡佐用郷に屬す。

【長谷村】　島根縣石見國邑智郡の西部。西北・西南は那賀郡川平・跡市・美又・木田の諸村に隣接す。村內には二乃至四百米の丘陵性山地起伏して概れ山地をなし、江川の一小支山地を開析して東北流し、沿岸に僅かに低地ありて耕地開く。米・雜穀の外に用材・木炭を產し、清酒を釀る。街道は溪流を縫うて通ずるも交通便ならず。

【長谷村】　廣島縣安藝國豐田郡の東部。沼田川の左岸にあり。東は三原市との間に御調郡西野村を挾み、西は本郷町に接し、南は沼田川を隔てて沼田東村に對し北は高坂村及び御調郡八幡村に隣す。面積二一・五三方粁。東北隅の大峯山（六一〇米）を始め山岳連居して北部は高峻なる地形をなし、西南に傾斜して河岸に下り稍平地をなす。從つて村內山林地實く山腹は牧畜をなす。河に沿ふ平野には耕作行はれ米・麥・蒟草・繭等を產し、養蚕・花筵等の工產あり。山地よりは木材・木炭を出す。河岸に沿うて國道（山陽道）通り、その北側を省線山陽本線通過し本郷肆へは約五粁。此地は古への沼田郡濱良郷の內に屬せるものの如し。

【長谷村】大分縣豐後國大野郡の東北部。犬飼町の西に隣り、北は大分郡竹中村に接す。村の中部に五百米に達する山あり村內山地重疊し大野川の一支柴北川は山地を縫ひ曲流して東に流れ、流域に僅に耕地ありて米・麥・雜穀を產し、木材・木炭を出す。街道は柴北川に沿うて通じ犬飼町に達するも交通便ならず。

**ナカタネ　中種子村**　鹿兒島縣大隅國熊毛郡種子島の中部。西之表町の南、南種子村の北に隣接し、東・西は海に臨む。面積一三八・八六方粁の大村。中部ほぼ南北に第三紀の砂岩・粘板岩・礫岩等よる成る三百米以下の山嶽連り、從つて河川の大なりしものなきも沿岸に僅に低地ありて水田・畑開く。西海岸は概れ砂流をなすも東海岸には海岸段丘・砂嶺連る。農產物に甘藷・甘蔗・米等あり、漁業も盛にして飛魚・鰹・鮪を產す。街道は中部南嶽上を走り、野間郡落より東海岸に至る街道を分つ。人口は昭和十年一一三九六人、一方粁人口密度は八二人なり。古く熊野浦といふ。此地は多禰島四郡の時の能滝郡の地にして、大字野間はその遺稱とす。和名抄の阿枚・幸毛二郷は能滝郡の舊管なりしものゝ如し、續紀天平五年の條に滝能郡少領外從八位上栗麻呂等九百六十九人姓を賜ぼる由を載すれば、如何に往時その繁盛なりしかを知るに足るべし。〔熊野神社〕大字坂井に鎮座。郷社。祭神、伊邪那美尊。後花園天皇享德年中の創立なりと傳ふ。例祭、四月十四日。

**ナカタノニシ　名西（郡）**　→名西郡

**ナカタノヒガシ　名東（郡）**　→名東郡

**ナカチョー　仲町**（なかち）

【仲町】東京市下谷區の舊町名、今は池端仲町といふ。不忍池の南にて、上野元黑門町と本郷湯島切通町とを通ずる東西に走れる町。舊觀帖・二中「うち連て醫事やへはいり、二八のぶつかけに腹をふくらし、たどりゆくほどにやがて下谷の仲町に出ると、木戸際のかごかき、へイかご、且那めへりやせうか」

【仲町】　江戸時代、深川澁黑の最繁榮なりし地。いま深川區富岡門前町。辰巳之岡・序「吉原に妻三あれば、仲丁土橋あり」里のみだ卷評「中にも土橋中丁には奏盛の君多く、川には船後を銀、陸には轎夫の屯をなす、登りむかいの提灯は宇治の螢の飛かふがごとく、茶屋に持込寫衣は鳴門の濤の寄がごとし、間毎の座敷はれやかにして山海の美味割を正し、蒟





者の調子琴常に勝り、さはぎの小歌天下に類なし」

**ナカツ　中津**

【中津峽】　埼玉縣秩父郡大滝村にある名勝。荒川の上流水源地域に於ける支流中津川にあり、秩父古生層より成り、周圍の山地傾斜三〇度以上を以て五〇〇―七〇〇米を開析し峽入峽谷をなす。本流荒川との合流點たる落合より分れ、釣平・鶏平・小雙里を經て約四粁、十々六木に至れば稍景色よく、更に約四粁上流の鹽澤より中雙里・中津川集落間約一〇粁の間は特に奇景にて、紅葉の候に訪ふ者多し。

【中津村】　神奈川縣相模國愛甲郡の東北部。相模川の西岸。東北は川を隔てゝ高座郡の一部と相對す。西部には相模川の支流中津川南流す。西境附近には丹澤山塊の東端の一部にて富尾山（二三五米）八菅山あり。中部より東部にかけては相模川流域平地の一部をなし畑地多く、麥・甘藷・馬鈴薯。大豆等を產し、養蠶も盛なり。縣道は南走して、厚木町方面に通ず。この地は和名抄、愛甲郡六座郷の內なり。〔八菅神社〕大字八菅山に鎮座。郷社。祭神、國常立命。押武金日命等七柱。足利尊氏・道山綱景再建す。江戸時代朱印領六石を有す。もと七社權現また は八菅山權現と稱せしが、明治元年に現號に改む。例祭、三月二十八日。

【中津川】　信濃川の一支。源を群馬縣吾妻郡の野反湯に發し、三國山脈中に橫谷を穿ちて北流、始めは魚ノ川と稱し、長野縣下高井郡の東部、苗場山西麓にて鄕魚川を容れ、次で新潟縣中魚沼郡に入り北流を轉け大割野にて信濃川に入る。流程約四〇粁。流域に平地極めて乏しく、人煙稀薄なり。上流の和山、中流の逆卷には溫泉湧出す。

【中津村】長野縣信濃國更級郡の東北部。篠ノ井町の北に接し、善光寺平の南部、川中島三角地帶の一部を占む。土地平坦にして豐潤、水田拓け、米麥を主產物とし、繭を副產物とす。省線信越本線は村內を南北に貫通し、篠ノ井・川中島の兩肆に近く、北國街道は東部を之に並行し長野市・篠ノ井町へバスの便あり。此地は和名抄、更級郡斗女郷の內なるべし。今井原の舊二箇村を合して本村を置く。明治十一年、明治天皇北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。〔蓮香寺（附乾神堂）〕大字原にあり。淨土宗。眞和五年名譽月秀の草創。寺寶に三尊來迎佛・山越三尊來迎佛等を藏す。

【中津村】長野縣信濃國北佐久郡の中部。千曲川に沿ひ小諸町の南方約五粁、北佐久中央の盆地にあり、中央を千曲川北に流れ沿岸に平地開く。東西には多少高き地帶あり。水田・桑園よく拓け、米・繭の產多く、麥も多少產す。國道中山道は村內を東西に貫き、之に交錯して一條の縣道千曲川右岸を走る。小諸町・岩村田町へはバスの便あり。この地は和名抄、佐久郡美理郷の內なるべし。町村制施行の際、鹽名田・御馬寄の舊二箇村を合して本村を建つ。鹽名田は舊中仙道の鹽名田宿のありし所なり。

【中津町】　岐阜縣美濃國惠那郡の東部。木曾川の南岸にて、支流中津川の流域を占め、東南境惠那山を境に長野縣下伊那郡に接す。全村概れ山地にて東南より西北に傾斜し木曾川の谷に迫りて溪谷をなす。謂ゆる惠那峽となり之より下流大井町附近にかけても云ふ。東部は中津惠那郡附料林を始め、森林繁茂し、良材の產多く、西北部の高原地帶に水田・桑園拓け生絲の產あり。近時は町に津紙工場興り木曾の原料を控へて新聞紙・マッチ・用紙・包紙等、年二千萬圓の產高を擧ぐ。其他に製絲・寶種製造等も榮え、奥地は有數の發電地なるを以て益々商工業發展せんとす。省線中央本線は西北部を橫斷し中津川駅（明治三十五年設置）あり。これより中津川に沿ひ社線北惠那鐵道を上流に通じその中津町駅を置き、木材搬出の便に資す。國道（中山道）は省線と並行し數條の道路これより分岐す。この地は和名抄、惠那郡坂本郷の內なるべく、舊中仙道の中津宿のありし所。また舊郡役所の所在地たり。明治十三年、明治天皇の山梨・三重および京都行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇中津川行在所附御膳水として指定史蹟たり。〔惠那神社〕　大字中津川に鎮座。縣社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命。舊記によつて按ずるに延喜式の惠奈神社、本國帳の從五位下惠那明神は卽ちこれなるか。維新前まで惠那郡總社たり。前社と本社とに分れ前社は字正根に、本社は惠那山上にあり。例祭九月十九日。〔東圓寺〕曹洞宗。僧最澄は藥師如來を刻みて安置せしに始む。往昔、旅人の乘馬して堂前を過ぐるや必ず落馬す。よりて馬人恐怖して如來を後向となす。これ僧稱の出づる所以なりと云ふ。本尊藥師如來坐像（木像）一軀は藤原期の作にて國寶なり。

【中津】　大阪府西成郡にありし町。大阪市東淀川區に編入す。

【中津川】　→淀川（大阪市）

【中津峰】　劍山山脈東端部の一峰。德島縣勝浦郡多家良村・横瀬町・生比奈村の境上に位す。標高七七八米。山體は秩父古生層より成る。

【中津山】　劍山山脈の一峰。德島縣三好郡三縄村と美馬郡西祖谷山村の境上に跨る。標高一一四七米。

【中津村】愛媛縣伊豫國上浮穴郡の東部。東は高知縣吾川郡名野川村に隣す。東境には千米以上の石鎚山脈の肢脈連亘し、東境中央に中津山（中津明神山・明神山一五四一米）聳え山岳重疊す。面河川は峽谷をなして西境及び南境を洗ひ東南流す。その流域にはやや耕地發達し農業行

はれ、米・麥・玉蜀黍・繭等を產し、林業も盛んにして三椏・楮その他の林產あり。河岸を傳ひて縣道通じ、古來土佐街道として伊豫・土佐間の主要なる交通路をなし、昭和十年に省營自動車寶土線定りて村內に五停留場を置く。

【中津市】大分縣三市の一。縣の西北端、山國川河口の右岸に位し、南は下毛郡の鶴居・大幡・如水・和田の四村に接し、西は山國川を隔てて福岡縣築上郡と相對し、北は周防灘に面す。東西約五粁、南北約三粁、面積一五・四四方粁、人口三一、一〇〇人(昭和十二年)。豐前平野のほゞ中央に當り山國川の三角洲上に發達せるを以て、地勢極めて低平にして、東部及び南部には田畑遠く連なり、海岸は廣く干潟をなし、地形は神積地にて河口は遠淺なるため完全なる港を持たざりしも、僅に山國川河口を利用して昭和八年より同十一年にかけ築港をなす。而して山國川は河口に近く一の分流を出し、市街は主として此の分流の東南に接して發達す。市の職業別人口の百分比を見るに農業一九・九、水產業四・八、工業一六・四、商業三五・〇、其他(昭和九年)にして、商工業都市たるを見る。農業者の比較的多きは近年近郊農村を合併せしによるものにて、これら新編入區域には乾田多く二毛作行はれ、米・裸麥・小麥・繭等を產す。工業は市の生產的生命にして大分市と共に縣下の二大工業地をなし、鐵鋼工業・製材・食料品工業・機械製造等行はれ、工產額約一千萬圓にて生產總額の九割を占む。大工場は富士紡・鐘紡・豐中製絲の各工場にして、其他酒造・製材・鐵工をはじめ二十餘の工場あり。主要工產物は紡績絹絲・綿布・綿絲等いづれも二百萬圓前後あり、生絲・木製品・醬油・酒類・和傘・罐詰等これに次ぐ。以上のうち綿布は鐘紡工場製にて縣下產額の九九%を占め、また木製品は大部分指物にて家內工業の大宗をなし製品は中津物として知らる。商業は關門・大分間の經濟中心地たる地位を占め、極めて盛んにて豐前平野並にその奧地と國東半島北部とを主なる商圈とす。交通上も赤縣北の核心に當り、省線日豐本線は略中部を東西に貫き中津驛(明治三十年設置)あり、小倉へ五一粁・大分へ八一粁にて達し、同驛より南方へ社線耶馬溪線造を岐つと共に、耶馬溪遊覽自動車の發着點をなす。道路は省線とほゞ並走する小倉街道(豐前街道)ありて西北は小倉、東南は四日市・日出等に通ずる外、東方長洲及び南方耶馬溪へ縣道を出し、何れもバスの便あり。市街は山國川分流に臨む城址の南方、從來の町屋のうち特に街道筋の新博多町・殿町を中心として、商業地域發達し、東南部の外廓には工場多し。主要官公署に市役所・地方裁判所支所・區裁判所・稅務署・營林署等、其他、縣立中學校・同高等女學校・商工會議所・豐前銀行・中津銀行・耶馬溪鐵道株式會社・日本冷藏泉會社・鐘紡支店・富士瓦斯紡績工場等あり。市は古く美毛郡次で下毛郡の內。明德の頃より大友氏に屬せしが、大友氏漸く衰へ烏津氏の侵掠を被るに及び、豐臣秀吉は黑田孝高(如水)を軍目附として此地に遣はし、功によりて豐前六郡十六萬石に封ぜしより、天正十六年初めて此處に築く。子長政の時、戰功により筑前に移り、慶長五年細川忠興代りて封ぜられ、寛永九年忠利肥後に轉封後は小笠原氏これを領し、享保二年奧平昌鴻丹後宮津より移封ぜられ代々相繼ぎて廢藩置縣に至る。明治四年小倉縣の管轄となり、同九年四月福岡縣に屬し、同年八月宇佐・下毛二郡と共に大分縣に所屬。明治に入り從來の模式的城下町は新たに商業都市として進展し、一時は繁榮大分市を凌ぎたる事あり。後背地に豐前平野を控へ、交通の樞心となりて益々區實の發達を遂げ、且つ年々五十—六十萬の遊覽客を迎ふ耶馬溪への中繼地として市況盛なるに至る。大正十四年に豐田村・大江村を、昭和四年に小楠村を合併、同年市制施行す。なほ福澤諭吉及び明治初年の儒者にて勤王家なる中村栗園(贈從四位)は本市の人なり。〔中津城址〕二ノ丁にあり。山國川分流に臨み、東南に丘阜を繞せる形勝の地を占む。天正年中黑田如水の築城にて、元和六年細川忠興これを修造し黑田・細川・小笠原・奧平の諸氏相次で領して明治に至る。城地の形狀により扇城または要城と呼ばれ、郷名によりて大家城とも稱せり。いま城廢し、中津公園となり、三所神社・中津神社あり、また「獨立自尊」の四字を刻せる福澤氏記念碑建つ。〔三所神社〕二ノ町に鎭座。郷社。祭神、奧平貞能外二神。安政二年、中津藩主奧平昌服は遠祖の功德を追慕して創建す。例祭、五月二十一日。〔中津神社〕二ノ町に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・仁德天皇・宇治若郎子等十三柱。江戸時代中津藩主小笠原・奧平氏の崇敬を受く。〔開無演神社〕郷社。祭神、豐日別國魂神外二神。崇神天皇の頃の創建にして、往昔は豐日別宮または俗に龍王寺と稱せりと。歷代領主の崇敬厚く社領五十石を寄せらる。社地は龍王演また は開無演と稱し風光絕佳なり。例祭、十一月五日。〔八幡大江神社〕豈津に鎭座。郷社。祭神、應神天皇外二神。創建年月を詳にせざるも舊記に據るに相當の古社なるべし。例祭、十一月十五日。〔自性(禪)寺〕新魚町にあり。臨濟宗。もと葛松寺と稱し、延享二年現寺號に改む。中津藩主奧平氏の菩提寺にて、氏が宮津より移封せられし時、隨ひて移るといふ。奧書院を大雅堂と稱し池大雅が滯留せし時の揮毫に係る書畫を藏す。〔明圓寺〕櫻町にあり。眞宗本願寺派。開基は東松刑務少輔義房入道了空。市內第一の巨刹。〔福澤諭吉舊宅〕留守居町にあり。藁葺平屋建の母屋一棟及び荒壁造の納屋あり。道路を隔てて記念館あり、日用品・衣類・遺墨等を陳列し、館前には胸像あり。邸は福澤氏が天保七年三歲の時より安政元年二十一歲にて長崎に留學するまで起臥、修學せしところ。福澤諭吉は明治時代新思想の先覺者。中津藩士百助の次子。天保五年十二月十二日大阪なる藩の倉屋敷に生れ、三歲の時父歿するや、家を挈げて郷里に歸り、勞働の傍ら勉學大いに努む。安政元年二月長崎に赴きて蘭學を修め、次で上阪、緒方洪庵の塾に學び、五年上京、鎭藩洲の藩邸內に蘭學塾を設けしが、橫濱開港の事あるや、率先獨力にて英學を修む。萬延元年新見豐前守・木村攝津守等に從ひ渡米、文久元年竹內下野守一行に替りて渡歐、慶應三年また渡米。翌四年四月(明治元年)塾を鎭藩洲より新錢座に移し慶應義塾と改め、明治四年三田舊島原藩邸に移し、爾來銳意人材の養成に當ると共に泰西新文明の輸入に努め、明治思想史上に不滅の功績を殘すに至る。十五年三月時事新報を創刊、自ら新說を執筆す。その思想はイギリス經驗學派の功利主義に基き、個人の獨立自尊、社會の實利實益を鼓吹したるものにして、世の啓蒙に資せしこと夥から ず、謂ゆる三田學派の根柢たる經濟學說と實業界への地盤の開拓とを結果せり。明治三十四年二月三日歿す。著書すべて五十七種、百餘冊に達し、中にも「西洋事情」(慶應二年—明治二年)・「學問のすゝめ」(明治五年—九年)・「文明論之概略」(同一〇年)等最も著はれ、すべて「福澤諭吉全集」に收めらる。

## ナカツ　仲津

【仲津村】福岡縣豐前國京都郡の東部、行橋町の東南約二粁、南は築上郡八津田村に接し、東は周防灘に臨む。西北部には覗山(二二二米)の丘陵蟠る外は土地卑濕、海岸一帶は砂濱連る。南部に雜木林ある外は耕地よく開け所々に池ありて灌漑の便よく米・麥・蔬菜を出す。省線日豐本線は西南部を走り新田原驛(明治三十年設置)を置き、國道また之に沿ひ走り交通便なり。當村は蔵郷村・想波村・今川村と共に和名抄、仲津郡仲津郷の地にして、村名は郷名の遺稱なるべし。

【仲津郡】豐前國(福岡縣)の古地名。續紀天平十二年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は豐見(ヤカタ)・勝見(ヤカタ)・城井・狹度(サワド)・高屋・中臣・仲津・高家の八郷を管す。明治二十九年四月京都郡に入りて郡名を失ふ。

## ナカツ　長津

【長津】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に天羽郡長津郷あり、この地今の君津郡濱町の邊に當る。

【長津】福岡縣遠賀郡にありし町。大正十三年に中間町と改稱す。

## ナカツアマ　中海

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に深津郡中海郷あり、蓋し中海人の怪峠なり、今の福山市、浮安郡の中津原村邊の地にして往昔の穴海(アナウミ)の附近なるべし。※穴海

## ナカツイ　中井

(なかゐ)　備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に英賀郡中井郷あり、奈加郡井と調ず。その地今の上房郡中津井村・中井村の邊に當るか。

## ナカツイ　中津井村

(なかつゐ)　岡山縣備中國上房郡の西北部。(ゆかた)郡町の南にあり。東北には上水田村に、東は上有漢(ありかん)村に、南は有漢・豆瀨二村に、西は中井村及び阿哲郡豐水村に界す。面積一七・五四方粁。中央部を南北に狹長の平地ある外は、全村約四〇〇米餘の山地より成る。山地は木炭を出し、また好牧場をなして牛を飼ふ。谷地及び平地にては農業行はれ米・麥・繭の外、生柿・蒟蒻等の產あり。郷部町と南方高梁町を連絡する縣道通りバスの便あり。大字下中津井の部落は主邑をなす。古くは和名抄英賀郡中井郷の內なり。のち阿賀郡に屬せしが明治三十三年上房郡に編入す。また江戸中期の儒者寧鄕巢はこの地の人なり。

## ナカツエ　中津江村

大分縣豐後國日田郡の西南部。東は熊本縣阿蘇郡北部にて東南部には上津江村を隔て、東北部は大山川によりてこれに接し、南は同菊池郡・玖本郡に、西は福岡縣八女郡に界す。面積八四方粁餘。釋迦ヶ岳火山群の地域にて、北境に渡神岳(一一五〇米)、西境には猿駈山(九六八米)・三國山(九九四米)、南界上には酒呑童子山(一一八一米)・鯖ヶ山地なるも中部東西にはその褶合谷ありて大山川の上支東流し、東部に至りて、上津江村より來る本流と合し、東北境をなして北隣大山村に出づ。この河谷に沿ひ僅に低地あるも耕地面積乏し。木材・薪炭・椎茸等の林產あり。有名なる鯛生金山ありて金を產す。東部には北方日田町と西南方筑府町とを結ぶ道路走るも交通なほ大いに便ならず。古くは津江庄の內にして、中世に津江氏これに居る。のち大友家に臣事せしも天正中絕家す。〔鯛生鑛山〕福岡・熊本兩縣境に近く海拔約六百米の高地にある金鑛山にて本邦重要鑛山の一。鑛區八十五萬餘坪、鑛區の地質は第三紀層にして、淺綠色を帶び且つ黑色斑點を有する輝石安山岩を以て成り、鑛脈は一般に輝石安山岩中にあり、鑛床は裂罅充塡の正規脈にて含金銀石英鑛床とし。明治三十二年以來探掘されつゝあるが、近年探鑛のため水平坑延長、豎坑掘下等なしたるに脈勢何れも良好なりき。殊に昭和十年に西部處女地帶にて富鑛帶を發見せるが、その延長二〇〇米、脈幅二—五米、合金品位一〇—三〇瓦、銀は二倍量ありて頗る優勢なるものなり。かくて同年より大規模の竪坑開鑿を開始し、また新機械を增設す。

して十年に於ける處理價額は一日八五五題に及びしといふ。同年の產額金二、〇四九、九四五瓦、銀一一、四一九、七〇一瓦、その總價六四七萬餘圓にして同年六月末の使用職夫一、一〇一人とす。

**ナカツカ　長東村**　廣島縣安藝國安佐郡の南部。廣島市の北隣にて、北及び西は山本村に、東北は原村に界す。面積二・九方粁。本は太田川下流の沖積平地の沃野より成り西は高さ二—三百米の丘陵性山塊ありて山林地をなす。農業盛にして米・麥・繭・蔬草等の產少からず。從つて桑表・麥稈・蔬田その他の工產業も盛に行はれ、また牧畜・林業等も營まる。北方可部町を經て山陰松江または鳥取の各市へ道縣通じ、又これに交錯して省線可部線通じて安藝長東・安藝山本の二驛(明治四十二年設置)を置く。また廣島市横川町にバスを通じ省線山陽本線横川驛に連絡し、交通便なり。

**ナカツカ　長塚村**　福島縣勞城國雙葉郡の東北部。北は浪江町、南は新山町に隣接す。西南境は海拔一七八米にして東北方に傾斜し、前田川は西部に發源して東流し、請戸村に入りて日本海に注ぐ。沿岸に耕地拓け、村の東部は平坦なり。米・繭・麥を產す。陸前濱街道は村の東部を南北に通ず。これに並行して省線常磐線通じ長塚驛(明治三十一年設置)あり。

**ナガツガ　長梅山**　日本北アルプス白馬連峯の一峯。自馬岳(二九三三米)の北方約七粁、富山縣下新川郡山崎村と新潟縣西頸城郡小滝村の境上に聳る。標高二二五〇米。南稜に朝日岳(二四一八米)・赤男山(二二〇七米)連る。

**ナカツガル　中津輕郡**　青森縣陸奥國の西南部。西北は西津輕郡、東北は北津輕郡、東は南津輕郡、南は秋田縣北秋田・山本二郡に隣接し、東部に弘前市あり。面積七二三・七三方粁。西北部に岩木山(一六二五米)あり、コニーデの山容は津輕富士の名を以て呼ばれ、頂上に小トロイデありて二重式成層火山をなす。南境には西より雁森嶽(九八七米)・小岳(一〇四三米)・冷水嶽(一〇四三米)・釣瓶落峠(六五六米)・尻高森(九七七米)・長慶森(九四三米)等あり、西部にも岩木山の南方は五百乃至六百米の山嶺連り、東部は津輕平野に屬して平坦なり。岩木川は西境・南境及び岩木山麓の水を集めて郡の中央部を東流し、津輕平野に出で郡の東境をなして北流す。東部津輕平野には米の產多く、津輕米の名あり。平野の周緣なる山麓地帶は林檎の產に富み、弘前市・板柳町等はその集散地をなす。羽州街道は郡の東南部を通り、青森市に至り、これより東北部を西北に向ふ縣道を分つ。また羽州街道に略並行して奥羽本線通ず。もと津輕郡(舊津輕領)といひしものを明治十三年東・西・南・北・中の五郡に分ち、更に同二十二年弘前市が中津輕郡より獨立し以て今日に至る。

**ナカツガワ　中川**　播磨國(兵庫縣)の古地名。風土記讃容郡に中川里あり、和名抄に佐用郡中川郷あり、延喜兵部省式に播磨國中川驛あり、驛馬五疋と見ゆ。これ郷にして驛を置かれたるものなり。いま佐用郡三日月村・德久村の邊なるべし。

**ナカツガワ　仲川**　大隅國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に桑原郡仲川郷あり。その地詳かならざるも、いま姶良郡牧園村の邊ならんか。同村の大字に上中津川・下中津川あり、郷名の遺稱なるべし。

**ナカツガワ　中津川**　【中津川村】山形縣羽前國南置賜郡の西端。西北は西置賜郡津川村・南小國村に南は福島縣耶麻郡熱塩・加納・一ノ木の三村に隣接す。面積一九五・一二の本郡第一の大村なり。南境には穀蒔山・三國岳・地藏山・牛ヶ岩山・赤扇山・大塚山・飯森山の千米より千七百米に及ぶ山嶺あり、西北境にも地藏岳・鍋越山・山毛欅潰山、東境には烏帽子山ありて北方に低く、山嶺は何れも分水嶺をなす。最上川の上支白川は三國岳の北斜面に發して、北部にて南境山地に發する廣河原川等の小川を合して北流す。村内には高山岳重疊し且つ四周の各村落とも高嶺を以て限られ、北方僅かに白川流域により通ずるにすぎず。耕地は各河川の岸に僅に發達し米・畑作をなすも、木材・薪炭類の產出は多し。街道は各溪流に沿うて通ずるも驛路ありて交通便ならず。この地は近世に中津川上游の地なるを以て中津川郷と稱せられし地なり、小坂の御館山は、舊說によれば八幡太郎義家が賊を伐ちし古跡なりといふ。

【中津川】岐阜縣惠那郡中津町の大字。中央本線の中津川驛(明治三十五年設置)及び社線北惠那鐵道の中津川驛(大正十三年設置)を置く。

**ナガツタ　長津田**　神奈川縣都筑郡田奈村の大字。省線横濱線の長津田驛(明治四十一年設置)を置く。

**ナカツチ　中土村**　長野縣信濃國北安曇郡の北部。姫川上流に沿ふ小村。北より東には雨飾山・天狗原山・秦師岳・棠津岳等いづれも二千米前後の山嶺連亙し、東北境は新潟縣西頸城郡根知村)・中頸城(杉野澤村)南郡に、西南境は上水内郡鬼無里村に接す。略中央を姫川の一支流西南に流れ、西南境を北流する姫川に合す。聚落はこの河岸に散在し、上流に小谷・熱湯・元湯等の諸温泉湧出す。平地は殆んどなく、山畑に米・麥・蕎麥・大豆・桑等を栽培し、養蠶を主要生業とす。其の他は林業・牧畜にして木炭の產あり。姫川本流に沿ひて糸魚川街道走り省線大糸南線の終點中土驛(昭和十年設置)を對岸南小谷村に置く。この地は東鑛、文治二年の條に千國庄、六條院領とある地なり。村内に小谷温泉・尾丸嶺(高





さ九〇米、巾四米)・鵜割嶺(高さ一〇〇米、巾三米)あり。(小谷温泉)元湯・熱湯・新湯の三湯あり、何れも炭酸泉にして療養向。

**ナカツナ　中綱湖**　長野縣松本平の北隅、青木湖と木崎湖との間なる小湖。謂ゆる斷層線湖の一にして、青木湖の排水口なる葉場より約三百米南に當り、水位約八一〇米、面積〇・一四方粁、縱狀をなし、著しく西側の山下に偏る。最深點一三米。北岸に湖櫛發達するも其他は湖面の大部分に亘り水蓮繁茂し、種々なる挺水植物によりて水面を掩はる。底質は主に砂質堊にして、腐蝕質を含み天然瓦斯を發散する箇所あり。湖の水温は夏季に表面二五度、湖底一二度、七—八米の間に躍層現はれ、冬季は湖底三・五度。透明度は六米前後。湖面の一部には一種水面の反射作用によりて往々「船路」と稱する變色帶を生ず。鮒・鯉・鮠およびドブ貝・たにしを多く產す。この湖の成生前には十石寺といふ巨刹あり、或年、一夜に地盤陷落し同時に有明山崩熱と現はれ、陷落せし所に直ちに水を湛へて中綱湖となれりと傳ふ。

**ナカツハラ　中津原村**　廣島縣備後國深安郡の西部。福山市の北方にあり、東は神邊町・千田村に、北は下出成村に、西は森脇村及び沼隈郡鄕分村に界す。面積二・六二方粁。西境中部より南に壹田川流れ全村その沖積平地の一部を占めて地勢平坦、肥沃なる耕地よく拓けて農・畜・工業等盛にして米・麥・蔬草・繭等の農作物、麥稈蔬田・桑表等の工產物あり。中央部を略東西に國道山陽道通じ、それに交錯して南北に縣道通じ福山市と連絡しバスの便あり、省線福塩線横尾驛(千田村)に近し。本村は森脇村・上岩成村・下岩成村と組合村をなし、森脇村に役場を置く。

**ナカツマ　中妻村**　福島縣勞城國田村郡の西部。三春町の西南に隣り、郡山市の東方約六粁。阿武隈山地の西斜面に屬し、全村概ね高原性の丘陵地をなし、大瀧川は村の東部より南部に流る。米・繭・葉煙草・馬等を產す。道路は村の中部を南北に通じ、東北方三春町、西方郡山市、西南方守山町に至る。(荒井の大やまもみぢ)指定天然記念物。大字荒井にあり。丘陵の崖上に立ち、枝條高く擴がり、遠望鞠の如し。根元周圍約四・九米、約一・四米の上に於て枝を分ち、分岐部直下の幹圍約六・五米、樹高約一六米、太枝は九本、やまもみぢの代表的巨樹にして、樹勢の盛なる點に於て比類なり。

**ナカツマ　中間**　讃岐國(香川縣)の古地名。天平勝寶四年の造東大寺牒に香川郡中間郷の名見ゆ。和名抄にも香川郡中間郷あり。この地今の香川郡檀紙村の邊を云ふか。同村の大字中間は郷名の遺稱とす。中世は中妻莊とも稱せり。

**ナカツヤ　中屋**　筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に夜須郡中屋郷あり、その地は今の朝倉郡夜須村の邊に當る。

**ナカツヤ　中家**　美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に賀茂郡志麻郷あり、その地は今の加茂郡下米田村の邊に當る。

**ナカツヤ　中津屋**　福岡縣朝倉郡にあり。明治四十一年三根・安野の二村と共に廢して夜須村を建つ。

**ナカツヤマ　中山**　越前國(福井縣)の古地名。和名抄に今立郡中山郷あり、今の今立郡南中山村の邊に當るか。

**ナカツヤマ　中津山村**　宮城縣陸前國桃生郡の中部にて、飯野川町の西北約七粁。西北は北上川を隔て、登米郡・遠田郡に隣接す。陸前平野の東部なる大谷地低地帶に屬し、全村概ね平坦なり。北上川は北・西・南の境をなして南流す。米・繭・麥・大豆等の產に富む。道路は西部を南北に通じ、省線石巻線佳景山驛は南方約七粁にあり。此地は和名抄、桃生郡勞遊郷の内なり。

**ナカツラ　中津良村**　長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の南部。北は獅子村、東北は紐差村、東南より南には津吉村に隣接し、西は東支那海に臨む。面積約二二方粁。丘陵性山地三條ほぼ南北に連り、東の嶺には慈眼山、中央には有僧都岳・白岳等聳え、これら山嶺の間に小低地あり。西海岸は山脚海に迫りて小突角多く、その南部は、津吉村との間に彎入あり。

**ナカテ　中手**　筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に夜須郡中手郷あり、今の朝倉郡夜須村の邊に當る。

**ナカテコバヤシ　中手子林**　埼玉縣北埼玉郡にありし村。明治三十四年に外一村と合して中島村を置く。

**ナカテシマ　中豐島村**　大阪府橘津國豐能郡の南部。北は豐中市に、西南は南豐島村に接す。面積三方粁内外の小村。東北隅に僅に丘陵の末端あるも、其他は大阪平野の北部にて極めて平坦。米・麥等の農產の外、大阪市の北部工業地帶に近く各種の工產あり。池田街道は中央を貫き、その西に社線阪神急行電鐵寶塚線走り、服部驛を設け交通便利なり。

**ナカテラ　中寺村**　兵庫縣播磨國神崎郡の南部西偏。市川下流の西岸に沿ひ姫路市の北方約六粁、これと香呂村を隔て、北は福崎町に接し、西は飾磨郡庇谷村・置塩村に界す。面積一二・五方粁餘。西境は約三百米程度の丘陵南北に連り、その支脈南境と東北境に延びて次第に東南に低傾し、その中間に狹き低地ありて北部より東南部の市川沿岸に續く、田畑よく發達して米・麥を主とし、外に葉煙草・食用農產物・蔬菜・繭・鷄卵等あり。また帆・蓆等の藁製品・醬油・木製品・瓦物・墨・製茶等の工產を出す。但馬街道(縣道)と省線播但線は東南部を縱走し、後者には溝口驛(明治三十一年設置)設けられ、南方姫路市への交通は便利なり。

（大年神社）　大字士師に鎮座。郷社。祭神、大年神。往昔、神功皇后は天神地祇を祀り給ふ時、此地の土師臣に命じて土器を作らしめられ、後その舊跡に大年神を奉齋せるものにて、其後、現地に奉遷すといふ。例祭、十一月十七日。

**ナカト　中跡**　伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に河曲郡中跡郷あり、奈加止と訓す。中世に中跡莊と稱す。式内奈加等神社鎮座す。いま河藝郡一ノ宮村の地卽ちこれなり。大字中戸に郷名の遺稱の殘ぜしものなり。

**ナガト　永戸村**　福島縣磐城國石城郡の北部。平市の西北約一一粁。面積九八・七一方粁の大村。阿武隈山地に屬し、南境に鶴石山（七六八米）・二つ石山（七五一米）あり、東境には閼伽井嶽（六〇五米）あり。小玉川は北部に發源し、村の中部を東流し、好間川はその南部を東流す。全村縱れ山地ゐなし、何川は峡谷ゐなし佳景に富む。木炭・米を產す。道路は好間川に沿ひて、村の南部を西北より東南に通じ東南方平市に至る。人口密度は僅に一方粁二八人なり。

**ナガト　永渡村**　廣島縣備後國神石郡の北部。東は新坂村に、南は油木町・草木村に、西は高光・古川二村に界し、北は比婆郡帝釋村に隣す。面積は約三〇方粁。帝釋臺の一部を占め、西北部に御神山（八八九米）聳え、その急峻なる山腹は東南に傾斜し東境帝釋川に臨む。故に全村殆ど山地にして平地見るべくもなし。帝釋川は石灰岩の地質を浸蝕して峡谷をなし、謂ゆる帝釋峡として名高き河道の奇觀をなす。山地及び河谷は森林地及び牧場をなし、牛を飼育す。また鹿及び木炭・木材等の產も少からず。村内は地形上交通あまり便ならず、西北部に縣道走り南方の福山市、北方の八幡村に通ず。

※帝釋臺・帝釋峡（ティシャクキョウ）

**ナガト　長戸村**　茨城縣常陸國稻敷郡の南部。龍ヶ崎町の東方約三粁。北半は丘陵地にて森林・畑地あり、南半及び東北境附近は低地をなして水田多し。米を主產し他に小麥・大麥・蕎を產し、特產物には藺加工品あり。龍ヶ崎町より江戸崎町に通ずる縣道は村の中央を東走し、自動車の便あり。古くは和名抄、信太郡稻敷郷の内なるべし。村制施行の際に長峰・筑戸などの六箇村を合併し、前記二村の各一字を取つて村名とす。

**ナガト　長門**　【長門】　安房國（千葉縣）の古地名。和名抄に平群郡長門郷あり、奈加止と訓す。その地今の安房郡那古町・船形町の邊に當る。

【長門國】　山陽道八箇國の一。中國地方の西端に位す。いま下關・宇部・萩の三市と厚狹・豐浦・大津・美禰・阿武の五郡に分ち山口縣の管轄に屬す。この國は上世の穴門・阿武の二國の地に當り、早く景行天皇の朝それぞれ國造を置かる。阿武國は東北にありて穴門國は西南にありしが、國郡制定の時に二國は併されて長門國となり、阿武は郡名として殘る。仲哀天皇の熊襲を征したまふや、この國の豐浦宮に在ましし、その後、國府の置かれしはその位置にて、後の豐浦郡長府町（今は下關市に入る）の中とす。此地の筑紫の太宰府と共に對外の重要地點として重視されし事は、天智天皇の時、ここにも城を築きて逢警に備へられし事によつて知らる。文治元年春、平氏はこの國の壇ノ浦にて源氏と最後の決戰を交へて、終に一門悉く滅亡せしは有名なり。源頼朝の天下を平定するに及び佐々木高綱をこの國の守護とす。北條時宗の執權となるや、蒙古襲來の報を聞き、長門警固使を置き、一族の北條實政をこれに任じて警備を嚴にせり。爾後一族のもの交代し後には中國探題と號し、山陰・山陽を控馭し、良て元弘年中北條氏の滅亡まで續きたり。建武中興の時には、厚東武實なるものこの國の守護となり、のち足利尊氏の叛するに及びてこれに應じ、爾後三代この國を領せしが、正平年間、孫の義武に至りて大内弘世のために滅ぼさる。弘世この國を奪ひて守護となり、周防・石見の守護をも兼れ、子義弘に至り功あり、近畿に於て紀伊・和泉の兩國を領する外、更に海を越えて豐前をも領して大いに威を振ひしが、應永の亂に戰死す。しかしその子孫は相次ぎて防長二國を領し、弘世より六世なる義興の時に至りて再び盛んとなる。その子義隆は、陶晴賢（陳房）の爲に裁せられ、安藝の毛利元就は晴賢を滅ぼして悉く其地を收む。元就の孫輝元の時に關ヶ原役起る。輝元は秀吉の恩誼を思ひ西軍に與せしが、役後その封を削られて防長二州となり、慶長九年萩に移りて三十六萬九千石を領す。ついで輝元は義子秀元を府中（後に豐浦藩といふ）五萬石に分封し、更に秀元七世の孫政苗（飼武の弟）を清末に一萬石に分封す。文久元年毛利敬親の時、宗家は萩城を出でて山口周防に移る。幕末に至り長州藩は攘夷の詔を奉じて實行し、關門海峡を通過する外國船を砲擊し、ために外國聯合軍の攻擊を蒙りしが、のち償金を出して和を講ず。明治維新ののちに豐浦・清末二藩はそれぞれ縣となりしが、同四年十一月には二縣を廢して山口縣に合併し、長門一國山口縣の管下となる。同二十二年四月に豐浦郡の中より赤間關市が獨立し（明治三十五年六月下關市と改稱）し、同二十九年四月には長門の兒島郡を阿武郡に併せ、大正十年十一月には厚狹郡の宇部村は一躍して市制を布き、昭和七年七月には萩が阿武郡より獨立して市になり、ここに長門國は三市五郡を以て今日に至る。

【長門鐵道】　社線。長門國にあり。山口縣豐浦郡小月町の省線山陽本線の小月驛より西市町の西市驛に至る一八・二粁。





大正七年開通。軌間一・〇六七米、動力は蒸氣・ガソリン、省線と連帶運輸す。

【長門栗野】　山陰本線の一驛。昭和五年設置。山口縣豐浦郡栗野村にあり。

【長門一ノ宮】　山陽本線の一驛（明治三十四年設置）。山口縣豐浦郡勝山村にあり。

【長門大井】　山陰本線の一驛（昭和四年設置）。山口縣阿武郡大井村にあり。

【長門二見】　山陰本線の一驛（大正十四年設置）。山口縣豐浦郡神玉村にあり。

【長門古市】　山陰本線の驛（昭和四年設置）。山口縣大津郡日置（ヘキ）村にあり。

【長門三隅】　山陰本線の一驛（大正十三年設置）。山口縣大津郡三隅村にあり。

【長門湯本】　美禰線の一驛（大正十三年設置）。山口縣大津郡深川町にあり。

**ナカトー　那珂東**（なかとう）　常陸國（茨城縣）那珂郡を中世に私に東西に分割して稱せし郡名。那珂川の左岸にありしが、文祿の檢地の際に廢して那珂郡に入る。

※那珂（ナカ）郡。

**ナカトージョー　中東條**（なかとう）　兵庫縣播磨國加東郡の東部。加古川の支流東條川中流の地、東は上東條村、西は下東條村につづき、南部は美囊郡口吉川村に界す。面積二二方粁餘。南北兩部は臺地性の低き山地にて、南境に赤土山（一九二米）あり。中部には東條川西流し沿岸に低地あり、田畑よく拓けて米・麥・蕎を主とし蔬菜・薬煙草・食用農產・薪・果實の農產、鈎針・テグス・皮革製品・醬油・紙製品・竹製品等の工產少からず。中央河谷に縣道走りてバスを通ず。和名抄に賀茂郡住吉郷と云ふは本村及び下東條村の邊に當るか。昔、大汝命が酒屋を造りしといふ酒屋谷（播磨風土記）は本村の地ならんといふ。

**ナカトーリ　中通**（なかとり）　佐賀縣肥前國杵島郡の西部。

【中通村】　佐賀縣肥前國杵島郡の西部。武雄町の西に接し、西南部は西松浦郡に界す。西南境には杵島山（四四七米）聳え北方に山麓を縫ひて西南部一帶の山地をなし、西北部にも約二五〇米の山地蟠居し、北境より東境にかけても約二—三百米程度の丘陵起伏す。松浦川は東南境に源流し迂曲しつゝ北方に流れ流域に低地開く。田畑良く拓けて米・蕎麥を產す。武雄町方面より來る國道北部を西に走りて西松浦郡有田町方面へ向ひ、西北方今里町へ通ずる縣道もあり。省線佐世保線は國道に沿ひて本村を貫き三間坂驛（明治三十年設置）あり。

【中通島】　長崎縣南松浦郡に屬する島。五島列島の東北端部に位して平戸島の西南方二〇粁餘にあり、十字形をなして南北が一層長く、島の北端に近く野崎島・小値賀島、東端に接して平島あり、西南方に近く若松島あり。有川町の外に濱ノ浦・青方・魚目・北魚目・奈良尾の五村に分る。島は中生紀層及びそれを被覆する火山岩部より成る山岳性のものにして耕地に乏しきも、海岸線の出入著しく良港多し。漁場にも近接せるため漁業に從事する者多く、東北岸の有川港は貨物の捕獲業の中心地として知られたり。

**ナカドーリ　中通**（なかとり）

【中通村】　新潟縣越後國刈羽郡の東部。柏崎町の東北方約六粁。黑川の水源をなし、東は三島郡に界す。東部に西山丘陵の一部起伏し、東へ黑川を源流し、西部には平地開け、鯖石川の支流別小川南に流る。平地には水田拓け米の產額多し。養蠶を副業とす。東西に一條の縣道貫通し、省線越後線西中通驛へ約四粁、バスの便あり。村内赤田（いま大字赤田町方、赤田北方）の地はもと保名に呼ばれ、中世赤田氏地頭職たりといふ。また同地に城址あり、卽ち齊藤下野守朝信の居りし所とす。また赤田の奥水谷に炭酸泉あり。

〔明治天皇曾地御小休所〕　指定史蹟。大字曾地字北田にあり。明治十一年北陸東海巡幸の際、九月二十三日、御小休所となりたる處にして、舊規模よく保存せらる。

【中通村】　熊本縣肥後國阿蘇郡の中部。阿蘇火山外輪山の北部を占め宮地町の北に接す。中部以北は外輪山の北斜面にて高原狀をなし北部に至りて急斜す。村の南半はその南斜面にて阿蘇谷に急斜し南部はその火口原の一部にして土地平坦、畑地よく拓く。米・麥を產するも面積少く大部分は原野にして牧畜行はる。南部山麓に縣道走り、また南方宮地町市街地へ道路通じてバスの便あり。

**ナガトシ　永利村**　鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の南部。西は川内町に、東は總脇村に南は日置郡串木野村に接す。面積二八・二方粁。八重火山郡の冠岳は南境に、日筑山は中部に、上床（寺山）は北境に聳り山地多きも中央西部は山内盆地の東南部に當り、土地平坦にして畑地よく拓く。米・蕎・麥等の農產多く、外に工產・林產・畜產あり。縣道は北部を東西に横斷し川内町へはバスの便あり。

**ナカトツカワ　中十津川**（なかとつ）　奈良縣吉野郡にありし村。明治二十三年外五ヶ村と共に合併して十津川村（ツヅ）を置く。

**ナカトップ　中德富**　札沼線の一驛（昭和六年設置）。北海道石狩國樺戸郡新十津川村にあり。

**ナカトミ　中富**　→藍園（徳島縣板野郡）

**ナカトミ　中臣**

【中臣】　播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に揖保郡中臣郷あり、その地今の揖保郡揖保村の邊に當る。

【中臣】　豐前國（福岡縣）の古地名。和名抄に仲津郡中臣郷あり、その地今の京都郡今元村・泉村の邊に當る。

**ナカドミ　中富村**　熊本縣肥後國鹿本郡の中部東偏。山鹿町の東南方に近く菊池平野の中央部を占め、菊池川とその支流合志川・迫間川・内田川等の合流地

點に當り、南は内田川によりて菊池郡雲村・迫間川を隔てゝ、同郡加茂川村と界す。土地平坦にして田地よく拓け、良質なる肥後米を主とし麥・繭等を產す。國道と社線鹿本鐵道とは西部を縱貫し、前者によりて山鹿町・植木町へバスの便あり、後者は分田驛（大正十年開業）を設け交通便利なり。古くは中宮庄と稱し、隣接諸村を總べたり。大宇梶屋の地名は菊池氏に仕へし鍛冶工の居住地たりしに因るといふ。

**ナガトモ　長友**　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に安八郡長友鄕あり、その地いま詳かならざるも安八郡墨俣町・結村の邊に當る。

**ナガトモ　長伴**　陸奥國（磐城國、福島縣）の古地名。和名抄に宇多郡長伴鄕あり、その地いま詳かならざるも相馬郡新地村・福田村の邊に當るか。

**ナガトロ　長靜**　【長瀞村】山形縣羽前國北村山郡の西南部。東北は鶴岡町、東は東根町、西南は西村山郡谷地町に隣接す。山形平野の北部に位し、最上川は西部を北流す。全村概ね平坦なり。米・繭・草履表・摺臼等を產す。東方奥羽本線、東根驛へは約一粁。東北方鶴岡驛へは約三粁あり。村内の長瀞城址は寛政十年、米津氏、武州久良岐郡金澤より轉封し、ここに陣屋を置く。明治二年、上總國山邊郡大網（今の山武郡大網）へ轉封し、移いで農落となる。往時は斯波釜組朝臣の曾孫、左京大夫清家住居の城なりと云ふ。

【長瀞】↓國神村（埼玉縣秩父郡）

**ナカトンベツ　中頓別村**　北海道北見國宗谷支廳枝幸郡の西北部。東は枝幸村を隔てゝオホーツク海あり、北は頓別村、西は天鹽國に界す。面積三九八・九平方粁。頓別川上流地域を占め、ポロメブリ山（八三九米）・ペンケ山（七一六米）・パンケ山（六三一米）等の諸岳圍繞し、村内また高岳起伏して僅に頓別川峽谷に低地を見る。馬鈴薯・大豆・燕麥・亞麻・甜菜・木材を產し、製麻業・製材業行はる。省線北見線の小頓別（大正三年設置）・上頓別・敏音知・松音知・中頓別（以上大正五年設置）の五驛あり。

**ナカナイ　中内村**　岩手縣陸中國和賀郡の東部。花卷町（稱貫郡）の東南約六粁、南は江刺郡福岡村に接す。西・南部には三百米内外の山地連り西南境に物見山（一九二米）あり、山麓は東北に延び村内の諸溪流は何れも北流して北境を西流する猿石川に注ぐ。それら川沿に耕地開くも僅に六百ヘクタールに過ぎず、他は山林原野をなす。地質は南西部は第三紀層にて、猿石川沿岸には一名五角石の柱狀節理の露出する所ありて奇勝を呈す。南東部は一般に花崗岩地帶にて石材を出し、北部の猿石川沿岸一帶には神楽地あり。米・麥類・蔬菜等の外に近年緬羊を飼養しホームスパンを製出す。縣道に土澤黑澤尻線・大迫黑澤尻線あり。村内に毒澤城址あり、和賀氏一族の居館なり。城址はいま昭和公園となる。

**ナカナタ　中名田村**　福井縣若狹國遠敷郡の西北部。小濱町の西南約七粁、高濱町（大飯郡）の東南約四粁。やや東西に細長く、面積三一・五方粁餘。西部は北・西・南の三面山脈にて圍まれ北境に飯盛山（五八五米）あり。東部は東隅の約六〇〇米の山地より派出する山脈によりて北境・南境を限る。中部には北川支流ありて北へ貫流し、途中にて西隅に發して東流する支流を合す。河川に沿ひて低地發達し米・麥・繭の產あり。縣道は中部を南北に走り之より河谷に沿ひ一道分れて西に向ふ。東北方小濱町へバス通ず。古くは和名抄遠敷郡丹生鄕の内なるか。中世は口名田・奥名田の二村と共に名田庄と稱せらる。

**ナガナワシロ　長苗代**　青森縣三戸郡下長苗代村の大字。八戸線の長苗代驛（昭和九年設置）あり。

**ナカニーカワ　中新川郡**　富山縣八郡の一。越中國の東部。東北は下新川郡に、西及び南は常願寺川に依り上新川郡に、東南は飛騨山脈を境に長野縣北安曇郡に、西北の一部は、富山灣に面す。面積六二七・〇七方粁。飛騨山脈の一部及び立山火山群の大部分を含み、之に源流する常願寺・白岩・上市・早月の諸川流域一帶の地にして、西北部に富山平野の一部なる神積平野開けたる他は山麓重疊し、殊に東部には飛騨主脈及び立山連山南北に並走し、何れも三千米前後の高嶽を連ぬ、この兩山脈に挾まれて黑部川南流し花崗岩地帶の深谷を穿ちて、山民の云ふ廊下なる一千米の峽谷をなす別天地を作る。他の諸川は何れも立山火山群に發源し、流路を西北にとり比較的急傾斜をなす山地より急に平地に出づるため昔より治水困難なりしも、今はこの急流を利用し所々に發電所あり、富山平野は水利に富み、土地肥沃にして概れ水田をなし、越中米の產多し。山麓地帶には茶・桑・西瓜等の栽培等も行はる。其の他、山地には林業、海岸には漁業行はれ、上市町・五百石町は山麓地帶の、滑川町・東水橋町・西水橋町は海岸地帶の各々中心地なり。縣道は之等の五町を中心に四通し、國道は海岸の三町を經て富山市に至る。省線北陸本線もまた西北部を貫通し、滑川・水橋の兩驛を置く。また富山市より上市町・滑川町を經て下新川郡に至る社線富山電鐵線あり、支線を五百石町より常願寺川谷口の岩峰寺にも出し、富山縣營鐵道は富山市より上新川郡上瀧町を經て立山登山口千垣に通ず。其他、縣道には自動車・車馬の往來繁く、平野は交通頗る便なり。郡内は前記五町の外に二十八ヶ村を含む。本郡は明治三十年に上新川郡の東部を割きて設けるものなり。





**ナカニーダ　中新田**　【中新田町】宮城縣陸前國加美郡の東部。古川町（志田郡）の西方約八粁。面積五・三四方粁。本郡の主邑にして、陸前平野の西部にあり、土地概ね平坦なり。鳴瀨川は町の西南部を東南に流る。附近一帶は米の產多く本石米の名あり。また繭・麥等を產す。商工業また行はる。羽後街道は町の中部を南北に通じ、北方玉造郡岩出山町、南方黑川郡吉岡町に至る。中羽前街道は村の北部を東西に通じ、東方古川町、西方小野田村に至る。東方陸羽東線中新田驛（志田郡志田村にあり、大正二年設置）へは約三・五粁。社線仙臺鐵道の鳴瀨川驛（昭和四年設置）・加美中新田驛（大正十四年設置）あり。人口密度は一方粁につき一三三九人なり。この地は和名抄、色麻郡安蘇鄕の内なるべし。村内の中新田城は奥州探題大崎家釜の居城にして、のち家臣南條下總守これに居り、天正十六年、伊達政宗これを攻めて略す。近くは舊郡役所の所在地たり。

【中新田】省線陸羽本線の一驛（大正二年設置）にして社線仙臺鐵道接續す。宮城縣志田郡志田村にあり。

**ナカニシ　中西村**　島根縣石見國美濃郡の西北部。高須川の左岸にあり。高津町の南に隣り、北は小丘阜を距てて日本海あり。東南部には三百米に近き山地ありて山脈は高須川に沿ひ東北に延び、西北部にも二乃至四百米の山地ありて北部に飯く、中間に谷底ありて田畑開け、米・繭を產し、外に木材・鰯粕あり、清酒も醸る。街道は北部を東西に走り中部谷底を西南に通ずる街道を分ち、益田町に自動車の便あり。〔八幡宮〕大宇白上に鎭座。郷社。祭神、少彦名神・應神天皇・神功皇后。外に須佐之男神等七柱を合祀す。長和三年豐前國宇佐より勸請すと傳ふ。領主益田氏の崇敬あり。社領十石餘を寄す。例祭、九月二十三日。

**ナカニシウラ　中西浦**　神奈川縣三浦郡にありし村。明治四十四年西浦村と改稱し、西浦村は昭和十年に大補町と改稱す。

**ナカニワ　中上神**　大阪府泉北郡にありし村。明治二十七年に南上神村と合併し、上神谷村を建つ。

**ナガヌ　長沼**　備前國（岡山縣）の古地名。和名抄に邑久郡長沼鄕あり、奈加奴と讀む。その地今の邑久郡豐原村・豐村の邊に當る。神鳳抄の備前國長沼御厨とあるは此地なり。

**ナガヌキ　長貫**　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に眞壁郡長貫鄕あり、その地今の眞壁郡谷貝村・古里村の邊に當るか。

**ナガヌマ　長沼**　【長沼村】北海道石狩國夕張郡の西部。空知支廳管内西南隅に位し、西は石狩支廳、南は膽振國に界す。岩見澤町の南方約一五粁。面積一六七・九方粁。夕張川北境を、千歲川南流を割して西流し西境にて江別川に注ぐ。村内概ね石狩平野に屬する平野にして低濕なる沿澤地多く、東部に小山地橋る。平野の北部・東部は耕地多く村民農業を生業となし、米・豌豆・麥・玉蜀黍・馬鈴薯を產す。社線夕張鐵道長沼驛（昭和五年設置）あり。村内に明治二十九年、排水路七千間を作り舟楫を通ず、これを馬道運河といふ。

【長沼村】山形縣羽前國東田川郡の西北部。鶴岡市の東北約九粁。面積六・六八方粁。莊内平野の略中央部に位し、字多川は東境を、藤島川は西境を各北流し、北境にて合して北流す。全村概ね平坦なり。米產多し。東北方羽越本線餘目驛、東南方藤島驛へは各四・五粁あり。

【長沼町】福島縣岩代國岩瀨郡の中央部。須賀川町の西方約一四粁。西北は安積郡に接す。西境に鬼面山（一〇二一四米）、北境には高土山（七二九米）、南境に立石山（四九〇米）あり、北・西・南の三方は山地をなし、阿武隈川の支流江花川は村の中央部を東流し、沿岸に耕地拓く。米・麥・大豆・繭等を產し、また陶器の產出を以て名あり。茨城街道は町の西北より南に通じ、南方西白河郡白河町へはバスの便あり。北方は勢至堂峠を經て會津地方に至る。之より分岐して町の中央部を東方に向ふ道路ありて須賀川町に達す。明治三十四年町制を布く。天正十六年、伊達政宗會津を侵略し、長沼の城代に新國上總介を置く。慶長五年上杉景勝は會津に入部ののち、長沼城に島津月下齋を居らしむ。〔石背國造神社〕大宇長沼に鎭座。郷社。祭神、建彌依米命・建美名方命。成務天皇五十年に當地國造たりし建彌依米命の德を慕ひて土民これを創建す。爾後、累代國造及び諸武將の崇敬厚し。例祭、四月十八日。

【長沼村】栃木縣下野國芳賀郡の西南隅。鬼怒川の東岸。西は川を隔てて河内郡・下都賀郡の一部と相對し、南は茨城縣眞壁郡の一部と隣す。全村平地にて東部には水田、西部には畑地あり。農業を主として米麥を產し、特產物には繭・結城紬あり。縣道は東隣久下田町に通じ同町に省線眞岡線久下田驛を置く。古くは長沼庄と稱せらる。長沼の名は此地もと鬼怒川跡にして長き沼ありしに因むといふ。秀郷流小山氏の一族、此地に長沼氏を稱す。江戸末期の地理學者にして下野國志等を著はせし河野伊右衛門（贈正五位）は此地の人なり。〔八幡神社〕大宇太田宮ノ内に鎭座。郷社。祭神、譽田別命・天津兒屋根命・別當命。建久元年、長沼家政、鎌倉鶴岡八幡宮より勸請せる所と傳ふ。往古、長沼庄の總鎭守として著はる。江戸時代朱印領十石を有せり。例祭、八月十五日。〔宗光寺〕大宇太田にあり。天台宗。新御堂山圓頓止觀院。嘉祥元年慈覺大師の創建。東月枝山別當寺と號せりといふ。源頼朝は堂宇を再建す。鎭後

城主なる長沼氏・豐区氏・徳川氏等の崇敬を受く。

【長沼村】長野縣信濃國上水内郡の東部。千曲川の左岸。東は川を境に上高井郡に隣し、長野市の東北に接す。千曲川の本支流に東西を開拓され土地平坦にして水利に富み水田・桑園多し。米・麥・繭を主産物とす。縱横に道路通じ省線信越本線豐野驛に近し。村内に長沼城址あり、永祿年中に武田氏の築きし城なり。天正十年に上杉景勝は北信を征して、當城に島津淡路守を置く。元和元年、當國飯山落主佐久間安政の弟勝之、大阪の役の功を以て一萬石を加賜せられ、前封と合せて一萬八千石を食みこの城に封ぜられしが、元祿元年、五世勝親の時に除封せらる。

**ナカネ　中根村**　千葉縣上總國夷隅郡の東北部。長者町の西隣にて夷隅川の南岸。東北は長生郡の一部と隣す。南半は丘陵地にて森林あり。北半は平地にて水田・畑地あり。米・麥・繭を產し雞鶏も飼はる。長者町に縣道を通ず。省線房總東線は東部を南走するも村内に驛なく、長者町に長者町驛を置く。〔清水寺〕大字鴨根にあり。天台宗。晉羽山。坂東三十三所第三十二番札所。延暦年中に慈澄の開創と傳ふ。のち坂上田村麿の京都清水寺に擬して堂宇を造營すと云ふ。詠歌「濁る世に妙なる法の晉羽山聞き來る人の心淸水。

**ナカネオ　中根尾**（なかね）　岐阜縣本巢郡にありし村。明治三十七年東根尾・西根尾の三村と共に廢され、新たに根尾（ねお）村を置く。

**ナカノ　中野**

【中野】豐肥線の一驛。昭和三年設置。

【中野村】熊本縣阿蘇郡清水村にあり。

【中野村】岩手縣陸中國九戸郡の東北海岸。久慈町の北約七粁、東は海に臨む。村内には褶れ花崗岩より成る高度二百米以内の丘陵性山地連り、地は東に傾き海岸にても高度九〇米を示し海に急傾斜をなす。北部に原子内川、中部に有家川、南部に高家川あり、ほぼ平行して東流し海に注ぐも平地に乏し。生業は半農半漁にして米（約一六萬圓）・麥（約一一萬圓）・大豆（約一九萬圓）・稗（約一六萬圓）の農產物を始め、木炭（約四〇萬圓）・用材（約一四萬圓）・新炭材（約二五萬圓）を出し、水產額も約三二萬圓に及ぶ（以上昭和十一年現在）。太平洋に沿ひて南北に貫く縣道と之を東西に橫斷する村道あり。省線八戸線また縣道に沿うて走り陸中野驛（昭和五年設置）を置く。海岸は風光絕佳、浴客來客多く、高家白堊は高家川に臨り二層の堊となる。高さ約一六米。

【中野村】岩手縣陸中國岩手郡の南部。盛岡市の東南に隣り、東南は紫波郡乙部村に接す。東部には北上山地に屬する花崗岩の丘陵性山地連り、北より岩山（三四五米）・金勢山（一九四米）・鍋ヶ森（蟹ヶ森、二二三米）・鍋山（三九一米）・あり。北上川は西境を南流し、その沿岸に低地あり。來る雫川を合し、その沿岸に低地あり。耕地は東北部山麓大部分の花崗岩風化の砂質壤土と、葉川及び北上川の沖積地にて地味肥沃。村民の過半數は農業に從事し、その生產は總生產額（約二〇萬圓）の九〇%を占む。主に米・果實・蔬菜等にて、蔬菜・果實は盛岡市場を控へ、最も有望なり。また安庭部落に農林省東北小麥試驗場あり。交通は盛岡市に隣接するを以て便利なり、縣道も宮古街道は葉川沿ひに、釜石街道は北上川沿ひに通ず。村内の東安庭・門西部落の境上に經塚あり、また葛西圖書の居城なりし葛西館あり。「しだれかつら」指定天然記念物。

大宇門にあり。かつらの完全に枝垂と成れるものにて學術上珍奇なる變種なり。根開り二米餘、高さ約六米。

【中野村】福島縣岩代國信夫郡の北部。飯坂町の西に隣り、北は伊達郡に接す。面積五五・一三方粁にして東西の長さ約一五粁あり。北境に文珠山（八四九米）・三ッ森山（八九七米）、西南境に鶴菊澤山（九六七米）あり。小川は村の西部に發源し、村の南境を流して東流し、飯坂町に入りて摺上川に合す。全村褶れ山地にして東南部に稍耕地あり。米・繭・桃・蒟蒻等を產す。萬世大路は村の東南より西北に通じ、西北方米澤市、東南方福島市に至る。北地に大鳥城あり、里人は丸山城または佐藤館と呼ぶ。治承年中、佐藤兄治の居城たり。明治十四年に明治天皇は山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇大聖御小休所として史蹟に指定さる。

【中野村】福島縣岩代國安積郡の西南部。猪苗代湖の東南約五粁。東南は岩瀨郡に隣す。東南境に笠ヶ森山（一〇一三米）・八幡嶽（一一〇二米）あり、斷層崖をなして西北方に傾斜し、西北部は猪苗代盆地に屬して稍平坦なり。舟津川及びその支流は東南部に發源して西北流し、月形村に出で猪苗代湖に注ぐ。米・繭を產す。道路は村の中央部を西北より東南に通じ西北方猪苗代湖畔、東南方磐梯山を經て岩瀨郡須賀川町に達す。なほ當村と中野村・月形村・多田野村に亙りて重要鑛山たる日山鑛山（鑛種は金銀銅）あり。此地は和名抄、會津郡愛方郷の内なり。明治二十五年其輪村を分離して設けるもの。

【中野村】茨城縣常陸國那珂郡の東南部。涛町の西北隣にあり。大部分は畠地にて畑地なるして所々に林を交ふ。東南部には畠地間に低地を挾み水田あり。農業主にて米・小麥・甘藷・大根を產す。縣道は西方水戸市及び涛町に通じ、省線常磐線は西部を北走するも村内に驛なく、南隣勝田村に勝田驛を置く。また此線涛織道は同驛より分れて東南に走り、村の南部を通過するも驛なく、勝田村に金上・中根の二驛を置く。この地は古くは和名抄、那珂郡植田郷の内なるべし。大字植田野は康永元年の文書に、戸田野郷と見ゆる地にして、もと戸田野に作りしものの如し。

【中野村】茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の北方にて間に豐郷村を挾み、西は北浦、東は鹿島灘に臨む。大部分低き畠地にて畑地あり。所々林を交ふ。北浦及び鹿島灘沿岸には狹き低地ありて水田をなし、米・麥を產す。東部の海岸は鹿島浦の一部にて單調なる砂濱をなす。縣道は北浦沿岸を鍵走し、南は鹿島町に通じてバスの便あり。大字林に城址あり。鹿島三郎成幹の六男、親幹の始めてこゝに居し林六郎左衛門と稱す。子孫この地に居りしも、天正七年芝原五郎左衛門なる者に殺され、林氏こゝに絕ゆ。

【中野村】群馬縣上野國邑樂郡の西北部。館林町の西北にてその間に多々良村を挾む。北は足利郡の一部と隣す。全村平地にて一部は東方多々良沼に鎖く沼田をなす。農業行はれて米麥を產す。縣道は館林町に通じバスの便あり。また祇園上州鐵道の雅塚驛（昭和八年設置）・本中野（ほんなかの）驛（大正六年設置）の二驛あり。〔永明寺の金木犀〕指定天然記念物。大字中野の永明寺境内にあり。目通幹圍約三・四米、幹は二次枝に分れ樹勢旺盛、金木犀の巨樹として有數なるもの。〔長良神社〕大字中野に鎭座し郷社。祭神、藤原長良。古來本村の總鎭守たり。例祭、三月十五日。

【中野區】東京市三十五區の一。昭和七年大東京市實現以前の豐多摩郡中野・野方兩町の區域なり。地形は褶れ平坦地にて一帶に洪積層の臺地をなす。ただ北部には善福寺池より流出せし妙正寺川、南部には井ノ頭池より流出せし神田上水が流れ、それに沿ひ細長き水田帶あり。もとは南部を東西に橫切る青梅街道に沿うて連續せし人家のある外は、多く純農村の點散聚落をなせり。然るに東京の發展に伴じその西郊住宅地となり、特に震災後は急激に住宅地化が行はれ、ために十數年前に見られし郊外農耕景觀は現在は殆ど見ることを得ず。區内には電信局・新井藥師及び晉學堂があり、東京市療養所・豐多摩刑務所及び南端に東京高等學校あり。交通は中央本線ほぼ中央を東西に橫斷し、東中野（明治三十九年設置）・中野（明治二十二年設置）の兩驛あり、北部には西武電車通ず。

【中野町】神奈川縣相模國津久井郡の東部。桂川の南岸にて道志川合流點の東にあり。南境附近は約三七〇米の山地にて桂川及び西境を北流する道志川の谷に向ひて傾斜し、川沿ひに狹き耕地ありて、麥・甘藷・馬鈴薯・栗等を產し養蠶も行はる。縣道は町の中央を西走して與瀨町に通じ、聚落はこれに沿ひて發達す。與瀨町へはバスの便あり。この地は舊郡役所のありし所にして、大正十四年一月町制施行の際に山中・平野の二村を合併して中野村と名づく。

【中野町】長野縣信濃國下高井郡の南部。飯山町の南方に當り、須坂町（上高井郡）の北方約一二粁。千曲川の支流夜間瀨川扇狀地の一部を占め、東部に六〇〇米餘の丘陵橫はる。平地は西部に開け水田・桑園多し。繭・農產物の集散地にして本郡の首邑なり。附近に中野・高井野・笠原牧場等ありて馬を產す。小布施栗の產地として聞え、また楮の出る地方にて內山紙產かる。此線長野電鐵南北に通じ、信州中野驛（大正十二年設置）・中野松川驛（昭和二年設置）あり、縣道は下水內郡飯山・小布施へ通じバスの便あり。此地に高梨城址あり、近世に江戸幕府の代官陣屋を置きて近傍の幕領を支配せしめたる地なり。高梨氏は高井郡の豪族にて井上黨なり。近世は舊郡役所のありし所。明治三年九月中野縣を置きしが翌六月長野に移し長野縣と改む。いま大藏省預金部名古屋支部出張所・長野測候所氣象觀測所等あり。〔中野溫泉〕鹽類泉。療養向。附近には河東寺光寺・高梨城址・常樂寺・飯盛松・塔ノ原スキー場等あり。

〔玉日神社〕大字中野に鎭座。鄕社。祭神、健御名方命。創立年次詳ならざるも和名抄所載の社にして、のち高梨氏・武田氏等再建修補す。例祭、九月廿七日。

〔常樂寺〕曹洞宗。仙洞山。正平年間夢窓國師の開創に係る。天正の初め越後春日山城主上杉景勝これを再興し、上州館村と名づく。

【中野町】福島縣信夫郡の南部。面積五五・一三方粁にして東西の長さ約一五粁あり。北境に文珠山（八四九米）・三ッ森山（八九七米）、西南境に鶴菊澤山（九六七米）あり。小川は村の西部に發源し、村の南境を流して東流し、飯坂町に入りて摺上川に合す。全村褶れ山地にして東南部に稍耕地あり。米・繭・桃・蒟蒻等を產す。萬世大路は村の東南より西北に通じ、西北方米澤市、東南方福島市に至る。北地に大鳥城あり、里人は丸山城または佐藤館と呼ぶ。治承年中、佐藤兄治の居城たり。明治十四年に明治天皇は山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇大聖御小休所として史蹟に指定さる。

【中野村】福島縣岩代國安積郡の西南部。猪苗代湖の東南約五粁。東南は岩瀨郡に隣す。東南境に笠ヶ森山（一〇一三米）・八幡嶽（一一〇二米）あり、斷層崖をなして西北方に傾斜し、西北部は猪苗代盆地に屬して稍平坦なり。舟津川及びその支流は東南部に發源して西北流し、月形村に出で猪苗代湖に注ぐ。米・繭を產す。道路は村の中央部を西北より東南に通じ西北方猪苗代湖畔、東南方磐梯山を經て岩瀨郡須賀川町に達す。なほ當村と中野村・月形村・多田野村に亙りて重要鑛山たる日山鑛山（鑛種は金銀銅）あり。此地は和名抄、會津郡愛方郷の內なり。明治二十五年其輪村を分離して設けるもの。

【中野村】茨城縣常陸國那珂郡の東南部。涛町の西北隣にあり。大部分は畠地にて畑地なるして所々に林を交ふ。東南部には畠地間に低地を挾み水田あり。農業主にて米・小麥・甘藷・大根を產す。縣道は西方水戸市及び涛町に通じ、省線常磐線は西部を北走するも村內に驛なく、南隣勝田村に勝田驛を置く。また此線涛織道は同驛より分れて東南に走り、村の南部を通過するも驛なく、勝田村に金上・中根の二驛を置く。この地は古くは和名

林茂林寺第十世天庵正清な岡山に啓す。いま宋寺三剎な有す。

【中野】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年外二村と共に廢し、その全區域と四谷村の大字元山中及び富貴下村の大字松嶺・押澤・熊澤・富田とを合せて石野村を置く。

【中野村】滋賀縣近江國蒲生郡の中部北偏。神崎郡八日市町に南接し、西方八幡町へは約一〇粁を距る。面積僅に五・三七方粁。西北部に箕作山（約二百米）南面の山地ある外は湖東平野に屬し、地形平坦にて田畑よく拓け米産多く、外に繭・麥・桑葉・絲肥用作物・菜種・茶等の農産物を産す。八日市・八幡を繋ぐ縣道と社線八日市鐵道は中部を横ぎり、前者はバスを通じ、後者は太郎坊驛（大正二年設置）を設け、また中山道と東海道とを結ぶ縣道は東部を南北に貫く。

【中野村】兵庫縣揖津國有馬郡の北部。土地南北に長く、東境南部は三輪町に、北部は小野村に、西南は貴志村、西は本庄村に接す。面積約二三・五方粁。東境中央に千丈寺山（五九〇米）、南部には有馬富士（三七三米）あり、西境にも高さ四—五百米の山嶽南北に連り、殆ど山地をなし、中央を南下する武庫川の支流の兩岸と、兩南境を流るゝ武庫川沿岸に平地ありて田畑拓く。米・麥類・繭・蔬菜・鳥卵・薪製品・木製品・及物の産あり。人口密度は七九人にて郡中の稠薄村に屬す。武庫川に沿ひて縣道貫き、南方は三田町へ、西北は篠山町方面へバスの便あり。また省線福知山線の廣野驛（貴志村）三田驛へも近く、南部は交通便利なり。もと中莊と稱す。東寺の古文書に正和三年七條院領揖津國中莊と見ゆ。（觀音堂）大字東野山にあり。曹洞宗。本尊の如意輪觀音坐像（木造）一軀は室町時代の作にして國寶たり。この地、古くは和名抄、飯石郡飯石郷の内に屬す。（飯石神社）大字六重に鎮座。郷社。祭神、伊邪志都幣命。上代の祭祀に係り、もと伊邪志大明神と云へり。

【中野村】島根縣出雲國飯石郡の東北部。東は田井村に、北は飯石・鍋山二村に、西は多根村に、南は掛合・吉田の二村に界す。面積二二・九七方粁。村内は高距三〇〇—五〇〇米の山岳重疊して高臺狀なるも平原殆んど無し。從つて山農村にして米・繭を主産物とし、また茶の特産あり。山地よりは林産物を出し、木材・木炭の産多し。山間を縫うて街道あるも險坂ありて交通便ならず。

【中野村】島根縣石見國邑智郡の中部。川本町の西南に隣る。北部には六乃至七百米の山地重疊し、南部にも五百米に及ぶ山地あり、江川の一小支は南部を東西に貫流して耕地を開き、のち北に轉じ東部井原村との境にては峡谷をなす。米・繭・木材を産し清酒を醸る。南部小川に沿うて街道東西に通ずるも、交通便ならず。江ノ川の一支潤川の河床に發達せる奇勝鵜魚渓は指定名称にして、木村及び井原村に亙る。（賀茂神社）大字中野に鎮座。縣社。祭神、賀茂別雷神。相殿に天照大御神等三柱を祭る。延暦二年の創立と傳ふ。のち武門・領主・藩主の崇敬見るべきものあり。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸河内町に、西は壬生鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方粁。北部は高距約一千米の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出でて南流し、南部は略六百米の高地にて地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇粁、島根縣益田港へ約四〇粁、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國豊田郡の南、大崎上島の中央部を占め、東は木ノ江町・東野村に、西は西野村に、南は大崎南村に界す。長島・大相賀島・上島その他の小島を包含す。北部は土地平坦にして海岸には砂濱地遠り所々に鹽田拓け、また水田地あり。南は神ノ峰を始めとして東西に山脈延亙して高距三百米の山岳重疊して高臺狀なるも、農業柴えて米・麥・繭・煙草・柑橘類等の産多く、また牛・豚等の畜産あり、水産業も行はれ製鹽及び漁獲物少からず。その他、林業・工業も盛にして機織村として表彰され事あり。木ノ江町へ約六粁、今方面に自動車及び汽船の便あり。もと大崎中野村と云ひしが大正六年中野村と改稱す。

【中野村】↓大崎南村（廣島縣豊田郡）

【中野村】廣島縣安藝國安藝郡の北部。廣島市の東方約一〇粁。北及び東北部は瀑野村に、西は畑賀・奥海田二村を隔てて海田市町に對し、南は熊野町に、東は賀茂郡熊野跡村に界す。面積一六・一八方粁。東南と西北は高き數百米の山脈連り、高峻なる山地をなして中央部に下りその裾合を瀑野川貫流して附近に狹長なる平野を開く。水田耕作よく行はれ米・麥・繭等の産多し。また山地は森林地及び好牧場をなして牛豚の飼育少からず。西北部山麓下に沿うて國道山陽道走り、また省線山陽本線並走し安藝中野驛（大正九年設置）を設く。此地は和名抄、安藝郡家郷の内なり。

【中野村】長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の北部。東北は平戸町に、南は紐差村、西は獅子村に隣り、北と東南部は海に面す。面積約二六・五方粁。南部と北部に丘陵性山地あり、北部のものは山脚海に迫りて海崖をなす所多く、その西端は呼崎となり、生月島との間に辰ノ瀬戸を挟み、東北部は古江半島となりて北方に斗出し、東面は平戸町との間に古江灣を抱する畑中に、凡そ本邦最古といひ得る甘藷畑あり。面積約一〇アール。船長アダムスが琉球の那覇にて甘藷を買入れて平戸英國商館長コックスに贈り、コックスは元和元年これをこゝに栽培す。この年は琉球王が甘藷を薩摩藩に獻ぜし元祿十一年より八十三年前に當る。栽培法は今なほ傳來當時の儘なりといふ。

【中野村】大分縣豊後國南海部郡の北部。佐伯町の西方にある山村にて、その間に切畑村を挟み、北境の西半は大野郡川登村に接す。面積四三方粁に餘るも佩楯山塊の東部に當り、殆ど山地にして中央を東流する香匠川（因尾川）は南方隣の直見村より來り、東部にてこれに合する久留須川に沿ひて巾狹き低地あり。米・麥等の外、木材・竹材等の林産あり。因尾川に沿ひて道路通じ、東方約五粁の省線日豊本線上岡驛（佐伯町内）へバスを通ずる外は交通なほ便利ならず。（小半鍾乳洞）指定天然記念物。大字小半にあり。香匠川の上流因尾川の北岸に開口し延長四三六米、舊洞と新洞とありて洞内にして通ず。鍾乳石・石筍の發達著しく珠に變化に富み、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝あり。

## ナガノ　永野

【永野村】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の一部を占め、西北境に尾出山（九三三米）ありて、これより東南に向ひて山地連なり、北境もまた七四七米を最高とする山地續きて何れも村内に傾斜し、兩者の裾合を永野川東南に流る。山地一帶森林多く、木材・木炭の産出多し。川沿ひには狹き耕地ありて農業行はれ、米・麥・大麻・繭を産す。川沿ひに縣道ありて東南に走り、栃木市方面に通ず。主なる集落はこれに沿ひて發達す。永野はまた長野に作り、永徳二年小山義政の據りて鎌倉の大軍を　みしところなり。

【永野】神奈川縣鎌倉郡にありし村。昭和十一年横濱市中區に編入さる。

【永野】豊後國（大分縣）の古地名。和名抄に球珠郡長野郷あり、その地今の玖珠郡森町・八幡村の邊に當る。

【永野村】鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の東隅。川内川の支流穴川の水源地にて、宮之城町の東方約一二粁、北は伊佐郡菱刈村・西太良村に、東は姶良郡栗野村・横川村に界す。北部及び南部は山地をなし、即ち南部には中ノ嶽（六五四米）を中心として山地ほぼ西北より東南に連り、東部には五六五米の茶屋ヶ岡あり。北部の山地は最高六一三米を有す。中部には東境に源流する穴川ありて西に貫流し沿岸に低地開く。米・繭・麥等の農産を多く出し畜産・林産もあり。なほ金銀鑛の永野鑛山あり。一ヶ月の採鑛高は約五〇瓩なり。寛永年間の發見にて、もとは藩營にて稼行せりと云ふ。縣道は中部の低地を東西に通じ、省線宮之城線宮之城驛と肥薩線横川驛を繋ぎバスの便あり。

## ナガノ　長野

【長野町】秋田縣羽後國仙北郡の中部。大曲町の東北約一〇粁にて、北は角館町に接す。町の西部には丘陵起伏して東方に傾斜し。東部は横手盆地に屬して平坦なり。玉川は角館町との境をなして南下し、村の中央部を西南に流る。米を主産物とす。角館街道は中央部を西南より東北に通ず。この街道に並行して省線生保内線通じ、羽後長野驛（大正十年設置）あり。大正十一年町制を布く。此地は中世に佐竹氏の支族の居城地たり。（八幡神社）大字鑓見内に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。寛治五年源義家は清原家衡・同武衡を征討の時、一社を建て御鑓を納めて八幡宮と稱せしに始む。故に地名をも鑓見内と稱す。例祭、陰暦八月十五日。

【長野村】群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の北方にて間に六郷村を挟み、西南は碓氷郡の一部と隣す。面積五・七八方粁の小村なり。榛名山の東南麓を占め殆ど平地にて田地・畑地あり。米・麥を産し蚕繭も行はる。縣道高崎市に通じバスの便あり。高崎市より榛名山への登山路に當る。本村は室田町・久留馬村・東郷村と共に和名抄の群馬郡長野郷の地なるべし。

【長野】上野國（群馬縣）の古地名。和名

抄に片岡郡長野郷あり、奈加乃と訓す。その地今の高崎市乗附・寺尾・石原の邊に當る。

【長野】埼玉縣北埼玉郡にありし村。昭和十二年、忍町に併合さる。

【長野】石川縣能美郡にありし村。明治四十年外二村と共に合して寺井野村となし、大正十五年寺井野は町制を布く。

【長野縣】本州の略中央に位し、東海・北陸の間、即ち中央高地の略中央に介在する縣。海岸より最も遠き内陸に位置して連山その四境を圍繞し、東は群馬・埼玉、南は山梨・静岡・愛知、西は岐阜・富山、北は新潟の八縣に隣接す。東西の幅凡そ一七五粁、南北の長さ二一六粁。面積一三六二六・一三平方粁。岩手・福島に次ぐ我國第三位の大縣なり。本縣は信濃一國を管轄し、行政上南佐久・北佐久・小縣・諏訪・上伊那・下伊那・西筑摩・東筑摩・南安雲・北安雲・更級・埴科・上高井・下高井・上水内・下水内の十六郡と長野・松本・上田・飯田・岡谷の五市に分ち縣廳を長野市に置く。人口一七一四〇〇〇人（昭和十年）、府縣中第十位にて、密度は一平方粁一二六人にて全國平均より遙に低く、府縣中第三十二位なり。〔地勢〕本縣は數多の褶曲山脈の複合地點にして、アウヤのパミールにも比し、日本の屋根とも稱すべき地勢をなし、西境に日本アルプスの稱ある飛騨山脈ありて、白山岳・餓ヶ岳・鹿島槍ヶ嶽・蓮華岳・鑓ヶ嶽・穂高嶽・北・奥・前の各穂高いづれも三千米内外、氷餐による特殊な高山地貌を呈し聳立す。また乗鞍火山帶には活火山硫黄嶽・乗鞍岳・御嶽等あり、西南木曾山脈には大霧山・經ヶ岳・駒ヶ岳・剣ヶ峯・前駒ヶ嶽等が聳立す。東南境の南アルプスの名ある赤石山脈には、仙丈ヶ岳・黒檜山・荒川岳・赤石岳・聖岳等聳え、東方には活火山淺間山を始め白根・毛無等の諸火山あり。境内中央には富士火山帶ほぼ南北に縱走し南に八ヶ嶽火山帶、北に妙高火山帶を起し山麓の間には稍々低き丘陵地あり。平原の主なるものは善光寺平（海拔三八〇米）・飯山平（三二〇）・小縣盆地（上田附近四六〇米）・佐久平（九五〇米）・諏訪盆地（七六〇米）・松本平（五八〇米）・伊那谷（六四二米）あり、本縣に入るには何れの方面よりも坂路・峠を登攀せねばならわ地形にあり。本地域の高地山脈の間には四大谿谷が形成され、我國大河と稱せらるものの上流をなし、南は太平洋、北は日本海の斜面に向ひて放射す。從つて水流の本縣に流入するものなし。南流する河は、天龍・木曾が主なるものにして、天龍川は諏訪湖に發源し赤石構造谷を流れ、伊那谷の特色ある段丘地形を形成し、天龍峡の峡谷美を畳り信・遠兩國の間の山地を削剝して南下し遠州灘に朝す。木曾川は鳥居峠の北方八森山南麓に發源し木曾谷の狹長なる谿谷を形成し、岐阜縣を經て伊勢灣に注ぐ。甲信兩國の境に發源する千曲川、木曾山脈の駒ヶ岳の北に發源する犀川は善光寺平に於いて合流し、新潟縣に入りて我國第一の長流信濃川となりて北流して日本海に注ぎ、姫川は飛騨山脈東麓の斷層谷を流れて北流し、新潟縣に入りて日本海に朝す。兩して前記の諸平及び盆地はこれ等の流域に沿ひ箇々の獨立の地區を形成す。富士火山帶に分たれたる南信・北信の名は單に地形上の名稱のみならず、同時に人文上の區別をも意味す。兩して北信は佐久平・上田盆地・善光寺平・飯山平に、南信は松本平・伊那谷及び木曾谷・諏訪盆地に分つ。〔氣候〕内陸にありて海拔高度高く隔絶性を有し、且つ南北に長く伸びるために、夏季は概して冷涼、冬季は寒氣峻烈なり。松本は寒暑の差最も大にして、長野これに次ぎ、飯田は比較的小なり。降水量多き表日本の夏雨型と、裏日本の冬雪型との中間に介在するため、西斜面の國境山地に遮られ降水量の最も少き地方をなし、善光寺平・小縣・佐久の地方は年降水量一〇〇〇耗以下にて、内地に於ける最寡雨地帶なり。新潟縣に近き飯山平以北は裏日本式の降水型にて十二月・一月に降水量多く、飯山附近にては積雪二乃至三米に達し、信越國境地方は深雪地帶をなす。〔産業〕本縣昭和十年度生産總額は二四、四四〇萬圓にして、内譯蠶繭絲一四、四〇五萬圓にて生産總額の約五九%を占めて蠶絲國なるを思はしめ、農産五、一二七萬圓、工産三、二五五萬圓、林産九二五萬圓、畜産五二二萬圓、水産一〇七萬圓、鑛産九七萬圓等なり。製絲工場數は六一四（昭和十一年）にして、内地蠶絲總額の約二〇%を占め、諏訪盆地の岡谷・下諏訪、善光寺平の須坂・松代、上田盆地の丸子附近はいづれもその中心なり。農産物の主要なるものは米・麥・大豆・馬鈴薯・苹果・生柿などにして、米は年産一六五萬石强（昭和十一年）にして善光寺平・松本・諏訪等を主産地とするも、なほ需要を充すに足らず年々相當多數の移入を餘儀なくせらる。鐵道開通前、櫻平峠を越え濃尾の地方より米の少なき伊那谷や、富士見峠を越え甲府より諏訪盆地へ移入されたるは有名な話なり。全縣を通じ、農家戸數二一萬戸中、蠶例桑戸數牽蠶約一二萬戸、夏秋蠶約一五萬戸にて、以て農業全戸數に對する夏秋蠶飼育戸數比率の大なるを知る。兩して軟繭高約八百萬貫（昭和十一年）價格約三、七六五萬圓、蠶種製造戸數一、〇八六にして、價額三四六萬圓に達す。この外、清酒の八六萬圓を始めとして菓子・生皮革・醬油・寒天・木製品・織物・味噌・凍豆腐等は何れも百萬圓以上の産出あり（昭和十年）。林業は山地多き割合に少なく、そのうち木曾御料林産出がその大部分を占む。水産は臨海縣ならざる本縣にては海産鮮魚の移





られざるため、専に水産養殖行はれ、南佐久の野澤・櫻井の養殖鯉を始めとし、全縣下の鯉養殖場數四萬の箇所。年産約六〇萬圓に及び、其他に鮎・鱒・鯉・公魚等あり。〔交通〕山國なる本縣の交通は實ては頗る不便にして、四大河谷が主として利用され、國道中山道を始め北國街道・甲州街道・三州街道等の幹線は、いづれもこれ等の谷を通じ、峻坂・峠を越ゆるには多く牛馬の背に頼る有様なりしが、殊に南信・北信を連ねるため、車馬を通ずる新道の開鑿に縣は多大の努力を拂ひしも、後此等の諸街道に沿ひ信越線・中央線及び篠井線等の鐵道が開通し、更に長野市・上田市・松本市等を中心として、それ〴〵電車網發達し、なほ最近にては都中仙道和田峠を超ゆる省營バス開通し、また省線小海線も開通し、近くは大糸線も全通すべく、こゝに本縣も赤交通の便に惠まるゝに至るべし。殊に水力電氣の利用に惠まれし本縣に於ては、將來交通機關が益々電化され一層經濟化、スピード化を見るべし。〔温泉その他〕本縣がその自然的環境によりて賞しうる餘慶は到る處に登山・避暑・保養地・温泉場等のある事なり。即ち高原避暑としての輕井澤・蓼科を始め、野尻湖畔・富士見高原、木崎湖畔も近時世人に知るところとなり、スキー場として上田市背後の菅平、野澤・平穴温泉場な背景とする志賀高原、上下諏訪温泉を基地とする霧ヶ峯等、またスケート場として松原湖・諏訪湖等あり、松本市を起點とせる中部山岳國立公園あり。一方、谿谷美に於ては天龍・寝覚・山清路の諸峡が古來人口に膾炙す。温泉場は枚擧に遑なく、縣下に六十餘所を算す、殊に白絲・東間のお湯と稱せられし山邊温泉を始め上諏訪・下諏訪・渡間・白骨・中房・別所・鹿田中・上林・戸倉等の諸温泉ありて、現在にては東京市の保養圏内に入る。信州のかかる山嶽水明の特殊なる自然的環境は獨得の文化の發達を促し、教育王國として初等教育界に於ける特殊なる傾向、精神教育の上に顯現せるばかりでなく、思想・藝術の方面に於ても特殊なる位置を占め、古來偉人・傑士の輩出せるもの少からず。〔沿革〕本縣は明治元年に設置せられたる伊奈縣に始まり、信濃に於ける幕府及國外の諸侯・旗本等の領地を管せしが、二年六月三河國の三河縣を併せ、三年九月には中野縣を分ち、四年六月には舊龍岡藩の地を伊奈・中野二縣に分屬せしむ。次いで中野縣を長野縣と改む。長野縣は同年十一月北信地方にありし松代・須坂・飯山・中野・上田・小諸の六藩の縣と改稱せしものと共に廢せられ、更に長野縣を長野村に置きて北信地方を管す。伊奈縣は明治四年六月三河縣を額田縣に移管し、次いで十一月には南信地方の松本・高遠・飯田の四藩の縣と改稱せし四縣並に飛騨國の高山縣と共に廢せられ、筑摩縣を松本に置き、南信地方及び飛騨一國を管す。たまたま筑摩縣廳焼く。よりて明治九年八月筑摩縣を廢して飛騨一國を岐阜縣に移管し、南信地方はこれを長野縣に併せ、爾來長野縣は信濃全國を管す。同十三年郡を分割し、水内・高井・伊那の三郡は各々上下二郡に分ち、筑摩郡を東西二郡に、安曇郡を南北二郡に分つ。同三十年長野市水内郡より、同四十年松本市東筑摩郡より、大正八年上田市小縣郡より夫々獨立し、最近には昭和十一年岡谷市諏訪郡より、同十二年飯田市下伊那郡より獨立し、五市十六郡となる。

【長野市】長野縣の北部、川中島の一隅にて犀川の北岸に位し、その一支裾花川西境を流る。市の大部分は平地なるも西北部は大峯山（八二八米）より鄰路山を經て旭山（七六四米）に至る一帶の山岳隆起なして市に臨み、裾花川旭山の北にてこの山地を破り南流して犀川に入る。市の重要部はこの川の作れる扇狀地の丘陵上を占め、面積約三一方粁。人口約八萬を算し、縣下第一の都邑にて長野縣廳の所在地たり。市は名刹善光寺の門前町として發達せるもの、實に佛都たるの觀あるは信越本線長野驛命の伽藍風なると廣場を飾る天然記念物國月蓋長者の碑如是閣の像によりても象徴せらる。本市の平坦部は未だ農村形態を示す所あるを以て、昭和十二年の農産物の中、米二一、九五一石、價格六七一、五四一圓、麥二一、〇七六石、價格三五一、二七七圓、これに次ぐ果實類は價格一〇二、四二七圓あり。而して蠶絲國たる長野縣下たるを以て繭蠶もまた相當に行はれ、春夏秋蠶を通じて軟繭量六二、五六一貫、價格三〇五、六六一圓なるべし。工産は價格よりすれば菓子類を第一とし一、一四九、六九〇圓、これに次ぐは生絲の一、〇六九、三九八圓、更にこれに次ぐは主として農民藝術として生産する木製品にして、その價格六二六、五六〇圓なるは、生絲を別としても、土産品となるべき品目が巨額を占め、如何に當市の觀光都市たるかを知りてあり、又ふべし。此外、價格は僅に一四萬圓に過ぎざるも市の戸數の約二十分の一たる約七五〇戸の從業せる蠶絲の如きも注意すべきものなり。いま本市の總生産額（昭和十一年）を左に掲ぐ。

| | |
|---|---|
| 工　産 | 三、三三六、九七九圓 |
| 農　産 | 一、四七三、四七六 |
| 蠶繭絲 | 一、一一〇、〇六五 |
| 畜　産 | 一八五、〇五一 |
| 水　産 | 一二七、三二六 |
| 鑛　産 | 一、四三七 |
| 林　産 | 四八〇 |
| 計 | 六、二三四、八一四圓 |

本市は縣下にては日本海に近き地方なるを以て、氣象もまた信州高原通有の峻烈性なく、温度も最高三六・七、最低一六・